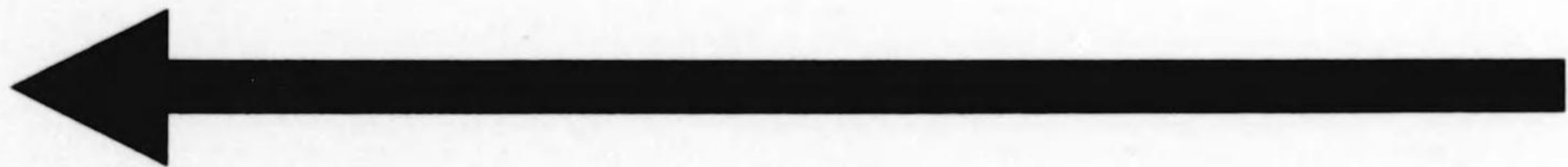


383
30



始



序

文化の最高點に咲き出でたる歴史の花は、過去よりも現在に、現在よりも更に將來に發展の種を蒔く。

わが大日本帝國が新文明の光りに浴してから日はなほ淺いが、その發展の力は甚だ急激に、全世界を驚倒せしめてゐる。かく敢然として皇國天賦の大使命を果し、人類和平に貢獻せんごしつゝある状態にまで國家を導いたのは、素より上に英明神ながらに在す 明治 大正 昭和の三大帝を戴き奉つたからであるが、興國の意氣に燃えた國民の努力の一方ならざりしも一大原因をなしてゐる。

しかも、すべての人を國家に結合するものは郷土である。

郷土に生れ、幸福の山川に抱かれてその風俗習慣の乳に哺くまれ、郷土を通じて働き、働き畢りてその懷に歸る、人間としてこれ程の幸福があらうか。この郷

土の自然と文化と社會とを認識せしめ、その價値を全一的に體驗せしめて、全體としての郷土感を育成し、よく郷土社會のために貢献せんとする熱烈なる郷土愛を涵養し、以て社會的人格を陶冶するのが、我々が趣意とし、本書の使命とするところである。

即ち郷土の有する國としての歴史、民としての記録、政治、産業、教育、文學、宗教、風俗並に各種團體の諸方面に亘り、上下數千載の事蹟を簡明に指摘採録し以て本縣の傳統美を發揮せしめんことを期し、特に現今非常時下に於ける狀勢は詳細に傳へ、以て世界第一等を誇るわが皇國の一細胞としての本縣勢を廣く世に普及せんとするものである。一は民族の元氣を鼓舞するため、一は國民的霸氣と優越せる縣民性とを不朽に記念したいための念願に他ならない。

昭和十三年六月

佐藤喬和識

埼玉縣 目次

總 說

位置・境界……氣候・面積・人口
産業……交通……教育……宗教
……財政

浦和市……………三	川口市……………三	熊谷市……………四	北足立郡……………五
蕨町……………鳩ヶ谷町	志木町……………大和田町	朝霞町……………奥野町	平方町……………上尾町
川町……………鴻巣町	吹上町……………土合	原市町……………六辻村	美谷本村……………笠目村
戸田村……………芝村	新郷村……………		

入 間 郡

所澤町……………豐岡町……………入間川

谷塚村……………新田村……………安	行村……………神根村……………戸塚村……………	大門村……………野田村……………尾間	木村……………三室村……………片山村……………	新倉村……………白木村……………内間	木村……………日進村……………三橋村……………	大砂土村……………宮原村……………指	扇村……………片柳村……………大久保村……………	馬宮村……………植水村……………七	里村……………春岡村……………大谷村……………	大石村……………上平村……………小室	村……………小針村……………加納村……………	川田谷村……………石戸村……………馬室	村……………中丸村……………常光村……………	田間宮村……………箕田村……………小谷	坂戸町……………越生町……………	飯能町……………芳野村……………植木村……………	古谷村……………南古谷村……………	福岡村……………高階村……………大井村……………	鶴瀬村……………南畑村……………水	谷村……………宗岡村……………三芳村……………	柳瀬村……………松井村……………富岡	村……………山口村……………善妻村……………	小手指村……………三ヶ島村……………宮	寺村……………元狭山村……………金子村……………	東金子村……………藤澤村……………入間	村……………堀兼村……………福原村……………	奥富村……………日東村……………大田村……………	田面澤村……………山田村……………	三芳野村……………勝呂村……………入西	村……………大家村……………川角村……………	毛呂村……………山根村……………梅園村……………	畑名村……………鶴ヶ島村……………	高萩村……………高麗川村……………東吾	野村……………霞ヶ關村……………柏原村……………	水宮村……………元加治村……………加	治村……………精明村……………原市場村……………	南高麗村……………名栗村……………吾野	村……………東吾野村……………	松山町……………小川町……………大岡村……………	福田村……………宮前村……………唐	子村……………菅谷村……………七郷村……………	八和田村……………竹澤村……………大河	村……………平村……………明覺村……………玉	川村……………龜井村……………今宿村……………	高坂村……………野本村……………中山村……………	伊草村……………三保谷村……………出丸	村……………八ッ保村……………小見野村……………	東吉見村……………南吉見村……………	西吉見村……………北吉見村……………
-------------------	-------------------------	--------------------	-------------------------	--------------------	-------------------------	--------------------	--------------------------	-------------------	-------------------------	--------------------	------------------------	---------------------	------------------------	---------------------	------------------	--------------------------	-------------------	--------------------------	-------------------	-------------------------	--------------------	------------------------	---------------------	--------------------------	---------------------	------------------------	--------------------------	-------------------	---------------------	------------------------	--------------------------	-------------------	---------------------	--------------------------	--------------------	--------------------------	---------------------	-----------------	--------------------------	-------------------	-------------------------	---------------------	------------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------	--------------------------	--------------------	--------------------

秩父郡

秩父町... 皆野町... 吉田町... 小鹿野町... 横瀬村... 蘆ヶ久保村... 高篠村... 原谷村... 三澤村... 白鳥村... 樋口村... 野上村... 國神村... 金澤村... 矢納村... 日野澤村... 大田村... 尾田村... 長若村... 上吉田村... 倉尾村... 三田川村... 兩神村... 大瀧村... 白川村... 中川村... 久那村... 浦山村... 影森村... 大柵村... 槻川村... 大河原村

南埼玉郡

本泉村... 神保河原村... 賀美村... 七本木村... 長幡村... 丹莊村... 秋平村... 松久村... 大澤村... 北埼玉郡... 羽生町... 加須町... 騎西町... 不動ヶ岡町... 中條村... 南河原村... 北河原村... 星河村... 星宮村... 持田村... 太井村... 下忍村... 長野村... 荒木村... 須賀村... 新郷村... 太田村... 埼玉村... 屈巢村... 廣田村... 須影村... 岩瀬村... 川俣村... 井泉村... 中島村... 手子林村... 志多見村... 田ヶ谷村... 共和村... 笠原村... 種足村... 高柳村... 禮羽村... 樋造川村... 三田ヶ谷村... 村君村... 大越村... 利島村... 川邊村... 東村... 原道村... 元和村... 豊野村... 三俣村... 大桑村... 水深村... 鴻聖村

大里郡

吉田村... 八代村... 田宮村... 堤郷村... 幸松村... 豊野村... 松伏領村... 旭村... 三輪野江村... 彦成村... 早稻田村... 戸ヶ崎村... 八木郷村... 豊岡村... 櫻井村... 寶珠花村... 富多村... 南櫻井村... 川邊村... 金杉村... 大里郡... 妻沼町... 深谷町... 寄居町... 久下村... 佐谷田村... 吉見村... 市田村... 吉岡村... 御正村... 大藤村... 三尻村... 玉井村... 奈良村... 長井村... 秦村... 男沼村... 大田村... 明戸村... 別府村... 幡羅村... 大寄村... 新會村... 中瀬村... 八基村... 岡部村... 櫻澤村... 本郷村... 藤澤村... 武川村... 花園村... 用土村... 櫻澤村... 男衾村... 折原村... 鉢形村... 小原村... 本島村

児玉郡

本庄町... 児玉町... 藤田村... 仁手村... 旭村... 北島村... 東児玉村... 共和村... 金屋村... 青柳村... 若泉村

北葛飾郡

栗橋町... 幸手町... 杉戸町... 吉川町... 新井村... 豊田村... 櫻田村... 行幸村... 上高野村... 高野村... 権現堂川山村

群馬縣 目次

總説

位置・區劃... 山嶽... 河川... 氣候... 産業... 交通... 名勝

前橋市

高崎市

桐生市

勢多郡

群馬郡

大胡町... 上川淵村... 下川淵村... 南橋村... 北橋村... 横野村... 敷島村... 富士見村... 芳賀村... 桂登村... 木瀬村... 荒口村... 宮城村... 粕川村... 新里村... 里保根村... 東村

多野郡

倉賀野町... 室田町... 箕輪町... 總社町... 金古町... 澁川町... 伊香保町... 佐野村... 岩鼻村... 大類村... 瀧川村... 京ヶ島村... 東村

北甘樂郡

美土里村... 平井村... 美九里村... 三波川村... 多胡村... 入野村... 日野村... 美原村... 上里村... 下野村

北甘樂郡

富岡町... 一の宮町... 妙義町... 下仁田町... 小幡町... 福島町... 黒石村... 丹生村... 高田村... 小坂村... 西牧村... 尾澤村... 月形村... 盤戸村... 青倉村... 馬山村... 吉田村... 高瀬村... 額部村... 秋畑村... 新屋

千葉縣目次

總說

地勢……沿革……交通……産業……商業……教育……社寺

千葉市

銚子市

市川市

船橋市

千葉郡

幕張町……津田沼町……大和田町……生濱町……二宮町……椎名村……譽田村……白井村……更科村……千城村……嶺橋村……睦村……豐富村

一市原郡

姉崎町……五井町……八幡町……牛久町……鶴舞町……千種村……東海村……市原村……海上村……菊間村……湯津村……市東村……市西村……養老村……戸田村……内田村……高瀧村……富山村……平三村……里見村……白鳥村

東葛飾郡

浦安町……行徳町……松戸町……柏町……小金町……流山町……野田町……關宿町……布佐町……我孫子町……南行徳町……鎌ヶ谷村……大柏村……八柱村……高木村……土村……馬橋村

長生郡

中郷村……遠山村……一宮町……本納町……茂原町……麩南町……東浪見村……太東村……土陸村……一松村……八積村……高根本郷村……東郷村……關村……白湯村……南白鳥村……豐岡村……新治村……豐田村……二宮本郷村……長柄村……日吉村……水上村……西村……東村……鶴枝村……譽榮村……五郷村

山武郡

東金町……土氣本郷町……大網町……片貝町……成東町

碓氷郡

安中町……原市町……松井田町……白井町……坂本町……磯部町……板鼻町……西横野村……東横野村……岩野谷村……八幡村……豐岡村……里見村……秋間村……後閑村……九十九村……細野村……烏淵村

利根郡

沼田町……利南村……白澤村……東村……片品村……川場村……池田村……薄根村……古馬牧村……水上村……桃野村……新治村……川田村……久呂保村……糸之瀬村……赤城根村

新田郡

大田町……尾島町……木崎町……藪塚本町……九合村……深野村……世良田村……寶泉村……鳥之郷村……強戸村……生品村……綿打村……笠懸村

邑樂郡

館林町……小泉町……郷谷村……大島村……西谷田村……海老瀬村……大筒野村……伊奈良村……赤羽村……千江田村……梅島村……佐貫村……六郷村……三野谷村……富永村……永樂村……大川村……長柄村……高島村……中野村……多々良村……渡瀬村

吾妻郡

中三條町……原町……長野原町……草津町……東村……太田村……岩島村……坂上村

佐波郡

伊勢崎町……塙町……玉村町

山田郡

八木村……田中村……新川村……梅郷村……福田村……旭村……七福村……川間村……木間ヶ瀬村……二川村……湖北村……富勢村……風早村……手賀村

山田郡

八木村……田中村……新川村……梅郷村……福田村……旭村……七福村……川間村……木間ヶ瀬村……二川村……湖北村……富勢村……風早村……手賀村

東京府目次

總説

位置……地形、氣候……産業
……交通……沿革……名勝

東京市

位置……都市區域……人口……
……地勢……行政・軍事・教育
機關……交通……商工業……
名勝・遊覽地

八王子

西多摩郡

五日市町……青梅町……福生
藤川村組合……西多摩村……
箱根ヶ崎・石畑村組合……
殿ヶ谷・長岡村組合……

香取郡

滑河町……神崎町……佐原町
香取町……小見川町……府馬
町……栗源町……多古町……
笹川町……小御門村……高岡
村……米澤村……瑞穂村……
新島村……東大戸村……大須
賀村……香西村……津宮村……
大倉村……豊浦村……神里村
八都村……森山村……良文村

海上郡

山倉村……常磐村……久賀村
日吉村……東條村……吉田村
中村……飯高村……豊和村……
古城村……中和村……萬歳村
神代村……橋村……東城村……
豊里村

匝瑳郡

旭町……飯岡町……船木村……
椎柴村……鶴巻村……瀧郷村
嚙鳴村……富浦村……矢指村
三川村……豊岡村

君津郡

八日市場町……共和村……豊
畑村……平和村……椿海村……
匝瑳村……豊榮村……南條村
東陽村……白濱村……榮村……
野田村……須賀村……共興村

北多摩郡

多西村……平井村……東秋留
村……西秋留村……増戸村……
大久野村……戸倉村……小宮
村……檜原村……霞村……小
曾木村……成木村……調布村
……吉野村……三田村……古
里村……米川村……小河内村

南多摩郡

淺川町……小宮町……日野町
……町田町……横山村……元
八王子村……恩方村……川口
村……加住村……七生村……
由木村……多摩村……稻城村
……鶴川村……南村……忠生
村……塩村……由井村

大島郡

元村……岡田村……泉津村……
野増村……波浮港村……差木
地村……利島村

新島

安房郡

千町村……古澤村……中川村
東村……布施村……東海村……
中根村……浪花村

夷隅郡

木更津町……久留里町……青
堀町……富津町……大貫町……
佐貫町……湊町……昭和町……
清川村……巖根村……金田村
長浦村……中郷村……根形村
平岡村……馬來田村……小櫃
村……松丘村……龜山村……
富岡村……中川村……鎌足村
波岡村……八重原村……周西
村……村中……小糸村……秋
元村……三島村……周南村……
貞元村……飯野村……環村……
關豊村……天神山村……竹岡
村……金谷村

三宅島

本村……神津島……若郷村
神着村……伊豆村……伊ヶ谷
村……阿古村……坪田村……
御藏島村

八丈島

大賀郷村……三根村……櫻立
村……中之郷村……末吉村……
……小島島打村……小島字津木
村……青ヶ島村

小笠原島

父島大村……父島扇村……袋
澤村……母島沖島村……母島
北村……硫黄島村……屬島

神奈川縣目次

總說

地勢... 沿革... 神社宗教... 教育... 生産... 農蠶業... 水産業... 林業蠶業... 工業... 交通

横濱市

國際都市... 歴史の跡... なりはひの道... 名勝舊蹟

横須賀市

水兵の町... 軍港... 歴史の跡... 産業... 史蹟と名勝

川崎市

概説... 沿革... 工場... 市勢

平塚市

概説... 沿革... 工場... 市勢

橋樹郡

稲田町... 宮前村... 向丘村... 生田村

都筑郡

川和町... 新田村... 中川村... 山内村... 柿生村... 岡上村組合... 中里村... 田奈村... 新治

三浦郡

村... 都岡村... 二俣川村... 浦賀町... 葉山町... 逗子町... 三崎... 長井町... 大楠町... 北下浦村... 南下浦村... 初聲村... 武山村

鎌倉郡

戸塚町... 鎌倉町... 腰越町... 大船町... 片瀬町... 中川村... 川上村... 豊田村... 本郷村... 深澤村... 村岡村... 大正村... 中和田村

高座郡

藤澤町... 茅ヶ崎町... 上溝町... 寒川村... 小出村... 御所見村... 有馬村... 海老名村... 座間村... 新磯村... 麻溝村... 田名村... 大澤村... 相原村... 大野村... 大和村... 綾瀬村... 澁谷村... 六會村

中郡

大磯町... 伊勢原町... 大山町... 笠間町... 穴戸町... 岩間町... 岩瀬町... 南川根村... 北川根村... 大原村... 大池田村... 七會村... 北山内村... 西山内村... 南山内村... 東那珂村... 北那珂村

茨城縣目次

總說

概説... 地勢... 産業... 都邑... 交通... 沿革... 名勝

水戸市

小川町... 石塚町... 磯濱町... 大貫町... 上大野村... 下大野村... 稻荷村... 大場村... 酒門村... 石崎村... 吉田村... 鎌岡村... 河和田村... 上中妻村... 長岡村... 上野合村... 白河村... 橋村... 竹原村... 藪倉村... 川根村... 鯉淵村... 下中妻村... 中妻村... 渡里村... 飯富村... 山根村... 小松村... 西郷村... 坪村... 岩船村... 澤山村... 伊勢畑村

東茨城郡

那珂郡... 湊町... 平磯町... 瓜連町... 大宮町... 前渡村... 中野村... 勝田村... 川田村... 佐野村... 村松村... 石神村... 神崎村... 額田村... 菅谷村... 五臺村... 柳河村... 國田村... 戸多村... 芳野村... 木崎村... 静村... 大場村... 上野村... 大賀村... 玉川村... 鹽田村... 山方村... 檜澤村... 小瀬村... 野口村

西茨城郡

長倉村... 八里村... 陸郷村... 大子町... 太田町... 久慈町... 袋田町... 世矢村... 坂本村... 東小澤村... 西小澤村... 幸久村... 佐竹村... 那戸村... 久米村... 金郷村... 世喜村... 金砂村... 天下野村... 高倉村... 染和田村... 山田村... 譽田村... 佐都村... 河内村... 中里村... 賀美村... 小里村... 生瀬村... 宮川村... 黒澤村... 依上村... 機初村... 佐原村... 上小川村... 下小川村... 諸富野村

久慈郡

多賀郡... 河原子町... 助川町... 日立町... 豊浦町... 松原町... 上府中村... 下府中村... 下曾我村... 田島村... 下中村... 前羽村... 酒匂村... 大窪村... 温泉村... 宮城野村... 仙石原村... 早川村... 片浦村... 吉濱村

鹿島郡

松岡町... 磯原町... 大津町... 平湯町... 坂上村... 國府村... 鮎川村... 日高村... 櫛形村... 黒前村... 高岡村... 南中郷村... 華川村... 關南村... 關本村... 鉾田町... 鹿島町... 波崎町... 夏海村... 大谷村... 沼前村... 巴村... 徳宿村... 諏訪村... 新宮村... 上島村... 向島村... 大同村... 中野村... 波野村... 豊郷村... 豊津村... 高松村... 息栖村... 輕野村... 若松村... 矢田部村

行方郡

麻生町... 潮來町... 玉造町... 香澄町... 八代村... 津

足柄上郡

秦野町... 二宮町... 國府村... 大野村... 神田村... 相川村... 成瀬村... 大田村... 城島村... 岡崎村... 豊田村... 金田村... 旭村... 土澤村... 金目村... 高部原村... 比々多村... 大根村... 東秦野村... 西秦野村... 南秦野村... 北秦野村

足柄下郡

松田町... 山北町... 寄村... 上秦野村... 中井村... 上中村... 山田村組合... 曾我村... 金田村... 共和村... 清水村... 保村... 北足柄村... 南足柄村... 福澤村... 酒田村... 吉田島村... 櫻井村... 岡本村

津久井郡

中野町... 與瀬町... 小原村... 千木良村組合... 吉野町... 小淵村... 澤井村組合... 川尻村... 湘南村... 三澤村... 串川村... 島屋村... 青野村... 青根村... 内郷村... 日連村... 名倉村組合... 牧野村... 佐野川村

愛甲郡

厚木町... 依和村... 中津村... 高峯村... 愛川村... 荻野村... 三田村... 外五ヶ村組合... 小鮎村... 煤ヶ谷村... 宮ヶ瀬村組合... 玉川村... 南毛利村

栃木縣目次

總說

位置・區劃……地形……氣候

一 河內郡

上三川町……橫川村……平石村……瑞穂野村……本都村……

五 上都賀郡

鹿沼町……栗野町……今市町……日光町……足尾町……菊澤村……北大飼村……北押原村……南押原村……西方村……

芳賀郡

荒岡町……久下田町……益子町……茂木町……祖母井町……大内村……中村……長沼村……物部村……山前村……田野村……七井村……逆川村……中川村……須藤村……小貝村……

位置・區劃……地形……氣候
……產業……交通

宇都宮市

村……雀宮村……妻川村……

足利市

……大澤村……豐岡村……篠井村……羽黒村……絹島村……

栃木市

古里村……田原村……豐里村……

……加蘇村……東大苜村……西大苜村……板荷村……小來川

……中川村……須藤村……小貝

稻敷郡

知村……大生原村……大田村……大和村……澄津村……要村……武田村……秋津村……立花村……現原村……玉川村……行方村……小高村……手賀村……延方村

筑波郡

谷田部町……筑波町……北條町……小張村……板橋村……久賀村……三島村……谷井田村……豐村……鹿島村……長崎村……十和田村……福岡村……眞瀬村……島名村……旭村……上郷村……吉沼村……高道祖村……作岡村……水山村……菅間村……田井村……小田村……大穗村……葛城村

結城郡

結城町……石下町……水海道町……絹川村……江川村……山川村……上山川村……中結城村……名崎村……安靜村……大形村……岡田村……大花羽村……菅原村……下結城村……豐岡村……西豐田村……總上村……豐加美村……蠶飼村……宗道村……玉村……豐

北相馬郡

守谷町……取手町……相馬町……布川町……菅生村……坂手村……内守谷村……小絹村……大井澤村……大野村……高野村……高井村……稻戸井村……山王村……寺原村……井野村……小文間村……六郷村……高須村……川原代村……北文間村……文村……文間村……東文間村

眞壁郡

小野川村……下館町……關本町……下妻町……眞壁町……竹島村……養蠶村……中村……五所村……伊證村……大田村……上妻村……河内村……川西村……大寶村……藤波ノ江村……黒子村……嘉田生崎村……村田村……島羽村……上野村……大谷村……長讚村……古里村……谷貝村……紫尾村……糠穂村……雨引村……大國村……新治村……小栗村

猿島郡

田村……五箇村……三妻村……大生村……飯沼村……古河町……岩井町……境町……新郷村……藤鹿村……岡郷村……櫻井村……香取村……五霞村……靜村……長田村……八俣村……幸島村……猿島村……森戸村……生子菅村……逆井山村……七重村……香掛村……弓馬田村……飯島村……神大實村……七郷村……中川村……長須村

新治郡

眞鍋町……高濱町……石岡町

……柿岡町……土浦町……上

……大津村……下大津村……美並村……牛渡村……佐賀村……安飾村……志士庫村……關川村……田余村……玉川村……岡部村……瓦倉村……林村……懸瀬村……葦穂村……小幡村……小櫻村……志筑村……新沼村……七倉村……都和村……藤澤村……斗利田村……山ノ莊村……榮村……九重村……栗原村……東村……中家村……三村

……田村……飯沼村……古河町……岩井町……境町……新郷村……藤鹿村……岡郷村……櫻井村……香取村……五霞村……靜村……長田村……八俣村……幸島村……猿島村……森戸村……生子菅村……逆井山村……七重村……香掛村……弓馬田村……飯島村……神大實村……七郷村……中川村……長須村

埼玉縣人物總覽目次

市 部

川越工業學校……………	一	野島彦右衛門……………	七	大澤鶴吉……………	一六	柿澤範作……………	二三
熊谷高等女學校……………	一	故新藤慶三郎……………	七	長井村役場……………	一六	柿沼市次郎……………	二四
浦和女子洋裁學校……………	一	奧住安五郎……………	八	根岸英……………	一七	野口敏三郎……………	二四
川越郵便局……………	二	山田丑五郎……………	八	安部彦平……………	一七	福田稔夫……………	二五
新井良作……………	二	小山直藏……………	八	小島新一……………	一七	眞下文雄……………	二五
清水友右衛門……………	二	平田長右衛門……………	九	新井武一……………	一八	山下善四郎……………	二六
久米原修丈……………	三	石井善兵衛……………	九	大野治作……………	一八	藤崎惣兵衛……………	二六
洞上仁濟……………	四	高橋莊爾……………	九	向井次郎作……………	一九	船田義逸……………	二六
小此木眞三郎……………	四	中村本之進……………	一〇	門倉彌一郎……………	一九	清水保之助……………	二七
大沼光濟……………	四	氷川神社……………	一〇	今井百太郎……………	一九	平井儀作……………	二七
代島義三……………	五	松壽由東福寺……………	一一	清水保三……………	二〇	藤田郁太郎……………	二七
阿部秀尊……………	五	越生町役場……………	一二	須藤啓之……………	二一	島田禎二……………	二八
佐々木數雄……………	五	犬竹喜男……………	一二	茂木親六……………	二一	島田大梁……………	二九
北足立郡……………	五	長溪山永源寺……………	一三	富岡武七……………	二一	春日全明……………	二九
大宮工業學校……………	六	大里郡……………	一五	小暮廣十郎……………	二二	齋藤眞宏……………	三〇
野口訓三……………	六	寄居町役場……………	一五	新井園次……………	二二	田島智耀……………	三〇
				野口勘七郎……………	二二	聖天山歡喜院……………	三〇
				今井辰太郎……………	二三	瑠璃山妙光寺……………	三〇
				若守義爲……………	二三	福源山幸安寺……………	三一

下都賀郡……………

壬生町……………	小山町……………	間々田町……………	藤岡町……………	大宮村……………	國府村……………	稻葉村……………	南大洞村……………	委村……………	國分寺村……………	桑村……………	絹村……………	大谷村……………	野木村……………	生井村……………	寒川村……………	穗積村……………	豐田村……………	中村……………	瑞穂村……………	水代村……………	部屋村……………	赤麻村……………	三鴨村……………	岩舟村……………	小野寺……………
----------	----------	-----------	----------	----------	----------	----------	-----------	---------	-----------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------

鹽谷郡……………

矢板町……………	鹽原町……………	藤原町……………	氏家町……………	喜連川町……………	泉村……………	籌根村……………	三依村……………	栗山村……………	船生村……………	玉生村……………	大宮村……………	阿久津村……………	北高根澤村……………	熱田村……………	片岡村……………	那須郡……………	安蘇郡……………
----------	----------	----------	----------	-----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	------------	----------	----------	----------	----------

足利郡……………

大田原町……………	佐久山町……………	烏山町……………	馬頭町……………	川西町……………	黑羽町……………	蘆野町……………	黒磯町……………	西那須野町……………	親園村……………	野崎村……………	上江川村……………	下江川村……………	荒川村……………	向田村……………	境村……………	七合村……………	武茂村……………	大山田村……………	那珂村……………	湯津上村……………	須賀川村……………	兩郷村……………	伊王野村……………	那須村……………	鍋掛村……………	金田村……………	東那須野村……………	大内村……………	狩野村……………	高林村……………	佐野町……………	犬伏町……………	堀米町……………	田沼町……………	葛生町……………	植野村……………	界村……………	三好村……………	常盤村……………	氷室村……………	野上村……………	飛駒村……………	新村……………	赤見村……………	旗川村……………	葉鹿町……………	小俣町……………	御厨町……………	毛野村……………	富田村……………	香妻村……………	北郷村……………	名草村……………	三重村……………	山前村……………	三和村……………	菱村……………	桑田村……………	久野村……………	筑波村……………	山邊村……………
-----------	-----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	------------	----------	----------	-----------	-----------	----------	----------	---------	----------	----------	-----------	----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	----------	------------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------

能滿山龍護寺	三一	影森村役場	四三	町田清作	五三	富田忠七	六一
國濟寺	三二	秩父農村工業販賣組合	四四	關根代思郎	五四	笠原春吉	六一
密巖山永光寺	三二	皆野郵便局	四五	野村藤作	五四	宮原富藏	六三
的龍山東雲寺	三二	國神郵便局	四五	野口覺	五四	松本仙三郎	六三
長勢山元祥寺	三三	金子徳左衛門	四五	中田關藏	五五	小池兼藏	六四
心王山華藏寺	三四	石川壽三郎	四六	八木友吉	五五	井深清高	六四
玉鳳山千手寺	三四	町田憲治	四六	倉澤善作	五五	富田嘉貞	六五
根本山正福寺	三五	新井源亮	四七	松田晋九郎	五六	山口善太郎	六五
不動寺	三五	堀口寛一郎	四七	諸恒平	五六	石渡精一	六六
白田山滿福寺	三五	福田唯一	四七	大森茂重郎	五七	松本歡九郎	六六
秩父農林學校	三六	大澤寅次郎	四八	若林龜之助	五七	村上喜藏	六六
秩父高等女學校	三六	雨宮肇	四八	中田忠一郎	五七	村上喜藏	六六
三澤尋常高等小學校	三七	堀口哲	四九	赤岩善美	五八	日和田清七	六七
秩父町役場	三七	柴崎津代藏	四九	田島百太郎	五八	横川新一	六八
小鹿野町役場	三九	田村貞次郎	四九	林朝喜知	五八	上原道藏	六九
樋口村役場	三九	今井爲吉	五〇	富田善作	五九	清水兼藏	六九
尾田蔭村役場	四〇	千島英雄	五〇	關根鐵五郎	五九	根岸三三	六九
上吉田村役場	四〇	新井勅次	五一	新井國太郎	六〇	石渡市太郎	七〇
三田川村役場	四一	坂本宗太郎	五一	小鹿原政之助	六〇	諸武三郎	七一
大瀧村役場	四一	淺見宇市	五二	木崎金七	六一	渡邊利作	七一
中川村役場	四二	齋藤清作	五二	栃原峯吉	六一	田代仁作	七一
浦山村役場	四三	門平文作	五三	武島操	六一	野口武一	七二
		加藤芳三郎	五三	多比羅清藏	六一	猪野梅藏	七二
						新井孝訓	七二

秩父郡

小澤興重郎	七三	上林清十郎	八二	井上與市	九二	増田寶治	一〇二
高橋金太	七三	新井菅次	八三	島崎新三郎	九二	南齊一郎	一〇二
野口仁平	七三	村田松五郎	八三	新井伊助	九三	楠精一	一〇三
福島幸八	七四	橋本虎吉	八三	太田美雄	九三	淺海邦治	一〇三
稻葉光三	七四	萩原紋次郎	八四	村田義六	九四	鈴木武邦	一〇三
齋藤正雄	七四	玉谷延藏	八四	山中忠一	九四	町田兼義	一〇四
黒澤斐人	七五	雨宮富藏	八五	山中庄次郎	九五	秩父神社	一〇四
有馬兼吉	七五	富田佐平治	八五	久喜文重郎	九五	甲賀大教會秩父分教會	一〇四
浮田常次	七六	玉谷喜三郎	八五	海老原長吉	九五	歡喜山圓明密寺	一〇五
北太鹿	七六	荒船利作	八六	近藤完二	九六	清泉寺	一〇五
大木勝藏	七七	半田準治	八六	大森喜右衛門	九六	長慶山鳳林寺	一〇六
黒田太善治	七七	新井彌吉	八六	肥土伊惣二	九七	向嶽山光明寺	一〇六
小林多三郎	七八	新井伊三郎	八七	長又良作	九七	融興山瑞岩寺	一〇七
淺賀俊吉	七八	宮前治三郎	八八	田野素鳩	九七	一高山光明院常樂寺	一〇八
蘭田頼助	七九	原島鷹藏	八八	大野醫院	九八	宮澤山微妙院光明寺	一〇八
高野俊吉	七九	出浦一郎	八八	八木和三郎	九八	普光山總持寺	一〇九
黒澤常三郎	七九	大山利秀	八九	中島波藏	九九	法山王岩上寺	一〇九
大久根勇三郎	八〇	淺見龜藏	八九	白毛義作	九九	萬松山光源院	一一〇
村越千代吉	八〇	福島房藏	九〇	深田雅治	九九	自由山圓通寺	一一〇
町田嘉之助	八〇	新井市之丞	九〇	大久保領一郎	一〇〇	日野山淨光寺	一一一
淺見利平	八一	落合茂作	九〇	勅使河原惣兵衛	一〇一	岩谷山久昌寺	一一一
内田喜作	八一	堀口千代作	九一	二宮綾藏	一〇一	大聖山金仙寺	一一二
笠原松三郎	八一	猪俣邑利	九一	大澤助作	一〇一	旗下山慈眼寺	一一二
保泉長作	八二	新井備治	九二	岩田甚三郎	一〇一	十輪寺	一一三

法昌山妙圓寺	一一三	長島製絲工場	一一二四	稻村宗一	一一三三	堀越味	一一四二
師慶山醫王寺	一一四	梅澤絹織店	一一二五	松井利七	一一三四	中島安一郎	一一四二
惣圓寺	一一四	小林寛一	一一二五	内田徳太郎	一一三四	關口藤吉	一一四三
大寶山圓福寺	一一五	野本治兵衛	一一二五	關口藤吉	一一三四	峯岸傳三郎	一一四三
笹戸山長泉院	一一五	増田道太郎	一一二六	市川春吉	一一三四	内田浩一	一一四三
大林山廣見寺	一一六	關口末吉	一一二六	小堀仁兵衛	一一三五	落合長一	一一四四
茂木茂三郎	一一六	原田俊郎	一一二七	小山賀助	一一三五	萩原喜三郎	一一四四
新井福太郎	一一七	保泉近藏	一一二七	三井照吉	一一三六	武正美三郎	一一四四
石上豊太郎	一一七	清水近太郎	一一二七	小山玲助	一一三六	小林賢太郎	一一四五
村田松五郎	一一八	秋本廣太郎	一一二八	福田勝藏	一一三六	長谷部武	一一四五
猪野林助	一一八	岡島半八郎	一一二八	關磯吉	一一三七	平社鍋之助	一一四六
		田代三五良	一一二八	新井幸作	一一三七	大塚鷺太郎	一一四六
		森田幸	一一二九	木村直衛	一一三八	岩崎信之丞	一一四七
		梅村篤郎	一一二九	鈴木佐市	一一三八	岡只三郎	一一四七
		島野龜十郎	一一二九	腰塚五左衛門	一一三八	矢島政吉	一一四七
		大久保利英	一一三〇	高橋祐太郎	一一三九	早川八左衛門	一一四八
		野崎健之	一一三〇	小澤愛次郎	一一三九	鈴木孝太郎	一一四八
		鎌田和一	一一三一	岡田武雄	一一三九	須永新左衛門	一一四八
		野中英昭	一一三一	萩原条作	一一四〇	矢島保	一一四九
		松島義勝	一一三一	榎本新左衛門	一一四〇	尾澤幸治郎	一一四九
		新井能藏	一一三二	高橋作太郎	一一四〇	吉田まさ	一一五〇
		杉本壽太郎	一一三二	塚田清三郎	一一四一	石川直行	一一五〇
		原口儀左衛門	一一三二	關根勘三郎	一一四一	高附一笑	一一五〇
		齋藤内藏之助	一一三三	田口留吉	一一四二	岡村榮	一一五一

北埼玉郡

金子正平	一一五	入江幾三郎	一一六四	小松山若王院盛徳寺	一一七四	秋元政吉	一一八四
松村和一郎	一一五	岡田三右衛門	一一六四	附蛇落山延命寺	一一七四	石井嘉七	一一八五
金子喜兵衛	一一五	篠塚喜之助	一一六五	星光三普門寺	一一七四	高橋政治	一一八五
小山正一	一一五	酒巻景一	一一六五	大福寺	一一七五	田口角三郎	一一八六
關根良治	一一五	藤間徳太郎	一一六五	門井東一郎	一一七五	澁谷作造	一一八六
北埼玉物理治療院	一一五	岩崎鷺之助	一一六六	松村芳三郎	一一七五	齋藤利八	一一八七
江原詮棚	一一五	小山榮	一一六六			本橋素治	一一八七
相原徳治郎	一一五	上野仲右衛門	一一六六			大橋貞之助	一一八八
明戸高吉	一一五	田島行夫	一一六七			九法繁藏	一一八八
藤間西一郎	一一五	若山静一郎	一一六八			松村作太郎	一一八九
河合新助	一一五	田口勳	一一六八			相澤章三	一一八九
金子猪之助	一一五	上野馬吉	一一六九			齋藤増太郎	一一九〇
杉田昌平	一一五	柴崎末次郎	一一六九			齋藤信之助	一一九〇
池内直二	一一五	小山嚴嵩	一一六九			吉澤一太郎	一一九一
蓮原キク	一一五	内山由藏	一一七〇			黒須伊作	一一九一
小暮勝治郎	一一五	石田武範	一一七一			大橋常三郎	一一九二
清水富五郎	一一五	佐伯盛照	一一七一			伊草茂	一一九二
相澤力三郎	一一五	梅澤眞戒	一一七一			小林百次郎	一一九三
清水作次郎	一一六	仲田圓了	一一七一			倉持政三郎	一一九三
小島平朝	一一六	荻野隆俊	一一七二			門井清六	一一九四
石川重三郎	一一六	玉敷神社	一一七二			細川三吉	一一九四
巢瀬重吉	一一六	安養山生善院	一一七二			細井藤作	一一九四
橋本彌喜智	一一六	聖徳山天洲寺	一一七三			菊地半次郎	一一九五
中島長藏	一一六	無邊山廣大院法性寺	一一七三			濱田暢三郎	一一九六

南埼玉郡

濱田章	一九七	新井眞一	二〇七	天嶽寺	二一九	山野井榮次郎	二二八
柿沼作次郎	一九六	中村長右衛門	二〇八	石川伊兵衛	二二〇	三ツ林幸三	二二九
野本啓治	一九七	新井隆	二〇八	宮本保	二二〇	野口小一郎	二二九
石井市郎	一九七	福田清作	二〇八	北葛飾郡	二二〇	對間連	二二九
野原吉太郎	一九八	黒田權三郎	二〇九	幸松尋常小學校	二二一	倉持康三	二三〇
小林易之助	一九八	加藤豫十郎	二〇九	富多尋常高等小學校	二二一	中島多左衛門	二三〇
眞田陸三郎	一九九	中野忠祐	二一〇	吉田信用販賣組合	二二二	野邊數光	二三一
小林孝作	一九九	齋藤宗憲	二一〇	幸手組合病院	二二二	名倉光之助	二三一
中村金次郎	二〇〇	關山勉	二一一	大宮製布工場	二二三	關根和三郎	二三一
並木彌一郎	二〇〇	相澤正直	二一一	小林善次郎	二二三	新井浩三郎	二三一
高山惣作	二〇一	山本内科醫院	二一二	渡邊勘左衛門	二二三	林啓次郎	二三一
關口揆一	二〇二	小林榮吉	二二三	池田保次	二二三	石垣周含	二三一
和泉洪	二〇二	小林しづえ	二二三	蓮沼良次郎	二二三	樋口政吉	二三四
栗原重雄	二〇二	小川原仙松	二二四	大木寛治	二二四	井上直吉	二三四
細井金左衛門	二〇三	飛田育男	二二四	田中一雄	二二四	矢島惣十郎	二三四
本多悟三郎	二〇三	大熊久男	二二五	新井俊平	二二五	小森谷進治	二三五
岡田康一郎	二〇四	榎本善兵衛	二二五	大瀧隆一	二二五	町田琴三郎	二三五
山中竹次郎	二〇四	針ヶ谷重太郎	二二六	岩井八郎	二二六	江森康友	二三六
新井仁三郎	二〇五	押目由太郎	二二六	關根善一郎	二二六	青木進	二三六
石井淺太郎	二〇五	青木俊金	二二七	齋藤治	二二七	尾崎行雄	二三七
齋藤松五郎	二〇五	石川徳雲	二二七	野口裕	二二七	増田柳藏	二三七
高木業	二〇六	井倉教如	二二八	大木亮三	二二八	關根五郎吉	二三七
中村耕秧	二〇六	天野俊道	二二八	町田正作	二二八	松本高治	二三八
矢島末五郎	二〇七	鷺尾諦如	二二八			平野勝治	二三八

矢島喜一	二三九	増田源太郎	二四九	寶聖寺	二六〇	藤野嘉谷	二七一
深井喜一	二三九	小沼本一郎	二五〇	寶持寺	二六一	根岸初太郎	二七一
奈良善次	二四〇	岩井彌一郎	二五〇	光巖寺	二六一	笠原芳宣	二七二
關根由之助	二四〇	木村治右衛門	二五〇	比企郡	二六一	平井竹三郎	二七二
五月女茂一郎	二四〇	鈴木潔	二五一	埼玉縣小川製紙同業組合	二六三	田端梅吉	二七三
青木六五郎	二四一	時田源三	二五一	小川紙業信用販賣組合	二六三	小鷹一郎	二七三
岡安善次郎	二四一	秋間恒造	二五二	大河信用購買組合	二六三	久保三源次	二七三
中村孝作	二四二	鳥海茂敏	二五二	玉川信用購買組合	二六四	戸野倉常藏	二七四
細谷録樓	二四二	須藤勇助	二五三	玉川信用購買組合	二六四	櫻井榮之丞	二七四
鳥野見徳壽	二四二	川島兵庫	二五三	小川無盡株式會社	二六四	馬場莊衛	二七四
山崎富五郎	二四三	芝莖三郎	二五四	玉川郵便局	二六五	田中長亮	二七五
橋本住	二四三	新井俊次	二五四	大塚喜惣治	二六五	杉本匡吉	二七五
福田市郎	二四四	栗田龜造	二五五	高橋宗治	二六五	藤野良助	二七五
横山英一	二四四	加藤市郎	二五五	小久保麟	二六六	關根茂良	二七六
横井豐	二四五	増田瀧次郎	二五六	馬場章夫	二六六	松本治助	二七六
會田太郎	二四五	高島憲	二五六	加藤理介	二六七	田幡宗順	二七七
知久千代吉	二四五	中村正三郎	二五七	青木五三郎	二六七	安藤寸介	二七七
大瀧相之助	二四六	卷島保治	二五八	久保田惠喜	二六八	栗原嘉章	二七七
野村市郎	二四六	遠藤信太郎	二五八	野崎廣吉	二六八	高山政治	二七八
遠藤市郎兵衛	二四七	今井眞靜	二五八	村田久義	二六九	保積助次郎	二七八
小澤政次郎	二四七	石川仁平治	二五九	竹本徳一	二六九	松本誠一	二七九
竹村清一郎	二四八	朝倉旅館	二五九	笠間庄三	二七〇	栗原森藏	二七九
小林靖司	二四八	迦葉院	二五九	山岸徳太郎	二七〇	朝比奈桂堂	二七九
奈良榮次郎	二四九	淨誓寺	二六〇			栗原公一	二八〇

群馬縣人物總覽目次

市 部

縣立前橋商業學校	一	伊香保溫泉場組合	八
販賣組合群馬馬社	一	群馬長野郵便局	八
前橋積善會	二	岸權三郎	九
上毛貯蓄銀行	二	中里仁重郎	九
群馬大同銀行	二	塚越傳三郎	一〇
相生機械株式會社	三	阿部藏太郎	一〇
道下富一郎	三	淺見晉吉	一一
石黒松太郎	四	荒木眞平	一一
山本一郎	四	根岸皓太郎	一二
八幡宮	四	唐澤福造	一二
清水寺	五	關乾吉	一三
恭和寺	六	井上島五郎	一三
橋林寺	六	平方慶一	一四
養行寺	七	武井茂吉	一四
		豐田丹八	一五
		牧重造	一五
		横手信太郎	一六
		福島藏之助	一六
		海津政之丞	一七
		荒木利藤太	一七

勢 多 郡

羽鳥友太郎	一八	木瀬村役場	二九
後藤善十郎	一八	三輪有一	二九
五十嵐仲藏	一九	清水及衛	三〇
高橋長三郎	一九	鯉登進助	三〇
丸山可信	二〇	大胡神社	三一
飯塚永三郎	二〇	不二山觀音院金藏院	三一
猪熊鶴吉	二一	泰雲山龍源寺	三一
岩田幸作	二一	豐國山長善寺	三一
小山善十郎	二二	龍光寺	三二
大森繁	二二	津久井文一	三三
金井雅次郎	二三	世久山養行寺	三三
岡本元吉	二三		
清水八郎	二四	北甘樂郡	
市川亭三郎	二四	富岡信用組合	三四
飯塚儀内	二五	石井絹織物工場	三四
清水ヒロ子	二五	田村醬油醸造場	三五
五十嵐重五郎	二五	佐藤量平	三五
黒田文昌	二六	佐藤貞太郎	三六
子持山神社	二六	高橋喜平	三六
長純寺	二七	福澤元太郎	三七
石井清	二八	清水孫太郎	三七
長井兼作	二八	高山吉十郎	三七
		矢島寅平	三八
		須藤啓藏	三八

東 京 縣 人

奥平明詮	二八一	中島武平	二九二
石井周吉	二八一	河野千代吉	二九三
金子捨三郎	二八二	秋本平十郎	二九三
八幡神社	二八二	淺見源吉	二九四
伊古乃速御玉姫神社	二八三	深山金一郎	二九五
八宮神社	二八三	土屋盛義	二九五
威徳山班溪寺	二八四	柳留吉	二九六
一橋山輪禪寺	二八四	齋藤利助	二九六
王壺山龍福寺	二八五	佐藤佳二	二九七
枯花山大梅寺	二八五	小林光次	二九七
		逸見銀三郎	二九八
		阿部十郎	二九八
		大橋幸三郎	二九九
		新井繁	二九九
		染谷精一	三〇〇
		小山慶治郎	三〇一
		柴崎大理石店工場	三〇一
		駒丸九	三〇二
		宮内睦	三〇二
		奥宮孝祐	三〇二
		熊倉良助	三〇三
		新井竹太郎	三〇四
		野本實	三〇五
		宮田玉造	三〇六
		高橋ミチ	三〇六
		小林惠一郎	三〇六
		田口達三	三〇七
		梅澤馨	三〇七
		南直三郎	三〇八
		吉川清作	三〇八
		野口國五郎	三〇九
		秩父分教會	三〇九
		上尾松役場	三一〇
		長井信用購買組合	三一〇
		販賣利用組合	三一〇
		岩田新太郎	三一〇
		吉田脩一郎	三一〇

里見時次	三三八	故上原半衛	四八	瀧上團藏	五八	妙高山永壽寺	七〇
曾根隆太郎	三九	故高橋一雄	四九	松本藤太郎	五九	寶砥山藥師寺	七一
小金澤直平	三九	庭屋靜太郎	四九	佐藤寅藏	五九	大徳山最興寺	七一
矢島松次郎	四〇	竹内又太郎	五〇	植村儀平	六〇	西光寺	七二
白石恒二	四〇	故瀧上彌一郎	五〇	市川榮次郎	六〇	向勝寺	七二
小金澤甚吾	四一	茂木喜太郎	五〇	赤穂房吉	六〇	丹生山金藤寺	七三
大小原繁	四一	佐藤保次郎	五一	細谷伊津岐	六一	觀喜山寶勝寺	七三
小林楠太郎	四二	赤尾治郎	五一	故淺川秀	六一		
新井新太郎	四二	市川留四郎	五二	中島恭治	六二		
中條哲太郎	四三	神戶金治	五二	石井豐太郎	六二		
淺川文一郎	四三	金井昇	五二	森川彰	六三	新田神社	七五
市川平三	四三	池田覺三郎	五三	中重武平	六三	八坂神社	七五
工藤和平	四四	金井忠藏	五三	勅使河原鐵五郎	六四	大光院	七六
土屋義一郎	四四	吉田重次郎	五四	齋藤昇	六四	徳藏寺	七七
小管福太郎	四五	大河原茂平	五四	齋藤牧太郎	六五	長慶寺	七七
大工原實五郎	四五	神宮平助	五四	齋藤重五郎	六五	貴船神社	七八
田中千治	四五	故高麗喜平	五五	月田一郎	六六	尾曳稻荷神社	七八
藤卷茂平	四六	淺川龍太郎	五五	園部寅五郎	六六	岩崎誠藏	七九
田中俊一郎	四六	齋藤幸次郎	五六	本多二郎	六七	織間與四郎	八〇
江原勝次郎	四六	黒澤和平	五六	大内勝義	六七	稻邊倉太郎	八〇
吉田作平	四七	佐藤東一郎	五六	野口貞三	六八		
故佐藤平八	四七	有賀良一郎	五七	中村英順	六八	碓氷郡	
故藤井愛作	四七	神宮佐平	五八	正壽山永隆寺	六九	板鼻町役場	八一
故高橋半六	四八	富岡百助	五八	故片桐龍興	六九	磯部鑛泉組合	八二
						滿島商事自動車部	八二
						合資會社	八二

鈴木伊勢太郎	八三	鹽谷喜造	九五	佐藤三郎	一〇六	干川捨五郎	一一七
遠間富平	八四	中島治平	九五	長日部瑗一郎	一〇七	田村喜八	一一七
柄澤猶次	八四	金井松惠	九六	乾久治	一〇七	中澤伴藏	一一八
戸塚盛太郎	八五	中島小三郎	九六	鹽谷神酒造	一〇八	星河鯛一郎	一一九
長加部林吉	八五	小河原勳	九七	上原善三郎	一〇八	佐々木仙重郎	一一九
上原甚一郎	八六	吉田隣藏	九七	石井源治	一〇九	中澤義太郎	一一九
原田新太郎	八六	佐藤三郎	九八	上原定吉	一〇九	橋爪八兵衛	一二〇
山賀孝治	八七	高橋信太郎	九八	上田醫院	一〇	松本藤平	一二〇
美濃部龜太郎	八七	岩井今朝太郎	九九	島崎近太郎	一一〇	關善平	一二一
字佐見勇	八八	安立政尙	九九	多胡榮一	一一〇	宮崎羊重郎	一二二
小此木紋三郎	八九	相川巳之吉	九九	島野山法東寺	一一一	萩原和一郎	一二三
木暮善八	八九	上原岩五郎	一〇〇	龍澤山開名寺	一一一	霞源三郎	一二三
富樫傳十郎	八九	小野秀松	一〇〇	月光山圓明寺	一一二	橋爪和作	一二三
矢島爲三郎	九〇	村井田角次郎	一〇一	能野山清元寺	一一二	山崎安重郎	一二四
新井友吉	九一	山田角次郎	一〇一	東關法痛長源寺	一一三	綿貫字十郎	一二四
石田茂三郎	九一	堀口徳太郎	一〇二			鈴木萬作	一二五
上原信太郎	九一	柳澤嘉十郎	一〇二			高山雅一郎	一二五
須貝房吉	九二	河村貢	一〇三	吾妻信用販賣購組合	一一四	瀧澤大治	一二六
新井彌市	九二	小坂橋増五郎	一〇三	應桑郵便局	一一四	村山平次郎	一二六
佐俣文太郎	九三	須藤永三郎	一〇四	四萬温泉組合取締所	一一五	萩原登喜一	一二七
山田喜三郎	九三	小此木勘十郎	一〇四	群馬自動車株式會社	一一五	岩上類三	一二七
石井忠造	九四	青木正市郎	一〇五	劍持眞平	一一六	小林喜代作	一二八
木暮卯藏	九四	茂田菊太郎	一〇五	宮崎茂太郎	一一六	小林徳藏	一二八
須藤由一郎	九五	潮市四郎	一〇六	齋藤大八	一一七	戸部彪平	一二八

伊藤八平	野口孫吉	高橋傳吉	八幡宮	一六二
山口林之助	宮崎幸吉	大澤良太郎	辛科神社	一六二
故柳田阿三郎	平田源次郎	三木庸次郎	鬼石神社	一六三
淺見安喜	市村菊次郎	井元久作	新羽神社	一六三
宮崎倉吉	篠原菊之輔	新井駒三郎	お菊稻荷神社	一六四
黒岩萬作	飯塚安治	吉田正平	光徳寺	一六四
唐澤林道	田村八平	新井近吉	寶勝寺	一六五
久保田四郎	柴田實惠	淺見善吉	永源寺	一六五
田村學	王城山神社	矢内西藏	慈恩寺	一六六
佐藤泰吉	清見寺	黒澤留吉	觀音寺	一六六
寺島喜一郎		小林長三郎	泉通禪寺	一六七
中井九十郎		山口賢太郎	安樂寺	一六八
山口廣吉		金井市次郎	仙藏寺	一六八
市村喜平		橋爪悅樹郎	金剛寺	一六八
小林金三郎		引田勘三郎	東福寺	一六九
萩原一治		坂本字太郎	福持寺	一六九
勝山百龍		宮前益雄	立石寺	一七〇
樋口保吉		矢島積四郎		
金子壽太夫		須藤武平		
下谷幸内		小林茂十郎		
篠原新平		中山陳一		
竹淵嘉平		鹽原龜次郎		
櫻井武		星野兵四郎		
山崎幸吉		大井徹翁		
殖蓮尋常高等小學校				
殖蓮村信用販賣組合				
星野源右衛門				
矢島次市				
長沼宗雄				

多野郡

佐波郡

荒木龜次郎	古馬牧信用販賣組合	高橋政之助	松井元近	一一〇
大島徳次郎	水上郵便局	青柳泉之助	鈴木辨吉	一一一
天田清三郎	旭鑛山工業所	石橋幸高	野村克己	一一一
富岡光三郎	高山和助	平井瀧治	武井高信	一一一
下城英三	佐藤金松	石井彌十郎	池田文作	一一二
小茂田才次郎	清水彌平	山田政吉	井上勝次	一一二
下城虎次	小野保義	字敷藤造	萩原松藏	一一三
齋藤豊次郎	増田喜市	小林正治	角田實	一一三
宮崎昭一郎	佐藤元三	高橋邦三郎	荒木理一	一一四
金子仲次郎	阿部豊次郎	外山雅一	林義一	一一四
木間億次	木村喜作	楯淵金兵衛	傳田太兵衛	一一五
齋藤幸太郎	木橋仙太郎	眞庭力雄	小野つる	一一五
金谷道太郎	原澤平重	太田初太郎	千明新作	一一六
玉町八幡宮	杉木金五郎	町田文吉	阿部喜三郎	一一七
雷電神社	小林仲吉	津久井芳雄	發知茂平	一一七
飯玉神社	井上畊造	佐藤彦八	星野利	一一七
妙眞寺	北野隣作	須藤助市郎	高橋三之助	一一八
長安寺	川田和三郎	宮田武道	増田惣二	一一八
順慶山雲崎院	戸部又治	西山隆惠	楯淵里治	一一九
福壽院	井上義一郎	木村實次	眞庭常太郎	一二九
群馬縣立利根農業學校	吉野律治郎	林繁太郎	八代群	一一〇
沼田尋常高等小學校	片野新助	永井万吉	須藤嘉佐武	一一〇
	阿部周二郎	都竹初藏	雨森新六	一一一
		星野長三	桑原幸吉	一一一

利根郡

高井臨作……………	二二二	棒名神社……………	二三四	尾崎徳太郎……………	二四七
左部專一郎……………	二二三	天理教會利根支教會……………	二三四		
高橋林太郎……………	二二三	正眼寺……………	二三四		
中島恒雄……………	二二四	大感應山長壽院……………	二三五		
見城孫治郎……………	二二四	不動尊古瀧庵……………	二三六		
高橋宗太郎……………	二二五	龍滄院……………	二三七		
小林敏雄……………	二二五	彌勒寺……………	二三七		
須藤忠吉……………	二二六	法城院……………	二三八		
高橋巳之吉……………	二二六	建明寺……………	二三九		
高野熊三郎……………	二二七	如意寺……………	二三九		
七五三木政勝……………	二二七	泰寧寺……………	二四〇		
坂鎌吉……………	二二七	正禪寺……………	二四〇		
村上宗十郎……………	二二八	金剛院……………	二四一		
大平福太郎……………	二二八	延命寺……………	二四一		
小島榮之助……………	二二九	天桂寺……………	二四二		
角田磯之……………	二二九	海藏寺……………	二四三		
眞下康一郎……………	二二九	雲昌寺……………	二四三		
水上醫院……………	二三〇	音昌寺……………	二四三		
秋山眼科醫院……………	二三〇	舒林寺……………	二四四		
中島醫院……………	二三一	大圓寺……………	二四四		
林屋旅館……………	二三一	金泉寺……………	二四五		
井上覺淨……………	二三二	桐生機械株式會社……………	二四六		
加藤玄道……………	二三二	丸山劔一……………	二四六		
今橋大雄……………	二三三	中島晴吉……………	二四七		

埼玉縣勢

總說

位置・境界

埼玉縣は關東地方の西部に位し、政治的中心地である東京に北接してゐる。西は關東山脈の主峰甲武信岳を起点として東南に走る金峯山脈によつて山梨縣と境し、西北は三國山、二子山等を盟主とする山脈によつて長野、群馬の二縣と境してゐる。

北は利根川及びその支流の烏川、神流川等によつて群馬縣と境し、東は利根川及びその支流の渡良瀬川、分流の權現堂川、江戸川等によつて栃木、茨城、千葉の諸縣と隔てられてゐる。

南は東京府と境してゐるが、西方の山地の部分を除けば何等の自然的境界がない。

く、全くの平地続きであるから、縣南の地方は東京市の郊外地域となり、交通の發達につれて益々東京市との關係を深めてゐる。

要するに、本縣は温帶の文化地帯に屬し、然も日本のほと中央に在つて帝都に接壤し、最も優秀な地理的位置を占めてゐるのである。

氣候

氣候は、夏雨多く、冬雨の少い表日本式の様相を呈し、氣温も一般に温和で本邦に於ても氣候の良好な地方である。

縣内の各所に於ける氣候と殆ど大差はない方で、雨量は一般に縣南地方と山地に多く、縣北地方の盆地内に少い。氣温は平地よりも山地に低く、氣温の較差は盆地に大である。

面積・人口

本縣の面積は、三千八百一方軒で、内地面積の凡そ百分の一、日本總面積の凡そ千分の六に當つてゐる。全國府縣中では第三十八位で餘り廣くはない。しかし人口は非常に多く約百五十萬人を算し、全國府縣中第十七位にあたり、人口密度の大なること全國第七位となつてゐる。即ち本縣は人口上から見ても面積が非常に狭小であることが分る。

産業

山地の人々は多く林業に従事して木材薪炭を作り、山麓附近の人々は主として養蠶を行つて繭及び絹絲をつくり、臺地の人々は養蠶または畑作農業を營んで繭、野菜の産多く、低地の人々は水田作農業に従事して米をつくり、特別な技術を有する人は資本と相俟つて各種の工業品を作る等、いづれも分業的に自己の生業に専心努力して、お互に有無相通じ幸

福な生活を送つてゐる。

先住民族は漁獵生活をしてゐた證として各所に貝塚を残し、また石斧、石鏃等を残して居り、牧畜時代の證として各所に牧場に因んだ地名が多く、その後それらの牧場は漸次開拓されて畑、水田等と化し、農業の全盛時代を興した。しかし今日では商工業が次第に盛んとなつて、工産額は農産額を凌ぐやうになつた。即ち大正五年頃は工産農産互に伯仲してゐたが、漸次工産は増加して、今では工産額が約三千萬圓も農産額より多くなつてゐる。

主要産物を挙げると、米、蕎麥、甘藷、里芋、蠶絲、絹織物、綿織物、足袋、小麦粉、木製品、セメント及び石灰等である。

交通

縣内に於ける鐵道には、東北本線、高崎線、八高線、東武鐵道本線及び同日光線、同東上線、武蔵野線、西武線、武州

線、秩父線、總武鐵道、川越電氣鐵道、本庄電氣鐵道等がある。

また道路は陸羽街道及び中山道の國道をはじめ、縣道二千二百餘軒、市町村道二萬八千七百餘軒の延長を有し、現在定期乗合自動車の運轉されるは、熊谷、川越、大宮、浦和等の地方中心の都邑を一つの核心として、各方面に四通八達してゐる。

教育

本縣の教育は益々隆盛に向ひ、官立の専門程度の學校は浦和高等學校が一つあるに過ぎないが、縣立中等學校では師範學校二、中學校八、高等女學校十三、實科高等女學校七、實業學校二十六、青年學校四百の多數にのほり、小學校に於ては本校分校を合せて四百八十校に達してゐる。就學兒童は約二十四萬人で、就學歩合は九十九パーセントである。

また一般教育のため縣下に二百五十の圖書館が設けられ、幼兒教育のためには

三十の幼稚園があり、その他不良兒童教育のため官營の武蔵野學院や、縣營の埼玉學院等が設置されてゐる。

宗教

縣下の神社總數は約二千三百社で、その内官幣社三社、縣社十八社、郷社二十七社、村社千四百五十餘社である。

寺院は二千二百餘で、その内新義真言宗の智山派が約六百寺、同豊山派が三百九十寺、曹洞宗が五百六十寺、天臺宗と淨土宗が各百七十寺ある。その他の佛教寺院または天理教、キリスト教の教會や説教所も各地にある。

財政

明治十二年地方稅制規則施行當時は、縣費總額三十五萬圓に過ぎなかつたが、縣民の福祉増進のため諸般の事業の施設改善の必要にせまられ、或は治水事業の促進に、或は洪水に基く損害の補填に、或は道路橋梁の新設改善に、或は縣民の

教育に、或は衛生に、あらゆる方面に改良を加へたので次第に縣費の増大を來し現在では縣費豫算額は約九百萬圓に達してゐる。

浦和市

浦和市は縣の南部に位し、東方は北足立郡、三室、尾間木の二村に、西方は奥野町に、南方は芝、六辻の兩村に、北方は大宮町及び片柳村に接續する。市街地の大部分は足立臺地の南端に位し、土地高燥にして、到るところ樹木鬱蒼とし、遠く富岳及び秩父連山をのぞみ眺望絶佳である。且つ空氣清澄なれば、東京に接近せる郊外住宅地として近時頗る人口の増加を來しつゝあり、東京大宮間の省線が電化してからの傾向はますます顯著急激なものがある。

縣廳を始め稅務所出張所、警察署、地方裁判所その他各官衙ありて縣治の中心をなし、また高等學校をはじめ、男女師

範學校、中學校、高等女學校、商業學校等の縣立中等學校のほか各種私立學校多數ありて、縣内教育の中心地となつてゐる。面積は一七方軒二五、人口四萬二千有餘をかぞへ、産物は米、建具、菓子、織物、繭等が主なるものである。

江戸時代、中山道の宿場町として人馬の往來繁きを見、毎月二、七の日に定期市が開かれ、市場式宿驛としてかなり繁昌し、明治維新後は埼玉縣の政治的中心地として漸次大をなせるものにして、昭和七年木崎、谷田の二村を併せ、町政の改善を行ひ充分内容を充實せしめて同九年市制を施行した。

市内には東北本線浦和驛及び奥野驛あり、鐵道並に國道は街を南北に貫き、浦和驛を中心として乗合自動車は四方に通じ、交通の便益頗る大である。

調神社は延喜式内の古社にて、往時調物をあつめし所なれば調宮と稱した。玉藏院は口碑に弘法大師の創建なりといひ中興の開山は本朝高僧傳にある印融であ

る。また明治天皇行在所址がある。

川越市

川越市は武蔵野臺地の東北端にあつて城下町として漸次大をなし、最近までは縣で唯一の市であつた。また元入間郡役所所在地で、現在附近一帯の産業、交通の大中心地となり、ますます發展の傾向を有してゐる。附近の低地には米の産があり、臺地には麥、甘藷をはじめ蔬菜の産があつてそれらの集散が盛んである。殊に甘藷は川越芋として天下に名聲を博してゐる。また臺地には桑の栽培が行はれ、養蠶が盛んであるから繭の集散や製絲業が行はれ、石川製絲工場の如きは職工七百餘名を使用してゐる。その他紡績別珍製造、製粉、桐箆等の製造は隆盛で、箆工場は多く、裏町に分布してゐる。また駄菓子専門の菓子製造業者ばかり集つた菓子屋横丁があるのも、この市の特異な人文事象の一つであらう。

現在本郡下にある町村は、十四ヶ町四十五ヶ村で、即ち次の通りである。

町 蕨、草加、鳩ヶ谷、志木、大和田、朝霞、大宮、與野、平方、上尾、桶川、鴻巣、吹上、原市
村 六辻、土合、美谷本、榎目、戸田、芝新郷、谷塚、新田、安行、神根、戸塚、大門、野田、尾間木、三室、片山、新倉白子、内間木、日進、三橋、大砂土、宮原、指扇、片柳、大久保、馬宮、植水、七里、春岡、大谷、大石、上平、小室、小針、加納、川田谷、石戸、馬室、中丸常光、田間宮、箕田、小谷

蕨 町

本町は中山道の一驛、浦和市の南凡そ一里のところにあつて、綿木綿の産地として名高く、謂ゆる埼玉三子と稱へられてゐる。

蕨、塚越の二大字から成り、面積五・〇六平方軒、戸數一千六百餘、人口八千餘を有し、古くは關八州の旗頭澁川左衛

門佐義行（後ちの蕨左衛門）居城の地、半農半商の町から機業へと轉じてゐる。役場は蕨本陣跡で、明治大帝一夜の安在所にあてられてゐるが、今はその建物は取毀されたが由緒ある場所、蕨驛あり、會社銀行等の設けがある。蕨城址、八幡神社、八幡山公園、和樂備神社、前川觀音、三覺院の社寺名勝がある。

草 加 町

草加越ヶ谷千住のさきよ——小唄にうたはれた艶かしい町の姿をすて、新しく再建した本町は、北草加、南草加、與左衛門新田、彌惣右衛門新田、庄左衛門新田、太郎左衛門新田、谷古寺、宿篠葉東立野、吉笹原、原島の大字に分れ、東武鐵道草加驛あり、越ヶ谷、鳩ヶ谷の兩町を始め八幡、八條の兩村をつなぐバスがあつて、交通極めて便利である。

面積六・四二平方軒、戸數一千四百餘、人口三千五百餘を占め商工業六、農業四

の割合を以て生業となし、米、蔬菜の産額多く、また鹽煎餅の本場として知られてゐる。役場を大字北草加に置き、産業組合、區裁判所出張所、郵便局、銀行、會社支店等の設けを見、村社草加神社、回光院淨徳寺、淨龍寺、眞藏寺、東福寺等の社寺がある。

鳩ヶ谷 町

當町は川口市より一里五町、蕨町より一里二十町、バスの便があり、交通よく開けてゐる。中山道の脇道、川口市より草加、岩槻方面に通ずる要衝に當る縣下有數の市街地で、面積六・四二平方軒、戸數一千五百餘、人口六千八百餘をかぞへ、昔時は川口を支配したものの。

今、行政區を鳩ヶ谷、浦寺、里、三ツ和、前田、辻に分け、役場を大字鳩ヶ谷に置き、區裁判所出張所、警察署などの官衙の設けがあり、主なる物産としては

米、麥がある。また附近は機業なかく、旺盛である。

志 木 町

本町は浦和市を隔つる西南約二里のところを位置し、東武鐵道東上線志木驛があり、所澤、川越への定期バス、新河岸川による東京への水運の便もある。

面積三・〇八平方軒、戸數九百に近く人口四千三百餘をかぞへ、米、麥、甘藷南瓜、雨傘、織物、竹箒などを産し、商業また活潑、銀行支店の設けがある。役場、區裁判出張所、郵便局、技藝學校、裁縫女學校があり、村社氷川神社、同牧島神社、寶幢寺などがある。

大 和 田 町

大和田、北野、野比、西堀、菱澤の五大字から成る當町は、郡の南端に在り東京府北多摩郡に隣接する。志木驛へ約三

十町、縣道縱横に通じて自動車の便が頗るよい。

面積は一三・八八平方軒あり、七百六十餘の戸數に、四千五百餘の人口をかぞへてゐる。主産物としては米、麥、蕪があり、また針線、澤庵等も出してゐる。役場を大字大和田に置き、平林寺の名刹に野火止めの舊址がある。

朝 霞 町

本町はもとの膝折村で、膝折、岡、溝沼、根岸臺が合して町制を敷き、今の町名を生んだもので、東武鐵道東上線朝霞驛があり川越市に至る。縣道通じ、自動車の便も極めてよい。役場を大字膝折に置く。

面積一〇・八〇平方軒を占め、戸數九百餘、人口五千餘を有し、米、麥、蕪に牛蒡を産し、その他針線、伸銅、伸鐵等を出し、また輸出玩具、ゴム風船、笛なども産する。

大 宮 町

官幣大社氷川神社の所在地として著聞する本町は、浦和市の北に在つて、東北本線より高崎線の分岐するところであり且つ西に川越への電車及び、東に岩槻、粕壁を経て千葉縣野田町への電車もあつて、交通極めて圓滑、至便である。

面積六・九一平方軒、戸數六千餘、人口三萬餘を孕んだ大宮町、鐵道省大宮工場をはじめ、製絲工場、種牛場、製薬場その他があり、銀行會社の設けあるなど縣下屈指の都會地である。米、麥、甘藷、菓子、油、綿織物、名物からし巻などを産する。

官幣大社氷川神社、氷川公園、鹽田山城址等、名勝史蹟に富んでゐる。

與 野 町

元半農半商を以て鳴つた本町は、機業

漸く盛大、米、繭、バスケット用柳等を
主産物として、斷然面目一新の體制を整
へてゐる。

與野外九大字から成り、面積八・三〇
平方軒、戸數一千五百餘、人口八千餘を
かぞへ、役場を大字與野に置き、與野驛
があつて交通の便益を助ける。

街路兩側に櫻樹を並植して花時の賑か
さを見せ、古木鬱然たる與野公園があり
傳統に富む「二度栗山」の名勝などがあ
る。

平 方 町

高崎線上尾驛を距る一里十町、バスの
便益などのある當町は、平方、西貝塚、
上野、本郷、平方領家の舊五ヶ村合併か
らなるもので、昭和三年十一月一日町制
を實施、今日に及んでゐる。

面積五・六九平方軒、戸數約六百、人
口三千五百餘人を有し、養蠶の旺んな地
として名高く、麥に米なども産する。

役場を大字平方に置き、郵便局、銀行
會社、商店などもある。

上 尾 町

昔は中山道上尾宿で知られた本町は、
町村制實施と共に今の大字を合して町制
を施いたもので、高崎線上尾驛があり、
川越市、原市町へのバス繁く、交通極め
て便である。

役場を大字上尾宿に置き、區裁判所出
張所、郵便局、銀行支店、會社などの設
けもある。

主なる産物としては大麥、甘藷、清酒
があり、特産物に三保漬がある。

氷川鉄神社、遍照院の社寺があり、ま
た上尾郷二賢堂碑も亦た名蹟として知ら
れてゐる。

桶 川 町

本町は縣道縦横に走り、南埼玉郡高蒲

町行のバスがあり、極めて活氣に富んだ
町で、役場を大字桶川に置き郵便局あり
銀行支店、會社の設けもある。
町の物産としては大麥、甘藷、繭があ
り、その他富田織物も多く出してゐる。
足立遠光の館趾が名勝として知られて
ゐる。

鴻 巣 町

本町は大宮から高崎線によつて約三十
分の距離にあり鴻巣、上生出塚、下生出
塚の三大字に分れ、鴻巣に驛がある。

東の岩槻町と共に人形の製造によつて
知られ、鴻巣人形は、遠く天正年間、京
都伏見の人、この地に移り來て土偶の製
作を始めたのに濫觴し、その後萬治、寛
文の頃になつてから、土偶の製作のほか
に小雛を製造するやうになつた。後、技
術の進歩と共に練物をはじめ、次第に鴻
巣雛の名聲を博するやうになつた。現在
製造される主なるものは、雛人形、玩具

五月幟等で、東京を主に、關西から東北
更に遠く臺灣までも販路を持つてゐる。

吹 上 町

銀行支店、會社などの設けのある本町
は、郡の最西北端に在つて、高崎線吹上
驛あり、熊谷市へ二里餘、忍町へ一里、
松山町へ三里、何れもバスの往復ありて
交通に便する。

吹上、榎戸、大芦の舊三ヶ村の合併か
ら成り、面積四・六七平方軒、戸數六百
餘、人口三千五百を占め、米、麥、繭、
生絲を主産物とする。
役場は大字吹上にあり、水川神社、稻
荷社、東曜寺、醫王寺、勝龍寺、龍光寺
等の神社寺院がある。

原 市 町

奥州街道の一寒村に過ぎなかつた當町
は、今は原市、瓦葺の二大字から成り、

面積五・六四平方軒を占め、戸數五百六
十餘、人口三千二百餘、役場を原市に置
き、銀行支店あり、東北本線蓮田驛へ約
一里、高崎線上尾驛へ約三十町、縣道貫
通してバスの便あり、見違へるほどの活
氣ある町となつた。
主なる産物としては米、麥、甘藷、繭
等をかぞへる。

六 辻 村

本村は白幡、根岸、辻、沼影、文藏の
五大字から成り、面積五五・一平方軒、
戸數一千餘、人口五千餘を有し、浦和驛
より約十八町、國道通じ、バスの便があ
り、交通至便である。

村民の多くは農を主業となしてゐるが
故に、米、麥、蔬菜等を主なる産物とし
てゐる。

土 合 村

美 谷 本 村

當村は浦和驛を距ること約二十町、バ
スの往復がある。大字西堀、關、南元宿
田島、鹿手袋、榮和、新開、中島、道場
山窪、町谷から成り、一〇・三六平方軒
の面積を有し、約八百の戸數に、四千二
百餘の人口を擁して米、麥、繭等を重要
な産物となしてゐる。
田島原の櫻草に名を知られ、同地は史
蹟名勝天然記念物に指定された。

笹 目 村

米を第一の農産物とし、麥、繭これに
次ぐ本村は、美女木、松本、新田、曲木
内谷の舊五ヶ村から成り、その面積七・
三七平方軒、戸數四百九十餘、人口約三
千を占める。
浦和驛を距る約一里十町、縣道通じ、
バスがあり、美女木に役場を置く。

本村は蕨町の西、美谷本村の南に在つて、西に荒川の流域を控へ、地勢概ね平坦ではあるが、低濕の地が多い。

下笹目、惣右衛門の二大字から成り、人口約千七百を占め、米、麥、蕎麥などを産する。

役場を大字下笹目に置く。蕨驛へは五軒餘、川口市へは八軒、何れもバスの便がある。

戸田村

當村は舊上戸田、下戸田、新曾の三ヶ村合併によつて生れたもので、面積八・八二平方軒を有し、戸數九百餘、人口五千餘人を有し、農を主なる生業とし、米、麥、蕎麥を産する。

蕨驛を距る約十五町國道走り、バスの便あり、妙顯寺の名刹がある。

芝村

本村は芝、小谷場、伊刈、柳崎の舊四ヶ村が合して生れた。面積六・七一平方軒の地、七百餘の戸數に四千三百餘の人口を算し米と麥とを主なる産物とする。蕨驛を距る十町ばかり、バスの便があり、役場を大字芝に置く。

新郷村

當村は東京府に近く、東武鐵道草加驛より約三十町、バスの便があり、役場を大字東本郷に置く。

村を東本郷、赤井、蓮沼、江戸袋、大竹、赤貝塚、前野宿、峯新堀、榛松の九大字に分け、面積六・九九平方軒、戸數約一千四百、人口約七千、その多くは農を生業として米、麥、蔬菜を生産する。峯ヶ岡神社、無線電話、放送所、新郷貝塚などがある。

谷塚村

上、中、下谷塚の三大字に、新古に瀨崎、新里、柳島、東遊間、市右衛門新田彦左衛門新田が加はつて一村となつた本村は、郡の南端に位し、東京市足立區に接する。

面積五・九七平方軒、六百餘の戸數、三千七百の人口を擁してその多くは農耕に従事、米、麥、蔬菜を主産物とする。役場を下谷塚に置き、東武鐵道谷塚驛あり、松壽實業學校の設けがある。

新田村

東武鐵道新田驛の設けがあり、鐵道に並行して國道貫通、バスの便ある本村は九左衛門新田の外八大字から成り、各大字に新田の名の多いところから、今の村名が生れた。

面積六・四六平方軒、戸數四百五十餘

人口二千六百餘を占めて、米の産額最も大、蕎麥の産もまた多い。

役場を大字九左衛門新田に置く。

安行村

果樹苗木の産地を以て全國的にその名を知られた當村は、原、慈林、安行、北谷、小山、苗塚、花栗、吉藏新田、藤八新田、領家の大字から成り、その面積は八・〇七平方軒、戸數五百七十餘、人口三千五百餘あり、役場を大字原に置く。東武鐵道草加驛を距る一里、鳩ヶ谷町を距る約三十町、バスの便もある。

神根村

本村は鳩ヶ谷町に近く、安行、戸塚の兩村と共に果樹苗木を特産としてゐる。神戶、木曾呂、石神、道合、赤芝新田、東内野、西新井宿、新井宿、赤山源左衛門新田、根岸、在家の十二大字から成り

面積九・六一平方軒、戸數八百九十餘、人口五千五百餘、綿織物を産する。役場を大字神戶に置き、赤山城址、赤山源長寺など世に知られてゐる。

戸塚村

當村は郡の東端に在つて戸塚、西立野長藏新田、藤兵衛新田、久左衛門新田の五大字から成り、面積五・五四平方軒、戸數約四百、人口二千二百餘あり、果樹苗木の外に米、麥を産する。東武鐵道越ヶ谷驛より約一里、鳩ヶ谷町へ一里十町、それ／＼バスの往復がある。役場を大字戸塚に置く。

大門村

本村は舊大門、玄蕃、新田、間宮、着間北原、下野田の六ヶ村から成り、面積七・三六平方軒、戸數四百七十餘、人口

野田村

當村は武州鐵道沿線に地を占め、鳩ヶ谷町を距る約二里十五町、バスの便極めてよい。代山、中野、田辻、大崎、上野田、寺山、高畑の大字から成り、面積六・六六平方軒、戸數四百六十餘、人口二千八百餘、米、麥の産地でありまた果樹苗木の特産地としても名高い。役場を大字代山に置く。

尾間木村

本村は中尾、大牧、井沼方、大間木、下山口新田、蓮見新田の六大字の合併から成り、六・五九平方軒の面積を有し、

戸數四百七十餘、その人に約三千をかぞへ、米、麥、蔬菜等を産出する。浦和市を距る約一里、縣道通じ、バスあり、交通の便に富み、役場を大字大牧に置いてある。

三室村

本村は東に荒川を隔てて野田村に對し西は木崎村を経て浦和市につき、浦和驛を距る約一里のところにある。

三室、道祖土の舊二ヶ村から成り、面積六・八六平方軒、戸數四百に近く、人口約二千五百をかぞへ、農業を主となすもの多く、麥を第一に次で米を産する。役場を大字三室に置き、崇神天皇の御宇に創建した氷川女神社が有名。

片山村

本村は、郡の最南端に位し、東京府北多摩郡に接する。村内を縣道南北に縦貫

し、車馬の便極めてよい。面積は八・九八平方軒、戸數五百餘、人口三千餘を有し、米、麥、繭を産し、また針線を出してゐる。

新倉村

本村の東北端は荒川の下流に臨み、流れを隔て、美谷本村に對峙する。東武鐵道東上線朝霞驛に近く、南端に縣道通じて自動車の便がある。

面積四・一五平方軒、戸數四百五十餘、人口二千五百餘を占めて米、麥、繭、牛を産する。名勝に午房山新羅王居の遺跡がある。

白子村

當村は郡の東南端に在つて、東京市に接してゐる。白子、下新倉の二大字から成り、東武鐵道東上線成増驛に近く、縣道貫通して自動車の便もある。主要物

産として米、麥、繭がある。役場を大字白子に置き郵便局もある。名勝に白子の里がある、奈良朝の頃、新羅人の歸化した地であると傳へられる。

内間木村

當村は志木驛に近く、縣道村を走つて交通に便する。濱崎、上内間木、下内間木、宮戸、田島の五大字に分れて、面積八・一四平方軒を占めて戸數四百五十餘、人口二千七百餘を有し、米、麥、甘藷、竹材を産し、竹箒の製産も多額に上つてゐる。

役場を大字濱崎に置き、村社三柱神社寶藏寺、三光院、普善寺の社寺がある。

日進村

役場を大字上加に置いて村民福祉のため鋭意してゐる當村は、大宮驛を距る約二十五町、交通の便頗るよく、鴨川貫

流して水運の利もある。

大字上加、下加、上内野、西内野、楢引、西谷、大成の七大字からなり、面積七・四三平方軒、戸數一千餘、人口二千九百餘を有し、米、麥、繭を産する。

三橋村

當村は、並木、下内野、上小村田、下小村田、側ヶ谷の五大字からなり、面積六・〇二平方軒、戸數九百餘、人口約五千、米、麥、繭等を産する。

大宮驛を距る十八町、中央を川越大宮間の電車軌道通じ、また村内を貫流する鴨川があつて舟運に便する。役場を大字並木に置く。

大砂土村

本村は大宮町に接し、同驛を距る約一里、大字土呂、今羽、西本郷、大和田、堀崎、島、砂から成る面積一〇・六平方

軒の地、戸數六百八十餘、人口四千餘を擁し麥を第一とし、米これに次ぐの農産物があり、また繭、茶の産もある。役場を大字土呂に置き、茶の製法販賣店もある。

高崎線上尾驛を距ること約三十町、村の中央を國道南北に走る當村は、加茂宮吉野原、奈良瀬戸、大宮別所の舊四ヶ村から成り、役場を加茂宮に置く。

宮原村

面積七平方軒、戸數五百五十餘、人口三千百餘人を有し、米、麥を産し、養蠶また盛旺にして、繭の産出も従つて多く梨の名産地でもある。

指扇村

大宮驛を距る一里、川越驛と距る事二里、バスの便のよい本村は、大字高木外九大字より成り、面積一〇・二七平方軒

戸數七百餘、人口四千三百餘、米、麥、甘藷、蔬菜を多く産出する。

役場を大字高木に置き、秋葉神社、穂積神社、永昌寺、福正寺、清川寺などの社寺がある。

片柳村

大宮驛から約一里、縣道縦横に通じてバスの利便ある當村は、東新井、片柳外十大字から成る面積一〇・八七平方軒を有する地で、戸數約六百、人口四千餘、その多くは農業に就き、米、麥、蔬菜を産し、また大和薯の産地として特に名が高い。

役場が大字東新井にあり、中野農家組合の設けもある。

大久保村

荒川の流域を占めた當村は、川を隔てて入間郡に對し、大宮驛より約一里十五

町、縣道通じ船運の便もある。
大字五關の外に七大字に分れ、面積一〇・五平方軒、戸數六百餘、人口四千弱を有し、米、麥を産し、また蠶業極めて旺んである。
役場を大字五關に置く。

馬宮村

本村は荒川流域に在つて、川を距て、人間郡に對峙し、村の北端を川越大宮間の電車軌道通じ、且つ縣道あり、電車及びバスの便頗るよい。

大字西遊馬の外に五大字に分れ、面積八・五八平方軒、戸數五百餘、人口三千百餘あり、米、麥、繭を主として産出する。
役場を大字西遊馬に置いてある。

植水村

中野林、水判土、佐知川、飯田、三條

町、島根、植田谷本の舊七ヶ村の合併によつて、新たに生れた當村は、面積五・二六平方軒、戸數約五百、人口三千餘を占め、主として米を、次に麥、及び繭を産する。

役場を大字中野林に置き、大宮驛を距る約一里、村の中央を縣道左右に走つて交通便、バスの往復もまた頻繁である。

七里村

當村は膝子、風渡野、大谷、東門前、猿ヶ谷戸、新境、東宮下の七大字よりなるところから、今の村名が生れたもので大宮驛を距る約一里十町、縣道三線、村の中央に於て交叉し、バスの便がよい。
面積七・〇八平方軒、戸數約五百、人口約三千、農を主業となして米、麥、蔬菜を産出する。
役場は大字膝子にある。

春岡村

本村は上尾驛を距る約二十五町のとこ

郡の東南に在つて、綾瀬川を距て、南埼玉郡岩槻町に相對する本村は、東北本線連田驛へ約二十町、深作、丸ヶ崎、宮ヶ谷塔、小深作の大字に分れ、面積六・七四平方軒、戸數四百六十餘、その人口二千七百餘をかぞへ、米、麥、繭、蔬菜の外に下駄表を産する。
役場を大字深作に置く。

大谷村

當村は上尾驛を距る約十五町、東北上尾町に接し、鴨川を隔て、宮原村と相對する。大谷本郷外九大字からなり、面積七・一六平方軒、戸數四百五十餘、人口約三千を占め、米、麥、繭等の外に茶を産する。
役場は大字大谷本郷に置いてある。

大石村

ろに在つて、西南部は荒川を挟んで比企郡に對する。

村内に縣道通じ中分、小泉、石戸、領家畔吉、藤波、沖ノ上、小敷谷、中妻、辨財、井戸木の大字から成り、大字中分に役場を置く。

面積一二・二三平方軒、戸數七百五十戸餘、人口四千六百餘人で、麥の産額最も多く、米、繭をも産する。

上平村

當村は上尾、桶川の兩町の間にあつて、高崎線桶川驛を距る十八町、バスの便がある。

村は西門前外六大字からなり、その面積七・六七平方軒、戸數四百六十餘、人口三千餘、米、麥、繭を産する。
役場は大字西門前に置く。

小室村

本村は東北本線蓮田驛を距る約二十五町のとこにあつて、自動車の便頗るよい。面積九・三八平方軒、戸數約六百、人口三千七百餘、米、麥、繭、甘藷、梨を産し、また、箆筒、大島織などの工業もある。

村社氷川神社の外に寺院一六、天理教會一がある。なほ、小貝戸貝塚の遺跡もある。

小針村

當村は郡の東端に在つて、綾瀬川を距て、南埼玉郡に相對してある。高崎線桶川驛を距る約一里、縣道あり、交通に便する。

羽貫、大針、小針新宿、小針内宿の舊四ヶ村からなり、面積五・五七平方軒、戸數四百餘、人口約二千五百、米、麥、繭等を産する。
役場を大宿羽貫に置く。

加納村

本村は郡の東端に在り、綾瀬川を限界として南埼玉郡桶間村に對し、村の東端と南北に通ずる縣道がある。

大字は坂田、五丁臺、加納、篠津、倉田、小針領家、倉人新田から成り、面積八・二八平方軒、戸數五百五十餘、人口三千五百餘を占め、米、麥、繭を産す。
役場を大字坂田におく。

川田谷村

當村は桶川驛を距る約二十五町、荒川の東岸に在り、西は川を挟んで比企郡八ッ保村に對する。

面積一〇・四七平方軒、戸數六百七十餘、人口四千餘を有し、麥、繭を最たる産物となし、米これに次ぐ。
泉福寺は名刹、慈覺大師の草創にかゝり、阿彌陀如來坐像一軀は國寶に指定さ

れてゐる。

石戸村

荒川に沿ひ近世は宿場として榮え、上石戸、下石戸に分れてそれ／＼獨立の村をなしてゐるが、今は合して石戸村となつた。人口四千五百餘人を算し、農業が盛んである。戦國頃には城塞が築かれしことあり、太田三樂がこれによつてしばしば北條氏と争つた。

字堀の内にある石戸の蒲櫻は、馬琴の筆によつて有名になつたもので、天然記念物に指定されてゐる。幹は根本から四本に分れて、花は彼岸櫻に似る。

間室村

本村は鴻巣驛を隔つる約十八町、荒川の流域に在り、流れを挾んで比企郡東北兩吉見村に對峙す。

原馬室、瀧馬室の舊二ヶ村から成り、

役場を原馬室に置き、面積六・七九平方、五百七十餘の戸數と三千二百餘の人口とを有し、麥、蕎麥、清酒を産する。村社愛宕神社、同氷川神社、妙樂寺、常勝寺の社寺があり、また一里塚の名勝もある。

中丸村

當村は鴻巣、桶川の兩町間に挟まれ、鴻巣驛を距る約一里、國道と縣道とが通じ、またバスの便もある。

山中、北東宿、東間、宮内、深井、古市場、花ノ木、北中丸、常光別所の九大字からなり、面積九・〇七平方、戸數六百、人口約四千を算し、麥、米、蕎麥を主なる産物とする。役場を大字山中におく。

常光村

本村は下谷、上谷、西中曾根、常光の

舊四ヶ村合併によつて生れたもの、郡の東端に在つて、綾瀬川をへだて、北埼玉の兩郡に相對してゐる。面積五・三八平方、戸數三百六十餘、人口二千三百餘あり、米と麥と蕎麥を産する。役場を大字下谷におく。鴻巣驛へは約十八町。バスの便がある。

田間宮村

當村は鴻巣驛を距る約十八町、東は鴻巣町と箕田村とに接し、西は荒川の流水を挾んで比企郡北吉見村に對する。國道貫通し、バスあり、荒川の水運にも惠まれてゐる。

糠田、登戸、宮前、大門、北中野の大字からなり、面積五・六六平方、戸數四百餘、人口二千七百餘、米、麥、蕎麥を主産物とし、清酒の醸造もある。役場を大字糠田におく。産婆看護婦學校の設けがあり、源經基の墓址がある。

箕田村

本村は高崎線の沿線を占め、鴻巣驛を距る約一里のところを在つて、自動車の便に富んでゐる。箕田、八幡田、寺谷、川面、市繩、三ツ木、中井の大字からなり、役場を箕田に置く。

面積六・八二平方、戸數五百餘、人口三千餘を占め、農を生業となして、米、麥、蕎麥を産する。神社に箕田八幡宮がある。

小谷村

當村は郡の西北端に位し、荒川をへだて、比企郡北吉見村に對す。村の東端を高崎線走り、國道通じてバスの便もある。小谷外三大字に分れ、面積四・九七平方、戸數三百六十餘、人口二千三百餘を有して、米、麥、蕎麥を産する。役場を大字小谷におく。

工産の地

入間郡

北は比企郡に接し、東は北足立郡に隣り、南は東京府の北多摩郡及び西多摩郡と境を接し、西は秩父郡につらなる。

地勢西部は關東山脈に屬する丘陵が起伏するが、その他の地は平坦、高麗川、入間川が貫流して、郡の北境を流れる。越邊川を合せて、末は荒川に入る。入間川は源を秩父郡に發し、上流を名栗川といひ成木川を合せ、黒須に至り北向し、川越市の北に至り越邊川に合してゐる。

本郡は武蔵國の中央に位し、武蔵野の景觀を留むるところで、麥、茶、甘藷、織物、蠶糸等の産多く、産業上縣下有數の地である。

明治二十九年に舊入間郡に高麗郡及び比企郡の一部を合せて稱したもので、郡内に川越市を抱き、行政上、六町五十六

ヶ村に分れ、人口は二十三萬五千餘人である。

町村名は次の如し。

- 町 入間川、飯能、所澤、豊岡、越生、坂戸
- 村 入間、原市場、日東、入西、堀籠、富岡、大井、大田、大家、奥富、川角、金子、柏原、霞ヶ關、加治、芳野、田面澤、高階、高萩、鶴瀬、鶴ヶ島、名瀬、南畑、名栗、宗岡、植木、梅園、山田、山根、山口、柳瀬、松井、福原、藤澤、福岡、古谷、小手指、高麗川、高麗、吾妻、吾野、三芳、水谷、南古谷、三芳野、三ヶ島、宮寺、水富、南高麗、東金子、東吾野、毛呂、元狭山、元加治、精明、勝呂

所澤町

本町は東京山手線の池袋驛から武蔵野線で十分にして到着する。東京市の上水道の設けある狭山丘陵を西南に見て、こゝにはわが國最古の陸軍飛行場が置かれてゐる。

所澤織物の名は古くからこの町を世に紹介し、こゝでは瓦斯縮、上布、風呂敷地、夜具地等の産多く、木綿織物中の高級品として優秀な生産を上げてゐる。中にも、所澤緋はその起原も古く、西方の久留米緋と相對して東に於ける紺緋織物界の重鎮をなしてゐる。年産七百萬圓、織物同業組合があつて斯業の發展に努力してゐる。

豊岡町

郡のほぼ中央部に於て稍々南に偏し、北は入間川を隔て、水富村に境し、東は入間川町、東南は入間村、南は藤澤村、西は東金子村に接する。川越、所澤、青梅、八王子、坂戸、飯能への街道は町より發して四方に向ふ。川越市を去る三里半、入間川は北境にあり、霞川は町の中央を流れてこれに合す。茶、繭、織物の産あり、黒須、高倉、扇町屋、善藏新田の四大字に分れる。町の中心は扇町屋の

繁華を主とする。

入間川町

川越市の西南に位し、入間川の右岸に沿ふ小市街である。古は武蔵國多摩郡の國府から上野國への官道にあたり兼ねて鎌倉への要路であつた。元弘三年新田義貞が北條高時を鎌倉に攻めた時も、こゝで戦つた。人口八千二百有餘をかぞへ、小學校は高等科の併置ありて諸施設良好にして、學級二十四、學業成績は他の推稱す所である。

坂戸町

郡の北部に位し、北は越邊川を隔て、比企郡高根村に臨み、東は勝呂村、南は鶴島村、西は大家村及び高麗川を以て入西村に相對する。川越今宿街道と豊岡高坂街道とは町の中央に於て相交又し、また桶川への街道は町の稍々北部より東へ

走つてゐる。川越市を距る二里半。地勢東南部は高臺にして、林畑多く西北部は一帶に低地にして水田が多い。市街地ではあるが、養蠶も行はれ、農も盛んにして、米、瓜、繭、蘭蓆の産出が多い。

越生町

郡の西北部に位し、北は比企郡明覺、龜井、今宿の三村に境し、東は川角村、南は毛呂村及び山根村、西は梅園村に隣接する。川越より來る街道と飯能より來る街道とは町の南に於て合し、更に町の中央に至つて二つに岐れ、一は小川町に一は西方梅園村に至る。川越市を去るこゝと五里。地勢南北に山多く、中央越邊川の沿岸は平である。

町は附近數村の交易地にて、住民は蠶を以て主なる生業とし、故に絹、生糸の産多く、越生絹の名は夙に廣く著はれてゐる。また遊園扇の産も尠ならず、世に知られてゐる。

飯能町

本町へは武蔵野鐵道によつて東京山手線池袋驛から連絡があるが、昔は秩父盆地の大宮から江戸に出る捷路にあたり、宿驛として賑はつたものである。今ではこの地方の養蠶の中心をなし、生絹織物飯能銘仙の産地として世に知られ、秩父銘仙と共に、埼玉絹織物界の双璧をなしてゐる。

驛の西北方約一キロに當つて天覽山がある。この山はもと羅漢山と呼ばれてゐたが、明治天皇が特別大演習をこの地に於いて御統監遊ばされてから天覽山と名を改めた。眺望頗るよく、中腹にはお駒繋ぎの松及び御手植の松等がある。

芳野村

郡の東北部に位して、北は入間川を隔て、比企郡に對し東は古川によりて植木

村に境し、南は古谷村、西は川越市及び山田村に連り、川越上尾街道の通路にあたる。村内一面の水田にして、村の南方に伊佐沼あり、周圍里餘、その一半は古谷村に入る。産業は殆ど農を主とし、米の産額が非常に多い。別に副業として僅かに漁業等を行ふものあり、川魚は大抵川越市に鬻がれる。近時養蠶の業に従ふ者もまた尠くない。

植木村

郡の東北隅に當り、川越市を去る一里ばかり、その四周を繞らすに河流を以てし、荒川東にあり、入間川は北にある。

地勢低平にして水田比較的少く、陸田が甚だ多い。また池沼少からず屏風沼、淵ノ上、淵ノ下等あるも水利を缺く。

川越上尾街道は村内を走り、北は比企郡出丸村に、東は北足立郡平方村に、西南は郡内芳野古谷兩村に連る。物産は麥、米、豆等にして、戸數に於て郡中の小村

である。

古谷村

郡の東北部の一村にして川越市の東につらなり、東は北足立郡に接し、北は植木、芳野二村に境し、南は南古谷村に隣する。荒川は東部を流れ、伊佐沼及び九十川は西境にあり、古川は北境にある。土地低平、水田相望み用水は伊佐沼より引く。但し荒川以東は土地稍々高く、陸田若くは雜草地が多い。物産は米を主とし、麥これに次ぐ。伊佐沼及び荒川よりは魚類を漁り得る。川越大宮街道は村内を横斷し、電車もこの道に沿うて走つてゐる。

南古谷村

郡の東隅に位し、東は荒川を以て北足立郡に境し北は古谷村、南は南畑村及び福岡村、西は高階村に隣接する。川越市

を去る一里餘、川越志木街道及び大宮所澤街道は村内に於て交叉する。

地勢一面の平地にして、九十川は村の西部を流れて西南境に不老川と會し、新河岸川となりて高階、福岡二村の境界をなす。地味肥沃にして水田多く、米麥の産あり、また若干の川魚を出す。

福岡村

郡の東部に位し、川越市の東南一里半のところであり、北及び東は新河岸川を以て南古谷村及び南畑村に對し、南は鶴瀬村、西は大井、高階の二村に接壤する。大宮所澤間の街道は東北より斜に村内を走つてゐる。新河岸川は南古谷村より來て平野の間を屈曲緩流し沿岸は低濕にして水田多く、村の西半は高臺にして畑地が多い。米、麥、甘藷等の産あり、また若干の川魚を出す。大字は福島、中福島、福岡新田、駒林、川崎の五つに分れてある。

高階村

川越市の南一里餘のところ位し、東は南古谷村及び福岡村に隣り、南は大井村、西は福原村に連る。川越東京街道は村内を貫き、新河岸街道これより分岐する。その他新河岸、箱根ヶ崎、入間川、青梅、志木、所澤の各街道がある。不老川北境を流れ、東境の新河岸川には新河岸、寺尾河岸等の船着場があり、水運の利甚大である。一般に農業が行はれるが東京街道に沿うて商家軒を並べ、機業も行はれ、麥、甘藷その他野菜類の産に富み蠶絲、織物も多い。

大井村

郡の東部に位し、川越市を去る二里、北に高階村、東に福岡、鶴瀬の二村あり、南は三芳村、西は福岡村に接壤する。川越東京街道、大宮所澤街道は村内に於て

鶴瀬村

相交はる。土地概して高燥なれども、東方には往々窪地ありて、福岡鶴瀬地方の低地と相通する。籐、甘藷、瓜類、麥類の産あり、織物業及び養蠶業も近來頗に盛大である。殊に土地の名物たる籐の製造は文化文政の頃に始まり、大井等の名は縣外にまで知られてゐる。

南畑村

郡の東南部に位し、川越市を去る三里北は福岡村に、東は南畑村に、南は水谷村に、西は三芳村及び大井村に隣接し、大井村との境界は互に交錯突入し、複雑を極める。大井志木街道、南畑所澤街道は村内に於て交叉する。

郡の東南部に位し、川越市を去ること約三里、東は荒川を以て、北足立郡に境し、西は新河岸川を以て福岡、鶴瀬、水谷の三村に對し、北は南古谷村、南は宗岡村に連る。その地域狹長、兩河東西より壓するの感がある。

地勢平坦にして水田甚だ多く、川越志木街道は村内を縦貫し、別に南畑所澤街道、南畑大宮街道はこの地より起る。土地肥沃、米の産出を大宗とし、麥これに次ぐ。水害の恐れ大なるを以てその堤防工事は世に著名である。

水谷村

郡の東南隅に位し川越市を去る四里、郡内の小村で、北は鶴瀬村、東は南畑、宗岡の二村、西は三芳村、南は北足立郡志木町に接壤する。柳瀬川南境を流れ、新河岸川は東境にあり、兩河の畔は土地低く水田多けれども、村の大半は高臺にして麥畝である。近來は養蠶業やうやく

盛んにして、米、麥、豆のほか、生絲織物の産がある。大字は水子、針ヶ谷の二である。

宗岡村

南畑村の東南に連り、川越市を去る四里、荒川東を流れ、新河岸川及び柳瀬川は西を流れる。東及び南はすべて北足立郡に包まれ、西に水谷村がある。土地低平、水田に富む。米、麥及び織物の産あり。東西十八町、南北一里、川越志木街道は北より來つて志木浦和街道と連絡する。交通は志木若しくは浦和に出づるを以て便とする。古蹟に伊呂波樋があり、神社寺院も頗る多い。

三芳村

郡の東南隅にありて、川越市を去る西南二里の地に位し、北は大井村、東は鶴瀬、水谷の二村、南は北足立郡大和田町

西は富岡、福原の兩村に連接する。川越東京街道は村の中央より稍々東部を縦貫し、南畑所澤街道は東西に走つてこれと交叉する。村の東境に柳瀬川あり、その沿岸に水田開けるほかは概して高燥である。農を以て主要なる生業となし、甘藷麥、その他の榮穀、製茶を以て重要産物とする。

柳瀬村

郡の東南隅に位し、西は松井村及び富岡村に接し、北は三芳村に隣り、東は北足立郡大和田町にして、南は東京府北多摩郡清瀬村である。縣道大和田所澤線に沿ひ東西一里五町、南北一里内外あり、坂之下、城、本郷、龜ヶ谷、日比田、南永井の六大字より成る。柳瀬川は村の南境をかぎり、支流谷戸川が村内を流れる。この沿岸を除いては、他は大抵高燥、麥圃菜園相連り、麥、甘藷、米、瓜類、豆類の産多く、製茶、繭、織物、醸造等も

渺くない。

松井村

所澤町の東に隣接し、北は富岡村、東は柳瀬村に接し、西南は吾妻村、南は柳瀬川を隔て、東京府北多摩郡と境する。大和田所澤街道は村内を貫き、川越鐵道は西境を去る。土地概して高燥にして畔地及び雑木林多く、柳瀬川沿岸狭長の地域に僅に水田を見る。甘藷、茶、麥、生糸の産あり、また蠶の製造盛にして安松窟の名は昔から知られる。所澤陸軍飛行場の地は大部分本村内にかゝる。

富岡村

所澤町の北に連り、小手指、三ヶ島、入間、堀兼、福原、三芳、柳瀬、松井の諸村がその東北西を圍繞する。土地概ね高燥平坦、丘陵なく、水流もない。たゞ一時の雨水を通すべき溝渠三ヶ島より來

り村の中央以東に至つて消えてゐる。畑地多く森林これに次ぎ、麥、茶、甘藷を以て主なる物産とする。川越鐵道は村の西北部を通過し、川越所澤街道、豊岡所澤街道、大宮所澤街道は何れも村内を通過つて所澤町に向ふ。

山口村

郡内南隅の一村にして、北は三ヶ島、小手指の二村、東は吾妻村、南は東京府北多摩郡、西は宮寺村に接して、東西に甚だ長く、南北短く、所澤五日市街道は村内を走つてゐる。地勢北西南はすべて丘陵に包まれ、東の一方が平地である。丘間狭長、邑居開け、田園がづらなる。而して柳瀬川は、その丘間を西より東に流れる。農業、林業、工業等行はれ、織物、餅、麥、柿を主産物とする。往古は武藏七黨の内の村山黨の一族たる山口氏の居住地にて、村名はこれに因りしものである。

吾妻村

郡の最南端に位する一村にして、北は小手指村及び所澤町、東は松井村、南は東京府北多摩、西は山口村に隣接する。所澤田無間の縣道は村内を走る。狭山の丘陵は南方に連り、柳瀬川はその北を流れてゐる。河の沿岸低くして水田あり、その北はまた高台にして畑地が多い。丘陵には雑木林がある。餅、織物、茶、甘藷等の産あるが、土地狭く、殖産に限りがある。古くは鎌倉街道の要衝に當り、開創すでに久しく、古戦場でもある。

小手指村

郡の南部に位し、北は富岡村、東は所澤町、南は吾妻村及び山口村、西は三ヶ島村に隣接する。所澤豊岡街道、所澤青梅街道、所澤五日市街道は總て村内を通り、川越鐵道もまた東北部を通過する。

宮寺村

地勢南境に丘陵あり、長者峰を主峯とする。その他は一圓高平の原野である。小流二條あり、谷戸川は三ヶ島より來て所澤に去り、砂利川は富岡村に入る。畑地多く、森林もあり、餅、茶、甘藷を主産物とする。

三ヶ島村

郡内南部の一村にして、北は入間、藤澤二村、東は富岡、小手指兩村、南は山口村、西は宮寺村に接する。

縣道所澤青梅線及び、豊岡所澤線は村内を走り、車馬の往來頻繁である。地勢南境に丘陵を控へ、村は北東に向つて漸次下向してゐるが、概して高平の原地である。林川は宮寺より來り藤澤に出で、また谷戸川は源を本村に發し東流してをる。

茶、繭、織物を主要物産とする。下田に古戦場あり、林には新田義宗陣地址がある。

元狭山村

所澤町の西二里、豊岡町の南一里半ばかりのところあり、北は東金子村、東は藤澤、三ヶ島、山の三村、南は東京府北多摩郡、西は元狭山村に境し、地形はほ長方形をなし、南北甚だ長く、東西は短い。狭山の丘陵は村の南部に連り、柳瀬川の一支流は丘の南より發し山口村に向つて流れる。製茶、織物、養蠶の業盛んにしてそれ／＼産出するところ尠ならず、農産は麥を以て最とする。神社寺院及び舊蹟等多い。

郡内最南端の一村にして、北は東金子村、東は宮寺村、南は東京府北多摩郡、西は金子村の地に隣接する。豊岡八王子街道、所澤青梅街道、新河岸狭山街道等は村内を縦横に走り交通頗る便利である。

金子村

村の南境には丘陵ありて高根山そびえ、その他は概して高平の原地であるが、西方は東方に比して稍々高い。不老川は南境の丘陵より發して東北に流れる。養蠶業が盛大にして、茶、綿布、絹糸の産も多い。

東金子村

縣の南部に位する一村にして、北は加治、元加治の二村、東は東金子村、南は元狭山村、西は東京府に接する。豊岡青梅街道の通路に當り、南にはその舊道もある。川越市を去る五里、北は阿須山一帶の丘陵、南は高平の畑地にして中央に桂川が流れてゐる。製茶、養蠶の業が甚だ隆昌である。往古の金子郷の地で廻國雜記に「里人のやせといふ名やほりかねの井に水なきを佗てすむらん」とあるは當地のことであるといふ。

郡の中央より南部に當り、北は水富村、東は豊岡町、東南は藤澤、宮寺の二村、西南は元狭山村、西は金子村、西北は元加治村の地に接し、豊岡青梅街道の沿線にして、南隅には豊岡八王寺街道も走つてゐる。入間川は北境の一部を流れ、霞川は青梅街道に沿うて流れる。阿須山の餘脈は村の西及び北に連り、愛宕山、乗鞍山、源氏峰等がある。産業は茶業、養蠶業、機織等が盛大で、農産は米を最とし、甘藷、豆類がこれに次ぐ。

藤澤村

豊岡町の東南、入間川の西南に接壤して、南は三ヶ島村、西は宮寺、金子二村に接する。郡内小村の一にして、不老川及びこれに並行する逃水川は西南より東北に向つて村内を貫く。人家の存するところは細流の附近で、土地稍々低い。所澤豊岡街道。入間元狭山街道は村内で交叉し、土質は腐植土を主とし、畑地、雑

木林が多い。産物は茶及び織物を主とする。村の西部は入間野と稱し、建久四年源頼朝が追鳥狩を行つたところである。

入間村

入間川町の東南、豊岡町の東に接続して、東北は堀兼村、南は三ヶ島村、西南は藤澤村に接する。新河岸二本木街道及び豊岡八王子街道村内を通る。土地概して高燥若干の高低あり、不老川は藤澤村より來り、同じく藤澤村より來る逃水川を併せて東北し堀兼村に入る。畑地及び雑木林が多い。農の外、機織、製茶の業大に行はれる。古來歌に詠まれ詩に賦せられし堀兼井、逃水、月見野等の名所が尠くない。

堀兼村

郡の中央部に位する一村にして、福原村の西、富岡、入間二村の北、入間川町

の東、奥富、日東兩村の南に位置する。川越市を去る三里、縣道は福原村より來て二つに岐れ、一は豊岡町に、一は入間村に入る。川越鐵道は村の西北部を通過する。土地些少の高低あるの外、概して高燥平坦にして、畑地及び森林が多い。野菜類、果實類、甘藷の栽培が盛んである。大字堀兼井は千載集、俊頼集、山家集等に詠まれた名所である。

福原村

川越市の西南大凡一里半のところにて、東は高階、大井の二村、南は三芳、富岡の兩村、西は堀兼、日東の諸村に接し、些少の高低あるほか土地概して平坦。川越所澤街道、新河岸入間川街道、新河岸狭山街道は村内に於て相交り、不老川は堀兼より來り、同じく堀兼より來る窪ノ川と、東境に於て合流する。水田無く、畑地及び森林が多い。麥、茶、豆、甘藷等を主産物とし、野菜類も豊富に産

し、養蠶も盛んである。

奥富村

郡の中央に位し、東は日東、堀兼の二村、南は入間川町に接し、西は入間川を隔て、柏原村に對し、北は少しく入間川の彼岸に地域を有し霞ヶ關村と隣する。川越市を去ること西南二里、川越鐵道と川越八王子街道は並行して村の東南部を走つてゐる。東南は土地高燥にして畑地多く、西北は低地にして水田を主とする。赤間川は入間川町より來りて、東北に流れる。養蠶、機織等近來盛んにして米穀に次ぐ産額を示してゐる。

日東村

郡の中央に位し、川越市を去ること西南へ一里半、東は大田村に接し、東南に福原村あり南は堀兼村、西は奥富村に連り、北は入間川を隔て、霞ヶ關村に對す

る。地勢南東の一半は高燥にして畑地あり、西北の一半は低地にて水田が多い。土質高燥は輕鬆質粘土で、米、麥、甘藷蔬菜に適し、低地は砂質壤土及び粘土質壤土で、水田は稻、陸田は桑、茶、果樹等によろしい。米麥のほか梨の特産がある。村の大きさ東西二十一町、南北十六町である。

大田村

川越市の西南端に接し、北は田面澤村、東南は福原村、南は堀兼村、西南は日東村に連り、西北は入間川を隔て、霞ヶ關村に對する。川越入間川街道は東北より西南に村内を貫き、川越鐵道は南大塚驛を設置する。土地東南の一半は高燥にして陸田若しくは森林多く、西北部は低地にして水田連り、小池が多い。全村農を主とし、米麥の産がある。池邊、豊田、豊田新田、大塚、大塚新田の五大字に分たれる。

田面澤村

川越市の西に連り、北は山田村、南は大田村、西は入間川を隔て、名細村及び霞ヶ關村に接する。郡内の小村にして、川越高麗街道、川越入間川街道が村内を通過する。土地は東南少しく高燥に及ぶと雖も、村の殆ど全体は低濕なる水田地にして、地味肥えてゐる。赤間川は大田村より來り川越市に去る。産業は農を主とし、米麥の産あり、往々養魚養蠶等に從ふ者もある。今成、小室、小ヶ谷、野田、野田新田の五大字に分れる。

山田村

郡の東北部の一村にして、入間川を隔て、北は比企郡伊草村に、西は名細村に對し、東は芳野村、南は川越市及び田面澤村に連る。川越松山街道、川越桶川街道、川越小川街道、川越越生街道はいづ

れも村内を走つてゐる。土地平坦にして水田多く、入間川より数條の用水を引く養蠶、養鶏等頻りに行はれ、米、麥、大豆、繭糸等の産がある。上寺山、寺山、山田、福田、府川、石田の六大字より成つてゐる。

三芳野村

郡の北部に位し、西北は勝呂村、西は鶴ヶ島、名細の二村に接し、東北は越邊川を隔て、比企郡に境する。川越高坂街道は南部を通り、川越まで僅かに一里半である。東北の一半は低地で、越邊川に沿ふて水田よく拓け西南の一半は高臺で殆ど森林または畑である。小畔川は東境を、飯盛川は北部を流れて共に越邊川に注ぐ。米、麥、豆の産あり、小畔川には妖怪の説話が傳へられる。

勝呂村

一族が土着して在名を名乗つたもの、古い時代から開拓されたところである。大字苦林は越邊川の右岸にあり、善能寺に接してゐる。また大字西戸は越邊川の北岸にありて、昔は道祖土と書いた。箕輪田は西戸の西に並んでゐる。

毛呂村

川角村の西に隣り、桂木山に展開する村落である。法恩寺録に、應永三十三年越生山城次郎入道宏秀の門族、忠秀が毛呂郷のうち四至を限りて曇秀律師に寄附せしことが見えてゐる。また東鑑には毛呂豊後守季光云々の記事があるところより見れば、本村は相當古くから開けた土地であることがわかる。住民は主として農耕を以て生業となし、従つて重要産物は農産品である。

山根村

郡の最北端に位して、北は越邊川を隔て、比企郡に對し、東は三芳野村に連りて、南は鶴ヶ島村に、西は坂戸町に隣する。

川越市を去る西北へ二里、同市から高坂へ行く街道と桶川坂戸街道は本村内で交錯する。南部は概して高く、北部は一般に低濕である。川は越邊川のほか飯盛川があり、合して三芳野村に入る。米、麥の産多く、養蠶も行はれる。住吉神社、勝呂神社、光勝寺址等がある。

入西村

本村は北淺羽、長岡、新堀、金田等の諸字より成り、坂戸町の西、高麗川と越邊川の中間にあり、新堀、善應寺、澤木竹内、小山等は、皆永祿役帳に載する村名である。道路發達して交通の便よく、産業また隆盛を極め、農業を以て第一とする。村内自治園滑に行はれ、教育の實また大いに見るべきものあり、住民は概して勤勉質實の美風を有し、堅忍持久の

精神に富む。生活改善の勵行等は他の範となるものがある。

大家村

森戸、四日市場、萱方、成願寺、厚川等の部落を合して成り、坂戸町の西南に隣り、高麗川は村内を流れて灌漑の便頗る良好であり、村民は農を以て生業となしてゐる。

大字森戸には熊野神社あり、往古はさやかながら宿驛として榮えたところがある。萱方には成友の城跡と稱する古戰場あり、四日市場は古く月毎に四の日を以て市を立てた商業地である。

川角村

苦林、川角、大類、西戸、箕和田等の部落合して成り、坂戸町の西一里半、越邊川の南北に渉る村里である。大字大類は兒玉黨の人なる大類行綱の

共に成績良好である。

名細村

川越市の東方一里のところ位し、東は入間川を以て田面澤、山田二村に境して他は三芳野、鶴ヶ島、霞ヶ關の諸村に續いてゐる。小畔川は西南から東北へ流れて灌漑に便し土地は西高東低である。米麥のほか織物、生繭の産あり、柿を特産とする。川越、坂戸、越生へはそれぞれ街道通じて自動車走らせる。大竹氏屋敷址、稚兒ヶ淵、京塚、西光寺趾等の名勝舊跡がある。

鶴ヶ島村

川越市を去る事三里弱、郡の中央より稍々北部に位し北は坂戸町及び勝呂村に東は三芳野、名細二村に、南は霞ヶ關、高萩の兩村に、西は高麗川村及び大家村に接壤する。川越越生街道と豊岡坂戸街

大谷木、瀧之入、宿谷、葛貫、阿諏訪等の大字より成り、毛呂村の西にして、高麗村日和田山の北方にあたる。山谷分裂して形状模し難し、大字瀧之入にある桂木山は、登り十五町餘、行基菩薩が東國巡錫の時、和州葛城山を擬して、この山を桂木山と名づけたといふ。大字阿諏訪には宿谷瀧があり、勝地として廣く知られる。大字葛貫は往昔葛貫大膳亮が居住せしところと傳へられる。

梅園村

津久根、龍谷、大瀧、黒山の諸大字より成り、越生町の西につらなり、全く越邊川の水源なる山谷に居る。北に堂山ありて比企郡と界す。大字龍谷にある龍隠寺は、曹洞宗の名刹にして、殊に近世は江戸幕府の旨を奉じて、一派の大僧録所となつたので、非常に著名であつた。住民は農を以て生業とし、林業及び養蠶も行はれる。小學校、青年團、軍人分會は

道とは村内に於て交叉する。土地概して高臺、たゞ小流の走るところわづかに低濕である。山林の樹木は伐りて薪炭とすべく、また製茶、織物の業も盛んである

高萩村

川越市を去る三里、郡のや、中央部に於て少しく西寄り位し、北は鶴ヶ島村に、東は霞ヶ關、柏原の二村に接し、南に水富、精明の兩村あり、西は高麗川村に連る。地形南北に長く東西に短く、郡内大村の一である。川越高麗街道、豊岡坂戸街道は村内に於て交錯する。南部に小さな丘陵あり、若干の高低あるが北部一帯は高平の原野である。雜木林多くして薪炭を出し、また製茶、織物の業も頻りに行はれる。

山根二村を北にし、高萩村を東にし、南に精明村への往還がある。木材、木炭、繭を以て主要物とする。

高麗村

郡の西部にあたり、飯能町を南にし、東吾野村を西にし、山根村を西北に控へて東及び北には高麗川村がある。川越市を去る五里。高麗川は村のほとり中央を曲折迂餘し、二十餘の小流北及び南より流れて悉くこれに注ぐ。日和田、物見、高須、山王峠の諸山あり、南に梅原峠、高根澤山等あり、土地概して高峻だが、東部には平地が見られる。山地多きを以て薪炭の産多く、養蠶も行はれ、柿、栗、香魚等もとれる。

高麗村東にあり、南は飯能町及び原市場村と接してゐる。南と北に丘陵を控へ、吾野川はその間を縫つてゐる。森林多く溪流また少なからず、長澤川、虎秀川はその稍々大なるものである。畑は河畔の低地にある。秩父街道は吾野川に沿うて走り、飯能吾野間に自動車あり、西は高麗村につゞく。川越市を去る四里餘。川越高麗街道と飯能越生街道に沿ひ交通の便悪くない。西北部は丘陵甚だ迫り、富士山系の諸山岳あり、高麗川はその東を流れて大家村に出る。支流に宿谷川がある。織物、米、薪炭、茶の産が多い。陣屋跡、旗塚の舊趾がある。

霞ヶ關村

川越市の西南約二里のところ位し、北は名畑村、西は鶴ヶ島、高萩兩村、南は柏原村に連り、東は入間川を隔て、田面澤、大田、日東の三村に相對する、中央に小畔川流れる。入間、小畔兩河の沿

高麗川村

郡の中央より稍々西部に位し、大家、

里、北に梅園村あり山根村東北につゞき

東吾野村

郡の西部に位し、川越市を去ること七里、北に梅園村あり山根村東北につゞき

岸は低地で水田があるがその他は概して高く畑地または林地である。西南林中に能登池あり、幽邃森閑たる勝地である。川越高麗街道は村の中央を走り、自動車の往來がある。織物、薪炭は本村の重要物産である。

柏原村

郡の中央部に位して、東は入間川を隔て、奥富村に對し、北西南は霞ヶ關、高萩、水富の諸村に連り東南の一角わづかに入間川町に接壤する。村の西北部は高臺にして、東南部は低地である。高臺には林畑多く低地は水田に富む。入間川町より毛呂村に赴く街道は村内を貫く。米製茶、織物等を産し、柿は本村の特産である。南北朝時代には鎌倉街道の要地に於て水富村境に所謂霞ヶ關の趾がある。

水富村

郡の稍々西南部に位し、北は精明村、東は水富村、南は東金子村及び金子村、西は加治村に連る。村の南に阿須の丘陵あり、北部に高臺を有し、中央は入間川の流域である。畑地多く山林も乏しからずたゞ水田が少い。織物業、養蠶業が盛んで、農業以上の觀あり、従つて織物、生

元加治村

郡の中央に位する一村にして、東は入間川を隔て、入間川町と隣りし、北は柏原、高萩の二村、西は精明、元加治の兩村、南は入間川を以て豊岡町及び東金子村と境する。川越市を去る四里である。村の西北部は高臺で、東南入間川に沿ふ地方は低地である。入間川は村の南及び東を圍繞し、河床高くして地盤比較的低下が故に堤防を設け、また水流の利用が盛んに行はれる。水富村の名は偶然ではないのである。米、麥、繭、斜子織、木綿織物、醬油、砂利、鮎の産がある。

加治村

郡の西南隅にあり、飯能町、精明村を北にし元加治村を東にし、南高麗村を西にして、南は金子村及び東京府の地に境する。名栗川は西北より、成木川は西南より來り、村の中央に於て合して入間川となり東流する。西部及び南部は一帯に丘陵連り高尾根山、琴平山、秣場山がある。中央及び東部は低地で水田が擴がる。斜子織、茶、麥の産多く、入間川飯能街道は北境を走つてゐる。

精明村

郡の中央より稍々西南に位し、北は高麗、高麗川、高萩の三村、東は水富村、

南は元加治、加治の二村、西は飯能町に接する。入間川飯能街道は南境を走り、飯能越生街道は西部を通過する。川越市を去る五里。地勢西北部は丘陵で、中央小畔川の沿岸に帯の如くに水田がある。その他は村内一圓高平にして畑地または森林で掩はれる。製茶、織物の業が隆盛である。

原市場村

郡の西南隅に位し、北は東吾野村、東は飯能町、東南は南高麗村、南は東京府西多摩郡、西は秩父郡の地に隣接する。飯能名栗街道は村内を走り、車馬の便がある。秩父山脈は西より来て村の南西北を圍み、河流には名栗川、中藤川等がある。産業は農業を主とするも林業、養蠶等も行はれ、木材、木炭及び繭を主要物産としてゐる。正保の頃までは中藤、赤澤、原市場の三つを合して、日影村と呼ばれてゐた。

南高麗村

郡の西南隅に位し、北は原市場村及び飯能町に、東は加治村に、南は東京府西多摩郡成木村他二ヶ村に接す。東西に甚だ長く、南北に狭い。飯能青梅街道は村内を通り、交通の便益頗る多大である。西南北の三面は秩父山系の餘脈にて圍まれるため土地の高低甚だしく、平坦な所は稀で、西部は殊に一千尺以上に及んでゐる。しかし下畑より飯能への道路は四十餘間の隧道を以て急坂を除きため車馬の往來に不便はない。岩井堂の奇景あり、主産物は木材とす。

名栗村

當村は古くから栗の名産地、狩獵地として知られ、田邊山脈に圍まれた盆地で東は原市場村、西は秩父郡浦山村、北は吾野村、南は山脈を隔て、東京府西多摩

郡大丹波村に隣接する。

面積五八・七三平方軒、戸數約七百、人口三千五百餘、村民は農を以て生業となしてゐる。上、下名栗の二大字から成り、村社星宿神社、正覺寺、柏林寺、楞嚴寺、圓正寺、醫王寺等の社寺が村内にある。

吾野村

古くは、東吾野村と共に吾那郷と稱した。高麗川の水源をなして坂石、坂元、南川、北川等の諸部落を合せて成る山中の村である。

いつの頃よりか秩父郡に屬したが、後入間郡に移り今日に至つた。名栗村の北にして、飯能町を去ること三里、更に一里半正丸峠を以て分水嶺とする。峠を下り四里にして大宮郷に達する。産業は、山村なれば林業頗る盛んにして薪炭の産多く、また農業も、相當盛んに行はれてゐる。

農産首位の

比企郡

當比企郡は東は北足立郡、西は秩父郡南は入間郡、北は大里郡に接壤し、都幾川、市野川の二流域の山野を元として荒川並に越邊川に至る地を占めてゐる。その面積三二八・二九平方軒に跨り、これに擁する町村は二ヶ町、二十六ヶ村をかねてゐる。

産業の上から見た本郡は、何といつても農業を首位に、工業これに次ぎ、その他の統計を示してゐる。

古くは横見郡と入間郡との間の狭地を比企郡と稱したもので、中世の頃には豪族比企氏ここに臨み、後、南方、北方に分れ、また上比企、下比企と稱したとも傳へられる。明治二十九年本郡に横見郡（植木村は入間郡に編入さる）を併合して、今日に及んでゐる。次に町村名を擧げる。

町 松山、小川

村 大岡、福田、宮前、唐子、菅谷、七郷、八和田、竹澤、大河、平、明覺、玉川、亀井、今宿、高坂、野本、中山、伊草、三保谷、出丸、八ッ保、小見野、東吉見、南吉見、西吉見、北吉見

松山町

七百年前の昔を偲ばせる名勝舊蹟に富んだ本町は、鎌倉時代武蔵武士が鎌倉への往還に必ず通つたといふことから、當時既に繁昌を見せたに違ひない。松山、野田、市ノ川、東平の四大字から成り、面積一二・四六平方軒、戸數二千餘、人口一萬餘を有し、古くから商況の活潑な町で、米その他雜穀の集散多く、米、麥、繭、清酒、建具、雨傘等を産し、また銅器の特産がある。

役場を大字松山に置き東武鐵道東上線松山驛あり、その他區裁判所出張所、警察署、稅務署、郵便局、蠶業取締支所、縣立中學、松山實科高女、銀行、會社な

どがある。

縣社箭弓神社、岩殿觀音、松山城址、近くには有名な吉見の百穴等、名勝舊蹟に乏しくない。

小川町

當町は郡の西部に在つて、秩父連山の支脈、淺間山、錦勝山など四邊に起伏し都幾川の碧流、町の南方に四時涼々たる響きを絶たない。謂はゆる山紫水明の地である。

大塚、小川、角山、下里の舊四ヶ村から成りその面積は一〇・八四平方軒、戸數一千六百餘、人口約八千を占めて製紙絹織物の業が極めて旺盛である。建具、蠶種原紙、清酒、醬油、製麵、製材、鹽せんべい等を産する。

役場を大字大塚に置き、區裁判所出張所、警察署、郵便局等縣立高等女學校、工場、銀行、會社、東武鐵道東上線小川驛、があり、縣道左右に馳せて交通甚だ

便である。
村社八幡神社、外三社、東昌寺、大梅寺、外に四寺あり、僧仙覺の遺跡、また守邦親王御墓もある。

大岡村

本村は松山驛を距る約一里、郡の北部に在り熊谷市に通ずる縣道の便がある。岡郷、大谷の二大字に分れ、面積一〇・五八平方秆、戸數四百餘、人口二千五百餘、米、麥、蕎麥を主産物とする。役場を大字岡郷に置く。

福田村

福田、和泉、山田、土鹽、菅田の五大字から成る當村は松山驛を隔てる約一里半、縣道もある。面積一四・四八平方秆、戸數五百七十餘、人口三千五百餘を有し、米、麥、蕎麥を産する。

役場は大字福田に在り、泉福寺の名刹もあり、木像阿彌陀如來の坐像は國寶に指定されてゐる。

宮前村

本村は松山驛を距る約一里のところ、在り、中尾、羽尾、水房、伊古、月輪の五大字に分れ、一四・四五平方秆の面積を有し戸數六百餘、人口約四千を擁してゐる。主産物としては米、麥、蕎麥をかぞへる。役場を大字中尾に置き、伊古乃速御玉姫神社がある。

唐子村

柿の産地で知られる當村は、松山驛を距る約三十町、下唐子、上唐子、葛袋、神戸、石橋の舊五ヶ村の合併から成り、面積一五・〇一平方秆、戸數七百餘、人口四千二百餘をかぞへ、米、麥、蕎麥を産する。

菅谷村

本村は菅谷、平澤、志賀、千平堂、大藏、鎌形、根岸、將軍澤、遠山の九大字に分れ、その面積一五・九二平方秆、戸數七百餘、人口は四餘、米、麥、蕎麥を主産物とする。東武鐵道東上線菅谷驛あり、役場を大字菅谷に置く。高山重忠の菅谷館址及び、帶刀義賢の墓もある。

七郷村

當村は南は菅谷村、北は大里郡に接して菅谷驛より約半里、小川町へは一里餘で達する。自動車の便がある。吉田、太郎丸、杉山、廣野、越畑、勝田、古里の七部落に分れてゐるが、村名

もこゝから起つてゐる。面積一四・一一平方秆、戸數五百八十餘、人口三千五百餘を占め、米、麥、蕎麥を多く産する。役場を大字吉田に置く。

八和田村

本村は上横田外七大字から成り、郡の西北部に位し、大里郡男衾村に接する。面積一三・二〇平方秆、戸數六百餘、人口三千七百餘を有し、米、麥、蕎麥、木炭を主として産出する。小川驛を距る一里七町、自動車の便があり、役場を大字上横田に置く。村社八和田神社、四津山神社などがある。

竹澤村

當村は小川驛を距る約二十五町、郡の西端部に位し、大里郡折原村外二ヶ村に接する。木部、原川、笠原、靱負、勝呂、木呂子の大字に分れ、面積一一・五

五平方秆、戸數四百餘、人口二千五百、麥と蕎麥とを産し、また除蟲菊製劑も旺んであり、各種加工紙、紙張、蠶具をも出してゐる。役場を大字木部に置き、竹澤水養業組合の設けがある。

大河村

本村は郡の西端部に在つて、地勢は概ね丘陵山岳を以て充たされてゐる。大字腰越、上古寺、下古寺、青山、増尾、飯田から成り、面積二三・七二平方秆、戸數一千餘、人口約六千を有し、米、麥、蕎麥、林産を出し、また建具の製造も盛大である。小川驛へは約十町、役場を大字腰越に置く。

平村

郡の最南端に在つて、西南は秩父、入

間の兩郡に隣りしてゐる當村は、小川驛に約二里、自動車の便があり、西平、渡野、雲河原の三大字に分れ、役場を大字西平に置く。面積一四・〇二平方秆、戸數四百餘、人口二千三百餘を占め、麥と蕎麥とを主なる産物とする。名刹慈光寺が世に聞えてゐる。

明覺村

本村は郡の西南端に位置し、松山驛を距る約三里半、また小川驛へは約一里半あり、共に自動車の便がある。桃ノ木の外に八大字あり、面積九・〇九平方秆を占め、五百餘の戸數に、三千餘の人口を擁してゐる。米、麥、蕎麥を産出する。役場を大字桃ノ木に置く。

玉川村

當村は郡の西南部に在つて明覺、平、大河の三村に接続する。玉川、日影、五明、田黒の四大字から成り、面積一四・六一平方軒、戸數約六百、人口約四千を有し、米、麥、蕎麥を主として産する。役場を大字玉川に置き、郵便局がある。松山驛へ約三里、小川驛へは約一里半、自動車の便がある。

亀井村

本村は郡の南端に在つて、入間郡越生町に隣接してゐる。泉井、高ノ倉、熊井須江、竹本、奥田、大橋の舊七ヶ村の合併から成り、面積一三・二三平方軒、戸數四百餘、人口二千五百餘、松山驛を距る約四里、自動車の便がある。役場を大字泉井に置き、主なる産物としては米、麥、蕎麥がある。

今宿村

東武鐵道東上線坂戸驛を距る約一里十

五町に在る當村は、石坂、赤沼、今宿、小川、大豆戸の大字に分れ、面積一三・六五平方軒、戸數四百餘、人口一千三百餘をかぞへ、米、麥、蕎麥などを産する。役場を大字赤沼に置く。

高坂村

本村は高坂、正代、早俣、毛塚、宮鼻田木、岩殿、西本宿の八大字から成り、その面積一四・一四平方軒を占め、戸數八百八十餘、人口約五千を算する。松山驛を距る約一里十町、自動車の便があり、米、麥、蕎麥を主要産物とする。役場を大字赤坂に置く。岩殿觀音のある正法寺があり、その後にある物見山は關八州を圍繞せる連山を遠望する。

野本村

當村は松山驛を隔つる約三十町、自動車の便があり。大字下野本、上野本、柏

崎、今泉、古凍、下青島、上押乘、下押乘に分れ、面積一二・六八平方軒、戸數九百餘、人口五千餘を有し、役場を大字下野本に置き、米、麥、蕎麥を主なる産物とする。

中山村

役場を大字戸守に置き、區裁判所出張所、郵便局のある本村は、川越市を距る約二里、松山町へは約一里半、何れも自動車の便がある。戸守、吹塚、中山、南園部、北園部、長樂、正直の大字から成つて面積七・九九平方軒を有し、その戸數五百餘、人口約三千をかぞへ、主産物に米、麥、蕎麥などがある。

伊草村

伊原宿、上伊原、下伊原、安塚、角泉飯島の舊六ヶ村合して生れた當村は、面積に於て四・九七平方軒、戸數に於て約

四百、人口に於て二千二百餘を算し、米、麥、蕎麥を産する。川越市を距る約一里十町、松山驛へ約三里、自動車通じて交通の便を助ける。役場は大字伊草宿にある。

三保谷村

本村は川越市を距る約一里半、自動車の便がある。宮前、平沼、白井沼、上銘、下銘、新堀、釘無、紫竹、吉原、表の大字に分れ、面積六・八三平方軒、戸數四百五十餘、人口二千七百餘あり、米、麥、蕎麥を主として産する。役場を大字宮前に置き、古刹廣徳寺があり、また源平合戦の鏝引で有名な三保谷十郎の墓がある。

出丸村

當村は郡の最東端に在つて荒川に面し、南端は入間郡に在りてゐる。上大屋敷

下大屋敷、出丸中郷、同出丸、出丸本、西谷、曲師の大字から成り、面積七・一六平方軒、戸數四百餘、人口二千五百餘を占めて米、麥、蕎麥を産する。役場を大字上大屋敷に置き、川越市へ一里強、自動車の便がある。

八ッ保村

本村は松山驛を距る約二里半のところ、に在り、畑中、下八ッ林、三保宿谷、上八ッ林、牛ヶ谷戸、山ヶ谷戸の大字から成つて面積六・三六平方軒、戸數四百六十餘、人口二千七百餘を占めてゐる。役場を大字畑中に置き、主なる産物としては米、麥、蕎麥などがある。

小見野村

當村は上小見野、下小見野、谷中、加胡、梅ノ木、松永、虫塚、鳥羽井、一本木、鳥羽井新田、東大塚の舊十一ヶ村合併から成り、面積八・五二平方軒、戸數

五百餘、人口三千餘を有する。川越市を距る約二里半、松山町へは約二里、共に自動車の便よく、役場を大字谷中に置き、米、麥、蕎麥を産する農本位の村である。

東吉見村

荒川の流に臨み、米、麥、蕎麥、蜂蜜を産する本村は、松山町へ約一里二十町、村内を縣道通過して自動車の便がある。大和田、上銀谷、古名、谷口、蚊計谷飯島新田、萬光寺、下銀谷、久保田新田江和井、須ノ子新田、高尾新田、荒子古名新田、蓮沼新田、丸貫、北下砂の大字にわかれ、面積九・五三平方軒、戸數六百五十餘、人口三千五百餘あり、役場を大字大和田に置く。

南吉見村

當村は東、西兩吉見村の間に在り、松

山驛を距る一里十町ほどのところに在り久保田、江網、下細谷、前河内、大串の五大字に分れ、面積七・七〇平方軒、戸數五百五十餘、人口三千百餘、米、麥、蕎麥を主産物とする。役場を大字久保田に置き、郵便局の設けがある。

西吉見村

本村は東は南北吉見の兩村に接し、西は松山町につゞき、松山驛を距る約十八町、自動車の便がある。

北吉見、長谷、南吉見、御所黒岩、久米田、和名、田中、山ノ下の大字に分れ役場を大字北吉見に置く。面積二・〇九平方軒を占め、戸數六百七十餘、人口三千餘を有し、米に麥に蕎麥を主なる産物とする。伊波比神社、横見神社、高負彦根神社、安樂寺の社寺があり、また岩窟ホテル、吉見の百穴などの名勝が近くにある。

北吉見村

地頭方、一ツ木、中新井、中會根、上砂、木澤、上細谷、今泉、小新井、松崎明秋の大字から成る當村は、東北は荒川の流域に對し、他は東、西、南吉見の三村に接續する。

面積九・三九平方軒、戸數三百六十餘人口約二千を有し、主として米、麥、蕎麥を産する。

松山驛を距る一里半、役場を大字地頭方に置く。

林業に富む

秩父郡

縣の西部一帯の地を占め四面皆山岳を以て繞らされその内部に秩父盆地あり、荒川、赤平川の二大水系によつて貫流される。郡の東方は、大里、比企、入間の三郡に接し、北方竝に西北方は兒玉郡及

び群馬縣多野郡に連り、南方より西方にかけては高山峻嶺綿々蜿蜒として東京府西多摩郡、山梨縣北都留郡、同縣東山梨郡、長野縣南佐久郡との分水界をなす。東西約十一里、南北約八里、面積六十二方里九五にして、縣全面積の四分の一強を占め、縣下第一の大郡である。全部を分ち四ヶ町二十八ヶ村とする。即ち次の通りである。

秩父、皆野、吉田、小鹿野、横瀬、若ヶ久保、高篠、原谷、三澤、白鳥、樋口、野上、國神、金澤、矢納、日野澤、大田、尾田、長若、上吉田、倉尾、三田川、兩神、大瀧、白川、中川、久那、浦山、影森、大樽、槻川、大河原

本郡に於ける田畑は全面積の百分の六で一萬一千二百五十町歩に過ぎず、主要農産物は米、麥、大豆、玉蜀黍、甘藷、馬鈴薯等で、蕎麥及び蠶種の製造も多い。本郡は天與の林業地にして、一般造林、特に杉扁柏の植栽に適し、生育良好なること、奈良縣吉野地方、靜岡縣天龍川地

方に劣らない。工業は織物を以て第一とし、生絲、玉絲、眞綿の製造これに次ぎ酒、醬油、和紙の産も少なくない。

秩父町

本町は秩父一帯の大中心地にして、西へ縣道に沿ふて小鹿坂峠を越せば小鹿野町へ達する。人口約二萬あり、延喜式の式内社秩父神社があり、古來大宮郷といはれたが、明治二十二年大宮町と改められた。大正十五年一月再び秩父町と改稱された。毎週二回、水曜日と土曜日に市が開かれ、水曜の方を本市といつてゐる。さすが秩父一帯の中心地だけあつて、市の立つ日には四方から人が集つて來る。大正十三年には南方浦山川の派流、橋立澤から疏水して水道が完成され、やうやく水の不足から免れることが出來た。また秩父銘仙の産地として知られ、荒川はその西方を走つてゐる。町の形態は寄居吉田、小鹿野等と同じく街村の進化した

ものであるが、その程度は前記諸町よりも遙かに大である。

皆野町

郡の東北にあり、東南は養山を以て三澤村に境し、南は原谷村に接し、西及び北は荒川を隔て、尾田、大田村、國神村に對し、東北は三澤川を以て白鳥村に境する。

秩父熊谷間の縣道は村内を走り、自動車を通じて交通の便良好である。中古は大濱郷武光ノ庄に屬した。正親町天皇の永祿十二年、武田信玄が龍谷城を攻撃した古戰場があり、神社寺院も多い。

吉田町

郡西北部の犬邑にして、東は國神村及び大田村に境し、南は小鹿野町につらなつて西は上吉田村に接し、北は日野澤村につゞき、大字に下吉田、阿熊、久長の

三に分れる。町の周圍は多くは山脈を以て包圍せられ、僅に南方より東方へかけての一小部分が稍々開け、こゝに縣道を通じ車馬の往來頻繁である。主要河流は赤平、吉田の二川で市街地を形成せる部分はこの流域によつて發達したものである。椋神社、大伴部少歳の歌碑、秩父家邸址等の舊蹟がある。

小鹿野町

秩父町より西方二里餘のところを在りその間に小鹿坂峠の山脈を隔てる。東は大田村に隣接し、南は長若、白川の二村に連り、西は兩神、三田川の二村に、北は下吉田村、上吉田村に境する。本郡西部の郡邑にして物貨集散の中心をなし商業殷盛である。

王朝時代には巨香郷と稱せられた所にして武家時代には大字下小鹿野は矢畑庄に、大字伊豆黒澤は武光庄に屬した。郷社小鹿神社があり、郷民の崇敬をあつめ

てゐる。また寺院には十輪寺、鳳林寺、雲龍寺等がある。

横瀬村

秩父町の東方にあり、東は芦ヶ久保村、南は浦山村及び入間郡の名栗村に隣り、西南は影森村に、北は高篠村に隣る。當村の南方より東方にかけては武甲山並にその支脈を以て圍繞せられ、中央より西部並に北部にかけては平坦にして田圃接續する。武甲山は山容雄偉本縣第一の名山である。横瀬川、生川などが村内を流れる。

中古武光ノ庄に屬し、江戸時代には忍藩主阿部氏より繼ぎて松平氏の領であつた。神社には御嶽神社あり、寺院には光正寺、東養寺、満光院、大忠院ほか七ヶ寺がある。根古屋城址、古御嶽城址も著名である。

芦ヶ久保村

地は三澤川の兩岸に僅かに見られるだけで、村内は丘陵頗る多い。秩父町と比企郡小川町を連絡する道路は村内を走る。中古は白鳥庄に屬し、徳川のはじめ代官の支配を受け、寛文三年忍藩主阿部氏の領となつた。龍谷城址は村の北端字茗荷澤にあり、用土新左衛門の居城址なりと傳へられる。

白鳥村

郡の東北部にあり、荒川の南岸に位置する東北は荒川を隔て、大里郡寄居町に、東は同郡折原村に、東南は槻川村に、南は三澤村に、西南は皆野町に接し、北より西にかけては荒川を隔て、樋口、野上の二村と對し、金屋、岩田、井戸、風布下田野の五大字より成る。地形は東北より西南に長く、村内山岳蟠屈し平地は山間並に荒川沿岸に極く少しあるばかりである。釜伏神社、法善寺は夙に人口に膾炙し、城址に天神山城あり、名勝に古井

郡の東南にあり、東は大柵村及び入間郡吾野村に隣り、南は同郡名栗村に西は横瀬村につらなり、北は高篠村に隣る。四面山岳をめぐらし、二子山は西方に峙ちて横瀬川を限り、丸山は北方村境にあり、正丸峠は東方にありて秩父町と入間郡飯能町とを連絡する要路にあたる。枕の瀧は横瀬川の上流にあり、世にこれを瀧の枕と呼ぶ。高さ四丈五尺、幅一丈三尺、奇岩怪石の間に屈曲奔流し、奇景いふべからずである。

高篠村

秩父町の東北に在り、東は大柵村に、東北は槻川村につらなり、北は三澤村に接し、南は芦ヶ久保村及び横瀬村につゞき、大字に栃谷、山田、宮峯の三がある。東部の一帯は山岳相連り、西方は田圃が開けてゐる。横瀬川は南方横瀬村より來り、西北流して原谷村に入る。武家時代には三大字共に恒持ノ庄に屬

し、徳川幕府の頃は代官の支配を受けた村内に光明寺、妙圓寺の古刹あり、本村造林事業の成績は特に顯著である。

原谷村

秩父町の北方に位し、東は高篠、三澤の二村に隣り、西は荒川を隔て、尾田村に對し、北は皆野町につらなる。東方一帯は山岳相連り、西方は稍々平坦である。横瀬川は村を西北に流れて荒川に入り、川の南方は大字大野原にして北方は大字黒谷である。

聖神社、瑞岩寺等あり、舊蹟として著名なるは大字黒谷なる和銅呈瑞の地である。城址には諏訪城址及び城山がある。

三澤村

皆野町の東南に位し、東は槻川村に隣り、西は原谷村及び皆野町につゞき、北は山岳丘陵錯綜して白鳥村に隣る。平

梅が井がある。

樋口村

郡の東北端にあり、東南は大里郡寄居町につゞき、東北は兒玉郡大里村に、北は同郡秋平村に、西北は同郡本泉村に接し、南は荒川を隔て、白鳥村に對し、西南は溪流を以て野上村と隣する。大字に矢野瀬、野上下郷の二がある。西北部は山岳を負ひ、南方荒川の沿岸に田圃が開けてゐる。著名なる山岳には京山、榎峠間瀬峠等があり、郡の咽喉を扼し交通の便よく、虎ヶ岡城址、仲山城址、天道大日如來碑等の舊蹟がある。

野上村

郡の東北部にあり、東は荒川を隔て、白鳥村に相對し、北は樋口村に、西北は兒玉郡本泉村に、西は金澤村に接し、南は國神村につらなる。本野上、中野上、

藤谷淵の三大字より成る。寶登山は村の西北に峙立し、南方荒川の沿岸は平坦にして田圃よく開けてゐる。奇勝長瀨は本村本野上から對岸白鳥村にかけてたる一里餘の總稱にて、百尺の斷崖は屏風を立てたるが如く、河流瀨をなして紺碧に深み、天下の奇勝たるに恥ぢない。

國神村

秩父盆地の北端に位し、東北は野上村に接して大字金崎は名勝長瀨に臨み、西北に日野澤村、西に下吉田村あり南方一帯は赤平川及び荒川を隔て、大田、皆野白鳥の町村と隣する。村の北方には山岳多く保土山、十二天山、社中山、破風山等はその著しきもので、十二天山は喬松繁茂し頂上よりの遠望絶佳である。

破風山は大字野卷の西北に屹立し、中古の貢馬の牧場はこの山麓にあつたと傳へられる。

金澤村

郡の北方兒玉郡との境界にあり、東は野上村に、東南は國神村に、南は日野澤村に、西は矢納村及び兒玉郡若泉村に接し、北は同郡本泉村につらなる。村内一般に丘陵多く、西方は城峯山の餘脈を受け土地高峻である。秩父、兒玉兩町を連絡する道路は本村を南北に貫通する。中古は白鳥庄に屬し、江戸時代末期には旗本榎原主計の知行所であつた。神社には萩神社あり、寺院には西福寺、西光寺ほか二ヶ寺がある。

矢納村

郡の北部にあり、北は神流川を隔て、群馬縣多野郡美原村に對し、東は兒玉郡若泉村及び本郡金澤村に、南は日野澤村に、西は上吉田村に境する。城峯山は村の南方に屹立し、従つて南は高峻にして

北方に至るに従ひ次第に低下する。この地勢の關係よりして本村は物資の供給を群馬縣鬼石町に仰ぐことが多い。神流川兩岸並に中流に奇石多く、世に賞翫する所の三波石は即ちこれである。日本武尊の創建にかゝる城峯神社は、夙に世に有名である。

日野澤村

郡の北部に位置を占め、東南は國神村に、北は金澤村及び矢納村につらなり、西は上吉田村に、南は下吉田村に接し、大字に上日野澤、下日野澤がある。城峯山の餘脈を受けて西北部は一般に高く、東南部に至るに従つて次第に低下する。大字下日野澤に日野澤あり、別稱を下空瀧、秩父華巖瀧などと呼ばれる。高さ三丈、堂々の響き四邊を壓してゐる。神社には日野澤大神社あり、寺院は大通院のほか四ヶ寺、舊跡に高松城址がある。

尾田蒔村

秩父町及び原谷村の西方に位し、荒川を隔て、相對する。東北の一隅は荒川によりて皆野町に接し、西より南にかけて大田、長若の二村に隣る。蒔田、寺尾、田村の三大字より成る。地形東西に狭く南北に長く、村の中央を南北に走る丘陵により東西兩部に分たれる。

中古は三大字ともに武光ノ庄に屬した江戸時代には領主轉々として相移つた。萩神社、諏訪神社、圓福寺などの社寺あり、勝地に小鹿坂峠がある。同峠は秩父小鹿野間を連絡する捷路にして、登攀六町餘にして頂上に達し、願れば秩父町は脚下にあり、武甲山は突兀として前面に横はる。

長若村

小鹿野町の東南にあり、東は尾田蒔村

及び久那村に境し、南は中川、白川の二村につらき、西及び北は小鹿野町に連り大字は長留、般若の二つである。四周山脈連互して平地少なく、長留川はその間を流れて赤平川に入る。武家時代、大字

長留は武光庄に、大字般若は矢畑庄に屬した。般若は往時半谷と記したこともある。日本武神社、法性寺、常光院、寶藏院ほか七ヶ寺あり、般若には歸化人羊太夫の墓がある。

大田村

下吉田村の東方にあり、東北は荒川を隔て、皆野町に對し、東より南にかけて尾田蒔村に隣り、西は小鹿野町及び下吉田村につらなり、北は國神村に接し、大田、伊古田、品澤、堀坂、小柱の五大字より成る。

東南は丘陵相連り、西北赤平川の沿岸は平坦にして田圃よく開けてゐる。住民は一般に醇朴勤勉の美風あり、社寺には

熊野神社、諏訪神社、大林寺、天幸院、寶勝寺その他が知られる。

上吉田村

吉田町の西北に位し、東北は矢納村に、東は日野澤村及び下吉田村に接し、西は倉尾村、南は小鹿野町並に三田川村に隣り北に群馬縣多野郡の美原、神川の二村がある。地勢一般に高峻にして、北部には山岳連互し、次第に南東に走り、その間少しばかりの平地を吉田川及び石間川の流域に見る。城峯山は里人俗に城山と呼び、平將門の弟將平の城址なりといはれる。城峯神社、石間戸神社、龍泉寺正藏坊ほか一社十三ヶ寺がある。

倉尾村

郡の西北隅にあり、東は上吉田村に、南は三田川村に接し、西方並に北方は群馬縣多野郡中里村に境する。

四面みな山岳を以て包圍せられ、他町村に出づるには必ず峠を上下しなければならぬ。村内も平地殆ど少なく、耕地は皆傾斜して坂をなし、吉田川はこの間を流れ上吉田村に入る。武家時代は矢畑庄に屬し、江戸時代には變遷甚だしく、その末期には平岡丹波守、松平因幡守等に領有された。

三田川村

小鹿野町の西方にあり、北は倉尾村に、南は大瀧、兩神の二村に、東北は上吉田村に接し、西は群馬縣多野郡中里村及び同上野村に連る。地勢東西に長く、小鹿野町との境界より群馬縣境まで凡そ六里に及ぶ。三田川は村を西より東に流れ、その兩岸に狭少の平地を存しその他は山岳丘陵起伏する。

八幡神社の例祭日たる十二月十五日には、遠近の信徒群集し、神輿の渡御あり賑盛をきはめ、鐵砲祭と稱して空砲を盛

んに發射する。

兩神村

郡の西部にあり、東は小鹿野町に接し、東南は白川村に境し、南より西にかけて大瀧村につらなり、北は三田川村に隣接する。

西南北の三面は高山峻嶺を以て圍まれ、村内また山嶺多く、薄川、小森川の沿岸に僅少の平地があるに過ぎない。兩神山は村の西端にそびえ、頂上に伊弉諾尊、伊弉冉尊を奉祀せるより山名が起つた。丸神瀧は三段の落瀑となり、景趣最も奇絶である。法養寺、藥師堂、鹽澤城址も名所として知られる。

大瀧村

郡の西南部にあり、東は中川村に、東北は白川村に、北は兩神、三田川の二村に接し、南は山岳を以て東京府西多摩郡

氷川村及び山梨縣北都留郡丹波山村につづき、西は長野縣南佐久郡川上村に隣り西北には群馬縣多野郡上野村がある。

面積は 約二三方里の大村にして、本郡面積の三分の一弱にあたり、比企、兒玉、大里、北埼玉、南埼玉、北葛飾の各部よりも廣大である。しかし村内到るところ高岳峻峰連互し、平地は殆ど無い。

瀑布には清淨瀧、不動瀧ほか四瀑あり、萬年橋、大輪橋、三峯神社、諏訪神社、竈三柱神社、大陽寺、圓通寺、栃木關所址、平賀源内探鑛の などを所舊蹟が頗る多い。

白川村

郡の西南にあり、東南は中川村に接し、西南は大瀧村に隣り、東北は長若村に境し、北は小鹿野町に、西北は兩神村に連る。村の四圍は群峯簇立し、荒川は西方大瀧村より來り東流して中川村に入り、その兩岸に僅少なる平地を存するに過ぎ

ない。

白久、贅川の二大字より成り、中古兩字共に武光庄に屬した。秩父三十番の札所たる法雲寺をはじめ、神社二、寺院七がある。

中川村

郡の西南に位し、北は長村及び久那村に接し、東は影森、浦山の二村に、西は白川、大瀧の兩村に連り、南は東京府西多摩郡氷川村に境する。久那、上田野、日野、小野原の四大字より成り、天目山の山脈は南方より、矢嶽の山脈は東方より入り來り、村内に丘陵の起伏が多い。殊に日野に於て甚だしく、この一帯を總稱して川浦山といふ。蟬笹山は日野の西南にあり、この邊霧深くして雨多く、村民はこれを日野、田野の日和雨と稱す。安谷橋、荒川橋、熊倉山城址等の名勝は夙に世に知られ、遊覽客の杖を曳くものが多い。

久那村

秩父町の西南にあり、東は影森村に接し、西は長若村につらなり、西南より南にかけて中川村と境する。

中古武光ノ庄に屬し、江戸時代には忍藩主阿部氏、同松平氏の領地となつた。一時は中川村に屬してその一大字たりしことあるも、荒川その中央を貫流し萬事に不便多かつたので、その北岸一帯が明治三十六年獨立して久那村と稱したのである。

浦山村

武甲山の裏にあたり、浦山川が村の中央を流れてゐる。村の面積は大きいけれども人家はその數少なく、全部で三百戸

足らずである。

山懐の急斜面の日照の悪いところに點點散村型をなして居り、水田は築にしたくとも無く、僅かの畑が急斜面に耕されてゐるだけである。

住民は主として炭焼をなし、盆地の中心地秩父町からさう遠くもない地であるが、その生活は全く都人士の想像の外である。

影森村

秩父町の西南にあり、東南は武甲山を以て横瀬村に境し、南は浦山村に接し、西は中川村につらなり、西北は荒川を隔て、久那村に對し、上影森、下影森の二大字より成る。東南に山を負ひ、西北に至るに従つて次第に平坦で、里俗に本村名を以て「武甲山の影の森」なりとせるは全くその謂れなしではない。

明治三十八年六月、近衛留守師團の歩兵部隊が、武甲山腹に實彈演習を行ひし

時、故竹田宮殿下御見學のため台臨あらせられ、記念碑は下影森に建つてゐる。

大柵村

郡の東方に位置し、東は比企郡平村に接し、東南は入間郡梅園村に境し、南は同郡吾野村に、西は昔ヶ久保、高篠の二村に連り、北は槻川村及び比企郡大河村に境する。

村の西方に大野峠あり、南方に横峠あり、北に堂平山あり、村内山岳蟠屈し、平地は少ない。

都幾川は源を村内に發し東流して比企郡に入る。縣道小川秩父線に沿うて交通の便よく、大津久城址、大野神社、正藏院の舊蹟がある。

槻川村

郡の東部に在り、東は大河原村及び比企郡大河村に境し、南は大柵村に接し、

西は高篠、三澤の二村に連り、北は白鳥村及び大里郡折原村と地を交へる。村内到るところに山巒起伏し、笠山は本村並びに比企郡に跨り、観音山は頂上に高さ六丈餘の巨岩直立し、その狀觀音に酷似し、里人之を中山の觀音と稱し參拜する者が多い。不動瀧(七瀧不動)宗閣寺、大日岩窟等の名勝がある。

大河原村

郡の東端に位し、東及び南は比企郡大河村に、北は同郡竹澤村及び大里郡折原村に隣接し、西に槻川村がある。村の北方並に西南方は山岳重疊すれども、中央槻川の沿岸は稍々平坦にして田圃よく拓け、農耕蠶桑の業に適する。槻川の河流大字奥澤にヤモト、關場の二堰あり、大字御堂に浦山、宮地の二堰あり、共に灌漑用に供される。上品寺、淨蓮寺、安戸城址等は廣く人々の知るところである。

農耕第一の 兒玉郡

本郡は縣の西北隅に位置し、東は丘陵と身馴川とによつて大里郡に接し、西は神流川を挟んで群馬縣多野郡の諸村に隣り、南は山嶺を以て秩父郡に境し、北は利根川と烏川とによつて群馬縣佐波郡の諸村に接する。その面積は一八四・三七平方軒を有する。

南部は丘陵性の峯巒重疊し、陳見山を主峰として東西に連互し、その地勢は南方山地より北方利根川に向つて傾斜をなし、謂ゆる武蔵野の一部をなしてゐる。山地と平野とに分ち得べきも、南方地附近から岐れる數條の小隆起があつて丘陵臺地を起し身馴川、志度川、小山川などを通ずる。産物としては、農産を第一位に、畜産、林産、鑛産、水産、工産の順に出してゐる。

本郡は和名抄に「古太萬」と誌し、昔時は賀美、那珂、榛澤を通じて兒玉と總稱せしもの、如く武蔵七黨の一たる兒玉黨の武威を揮つた地として世に名高い。今、二町十八ヶ村に分れてゐる。

町 本庄、兒玉
村 藤田、仁平、旭、北泉、東兒玉、共和、金屋、青柳、若泉、本泉、神保原、賀美、七本木、長幡、丹莊、秋平、松久、大澤

本庄町

北武蔵の名邑、その昔は若泉の庄と稱して、秩父、上州地方への往還の衝に當つた本町は、商業の中心地、とりわけ生糸、繭の賣買の旺盛なること縣下第一を以て鳴る。高崎線本庄驛あり、兒玉町へは電車、深谷町へは汽車、自動車の便があつて、交通極めて圓滑。本庄城址は、今は僅がにから堀、木丸

の址を遺してゐるが、曾ては當國兒玉黨の嫡流は代々庄又は本庄氏を稱して武威を北武蔵に誇つたもの、惜しや永祿十年北條氏のために敗れて落城、天正十八年以來は小笠原氏の居城に歸し、天和に至つて廢城となつたといふ。

兒玉町

郡名を生んだ本町は、昔時當國七黨の一兒玉黨の在住した由緒ある地、郡の西南部に在つて本庄町へは電車通じ、交通便、今も川越市より上州に至る一驛邑として賑ひ、商工の中心地をなしてゐる。兒玉、八幡山の二大字から成り、面積四・二二平方軒、戸數一千百餘を突破して、人口五千餘をかぞへる。米、麥、繭の集散が極めて多い。

役場を大字兒玉に置き、縣立中學校、高等女學校、區裁判所出張所、稅務署、警察署、郵便局等の所在地であり、その他養鶏組合、製絲工場、會社などの設立

を見る。

縣社八幡神社、玉蓮寺、實相寺、法養寺、玉藏寺、長福寺、淨眼寺の社寺があり、また兒玉城址、八幡山陣屋跡の名勝がある。

藤田村

本村は本庄驛を距る約一里、國道通じて自動車の便がある。大字牧西、鶴森、傍示堂、小和瀬、宮戸、瀧瀬に分れ、面積六・九二平方軒、戸數約七百、人口四千六百餘を占めて米、麥、繭、蠶種を産する。役場を大字牧西に置いて、村社稻荷神社、八幡神社、瀧瀬神社、淺間神社、圓満寺、長光寺、利益寺、寶泉寺等の社寺がある。

仁平村

當村は本庄町の北に位置し、久々宇、

田中の舊二ヶ村を合せて一村となし、面積五平方軒を占め、約四百に近い戸數と二千五百餘の人口とがあり、特に繭の產地である。役場を大字仁平に置き、村社諏訪神社外三社がある。

旭村

本村は本庄驛を隔つる約十八町、舊七ヶ村に今の小島、郡島、山王堂、杉山、沼和田、新井、下野堂の大字を合してなつたもので、面積七・四六平方軒、戸數六百五十餘、人口三千七百餘をかぞへ、米、麥、繭を主産物とする。役場を大字郡島に置く。村社唐鈴神社外五社がある。

北泉村

本庄驛を東南に距る約十八町、身馴川と九郷川とを南北に帶び、志度川と村の

東部に於て相合する當村は、又自動車の便を占め、北堀、東五十子、西五十子、東富田、西富田、栗崎、四方田の舊七ヶ村を合し、面積八・一六平方斤を占め、戸數六百餘、人口三千七百餘あり、主として米、麥、蕎麥を生産する。役場を大字北堀に置き、村社若泉稻荷神社をはじめ十一社がある。

東兒玉村

本村は兒玉町の東方に在つて、約一里十町を隔て、自動車の便がある。面積一・一五平方斤あり、戸數八百餘、人口約五千を擁し、米、麥、蕎麥などを主なる産物とする。役場を大字河那志に置く。村社河輪神社その他がある。

共和村

當村は本庄、兒玉の兩町間に位置して

電氣軌道の沿線に在り、自動車の便がある。今井、入淺見、下淺見、蛭川、上眞下、下眞下、吉田林、高關の舊八ヶ村が合同したもの、面積一〇・一八平方斤、戸數六百六十餘、人口四千餘を占め、米、麥、蕎麥を生産する。役場を大字蛭川に置き、村社駒形神社同八幡神社、同金鑽神社、その他が鎮座する。

金屋村

本村は金屋または金谷と稱して古くから開けた地で、面積一二・七四平方斤を占め、戸數七百餘、人口約四千ありて、米、麥、蕎麥の外に瓦の特産物がある。役場を大字金屋に置く。村社御靈稻荷神社の外に六社を有する。

大字保木野は塙保己一の誕生地で、附近には「塙先生百年記念碑」と、明治十九年建設の墓碑がある。

青柳村

本庄驛を距る約三里、兒玉町を隔てる約一里十八町、自動車の便ある當村は、西は神流川を挟んで群馬縣に對峙する。

面積八・一九平方斤、戸數五百餘、人口約三千を占めて生糸、蕎麥、百合等を産する。役場を大字二ノ宮に置き、村立圖書館がある。

官幣中社金鑽神社、村社八幡神社、同守神社、同御靈神社、同白岩神社、普照寺、泉徳寺、光願寺の社寺がある。

若泉村

昔、若泉の庄の一部で若泉村の名ある本村は、神流川の東岸にある渡瀬、上、下河久原の舊三ヶ村が合同したもの、面積一五・七五平方斤、戸數四百餘、人口約二千五百を占めてゐる。兒玉町を距る約三里、縣道通じ自動車の便もある。

役場を大字下阿久原に置き、郵便局の設けもある。主産物は麥と蕎麥。村社丹生神社の外に三村社がある。

本泉村

當村は秩父郡に連り、南するに従つて地形漸く丘陵高地となり、身馴川の水源をなし、全く峡谷の中にある。

太駄、河内、元田、稻澤の大字にあり面積一五・七五平方斤、戸數四百餘、人口約二千五百、蕎麥を生産する。役場を大字河内に置き、郵便局の設けもある。村社金鑽神社の他三村社が鎮座する。

神保原村

本村は忍保の庄と稱した名邑で、北は利根川上流に臨み、地勢平坦、米、麥、蕎麥を生産する。

石神、忍保、八町河原の三大字からなり、面積四・九五平方斤、戸數五百五十

餘、人口三千餘を占める。

高崎線神保原驛あり、本庄町へ一里餘、群馬縣新町へ一里十町、共に電車自動車の便がある。

役場を大字石神に置き、縣社今城青坂稻實池上神社の外に村社二、善臺寺、陽雲寺がある。

賀美村

勅使河原、黛、金久保、毘沙土の舊四ヶ村の合併からなる當村は、中山道本庄町、群馬縣新町の間にあたり、本庄驛を距る一里二十町、國道通じ、自動車の便がある。

面積七・五六平方斤あり、五百五十餘の戸數と三千餘の人口とを有し、主なる産物として麥、蕎麥をかぞへる。

役場は大字勅使河原にあり、村社金窪神社、同黛神社、同丹生神社、大光寺、陽雲寺の社寺がある。また金窪城址、畑時能の墓がある。

十本木村

本村は本庄町に接し、本庄驛を距る約一里、自動車の便がよい。面積九・二四平方斤、戸數六百餘、人口三千五百餘、米、麥、蕎麥などを主として産する。

役場を大字七本木に置く。村社七本木神社、同嘉美神社、同諏訪神社、同熊野神社がある。

長幡村

當村は舊加美郡藤木戸、帶刀、長濱、五明、大御堂が合して生れたもので、面積一一・七四平方斤、戸數七百六十餘、人口四千六百餘を有し、本庄驛へ一里二十町、兒玉町へ一里十町、自動車の便があり、米、麥、蕎麥を主なる物産とする。

役場を大字藤木戸に置く。縣社菅原神社あり、ほかに村社五社がある。

丹 莊 村

本庄は郡の西部に在り、神流川の流域を隔て、群馬縣に接してゐる。本庄驛を距る約一里二十五町、自動車の便よく、米、麥、繭、桑苗、梨及びその果實などを産する。

面積一・七四平方町、その戸數七百六十餘、人口四千七百餘を占めてゐる。役場を大字植竹に置く。

村立圖書館あり、會社があり、又郷社廣野大神社並に村社六、寺院七がある。

秋 平 村

當村は郡の南に在つて秋山、小平の舊二ヶ村から成り、東南は松久、大澤の二村に、南は陣見山、小平山の山脈連互して秩父郡に境し、西は本泉村、北は身馴川を挟んで兒玉町と金屋村に接する。面積一二・四三平方町を有し、戸數四

百五十餘、人口二千七百餘をかぞへ、米と麥とを産する。

役場を大字秋山に置く。村社天神社、同石神社、同河原神社がある。

松 久 村

本村は兒玉町を距る約一里十町、自動車の便あり、舊那珂郡の廣木、中里、弱衣、甘粕、古郡、木部の合併から成り、面積一〇・二五平方町、戸數六百餘、人口三千六百餘を算し米、麥、繭の外に福壽草の特産がある。

役場を大字木部に置く。縣社瓦生神社の外に村社四、

三架の中に向へる曝井の

絶えず通はむそこに妻もが

で知られる曝井の跡があり、今も溢水涓涓として盡きるを知らない。

大 澤 村

本縣の北東部に位し、北は大部分利根川を挟んで群馬縣邑樂郡に相對し、一部分は栃木縣都賀郡と隣り、東はわづかに茨城縣猿島郡と接してゐる。東南は北葛飾郡及び南埼玉郡と交はり、南西に北足立郡あり、西は大里郡と境する。

織物も旺んな 北 埼 玉 郡

木、北河原、埼玉、鴻巣

忍 町

地勢荒川と利根川の間の中積層の地帯を占め、郡内山なく、一望豊沃な耕地にして田畑大いに開けてゐる。水利の便よく灌漑もまた至便である。土質は肥沃にして農作物の栽培に適し、農産物は本郡の主要物産であるが、また綿織物の産も極めて多い。

鐵道は、東武電車が東南より來つて郡を横斷して群馬縣に入り、秩父鐵道の電車は、東武鐵道羽生驛より起つて信越線と連絡する。道路は文字通りの四通八達にして、至るところに自動車を通じ交通の利便頗る大である。人口十五萬七千餘人。分ちて五町四十三ヶ村とす。

町 羽生、忍、加須、不動岡、騎西
村 井泉、岩瀬、原道、星宮、星河、利

島、豊野、中條、太田、大桑、太井、大越、川俣、川邊、笠原、高柳、田ヶ谷、種足、長野、中島、禮羽、村君、扇巢、元和、共和、南河原、三田ヶ谷、三俣、水澤、新郷、志多見、下忍、廣田、樋遣川、東、持田、須加、須影、手子林、荒

本町は行田、佐間、忍の三大字よりなり、忍町と呼ぶより行田といつた方が一般に知られてゐる。羽生町の西約六キロの地に位し、電車の便がある。

行田足袋の製造を以て知られるが、その起原は、貞享の頃、二三の當業者が職工を使用し、また舊忍藩の士卒の家族に賃給をさせたに始まる古い遺風は今に残つて、大きな工場組織によつて大量に生産するものは比較的少く、二百戸餘りの製造家が附近の農村から約三千人の男女工を集めて小規模に製造してゐる。年産七千萬足、縣下有數の産業である。字には白子、常光、新田、芝、新郷がある。

羽 生 町

忍町の東北二里二十餘町の地點に位し

て、所謂羽生領の首邑であつた。東は井泉村に接し、西は岩瀬村に、南は須影村に、北は川俣村に續いてゐる。東武鐵道に沿つてゐる一驛であつて、また秩父鐵道がこゝより起つて忍町の方へ走つてゐる。面積三方町九八。當町には警察署、郵便局等の外北埼玉實業學校、登記所を始めとし銀行、會社多數がある。近接各地へ自動車の便が通じてゐる。また商業と共に農業も極めて盛んで、加須町と共に青糎製産の中心地であり、その他運動用ボール、靴のゴム踵、足袋底等の産がある。利根川畔の風致區に羽生城址があつて、榮盛の昔を忍ばせてゐる。

加 須 町

本町は北西の羽生町とともに古くから本場青糎の産地として名高く、年三百三十萬圓に餘る産額をあげてゐる。由來、當地域は草棉及び葉藍の栽培に適して居り、原料の自給自足によつて農家の副業

として盛に青緞の製織が行はれた。後、紡織業の發達に伴つて染色に大なる改善が加へられ、實用一點張りとして藍染を主とし、光澤の優美と地質の堅牢とを最大の特色にしてゐる。

東武鐵道の沿線にあたり、久喜驛までは僅かに十分で着く。行政上、町内を加須、久下の二大區に分つ。

騎西町

騎西はまた私市に作る。四邊は、古利根、元荒川等の灌漑する所、農産多くその集散地でもある。町の東方鴻葉村に私市城址がある。戦國の頃小田氏の據つた所といはれる。また近世騎西領といつたのは、騎西町及びその附近一帯の稱である。人口は約二千五百人をかぞへる。

不動岡町

加須町の北西に隣接する町で、東は三

俣村につゞき、南西は禮羽村に、西より北へかけては手子林村に、北東は中島村に境界を交へる。面積は五方籽六一。明治初年の頃比口町と稱せられて繁華をした。町には不動岡中學校、圖書館、郵便局等がある。米、麥、繭、鶏卵、綿織物を主要産物となし、住民の金融機關として銀行支店のほか信用組合がある。また、この地は鯉織製造が盛んである。稻荷神社、八幡神社を始め神社寺院頗る多く、不動明王を本尊とする總願寺は、附近に櫻花、花菖蒲の名所を有し、參詣の客多く、靈驗また顯著と傳へられる。

中條村

郡の最西端に位し、往時利根川が交通の主要路であつた頃は、東海よりの船舶の泊り場として廻船問屋も多數あり、舟運の要地として相當殷盛を極めた川港であつた。東は南河原村に接し、南は成田村、西及び北は大里郡奈良、長、秦の三

村につづいてゐる。上中條、今井、小曾根、大塚の四大字より成り、面積は八方籽五がある。住民は主として農業に従事し、主産物は米、大小麥、繭である。なほ熊谷市へは自動車の便がある。

南河原村

忍町より西北へ約二里ほど距り、中條村に東隣し、東は星河村につゞき、南は星河村に連り、北は北河原村に接する利根川流域の一村である。南河原、大塚、中江袋、馬見塚の四大字より成り、總面積は五方籽七五にして、忍町及び大里郡熊谷町へは自動車の便がある。農村にして耕地は四百六十餘町歩にのぼり、米、麥、繭の産が多い。名勝に勝呂神社、石塔婆三基がある。

北河原村

忍町より約一里半の北方に位し、南河

原村の北隣である。北境は大里郡秦村に接し、東北の一部は僅かに須加村につゞき、他は南河原村に圍まれてゐる。北河原、酒卷の二大字よりなり、その面積は三方籽九五である。耕地面積は水田百三十六町餘、畑百餘町歩にして、畑地のうち約七割は桑園である。されば養蠶業頗る盛大に行はれ、繭の年收一萬二千有餘貫をあけ、その他米麥の産が多い。なほ忍町よりは自動車を通じてゐる。

星河村

忍町の北邊に接壤し、東は荒木村及び長野村に續き、西は星宮村につらなり、北東には須加村が接して、東北に短く南に長い村である。齋條、和田、谷郷、白川戸の四大字より成り、その面積は六方籽丁度で、總耕地面積は四百七十町歩に上り、うち畑地は百三十餘町歩あり、更に畑地のうち七十餘町歩は桑園になつて居り、年收繭高一萬餘貫に及んでゐる

その他米麥の産も多い。また村には行田合同運送會社がある。

星宮村

忍町の西北に隣り、星河村の西に續いてゐる。南は持田村に、西は成田村に、北は南河原村に接壤してゐる。羽生より發して行田を通し、熊谷に向ふ秩父鐵道は村の南端を走つてゐる。池上、下川上、上池守、下池守、中里、小敷田、皿尾の七大字より成り、面積は七方籽五九である。元祿四年に上杉輝虎は皿尾に城を築いてその巨木戸監物を置いて守らせだが、監物は私に忍の成田氏に通じたるため輝虎大いに怒つてその城を焼拂つたといふ歴史を有し、現在は純然たる農村で米、大小麥、繭の産が多い。

持田村

忍町の西に隣り、東南は下忍村に、北

は星宮村に、西は太井村にそれぞれ接壤し、忍町より吹上町に至る電車の通路にあたり、村の北邊は忍町熊谷市間の縣道が通り、之に沿つて秩父鐵道が走り、村内に持田驛を置く。前谷新田、小敷田、持田等の部落あり、面積四方籽六二、昔は城門の北に向ひるを持田と稱したもので、成田氏が忍城主であつたころ、その家臣持田氏が當地に居住してゐたといはれる。主産物は米と繭である。

太井村

北及び東は持田村によつて圍まれ、西及び南は綾瀬川の上流を境として、大里郡の久下村並に北足立郡吹上町と相對する。信越線は村の西南の一部を走る。棚田、太井、門井、北新宿の四部落を合して成り、總面積は三方籽四二を算して、耕地面積は三百有餘町歩あり、そのうち水田は百七十餘町歩である。主要農産物は米、大麥等であつて、また養蠶が

盛んに行はれる。なほ信越線吹上驛へは自動車の便がある。

下忍村

忍町の南に隣接し、東は埼玉村、西持田村に接し、南は綾瀬川を隔て、北足立郡箕田村と相對してゐる。忍町から箕田村に至る縣道は村を北から南へ縦断して居り、自動車の便がある。樋上、堤根袋、鎌塚、下忍の五部落を合併した村で面積七方軒、戸數五百三十をかぞへて、耕地面積は五百四十餘町歩にのほり、米麥の産最も多く、また養蠶業の隆昌するところとして知られてゐる。

長野村

忍町の東に隣り、東は太田村に、南は埼玉村に、西北は星河村に、東北は荒木村に隣接してゐる。往時は村の東端に馬場があり、馬場の周圍には櫻樹が列をな

してゐた爲め、この地一帯を櫻の馬場とも呼んでゐた。村の南端を元荒川の支流が流れてゐる。縣道の忍加須線と、忍館林線とは村の東端に於て分岐し、一は東へ、一は北東へ向つてゐる。秩父鐵道は村の北邊を斜に過る。村内は瓢形墳、圓墳等大小二十ヶ所あり、更に古代住民の遺跡がある。面積は五方軒、産物は米麥と繭を主とする。

荒木村

忍町の東北方に位し、東は新郷村に、南は太田村に、西は星河村に、北は須加村にそれぞれ接し、荒木、小見、白川戸の三大字より成り、面積は五方軒三である。大字白川戸は星川の南方で、星川は小見まで流れ、小見の東に於て見沼用水と合し南折する。秩父鐵道は村の中央を横切り、武州荒木驛がある。鐵道に沿うて縣道が走り、忍町へは自動車の便がある。上代牟邪志國造時代の文化の名

残と思惟される遺跡が頗る多い。また名勝舊蹟に荒木天神、長善沼、搔上城、眞觀寺、觀音ヶ嶽がある。

須賀村

本村は利根川沿岸の村落にして、荒木村の北に接し、東は新郷村に、西は北河原村及び南河原村につゞき、北は利根川を隔て、群馬縣邑樂郡富永村に對してゐる。古くは鎌倉街道がこゝを過ぎて居て、その頃利根川に架設した橋の杭木が今尚ほ水中に残つてゐると傳へられてゐる。村の中央より稍々西寄りに見沼用水が南北に流れてゐる。明治二十三年の大洪水の際には當村地内の利根川堤防が決潰して村内に濁水氾濫して大被害を蒙つたことはまだ記憶に新であるが、更に遠い昔時から、頻々として自然の暴威に慄まされ通して來た土地である。面積五方軒〇七で、米、麥、茶を産し、また織物業が盛んである。

新郷村

須加村の東に接し、利根川南岸の肥沃なる農村である。東は岩瀬村に、東南は志多見村に、西は須加村のほか荒木村に接し、西より南へかけては太田村に続き、地形南北に長い。上新郷、下新郷、下新田の三大字より成り、昔は宿場町として繁昌した所で、面積は八方里三九あり、秩父鐵道は村の中央を東西に横切つて、新郷驛を置く。主産物は米、麥、繭等で、殊に養蠶は隆盛をきはめ、桑園百町歩にのぼる。

太田村

忍町の東一里の地に位し、東は新郷村及び志多見村に接し、南は廣田村に、南西は埼玉村に、西は長野村に、北は荒木村につゞいてゐる。下須戸、小針、若小玉、眞名板、藤間、關根の六大字より成

り、面積一一方軒、川俣、埼玉各村と共に郡中の大村である。加須町及び忍町へはそれ〴〵自動車の便がある。荒木村から本村に入る見沼用水は下須戸の西を流れ小針の西に於て南東へ流下する。米、麥、繭を主産物とする。なほ東鑑に見える若小玉小次郎はこの地の人である。

埼玉村

忍町より南東へ一里餘の地にあり、東は太田村及び廣田村に接し、南は屈巢村に続き、東は下忍村に連り、北は長野に接し、東は綾瀬川によつて北足立郡箕田村と境する。埼玉、利多、渡柳、野の四大字より成り、面積八方軒一九である。本郡中最も古墳の多いところで、武藏國造の遺墟であらうといはれる古代の塚山が大小約二十程ある。縣道忍鴻巢線は村を貫き、自動車が通つてゐる。主産物は米及び麥で、名勝に前玉神社、小崎沼、石田堤がある。

屈巢村

埼玉村の東南に隣接し、西北より東南へ向つて流れてゐる綾瀬川を隔て、北足立郡箕田村と相對する。東は共和村、東南は笠原村、東北は廣田村に接してゐる。郡の西南端で縣道羽牛鴻巢線は村を縦走し、忍町及び鴻巢町へは共に自動車の便がある。面積五方軒六一。耕地は約四百三十町歩あり、内水田は約二百町歩である。また如地の三分の二は桑園で、養蠶地として著名である。

廣田村

屈巢村の東北に続き東は見沼用水を隔て、田ヶ谷村に對し、東南は共和村に、北は太田村に、西は埼玉村にそれ〴〵接してゐる。羽生町より來た縣道は村内を迂曲して屈巢村へ抜けてゐる。大字廣田赤城、北根の三部落より成る村で、總面

積五方秆九四である。戸數四百六十戸。耕地面積四百七十町歩に上り、米、繭の産が多い。

須影村

羽生町の南に隣り、東は手子林村に、南は志多見村に、西は岩瀬村及び新郷村に接壤してゐる。大字須影、下川崎、上川崎、砂山、秀安、下羽生、加羽ヶ崎より成り面積六方秆四五、東武鐵道の沿線になつてゐる。耕地面積四百九十町歩あり、田畑相半し、主要農産物は繭、米、大麥の三である。

岩瀬村

羽生町の西に接壤し、南は須影村に隣り、西は新郷村に、北は川俣村に連る。中岩瀬、上岩瀬、桑崎、小松の四部落を合せて成り、面積四方秆九八、戸數四百七十餘、人口二千六百餘人を有する。

五月雨は岩瀬の渡り浪越えて
宮崎山の雲ぞかゝれる
船とむる岩瀬の渡り小夜更けて
みやさき山を出づる月影

等の古歌に名高い岩瀬は本村であつて、昔から月の名所として知られてゐる所。産物は米、麥、繭を主とする。村内に古社小松神社がある。

川俣村

郡の最北端に位し、羽生町の西北半里にして利根川の岸に沿つてゐる。東及び南は村君村及び井泉村につゞき、西は須加村、南は羽生、岩瀬、新郷の町村に連り、北は利根川を隔て、群馬縣邑樂郡に相對する。東武鐵道は村の中央を貫き、交通至便である。面積七方里五三。昔は利根川はこゝで二派に分れ、一は會野川といひ南流して再び利根川に合したが、元祿年間會野川の水は塞がれ、利根一流となつた。村内には長良神社、天神社、

諏訪神社、千光院、光明院、源昌院、藥師寺等がある。米、麥、繭のほか大豆及び蔬菜類を多く産する。

井泉村

利根川流域に沿ふ村で、東は村君村及び三田ヶ谷村につゞき、南は手子林村及び中島村に接し、西南は羽生町と隣り、西に三俣村がある。藤井下組、今泉、發戸、尾崎、北袋の六大字を合して成り、面積七方秆五三、戸數約六百五十戸である。東武鐵道羽生驛より約二十五町にして自動車の便あり、警察署及び郵便局は羽生に屬する。主要産物は米及び大麥にして養蠶業がまた盛んに行はれる。

中島村

羽生町の東一里餘の地に位し、東は樋遣川村に南は不動岡町及び手子林村に、西は村君村に、北は三田ヶ谷村に、隣接

する。中手子林、北萩島の二大字より成り、葛西用水に沿ひ、面積二方秆四四、戸數二百餘、人口千六百六十人の本郡中最小の村である。村民は農、蠶を主業とし耕地百八十餘町のうち畑地は僅かに五十餘町歩に過ぎず、しかも畑地のうち三十餘町歩は桑園によつて占められ、米、繭を主要産物とする。

手子林村

中島村の南に隣りて、不動岡町の西につゞき、南は志多見村に對し、西は須影村につらなり、西北は羽生町に境する。警察は羽生署の管轄に屬し、郵便は加須局によつて集配せられ、上手子林、下手子林、町谷、神戸の四大字を合して成る村で面積五方秆八八、米、麥、生繭、酒の産出が多い。村社豊武神社、富徳寺、千眼寺、實相院ほか三ヶ寺がある。また圖書館の設備を有し、小學校の學業状態は良好である。

志多見村

東は禮羽村に接し、西は太田村につゞき、南は高柳村及び田ヶ谷村に連り、北は手子林村及び須影村と境界を交へてゐる。東武鐵道加須驛より約一里十町にして自動車の便あり、交通の便益多大である。志多見、平永、串作、阿良川の四大字より成り、面積六方秆八五、郡の殆ど中央部に位する。米、麥、繭を主要産物とする。

田ヶ谷村

志多見村の南に隣り、騎西町の西北に當つてゐる。東は高柳村に接し、南は共和村に連り、西は廣田村及び太田村につづいてゐる。東武鐵道加須驛より一里の地にして、村の西南部に見沼用水が流れてゐる。田ヶ谷といふのは舊郷名であつて、また多賀谷とも作つた。源氏の武士

に多賀谷氏なる者あり、この地の人であつたといはれる。現在の村は内田ヶ谷、外田ヶ谷、道地、上崎の四大字を併合したもので、面積四方秆八七あり、米、麥繭が主産物である。

共和村

種足村の西北に接し、東北は田ヶ谷村につゞき、南は笠原村に、西南は屈巢村に、西北は廣田村に連つてゐる。北足立郡鴻巣町よりは、約一里半ほど距つてゐる。新井、鏡、關新田、上會下の四大字を以て組成され、面積四方秆九五にして耕地面積は五百九十餘町歩、内水田は四百五十町歩で、米、麥の産多く、また養蠶業のさかんなる地で、年收繭高一萬五千數百貫に上る。

笠原村

郡の最南西端に位し、騎西町の西南に

當り、北足立郡鴻巣町とは綾瀬川を隔てて相對し、こゝより自動車の便が通じてゐる。東は種足村に接し、東南は南埼玉郡柏間村につゞき、北は共和村、西北は扉巢村に隣接する。郷地、笠原、安養地の三大字を合して成り、面積六方八八和名抄によれば笠原は埼玉郡の郷名であつた。東鑑に出て來る笠原六郎、笠原十郎左衛門尉はこの地の人である。村民は農を以て主業となし、主産物は米、麥、繭等である。

種足村

笠原村の北に隣り、星川の兩岸に跨つてゐる。上種足、中種足、下種足、中ノ目、戸室、西の谷の六大字より成り、面積七方九、郡の南部に位し、南埼玉郡に隣接し、高崎線鴻巣驛よりは約一里半あり、自動車の便があり戸數六百二十餘、主要物産は米、麥、繭等で一部には果樹の栽培がある。

高柳村

加須町の西につゞき、騎西町の北に隣り東南は水深村に、西は田ヶ谷村に連り北は禮羽村、及び志多見村と境域を交へてゐる。上高柳、戸崎、日出安、正能の四大字を以て成り、面積五方五、戸數四百三十戸、人口は二千四百人弱である。諏訪神社、駒形神社、龍花院、保寧寺、龍寶寺、寶幢寺等の神社寺院がありまた村民のためには圖書館の設備がある。米、麥の産多きは養蠶が盛んに行はれ繭の收穫多く、生絲の産額が多い。

禮羽村

加須町の西に連り、高柳村の北にあたり、北は不動岡町に接し、西は志多見に續いてゐる。禮羽及び馬内の二大字より成り、面積二方九にして、加須町忍町の縣道は村内を通過し、自動車の便

がある。また加須町より羽生町方面へ向ふ東武鐵道は、東南から西北へ村を斜に横切つてゐる。村には埼玉精米會社ありてまた社寺には千萬神社、諏訪神社、香積寺、今蓮院、延命寺等がある。主要産物としては米、麥、繭、蔬菜類の農産物のほか足袋の製造が行はれる。

樋遣川村

古利根川の西岸にあり、昔は菅ノ雪と言つたところである。東は原道村に、南は豊野村及び三俣村に、西は三田ヶ谷、中島の二村に、北は大越村に接し、東北は古利根の流れを越えて、利島村に對してゐる。上樋遣川、中樋遣川、下樋遣川、戸川、町屋新田の五大字を合併して現在の村を構成し、總面積は八方九一三で、村民は農を主業となして、米、麥を多く産し、また養蠶業盛んである。御室神社、穴塚塚は舊蹟として夙に知られてゐる。

三田ヶ谷村

羽生町より約一里半の東方に位し、東は大越村に連り、東南は樋遣川村に當つてゐる。更に南は中島村に、西は井泉村に、北は村君村にそれづゝ接續する。東武鐵道羽生驛では自動車の便がある。與兵衛新田、日野牛新田、喜右衛門新田、三田ヶ谷、彌勤の五大字より組成せられて面積七方七三、戸數六百餘、人口三千三百數十人のほり、米、麥、繭を主産物とする。

村君村

利根川沿岸の村にして俗に村君王子の住居せしところと傳へられる。文明十八年、道興准后がこの地を過ぎて
誰世にかうかれそめけん朽はてぬ
その名もつらき村きみの里
と詠まれたことがある。水運の便よく、

藥師山の紅葉、御廟塚の古墳等の名勝舊蹟がある。下村君、上村君、堤、名村、常木の五大字より成り、面積六方九七にて米、麥、大豆を主産物とする。

大越村

利根川の流域に臨みたる一村にして、大越、外野の二大字より成り區裁判所出張所及び郵便局がある。面積六方七六戸數五百八十有餘、人口約三千百人を算して、耕地面積は四百十餘町歩あり、うち畑地は二百四十餘町歩である。主産物には米、麥、繭がある。

利島村

麥倉、飯積、柳生、小野袋の四大字より成り、面積九方九四、戸數六百有餘人口約三千六百人を擁して、耕地面積は六百三十餘町歩にのほり、内三百五十餘町歩は畑地である。米、麥、繭を主産物

とするが、その他大豆、粟等の産もまた多い。

川邊村

向古河、駒場、榮、本郷、柏戸、小野袋、立崎、伊賀袋の八大字より成り、渡良瀬川を隔て、茨城県猿島郡古河町と相對し、當郡中最大の面積を有し、實に一方九五四に及んでゐる。南は古利根川を越えて東村と向ひ合つて西は利島村に續いてゐる。村民は農を以て生業とし、米、麥、蔬菜類を主要産物とし、また養蠶業の盛んな土地である。

東村

郡の最南端に位する村で、南は北葛飾郡栗橋町及び靜村に接壤し、東は利根川を隔て、茨城県猿島郡新郷村に、北は古利根川を越えて川邊村にそれづゝ相對して西は原道村及び元和村に續いてゐる。

旗井、外記新田、新川通、中渡の四大字よりなりて面積五方秆九六、戸數三百六十、人口約二千人をかぞへる。米、麥、大豆、蓮根の産出多く、また鯉、鮒等の川魚が獲れる。村立圖書館の設備あり、また、絹絲製造場長島工場がある。神社には旗本神社、稻荷神社、神武天皇社、鷲明神社が鎮座する。

原道村

加須町の東北約一里半の地點にあり、古利根川に臨んだ村で、東は東村に、南は元和村に、西は桶遣川村に接続し、北は古利根川を隔て利島村に對してゐる。細間、道目、佐波、彌兵衛、砂原等の五大字より成り、面積は七方秆〇三、戸數五百十餘、人口は二千八百有餘である。耕地は四百九十餘町歩あり、住民は農を以て主業となし、米麥の産多く、また養蠶業盛んにして年收繭高は一萬二千三百貫の多きに及んでゐる。

元和村

加須町より東へ二里の地に位し、原道村の南に當り、東は東村に接し、東南は北葛飾郡靜村に續き、西南より西へかけては豊野村に連つてゐる。北下新井、琴寄、北平野の三大字よりなり、その總面積は五方秆七二にして戸數四百餘、人口二千二百五十人である。耕地面積は四百五十餘町歩に達し、田畑相半する。農を以て生業となす者多く、米、麥及び繭の産出が多い。

豊野村

加須町より東方へ約一里半の地に位し、元和村の西に當り、東南は北葛飾郡に接し、南は大桑村に、西は三俣村に、北は元和村と原道村とに續いてゐる。阿佐間北大桑、間口、杓子木、生出、新井新田松永新田等の大字より成り、その總面積

は六方秆一七にして、戸數五百二十、人口三千有餘をかぞへる。耕地面積は約四百七十町歩を占め、主要農産物は米、麥及び繭にして、その他大豆、蔬菜類も少くない。

三俣村

加須町の東北に隣接し、豊野村の西にあたり、南は大桑村に、北は桶遣川村に續いてゐる。北小沼、上三俣、下三俣、北篠崎、多門寺の五大字より成り、總面積八方秆二四、戸數約七百八十、人口四千五百八十人を算し耕地總面積は六百二十町歩あり、うち三百五十餘町歩は水田で農業よく行はれ米、麥、繭を主産物とする。

大桑村

東武鐵道の沿線に在り、村内を縣道通じて自動車の交通便にて、南大桑、川口

南篠崎、花崎の四大字より成り、總面積八方秆一七、戸數約六百三十、人口三千五百有餘に上り、耕地總面積六百五十町歩、うち水田は三百五十町歩である。地味肥沃にして農作に適し、米及び大豆の産多く、繭は年二萬二千五百貫を収めてゐる。村社神明社、雷電社が鎮座し、寺院には普門寺、大福寺、西蓮寺その他がある。なほ小學校内には村立圖書館が設けられてゐる。

水深村

村の中央を縣道が縦横に貫通して、加須町よりは自動車の便がある。大室、油井ヶ島、常泉、下高柳、南小濱、水深、船越、北辻、今鉢、割目の諸部落を合して成り、面積九方秆七三、戸數七百餘、人口約四千を算し、耕地面積は七百八十町歩に及び、地勢平坦にして地味肥沃、水田四百七十有餘町歩を占め、米、麥、繭をはじめ、種々の農産物及び果實の産

が多い。村内には村社八幡神社鎮座して村民の崇敬をあつめ、また團體には産業組合、村農會、在郷軍人分會、その他がある。

鴻葦村

加須町より約一里の地に在り、鴻葦、芋葦、牛重、根古屋の四大字を合して成れるものにて、總面積六方秆三四、戸數四百八十、人口二千八百人を擁し、地勢平坦にして地味よく肥え、耕地總面積五百三十町歩あり、うち三百三十町歩は水田で、米麥の産多く、また養蠶の盛んなる地で年收繭高は一萬五千貫に近く、その他果實の特産がある。大字根古屋には私市城址あり、一名に根古屋城址とも呼ばれる。騎西町を距る僅に數町の地にあり、太田道灌の築きしものと傳へられ、今日では城址一面陸田と化して、僅に數十間の殘壘に遺蹟を留めてゐるばかりである。

栄樹にも適地な

南埼玉郡

武蔵二十郡の一にして、東は北葛飾郡南より西にかけては東京市葛飾區及び足立區に接し、北は北埼玉郡に連つて居りて所謂埼玉平野の中央部に位置を占めてゐる。總面積は一八方里六〇七で、行政上七町三十五ヶ村に分ち、町村名は次の如し。

町 岩槻、粕壁、越ヶ谷、大澤、葛蒲、久喜、鷲宮
村 豊春、内牧、川通、武里、櫻井、新方出羽、蒲生、川柳、八條、八幡、湖止、大相模、慈恩寺、日勝、須賀、百間、太田、清久、江面、河合、黒濱、綾瀬、平野、栢間、小林、三箇、篠津、大山、増林、大袋、蕨島、柏崎、和土、新和本郡は大略、古利根川及び元荒川、綾

瀬川の流域にて、平坦且つ肥沃、殊に南部方面は溝渠縦横に通じて灌漑の利大きく、極めて平坦な低湿地をなし、殆ど全部の土地が水田として開拓されてゐる。

奥州街道が郡の東南を過ぎ、曾ては越ヶ谷、粕壁の二宿場があつた。鐵道は東北本線が大宮町から來り、郡を斜に東北部に貫き、蓮田、白岡、久喜の三驛がある。また東武鐵道は奥州街道に沿うて走り、郡内に四驛を置き、久喜に於て東北本線と交叉する。

本郡は最も農産に富む地方であつて、農業は頗る隆盛を極め、米の年産二十二萬石を突破し、大麥、小麥、大豆、小豆、蕎麥、甘藷の産また少なからず、また氣候溫和なるため果樹の栽培にも適し、梅、桃、梨、柿を特産とする。その他蔬菜類の産多く本縣中第三位に屬し、葱、甘藍、胡瓜、茄子、西瓜等もまた有名である。北部地方には、養蠶が行はれる。工産物としては白木綿及びガーゼ、雛人形、菜種油、帽子、薬細工、足袋、瓦、箆筒、

酒、醬油等がかぞへられる。

岩槻町

本町は元荒川西岸の高度の低い丘陵上にある聚落である。舊城下町で、城は長祿元年太田道灌が築いたものである。城址は元荒川の低湿地に臨み、小高い臺地に設けられ、三方は沼地の取圍むところである。今、沼地は水田となつてゐる。町の西北側に東京中央電信局の岩槻受信所がある。

町の經濟を維持するものに雛人形の製造がある。こゝで裸人形及び雛人形の頭部を製造する技術が特に優れてゐる。約百五十戸の製造家によつて年々六十萬圓の産額をあげ、東京から關西に至る迄、また東北地方の一帯に販路を有しが、一部は輸出され全国的に有名である。東へ四キロの粕壁驛まで電車、乗合自動車の方があつた。

粕壁町

本町は古くは陸羽街道の一驛にあたりてこゝで古利根川を渡つて幸手、久喜へ通じ、また葛蒲、關宿にも街道が開けてゐる。即ち交通要路にあたり謂はゆる宿場町として發達した土地である。現在は淺草驛より東武電車が通じ、また東は千葉縣野田町、西は大宮町へ電車の便がある。古利根を渡つて東岸の牛島は藤の名所として知られる。

越ヶ谷町

桃林によつて知られる本町は、本郡南部地方の中心都會にして、粕壁町の南二里二十町餘、荒川の南岸に位し、東は増林村、南は蒲生村、西は萩島村及び出羽村、北は大澤町に接壤し、面積二万四千二、戸數約八百九十をかぞへ、往時は奥州街道の一驛にして所謂宿場町としての

繁昌を極めた土地である。現在、町には越ヶ谷區裁判所、警察署、郵便局等の官衙の他、縣立高等女學校、東武實業學校等がある。町は東武鐵道に沿ひ附近糯米の集散地にて、大林の桃林、古梅園、久伊豆祠の藤等の名勝がある。

大澤町

元荒川の北岸に位し、一橋を以て越ヶ谷町と相對する町で、往時は奥州街道にあたる一邑であつた。東は増林村に連なり、西より北は萩島村、大袋村及び新方村等に接し、東武鐵道に沿ひて武州大澤驛あり、國道通過して、自動車の便もある。町の面積は二万軒三四にして、戸數六百五十餘、人口三千餘人である。

久喜町

郡の東北端に位し、古利根川の舊河道がつくる農村地帯の中心都市にて、久喜

本、久喜新、上早見の三大字より成り、

東は太田村、南は江面村、西より北にかけて清久村及び鷺宮町に接してゐる。面積三方、軒五三、商業盛んにて、綿織物の工業また行はれ、世に岩槻木綿と稱するは多くこの附近の産で、良質を以て廣く世に知られるが、久喜の町はむしろ交通上の要路としての方が知られてゐる。

東北本線が南北に過ぎるほか、東武電車が北西へ進み、往時陸羽街道の宿驛たりし幸手に代つて、當町が新時代の交通都市として繁華を極めてゐる。官公衙學校會社銀行支店等多く、名勝地としては久喜城址、甘棠院がある。

鷺宮町

郡中の最北端に位し古利根川の西岸にあり、東は北葛飾郡、北は北埼玉郡に接してゐる。久喜町の北隣にして、南西は清久村に連つて居り、東武鐵道は東南より西北に向つて走り鷺宮驛を置く。久本

寺、中妻、葛梅、鷺宮、上内の五部落を以て成り、面積六万軒六五に上り、戸數六百五十餘、人口約三千六百人を算してゐる。近年商業大いに隆盛を呈するに至れるも、依然農業盛んにして米、麥、繭果實の産額が多い。なほ大字鷺宮には縣社鷺宮神社が鎮座する。

蓮田町

本町は元荒川の上流、郡の西南突出部に位し、西方並に南方は北足立郡と境し春岡村、宮原村、大砂土村相對す。北は藤津村、東は黒濱村に隣接してゐる。東北本線町内を南北に貫通し蓮田驛あり、又武州鐵道西の基點に當る。附近交通上の要衝たるのみならず、農産物及び其他の物資集散の地理的に重要な位置を占め累年町勢の伸展を見せつゝあり、町内商店諸會社等多く將來の發展を卜さるゝ町である。

菖蒲町

郡の北邊に位し、北は北埼玉郡鴻巣村に接し、東から南にかけて三箇村及び大山村、西から南にかけて小林村と接壤して元荒川上流地の一都邑で、古くは宮宿と呼ばれた。東北本線久喜驛まで約二里定期自動車通じて、交通至便である。菖蒲、新堀の二大字より成り面積六方村二九、戸數約九百をかぞへ、町には區裁判所出張所、菖蒲郵便局及び銀行支店等あり、また名勝菖蒲城址がある。米、麥を産し、養蠶が盛んに行はれてゐる。

豊春村

東は粕壁町に接し、西は川通村につき、北は内牧村及び慈恩寺村に、南は武里、川通の二村に接壤し、岩槻町にも近い。道順、川戸、上蛭田、下蛭田、花積増戸、増富、谷原新田、上大曾新田、下

大曾新田、新方袋、南中曾根、道口蛭田の十三大字より成りて、總面積は七方村六に及び、戸數四百三十餘、人口約二千五百人をかぞへる。耕地面積は水田四百五十町歩、畑地百六十餘町歩あり、米、麥、繭を主産物とする。

内牧村

古利根川の上流に沿ふ一村で、粕壁町の西北に接壤し、東は古利根を隔て、北葛飾郡幸松村に對し、北は百間村、西北は白勝村、西は慈恩寺村、南は豊春村に接してゐる。東武鐵道粕壁驛へは自動車通じて交通は至便である。梅田、内牧の二大字より成り、面積五方村四五に及びて戸數約三百五十、人口約二千をかぞへる。村民は農を主業として、耕地は水田百五十町歩、畑地二百十餘町にのほり、米、麥、繭の産多く、また製茶及び果樹栽培も行はれてゐる。名勝に隅田川古渡がある。

川通村

岩槻町に東隣し、東は豊春村及び武里村、南は大袋村及び新和村、北は慈恩寺村に接壤し、西は岩槻町の南隣なる和土村と元荒川を隔て、相對してゐる。南平野、大口、長岡、大戸、大野島、大谷、増長、大森、新方須賀の九大字より成り總面積七方村〇五に及び戸數四百五十、人口二千五百有餘をかぞへる。耕地は水田四百十餘町歩、畑地百六十餘町歩ありて米、麥、繭を主産物とし、果樹の栽培も盛んに行はれる。

武里村

古利根川の流れに面し、粕壁町に南隣し、東武鐵道が村を南北に縦斷する。東南は櫻井村、南は大袋村、西は豊春村及び川通村に接し、面積七方村三四、備後市ノ割、大場、大板、大畑、中野、増田

新田、薄谷の八大字を合併して成り、戸數五百四十、人口三千有餘をかぞへ、耕地は水田四百二十町歩、畑地百七十餘町歩に上り、米、麥、繭のほか果實の産がある。大字市ノ割は名僧吞龍上人の生れた地である。

櫻井村

古利根川の西岸に位置し、東南は新方村、西南は大袋村、西北は武里村に接壤し、大澤町よりは自動車の便がある。上間久里、下間久里、大泊、大里、平方等の部落より成り、面積五方村五一にして戸數四百二十餘、人口二千二百餘を算して、耕地は水田二百八十餘町歩、畑地百四十町歩にのほり、主要農産物は米、麥及び繭である。

新方村

古利根川の西岸に位して東は北葛飾郡

松伏領村に相對し、櫻井村の東南に隣接し、南は大澤町及び増林村に接して、船渡、大吉、北川崎、彌十郎、大杉、大松向畑の各字より成り、面積五方村三八である。戸數三百五十有餘、人口二千を越え、耕地は水田三百十餘町歩、畑地九十五町歩で、米、麥、繭等の主産物のほかに農家副業として薬工品の製造が盛んに行はれる。また川崎神社、清淨院等の社寺がある。

増林村

元荒川及び古利根川の流域に圍繞せられたる村で、新方村に南隣し、東は古利根川を越えて北葛飾郡の松伏領、旭、吉川三村と相對し、南は大相模村に接し、西は元荒川を隔て、越ヶ谷町に通じ、越ヶ谷よりは自動車の便がある。増林、増森、中島、東小林、花田の諸部落より成り、總面積八方村六二である。戸數は六百八十、人口は三千八百五十をかぞへて

る。水田三百六十餘町歩、畑地二百二十町歩あり、米、麥の産多く、果樹の栽培また盛んである。

大袋村

元荒川の東岸に位置して東武鐵道に沿ひ、東は櫻井村、南は大澤町、西は荻島村及び川通村、北は武里村に相接し、大竹、恩間新田、大房、三野宮、大林、袋山、大道、恩間の諸字より成り面積七方村一四にて戸數五百餘、人口二千八百五十をかぞへる。米麥を産し大房の桃林を有して桃は本郡中第一位を占める。名勝としては帝室御料埼玉鴨場(御獵場)があり面積三萬餘坪中に閑亭を構へて御休憩所にあてさせられてゐる。

荻島村

大澤町の西に隣り、南は出羽村、西は新和村、北は大袋村と相接する村で、

長島、西新井、小曾川、南葦島、砂原、北後谷、野島の諸字より成り、面積七方秆二三、戸數四百三十餘、人口二千五百人である。主要農産物は米、麥で、また果樹の栽培盛んに行はれ、薬細工の製造も少なくない。五社稻荷、石神井神社、淨山寺、玉泉院、西教院等の神社佛閣多數あり、中にも淨山寺は子育地藏を安置して信仰者頗る多い。

柏崎村

岩槻町に南隣して、西は綾瀬川を隔て北足立郡東宮下村及び勝子村に對し、東及び南は和辻村に依つて圍まれてゐる。武州鐵道に沿つて交通の便頗るよく、村内浮谷驛より六哩にして東北本線へ連絡が出来る。柏崎、横根、加倉、谷下、浮谷、眞福寺の諸字を合して成り、面積六方秆一七、戸數四百四十、人口二千五百をかぞへ、米麥のほか、蒭、果實の産出がある。大字加倉にある淨國寺は關本十

八樽の一である。

和土村

岩槻町の東南に接し、西は柏崎村に連り、西南は綾瀬川を隔て、北足立郡野田村と相對し、東南は新和村に、東北は川通村に隣接して居り、武州鐵道が通じて村内笹久保驛より七哩にして東北本線と連絡し得られる。黒谷、飯塚、笹久保、木曾良、村國、笹久保新田、南下新井の諸部落より成り、總面積六方秆一七、戸數四百四十、人口二千五百を數へる。田二百十五町歩、畑二百五十町歩の耕地を有し、米麥のほか果實の産がある。

新和村

和土村の東南に接觸し、西南は綾瀬川を以て北足立郡野田村及び大門村に對し、東及び東南は萩島村と連り、北は川通村と接壤して居り、東武鐵道越ヶ谷驛へは

出羽村

越ヶ谷町の西に隣り、東南は蒲生村に接壤し、西南は綾瀬川を以て北足立郡戸塚村及び新田村に對し、西及び北は萩島村によつて圍まれたる村で、四丁野、越卷、谷中、大間野、神明下、七左衛門の六部落を併合して組成せられ、總面積は七方秆一六で、戸數四百三十有餘、人口二千七百五十人を越え、村民は主として農を行ひ水田五百十數町歩にのほり、米作は壓倒的數量を示し、その他麥及び果實の産も多い。

蒲生村

綾瀬川の北岸に位し、越ヶ谷町の南に隣接して、東は大相模村及び川柳村、西は出羽村につらなり、南は綾瀬川を隔て北足立郡新田村に相對する。奥羽街道は村を南北に縦斷し、東武鐵道また本街道に沿つてその西側を走り、交通の便良好である。瓦曾根、蒲生、登戸の三部落より成り、面積四方秆五四、所謂越ヶ谷糯と稱する良質米を産す。また薬細工品の製産が盛んである。村内に東京電燈の變電所が二箇所あり、日本無線電話、武陽水陸運輸等の會社もある。なほ大字瓦曾根の溜井は 明治天皇田植天覽の舊跡である。

川柳村

東は古利根川、西は綾瀬川によつて、それぞれ北葛飾郡吉川村及び北足立郡草

加町に相對して居り、北は大相模村、南は八條村に隣接し、越ヶ谷町とは約一哩の距離にありて自動車が行復してゐる。

八條村

麥塚、伊原、南青柳、柿ノ木の四部落を合併したもので、面積六方秆八八あり、戸數五百弱、人口二千七百五十をかぞへ耕地は水田四百七十五町歩、畑地七十七町歩にして米麥を主産物とし、殊に米の産高は非常に多い。

那の南部に位し、綾瀬川、古利根川、元荒川に圍まれたる卑濕の地にして、往時は今の湖止村、八幡村、八條村、川柳村、大相模村の諸村を合して單に八條と呼び、東鑑にもその名見え、古くより開けた地方である。現在の八條村は川柳村に南接し、東は古利根川を越えて北葛飾郡彦成村に對し、西は綾瀬川を隔て、草加町と境し、鶴ヶ曾根、松ノ木、伊草、小作田、立野堀、八條の諸字より成り面

積六方秆六五、米の産額極めて多い。

八幡村

湖止村と共に本郡の最南端に位し、綾瀬川を隔て、東京市足立區と相對してゐる。北は八條村、東は湖止村に接觸し、西は北足立郡草加町及び谷塚村に連る。上馬場、中馬場、大原、大曾根、浮、西袋、柳ノ宮、南後谷の諸部落を併合して成り、總面積五方秆六一を有し、戸數五百六十餘、人口三千二百餘人をかぞへる耕地は田三百三十五町歩、畑百餘町歩にのほり米産を以て村の重要物産とする。

湖止村

八幡村の東隣にして本郡の最南端に位し東は古利根川によつて北葛飾郡戸ヶ崎村との境をなし北は八條村に接し、南は大東京市と境する。伊勢野、二丁目、木曾根、南川崎、大瀬、桁、古新田の諸部

落より成り、總面積七方秆〇八、住民は概ね農業に従事し農事改良に見るべき點多く、殊に蔬菜栽培に於て名を擧げた村である、産業組合もまたよく整備發達し曾て優良農村として内務省より推賞せられしことがある。

大相模村

越ヶ谷町の東南に位し、同町と千葉縣流山間の縣道が通じて自動車の便がある東は古利根川を隔て、北葛飾郡吉川村に向ひ、南は川柳村に、西は蒲生村に隣接する。南百、千足、別府、見田方、四條西方、東方の諸部落より成り、面積八方秆一、米産頗る多く、蔬菜の栽培また盛んに行はれ、薬細工品の産出も尠くないまた村内に富進園養魚場がある。日枝神社、八阪神社、伊南理神社、大聖寺等々有する。因に大相模といふのは、舊郷名で八條領に屬した地で、中世野與黨の一派大相模氏はこゝに據つてゐた。

慈恩寺村

岩槻町の北に隣接し、東は豊春村、西は黒濱村、西南は河合村、北は日勝村、東北は内牧村に接壤し、岩槻町幸手町間の街道は村を南北に貫き、岩辻及び粕壁からは自動車の便がある。南辻、徳力、上野、相野原、古ヶ場、慈恩寺、表慈恩寺、裏慈恩寺、鹿室、小溝の諸部落より成り、面積九方秆で三、米、麥、蕎麥を主産物とする。なほ村内には天台宗の古刹にして坂東第十三番の札所たる慈恩寺がある。

日勝村

慈恩寺村の北に位し、岩槻幸手間の街道に沿ひ、東は百間村、東南は内牧村、西南は黒濱村、西北は篠津村、東北は須賀村にそれぞれ隣接し、小久喜、上野田下野田、岡泉、瓜田ヶ谷、實ヶ谷、千駄

須賀村

野、太田新井、彦兵衛の諸字を合して成り、總面積一方秆六一にして郡中の最大村である。米、麥、蕎麥のほか果實の産出頗る多く、村民生活程度は概して裕福である。東北本線白岡驛に近く、また村内には舊跡下野田一里塚がある。

古利根川の西岸に位し、川を越えて北葛飾郡杉戸町及び高野村に對し、東南は百間村、西南は日勝村、西は篠津村及び江面村、北は太田村に接壤して居り、國納、須賀、和戸、西久米原、東久米原の五大字より成る農村にて、村内を東南より北西に向つて東武鐵道が貫通し村内に和戸驛がある。古は鎌倉街道がこの地を通つてゐたといはれる。面積七方秆一あり主産物は米、麥、蕎麥及び果實である

百間村

その總面積は九方秆六一にして、戸數七百有餘、人口四千五百五十をかぞへてゐる耕地は水田四百三十町歩、畑地三百十七町歩あり、米、麥、蕎麥の産が多い。なほ久喜町との間には自動車通ひ交通至便である。

河合村

綾瀬川の東岸に位置して北足立郡に對し、岩槻町の西北に接し、東は慈恩寺村北は黒濱村、西北は綾瀬村に各隣接し、岩槻町からは自動車の便がある、平林寺掛、金重、本宿、箕輪、馬込、川島の諸部を合して成りし一村で、面積六方秆五七あり、戸數三百九十餘、人口二千五百五十人をかぞへ、耕地は田百七十一町歩畑二百五十六町歩にして、産物は米、麥蕎麥を主とする。

清久村

久喜町に西隣し、東北は鷲宮町に南は江面村に、西は三箇村に接壤し、北は北埼玉郡水深村と連る農村で、久喜町よりは自動車の便あり、交通便利である。六萬部、北中、會根、上清久、下清久の五大字より成り總面積六方秆〇三にして戸數は五百弱、人口は二千八百餘を算し耕地は田二百七十町歩、畑二百十餘町歩あり、主産物は米、麥及び蕎麥である。

江博村

久喜町の南に隣り、西北は清久村、西は三箇村、南は篠津村、東は須賀村に接し、北青柳、江面、除堀、原、樋ノ口、下早見、太田袋の諸部落を合して成り、

黒濱村

古利根川の西岸に位置して須賀村の東南に隣り、西は日勝村に、南は内牧村に續き、東は川を越えて北葛飾郡杉戸町及び堤郷村に相對する。百間、百間中、百間東、百間金谷原、百間西原、百間中島蓮田の七大字より成り、面積八方秆八にして、東武鐵道は村を縦斷し、粕壁町よりは自動車の便がある。戸數七百五十餘、人口四千五百をかぞへ、主要産物として米、麥、蕎麥があげられる。なほ村内には西光院がある。

太田村

久喜町の東隣に位し、古利根川の流域に沿ふ農村にして、南は須賀村、西南は江面村、北は鷲宮町に接壤し、東は川を隔て、北葛飾郡櫻田村と相對してゐる。吉羽、西、栗原、青毛、野久喜、古久喜の六大字を合併したもので、面積五方秆九一、戸數五百四十餘、人口三千餘人をかぞへ、耕地は水田百九十餘町歩、耕地

河合村の北邊に接壤して東は慈恩寺村に、北は日勝村に、西北は篠津村に、西は綾瀬村に隣接し、黒濱、城、南新宿、笹山、江ヶ崎の五部落を以て組成され。東北本線に沿うて交通の便よく、面積は一〇方軒四三に及び本郡中第二の大村である。戸數五百九十、人口三千五百を算し、米、麥、蕎麥を主要物産とするほか、製茶の業行は果樹栽培も相當盛んである。村の西北部なる大字城の水田に産する雜木林中には往昔の猪穴の跡がある。

綾瀬村

岩槻町の西北一里半の地に位し、東北本線に沿ふて蓮田驛を置く。綾瀬川の東岸にありて對岸は北足立郡小室村である。東は篠津、黒濱、河合の三村に境し、北は平野村に接觸する南北に細長い村で、関戸、蓮田、貝塚の三大字より成り、面積八方軒〇八、米、麥、蕎麥を多數産する外、茶及び甘藷の栽培が盛んに行はれる。

現在東京灣沿岸まで十餘里あるも、村内には多數の貝塚あり、往時はこの邊まで海であつたといはれる。

平野村

綾瀬村の西北に隣接し、北は大山村、西北は栢間村、西南は北足立郡加納村にそれ〴〵接壤、高嶺、井沼、根室、駒崎等を併せて成る村で、元荒川はその東及び北を流れ、綾瀬川は元荒川より分流して西南の方を流れてゐる。且つ見沼用水は北方より來り元荒川が掛樋を以て打渡し、東南綾瀬川に流下し、灌漑の便頗る良好である。面積七方軒四五、戸數五百四十、人口三千二百五十を算し、米、麥、蕎麥のほか果實の産が多い。なほ久喜町よりは自動車の便がある。

栢間村

元荒川の北岸に位して郡の西北端に位置す。

置し西北は北埼玉郡笠原村に連り、西南は北足立郡常光村及び加納村に接し、東は大山村、東南は平野村、北は小林村に隣り、下栢間、上栢間、柴山枝郷の三大字より成り、面積六方軒四八にして、米、蕎麥を産するほか、果樹の栽培極めて盛んなる村である。なほ久喜町及び北足立郡桶川町よりは自動車の便があり、村内には神明神社、幸福寺、正法院、善宗寺等の社寺がある。

小林村

菖蒲町の南に接し、本郡の西北端の一村で、昔時より獨立の一字を以て一村を形成してゐる。久喜町よりは自動車が通じて交通の便良好である。面積は六方軒五一にして、戸數四百七十五、人口二千八百人を算し村内主要物産としては米、麥、蕎麥が擧げられる。なほ耕地は水田二百十數町歩、畑地百八十數町歩に達してゐる。

三箇村

菖蒲町の南東に隣り、屋川と見沼用水との合流は、本村の南方に於て分れてゐる。東は清久村及び江面村に、南西は大山村に接し、台、三箇、河原井の三大字より成る。

面積は六方軒八八に及び、戸數は五百七十、人口三千三百人を算する。耕地は水田二百九十町歩、畑地二百三十五町歩あり、米、麥、蕎麥の産多きほか、梨の栽培が盛大である。なほ久喜町よりは自動車を通じてゐる。

篠津村

平野村の東に隣り、元荒川を隔て、相對してゐる。北は江面村、東は須賀村及び日勝村、南は黒濱村と接續し、岩槻町の北方三里の地點にあり、中世の頃には鬼窪郷と呼ばれた村である。

篠津、野牛、白岡、寺塚、高岩の五大字より成り、大宮町より久喜町へ向ふ東北本線は村内を貫通してこゝに白岡驛を置く。

本村面積八方軒〇七、麥、蕎麥及び果實を主要物産とする。名勝には白岡八幡神社、白岡正福寺、新井白石の藏屋敷の遺蹟等がある。

大山村

菖蒲町の南に當り、東及び北は三箇村に、南は平野村に、西は栢間村に接壤し、新井新田、柴山、上大崎、下大崎の諸大字より成る村、久喜町及び菖蒲町へは自動車を通つてゐる。面積六方軒六〇にして、戸數四百四十、人口二千六百五十を算し、主産物は米、麥、蕎麥で、果實の産出も頗る多い。

なほ村内には諏訪八幡神社、常福寺、正泉寺、長松寺のほかになほ三社、三ヶ寺などがある。

米産縣下一の北葛飾郡

地形は甚だしく狭長で、西北より東南に延びてゐる。

北及び東一帯は江戸川を以て茨城縣猿島郡及び千葉縣葛飾郡に隣り、南はわづかに大東京の葛飾區に接し、西北一帯は古利根川を以て南埼玉郡に境し、北西の一部が北埼玉郡につゞいてゐる。

前記のごとく四境殆ど川を以て圍まれ全く利根川の堆土から成り、土地肥沃、早稲米の産地として名高く、米の産額は縣下第一位である。郡内全部平坦、丘陵と稱すべきほどのものもない。

鐵道は省線東北本線が郡の北端を走るだけであるが、郡内は縣道村道共によく備はり、自動車を通ずるもの多く、一般に交通の利便良好である。

本部は明治二十九年下總國の中葛飾郡を併合して今日に至り、人口は約九萬、いづれも質實の美風を有し、大東京の郊外地域として發達しつゝあるにも拘らず概して醇朴なるは、當地方の一の特色である。

郡内を分ちて次の如く四町二十七ヶ村とする。

- 栗橋、杉戸、吉川、幸手
- 村 寶珠花、豊岡、戸ヶ崎、富多、豊田
- 豊野、早稻田、上高野、金杉、川邊、幸
- 松、吉田、田宮、高野、八代、八木郷、
- 松伏領、權現堂川、堤郷、旭、櫻田、櫻
- 井、南櫻井、行幸、三輪野江、靜、彦成

栗橋町

郡の最北端に位し、利根川を隔て、茨城縣猿島郡新郷村と相對し、南は豊田村に、西及び北は靜村に接し、面積二方村四五である。町の東方に於て利根川はその流域幅中員最も廣く約三百間に及んで

る。維新前には奥州街道の要驛にして徳川幕府は、こゝに箱根、小佛等と同じ位に重要性を持つ關所を設け、見張番所を構へて往來の旅人を檢した。今、橋畔の堤防上に關所碑が建つてゐる。町は堤防の西側に小じんまりと藁を見せて、現在も昔風の宿場町の面影を保存する。附近の米穀その他諸品の取引が行はれ、今も昔も變らぬ繁昌は、郡中の首邑たる名を恥めない。

幸手町

栗橋町の南方二里餘の地に位し、東は權現堂川村に、西は八代村に、西南は上高野村に接し、北及び西北は行幸村に連つてゐる。幸手、内國府間の二大字より成り、曾ては奥州街道の宿驛として繁華を極め、今は東武鐵道幸手驛がある。往古は田宮町と呼び、一色氏の居城地であつた。權現堂川と古利根川を左右に控へ、奥州街道と日光街道の會合點にあつた。

杉戸町

古利根川の東岸に倚り、對岸は南埼玉郡栢間村である。幸手町の南一里半に位し、東は田宮村、東南は堤郷村、北は八代村、北西は高野村に隣接し、杉戸、倉松、清地の三大字より成り、面積五方村一八である。往時は陸羽街道の驛路にあたり、人馬の往來頻繁にして殷盛を極めたが、東武鐵道開通後、交通の中心が移動した爲め、今は往昔の繁昌を見ることは出来ないが、未だ郡中の一名邑たるを失はず、東武鐵道日光線は、こゝより分岐してゐる。附近は農産物の集散地をなし町内からも、米、麥、藪を産出し、また町には縣立杉戸農學校、警察署、郵便局

等がある。

吉川町

古利根川の東岸に在り、東は三輪野江村に、南は彦成村に、北は旭村に隣接し西は古利根を越えて南埼玉郡大相模村と境する。平沼、保、川野、須賀、川島、中野、富新田、木賣、木賣新田、吉川、關、高久、高富、中會根、道庭等の部落を合せた町で、面積九方村七八に及び戸数は約千、人口五千百を算す。南埼玉郡越ヶ谷町を去ること一里半にして自動車の便がある。町には吉川警察署、區裁判所出張所、郵便局がある。産物は米麥のほか荷造用繩、蕨、吹、草履等の薬細工品の産額が多く、町に埼玉縣薬工品同業組合の事務所が置かれてゐる。

靜町

栗橋町の西に隣り、往昔の奥州街道に

沿ふ地域で、北及び西は北埼玉郡豊野村及び大桑村に接し、南は櫻田村に、東南は豊田村に隣りする。佐間、伊坂、松永間鎌、高柳、鳥川の諸部落より成り、中間奥州路に、義經の後を慕うて旅を重ねた靜御前の名に因んで、名づけられた村といはれる。東北本線に沿うて村内に栗橋驛がある。面積は六方村八八、戸数は約六百、人口は三千二百を算して、米、麥、藪を主要物産とし、村内には靜御前の墓がある。

豊田村

栗橋町の南に隣り、權現堂川の西に臨み對岸は茨城縣猿島郡である。南は行幸村に接壤し、西は靜及び櫻田村に連る。村の中央を南北に東武鐵道が貫き、栗橋町及び幸手町へ自動車の便がある。北廣島、新井、河原代、狐塚、中里、小右衛門の六大字より成りて、面積は六方村五四、米、麥、藪の産額が頗る多い。權現

櫻田村

豊田村に隣り、古利根川に面し、對岸は南埼玉郡太田村及び鷲宮町と向合つてゐる。北に靜町、東南に行幸村があり、東大輪、西大輪、八甫、外野、上川崎、中川崎、下川崎の諸部落を併せて一村をなし、面積八方村六七、戸數六百三十餘人口三千五百餘に達する。幸手町まで約一里、自動車が通ふ。主要産物は米、麥、藪で、殊に藪は年收高二萬貫に上る。

行幸村

幸手町の北に隣り、北は豊田村に、西は櫻田村に接壤し、鳥川はこの地に於て權現堂川に合流する。明治九年 明治天皇御駐蹕の光榮を永遠に記念し村名としたのである。圓藤内、千塚、松石、外國

府間、高須賀の諸字より成り、面積三方
六九、養蠶業の盛んな所で、繭年收高
一萬八千貫を超え、また米麥の産額も多
い。東武鐵道は奥州街道に沿うて村の東
部を走り、久喜町よりは自動車の便があ
る。権現堂川に備ふる行幸堤は、また櫻
の名所として知られる。

上高野村

幸手町の西南に隣接し、北は櫻内村に
連なり、西は古利根川を隔て、南埼玉郡
大田村に境し、東南は八代村に、南は高
野村に接壤する。久喜町より自動車の便
あり、村の面積は二方千九八にして、戸
數三百有餘、人口千七百餘人をかぞへて
ゐる。耕地は田百四十餘町歩、畑六十餘
町歩を有し、米、麥、繭を以て主要産物
とする。

高野村

平野、吉野、平須賀、中野、神扇、長岡
等の部落を合して成り、面積は一〇方千
一六にして本郡中第四位の大村で、戸數
約五百四十、人口三千二百をかぞへる。
大字中野には郵便局あり、杉戸町へは自
動車が通つてゐる。耕地は水田六百二十
町歩、畑地百四十町歩で、米麥のほか養
蠶が盛んに行はれる。

田宮村

杉戸町の東に接し、東は櫻井村に、東
南は富田村に、西南は幸松村に、西北及
び北は八代村に、東北は吉田村に隣接す
る。庄内古川の上流は村の東部を流下し
粕壁より關宿へ通ずる縣道は、村の東南
部を貫き、杉戸町へは自動車が通つてゐ
る。才羽、北連沼、並塚、廣戸沼、佐左
衛門、遠野、大塚の七大字より成り、そ
の總面積は七方千七一にして、戸數四百
六十、人口二千七百餘を算し、主産物は
米、麥、繭等である。

古利根川の東岸に位し、杉戸町の北隣
にして、東は八代村に、北は上高野村に
續き、西は川を超えて南埼玉郡須賀村に
相對し、杉戸町より幸手町に至る國道通
貫し、これに沿うて東武鐵道日光線が走
り、また國道を乗合自動車を通つて交通
至便である。下高野、茨島、下野、大島
の四大字を合して成り、面積四方千三三
である。米、麥、繭を主産物とし、名勝
に高野城址及び永福寺がある。

権現堂川村

幸手町の東に隣り、北より東にかけて
権現堂川が流れ、對岸は茨城縣猿島郡五
霞村で、南は八代村に接す。曾ては東葛
飾郡元栗橋村と稱したるところで、権現
堂、木立、神明内、上吉羽の四大字より
成り、面積は五方千一七である。米、麥
繭を主要産物とする。村名の起原は熊野
権現の祠堂があるために権現堂と稱する
のであつて、古くより開けた土地と見え

慶長四年の文書には権現堂河岸の名が見
えてゐる。

吉田村

東に江戸川、北に権現堂川を控へ、江
戸川の對岸は千葉縣葛飾郡關宿町に、權
現堂川の對岸は茨城縣猿島郡五霞村に相
對し、東より東南にかけて豊岡村及び櫻
井村に接し、西は八代村に、南西は田宮
村に隣りする。惣新田、下吉羽、細野、
下字和田、上字和田の諸部落より成り、
面積は六方千六六にして、戸數約四百九
十、人口二千八百餘をかぞへ、産物は米
麥及び繭を主とする。杉戸町よりは約二
里ばかり距り、自動車の便がある。

八代村

杉戸町の北に隣り、吉田村はその東に
あり、北は幸手町及び権現堂川に連り、
西は高野村に接してゐる。戸島、天神島

堤郷村

古利根川上流の東岸に在り、杉戸町の
南に接壤する農村で、東は田宮村に、南
は幸松村に接し、西は古利根川を隔て、
南埼玉郡百間村に對してゐる。陸羽街道
及び縣道は村の西部及び東南部を走り、
杉戸町へは自動車の便がある。堤郷、本
郷の二字を合して成る村で、面積四方千
八一あり、戸數約三百三十、人口約二千
人である。主産物には米、麥及び繭等が
挙げられる。

幸松村

古利根川の東岸に沿ふ農村で、流の對
岸には南埼玉郡粕壁町があり、北は堤郷
村に、東北は田宮村及び富田村に、東は
南櫻井村に、南は豊野村に隣接する。粕
壁の藤と稱して有名な藤園は本村大字牛
島にあり、東武鐵道粕壁驛を去ること僅

に十町、牛島の藤ともいはれ、全國でも
代表的巨木である。また小淵の不動院も
有名である。面積八方千〇五、粕壁町及
び杉戸町へは何れも自動車の便あり、陸
羽街道通じ、關宿への縣道は本村内に於
て分岐する。米、麥、桐材用具、果實、
清酒の産が多い。

豊野村

古利根川の東岸に位して、東方は古庄
内川を限界として川邊村及び南櫻井村に
接し、西は古利根川を隔て、南埼玉郡武
里村及び櫻井村に對し、北は幸松村につ
づき、南は松伏領村に隣する。銚子口、
藤塚、赤沼の三大字より成り、その面積
四方千八三あり、村民は農を主業とし、
桃、枇杷等の栽培極めて盛んにして、果
實の産出の多いことは本郡中第一位であ
る。他に米、麥、繭を産し、また帽子の
特産がある。名勝に遠藤桃園、龍泉寺等
がある。

松伏領村

古利根川の東岸に沿ひ、北は豊野村に接し、東は金杉村及び旭村に連り、西は南埼玉郡新方村及び増林村に對し、面積に於て當郡中第二位に屬し一一方糶〇六である。松伏、上赤岩、下赤岩、田島、大川戸の諸大字より成り、南埼玉郡越ヶ谷町より千葉縣野田町に至る乗合自動車の通路にあり、尙また本村及び吉川間にも乗合自動車が行復する。新風土記に「此邊田圃の間に多くの桃樹を栽培し、其實を齧いて生産の資とせり」とあり、古くより桃の栽培の盛んな土地であつて、米麥の産もまた尠くない。名勝には松伏溜井がある。

旭村

東方は江戸川の流れに面して千葉縣東葛飾郡梅郷村に對し、西は松伏領村に隣

り、南は三輪野江村及び吉川町に連り、北は金杉村につゞき、古庄内川は江戸川と並んで村の東部を南流する。南廣島、十一軒、鍋小路、今上、上内川、下内川、八子新田、川藤等の部落を併せて成り、面積九方糶七六あり、戸數約六百、人口三千五百をかぞへる。米、麥、蔬菜及び桃果を主産物とする。

三輪野江村

江戸川及び古庄内川の堤防に倚り、對岸は千葉縣東葛飾郡新川村である。北は旭村に、西は吉川町に、南は早稲田村に隣接する。二つ沼、小松川、中島、飯島半割、加藤、深井新田、平方新田、三輪野江、鹿見塚ほか七字より成り、面積一一方糶一七の大村で、本郡中の最大なる面積を有してゐる。慶長年間、伊奈半十郎忠治がこの邊を開墾したもので、米、麥、蠶豆、蔬菜等の農作物の産出が頗る多。

彦成村

古利根川の岸に在り、對岸は南埼玉郡八條村である。吉川町の南に位し、同町から越ヶ谷町へ行く定期バスの通路に當り、東は早稲田村に、南は戸ヶ崎村に相接する。彦倉、番匠免、彦澤、彦江ほか十二の大字を合して成り、面積一〇方糶三〇にして郡中の第三位を占める、蕪菁その他の蔬菜類の栽培多く、すべて東京へ送られる。字彦名は最も古くより開けた部落である。

早稲田村

古利根川の西岸に位して對岸は千葉縣東葛飾郡流山町である。彦成村の東に連り、北は三輪野江村に、南は戸ヶ崎村に相接する。卑濕の地で、村内東部を古庄内川及び大場川が南流する。谷中、幸房、岩野木、茂田井ほか十一大字より成り、面積九方糶六九に及ぶ。

八木郷村

當地方の水田には昔より専ら早稲を播種することが慣しとなつて居り、また他郡に勝れて成熟すること早く、萬葉集の歌に「にほとりの可豆思加わせをにへずとも」とあり、南に海をうけて氣候も自ら温暖であるため、古くより早稲米の名が聞えた。また桑細工品の製造も盛んに行はれる。

郡の最東南端に位し、東は江戸川を隔て、千葉縣東葛飾郡馬橋村及び松戸町に對し、南は東京市葛飾區と境し、西隣は戸ヶ崎村で、北は早稲田村に續く。

長戸呂、大膳、市助、八町堀外八部落より成り、面積五方糶三四に及ぶ。古庄内川及び大場川は早稲田村より南流し來り、前者は大字横堀に於て、江戸川と合し、後は更に南下して古利根川に注ぐ。葱、蕪菁等、蔬菜の名産地で生産物の大部分は東京へ出荷されてゐる。青年學校及び消防組の成績は特に良好なるを以て廣く縣下に知られる。

櫻井村

杉戸町の東方約二里の地に位し、豊岡村の西に隣り、東南は寶珠花村に、南は富田村に、西は田宮村に接し、西北には吉田村がある。杉戸町及び粕壁町へは自動車の方がある。

木崎、倉常ほか五大字より成り、面積五方糶五八にして、主産物は米、麥、蕪菁、蔬菜類であつて、また鯉、鮒、鱒等の川魚が獲れる。名勝には、大正天皇御大典記念に植ゑた野田街道の楓櫻樹があり、景勝絶佳、春秋を通じ觀賞者の來り遊ぶものが多い。

戸ヶ崎村

本郡中最南部に位する村で彦成村及び早稲田村の南に隣接する。南は東京市に接し、東は八木郷村に續き、西は綾瀬川を越えて南埼玉郡潮止村に對してゐる。戸ヶ崎、寄巻、長沼ほか、六部落より成り、面積四方糶六一に及び、字戸ヶ崎に郵便局あり、當村及び草加町間には自動車の便がある。

豊岡村

江戸川上流の西岸に沿ふ村邑で杉戸町を去ること二里の地點に在り、江戸川對岸は千葉縣東葛飾郡二川村である。西は

淺間神社の名勝がある。

寶珠花村

江戸川上流の西岸に沿ふ村邑で、對岸は千葉縣東葛飾郡二川村である。北は豊岡村に、西は櫻井村に、南は福田村に隣接する。杉戸町を東へ去ること二里二十餘町、同町よりは自動車の便がある。西寶珠花、西親野、井塚の三大字より成りて、面積一方軒七六にして本村中の最小村である。主要産物は米、麥、藪で、村内には名利寶藏寺がある。

富多村

江戸川の西岸に位し、對岸は千葉縣東葛飾郡木間ヶ瀬村で、北に寶珠花村あり西は田宮村、幸松村に接し、南は櫻井村に續く。粕壁町を去ること約二里にして自動車の便がある。神間、上吉妻、下吉妻、小平、立野、桐、榎の七大字より成り、面積七方里四二、戸數約三百四十、

人口約二千百人。主要物産は米、麥、藪で、蔬菜類の栽培も盛大である。

南櫻井村

富多村の南に隣り、粕壁町より東へ一里の地にあつて自動車の便あり、村の東側を江戸川が流れ、對岸は千葉縣東葛飾郡川間村である。南は川邊村に接し、西に幸松村がある。

上柳、下柳、永沼、金崎、上金崎、大倉、西金ノ井の諸部落より成り、面積は九方軒九〇、主要物産は米、麥、藪で、蔬菜及び果樹の栽培も盛んである。村内には郷社香取神社があり村民の崇敬をあつめてゐる。

川邊村

南櫻井村の南に隣接して、東は江戸川を越えて千葉縣東葛飾郡川間村及び七福村の各一部と對し、南は金杉村に連り、

西は豊野村に續いてゐる。越ヶ谷町より寶珠花村へ至る縣道は村の東部を南より北へ走り、交通至便である。飯沼、赤崎等の部落より組成せられて、面積六方軒九一にして、戸數四百十、人口二千四百人をかぞへる。米、麥、藪、茶を主産物とし、また果樹の栽培が盛んに行はれて居り、八ツ頭芋、薑等の名産地として知られる。

金杉村

川邊村の南に隣接し、江戸川の西岸に沿ふ農村で、對岸は千葉縣東葛飾郡七福村及び野田町である。西南に松伏領村あり、南は旭村に連り、築比地、魚沼、番匠、金杉の諸部落を合し、面積五方軒六三に及ぶ。縣道越ヶ谷寶珠花線は、村の西より入つて、川邊村に進み、野田町及び粕壁町へは自動車の便がある。米麥を主要物産とし、蔬菜類の栽培極めて盛大で、また枇杷の名産地として聞える。

農作本位の 大里郡

面積三三三・二四平方軒有し、關東平野の一部を占める本郡は、西、秩父山地に接するの外は東、南、北の三方は開けて即ち關八州の大平野に連り、全部平坦廣潤、北端には洋々たる大利根の長江東に流れ、南部には荒川の急湍貫流し、兩川の流域は沃野千里、溝渠四方に通じて水利の便極めてよく、稻田麥圃廣く、桑園また連つてゐる。

本郡の産業は農業を以て生計となしてゐる。土地平坦、水利縦横に通じて灌漑排舟等の便あり、地味また肥沃、且つ氣候中和にして晴雨の適度なる、農業の發達を遂げ、治水の完備、耕地の整理などに對しては官民一致してこれが進歩と改良とに意を注いで、今日の整備を招來するに至つたものである。

本郡は郡制實施の際、武藏國の舊大里幡羅、榛澤、男衾の四郡を併合して一郡を成せる行政区であつたが、大正十三年郡制廢止となり、同十五年郡役所も廢止されて、現在はその地理的稱呼に過ぎない。三ヶ町三十四ヶ村に分れてゐる。

- 町 妻沼、深谷、寄居
村 久下、佐谷田、吉見、市田、吉岡、御正、大藤生、三尻、玉井、奈良、長井、秦、男沼、大田、明戸、別府、幡羅、大寄、新會、中瀬、八基、岡部、榛澤、本郷、藤澤、武川、花園、用土、櫻澤、男衾、折原、鉢形、小原、本島

妻沼町

郡の北東部に位置して區裁判所出張所郵便局、銀行、商店等を有する本町は、熊谷太田街道により南は熊谷町に、北は群馬縣太田町に、南は羽生妻沼街道により北埼玉郡羽生町に、西は妻沼深谷街道により深谷町に達し、洵に四通八達、郡東北部に於ける最樞要の地を占める。

深谷町

面積六・一五平方軒、戸數八百餘、人口五百餘を有し、土地平坦、地味肥沃、米、麥の栽培に適する。
村社大村井神社、同水川神社、同白髭神社、觀喜院、玉洞院、瑞林寺、長井寺、觀清寺その他の社寺があり、大村井森に聖天堂がある。
郡の中央部に位して深谷、田谷、西烏曲田、萱須等の大字から成り、面積四・七平方軒一、戸數二千六百餘、人口一萬五千をかぞへる當町は、製藥の盛大なること縣下随一とされてゐる。生糸、絹織物、小麦粉等の産出が多い。
中山道が町の中央を東西に貫通し、深谷寄居街道、深谷妻沼道などがあり、また私設鐵道の起點ともなつてゐる。
區裁判所出張所、郵便局、高崎線深谷驛、縣立深谷商業學校等の所在地であつて、商業工業の旺んなどころ、銀行會社

商店、工場等、中山道を挟んで楯比し、今もなほ車馬絡繹の繁華を呈す。村社四、寺院一二、深谷城址がある。

寄居町

本町名は鉢形落城後、甲州武田の落武者並に小田原北條の浪人など、四方から來住したことに起ると傳へらる。

郡の最西部に位置し、東は花園、櫻澤の二村に、西は荒川を挟んで鉢形、折原の兩村に、北は兒玉郡松久、大濃の二村に接し、寄居、藤田、末野の三大字から成る。

面積六・一五平方杆、戸數一千百餘、人口五千百餘、秩父鐵道寄居驛、波久禮驛あり、商賈軒を列ねて商況活潑で、また柑柿、葡萄の産地である。

裁判所出張所、警察署、郵便局等の所在地であり、村社末野神社、極樂寺、善導寺、正龍寺、東藏院、淨心寺、西念寺正樹院などの社寺がある。

久下村

本村は郡の東南部に在り、久下、新川の二大字に分れ、面積は五・八一平方杆を占めてゐる。戸數三百六十餘、人口二千二百餘、米、麥を産する。久松寺などの寺院があり、また久下氏の城址がある。

佐谷田村

當村は、面積五・六平方杆、戸數四百餘、人口二千五百餘をかぞへ、米と麥とを主なる産物とする。また名産としての蔬菜がある。

村社八幡神社、外二社あり、寺院に永福寺、金鍋寺、長福寺、超願寺がある。

吉見村

本村は郡の東南に在つて、比企郡と北

足立郡との間に突入し、東北は荒川を境に久下村、北足立郡吹上村に對し、東南は比企郡北吉見村、西は比企郡大岡村、南は比企郡松山町、北は市田村に接す。相上外六大字に分れ、面積七・二六平方杆、戸數約六百、人口三千三百餘を占め、農耕を生業とする。郷社吉見神社あり、天照皇大神を祭神とし、外に日吉神社初め六社あり、玉泉寺、西明寺、大福寺、保安寺の寺院を有する。

市田村

郡の東南に位して中曾根、屈戸、小泉上恩田、中恩田、下恩田、平島、沼黒、吉竹敷、津田新田、高本の十一大字に分れる當村は、面積八・一四平方杆、戸數五百八十餘、人口三千六百餘、米、麥及び雜穀を産し、桑樹の栽培に適する。村社高城神社、同市田神社、同諏訪神社、圓正寺、地藏院、常永寺、自性寺、桂雲寺などの社寺がある。

吉岡村

本村は熊谷市を距る約半里、西南部は土地高燥、大字揚井と比企郡との界は起伏あるも、その他は全く平坦、荒川の灌漑を利用した肥沃の田野で、農産物を多く産してゐる。面積七・七〇平方杆あり、五百餘の戸數と三千餘の人口とがあり、郡中最も早くから開けた地である。

村社八幡神社、同登字氣神社、同白鬚神社等鎮座し、見性院、高雲寺、専念寺などの寺院が置かれる。

御正村

當村は舊新田家の莊園で、里人「御庄」と呼んだ。成澤、御正新田等の五大字に分れ、面積一〇・一二平方杆七、戸數七百餘、人口一千六百餘、米、麥を産す。村社八幡神社、外四社、光眞寺、外四寺がある。

大麻生村

面積六・七四平方杆、戸數五百五十餘、人口三千二百餘、秩父鐵道大麻生驛があり、田畑よく拓けてゐる。村社五、寺院六がある。

三尻村

三ヶ尻、十六間、新堀新田の舊三ヶ村合併からなる當村は、面積八・八一平方杆、戸數五百六十餘、人口三千三百餘を占め、その多くは農を生業とする。

村社大雷神社あり、觀音閣、龍泉寺、幸安寺、徳藏寺などがある。

玉井村

本村は郡の中央に位置し、中山道に沿ひ、高崎線籠原驛、郵便局、縣農事試験場あり、玉の井等の四大字に分れる。面

奈良村

當村は熊谷市と妻沼町との中間約一里の地に在り上奈良、中奈良、下奈良、奈良新田四方寺の五大字から成つてゐる。面積七・四八平方杆、戸數六百餘。人口四千に近く、米、麥等を主産物とする。熊谷妻沼街道、村の中央を南北に馳せ、寄居赤岩街道の中央を東西に馳つて交通に便する。村社四、寺院一三がある。

長井村

熊谷市を北へ距る約二里、上根外舊七ヶ村の合併したもので、戸數六百餘、人口三千七百餘、利根川流域の平地で、全

村殆んど水田をなしてゐる。

熊谷妻沼街道、妻沼羽生街道、寄居赤岩街道、忍妻沼街道など通じて、交通頗る便利である。

村社八幡神社をはじめ村社七、寺院八がある。實盛塚の舊蹟もある。

秦村

當村は葛和田、俵瀬、日向、大野、辨財の五大字から成り、面積六・七六平方、戸數五百七十餘、人口三千二百餘、利根川、村の北境を東流し、妻沼羽生街道、寄居赤岩街道はその他の街道と共に村を貫通し、村社長井神社、外三村社と四寺院がある。

男沼村

面積七・六二平方、戸數六百に近く、人口三千五百餘をかぞへ、米、麥などを産出する。村社四、寺院六あり、妻沼町

と群馬縣尾島町に通ずる道路があつて、交通に便する。

大田村

東は妻沼町、長井村に、北は男沼村に接する。七大字に分れて面積七・七三平方、戸數六百餘、人口約四千を有し、土地平坦、田園連り、水路縦横に通じて地味肥沃、米、麥、蕎麥を産する。村社大田神社あり、能護寺、外八寺院がある。

明戸村

本村は連沼外九大字からなり、北境を利根川が東に流れる。面積八・七五平方、戸數一千二百餘、人口六千二百餘、農産物を主としてゐる。幡羅中瀬街道、深谷妻沼街道、本庄妻沼街道が縦横に馳驅する。村社四、寺院七がある。

別府村

東別府、西別府、下増田の三大字から成り、面積六・一八平方、戸數八百餘、人口三千餘、尾島小川と、別府深谷の二街道あり交通に便である。主産物は米、麥、村社三、寺院四があり、別府氏の城址がある。

幡羅村

原郷、柴崎等の五大字からなり、面積一・〇六平方、戸數七百五十餘、人口四千五百餘、米を産す。村内中道、深谷妻沼街道、幡羅中瀬街道通じ、高崎線は中道に並行して東西に走り、縣立商業學校がある。郷社櫻川神社は郡内四郷社の一、他に村社四、寺院七がある。

大寄村

深谷町を距る北へ三十五町、内ヶ島等の七大字に分れ面積六・五九平方、戸數七百餘、人口四千二百餘を有す。中道北境を走り幡羅中瀬街道、本庄妻沼街道など通じ、交通に便する。村社諏訪神社の外に村社五、寺院八がある。

新會村

深谷町を距る事北へ一里二十餘町、新戒高島、成塚の三大字から成る本村は、面積四・九五平方、戸數六百餘、人口約四千、一村殆んど水田連り、米、麥等の産額が多い。村社生品神社、同古櫃神社、同御嶽大社が鎮座する。大林寺、東雲寺、安善寺などがある。

八基村

本村は郡の西北隅に位置し、實業界の傑人子爵澁澤榮一を生み出した地、血洗島外舊七ヶ村の合併から成り、面積五・八六平方、戸數約七百の戸數と二千二百餘の人口をかぞへる。穀類、蔬菜、藍、桑によく、養蠶、蠶種製造また旺盛で富裕である。村社六、寺院四がある。

棒澤村

郡の西北隅に位し、棒澤外舊五ヶ村合して一村となつた本村は、深谷兒街道が村の中央を東西に通ずるの外、棒澤本庄道、棒澤兒玉道、棒澤寄居道、棒澤本郷道の里道が走り、交通頗る便である。面積八〇・二八平方、戸數約六百、人口三千五百餘を占め、河あり、堀あり、池あり、大に水利に富んでゐて、水田相連つてゐる。村社六、寺院七をかぞへる。

中瀬村

當村は利根川の右岸に在る一小村で、土質特に桑園に適する。従つて養蠶並に

岡部村

高崎線岡部驛があり、岡部、普濟寺、岡、伊勢方、寄根の五大字から成る當村

本郷村

當村は郡の西北隅を占め、本郷、針ヶ谷、山河、今泉の四大字に分れ、面積一二・二二平方杆、戸數四百五十餘、人口約三千を有す。

秩父山脉の餘波をうけ丘陵連互し、石原山、高取山、淺間山等防風堤の如くに聳え、西部頗る高く、三面は平野をなして北方に傾斜する。
村社三、無格社一、寺院六がある。

藤澤村

本村は郡の中央をや、西北偏りに位置し、深谷町を西南に距る一里八町、人見の外に六大字に分れ、面積二一・三〇平方杆を有し、一千三百餘の戸數、約八千の人口を占め、農耕の業を主たるものとなしてゐる。
縣道深谷小川街道あり、深谷寄居街道

また村の中央を東西に馳せて、交通の上
に便益を與へる。
村社五社が祀られてゐて、一乘院をは
じめ八寺院がある。

武川村

長在家、田中、菅沼、上原、明戸、瀨山の舊六ヶ村から成る當村は、面積に於て八・六五平方杆を占め、戸數に於て六百八十餘、人口四千二百餘を算す。

荒川の北岸に延長する一帯の平地であるが、北部は高燥、森林鬱蒼たる臺地をなしてゐる。

秩父鐵道武川驛あり、熊谷秩父街道、寄居赤岩街道、深谷小川街道など四方に通ずる。
村社三、寺院五がある。

花園村

本村は郡の西端部に位置する。武蔵野

櫻澤村

村内第一の高山鐘撞堂山を有する本村

用土村

昔は用土原と稱し、用土城址が今に遺る當村は、郡の西端部に在つて面積六・九七平方杆、戸數四百餘、人口六千七百餘、寄居藤岡、菅谷兒玉街、廣瀬土の各街道の村内を貫通する。
村社白山神社、同諏訪神社、貴船神社があり、心光寺、蓮光寺の寺院もある。

は、郡の西南部に在つて面積四・七〇平方杆、戸數は五百餘をかぞへ、人口は約三千人を有する。

熊谷秩父街道、深谷寄居街道、寄居藤岡街道が貫通して交通に便する。

村の名稱は古く、武蔵七黨の猪俣黨の一族櫻澤四部左衛門宗氏の住したところであるといふ。

村社八幡神社および長福寺、天正寺、妙音寺、龍源寺がある。

男衾村

當村は郡の西南部、寄居を距る東南一里十町のところに在る。

今市、富田、赤濱、牟禮、鷹巢、西古里の七大字に分れその面積一八・〇一平方杆、戸數七百餘、人口四千二百餘、農業を主とする。

郷社出雲乃伊波比神社をはじめ村社小波神社、同態野神社、同三島神社、同兒泉神社等があり、そのほか東全寺をはじめ

め九寺院がある。

折原村

折原、立原、秋山、西ノ入、三品の五大字から成る本村は、東は鉢形村西は秩父郡白鳥村、南は比企郡竹澤村、北は荒川を挟んで寄居に對する。面積一五・五〇平方杆、戸數四百七十餘、人口約三千本村はその昔、武蔵七黨丹黨の一族織原丹五郎泰房の居住したところである。村社三と、寺院一〇とがある。

小原村

郡の東南部に位置し、稻垣若狭守の陣屋跡を有する本村は、須賀廣、野原、小江川、板井、鹽、柴、千代の七大字か、成つて、面積一一・九四平方杆を有して戸數四百餘、人口二千五百餘を占める。主産としては米、麥などがある。
村社八幡神社、外に村社三、寺院七がある。

鉢形村

當村はもと數釜の庄と稱し、今に遺る鉢形城址あり、北武蔵地方第一の郡邑だつた。鉢形、保田原、露梨子、小園の四大字に分れ、面積六・三七平方杆、戸數四百六十餘、人口約三千をかぞへ、北部は荒川に臨み、田圃よく開けてゐる。
村社五あり、寺院六がある。

本島村

當村は郡の東南、荒川の南岸に位置して本田、島山の舊二ヶ村から成り、面積一三・六二平方杆、戸數七百五十餘、人口四千五百餘、古は島山の莊と稱し、源氏の功臣島山次郎重忠この地に住した。大字島山の中央に島山館跡及び、八幡神社の背後に島山重忠の墓がある。村社三、寺院三がある。

埼玉雜記

秩父赤壁

秩父赤壁の稱ある長瀨峽！百尺の懸崖轟々として紺碧の深潭に臨むもの約三里の間、水飽くまで清く、岩ごとくく奇。即ち水成岩的な整然たる層狀節理をもつた岩が、丘陵の如く兩岸に連つて、しかも岩は白、青、赤、黒などに彩られ、それ等の色はしばしば極めて薄き縞をあらはし、縞はまた往々細かく複雑に褶曲してゐる。

それは地質學上の最古層とせられる秩父古生層が何等の覆被なく露出せるもので、そのなだらかな形態と、美くしい色彩とは、岩の風景に稀な温味と懐かしさを感じしめる。この峽谷が名勝天然記念物として指定されたのは、これがためで、懸崖の盡くるところに白鳥島が美しく横はつて更に一景を添へ、寶登山の中腹に寶登山社があり、賊除と開運の流行神で、境内には櫻と楓が多く、流れを俯瞰した眺望また秀抜、附近一帯は公園となつてゐる。

荒川は鮎の名産地であるため、夏期鮎漁をかねて出かける人が多いが、この溪谷の最も美しいのは兩岸の楓及び懸崖に絡む蔦かつらが紅みに燃えて、銀灰色の古生層岩が紫金色と變じて輝きわたる時で、そのシーズンには十月下旬から十一月下旬まで、長瀨から寄居まで舟に便して降るのが最もよい。

七重八重花は咲ども山吹の——古歌はあまりにもよく人口に膾炙してゐる。この名歌の舞臺は越生停車場より車して約十町、越邊川を渡れば大字如意の西端に出る。後方に松杉の点在せる岩丘を背負ひ、前面河鹿鳴く越邊の清流に臨み、川に沿ふて蜿蜒十數町のところにある。

山吹の里

熊野の神主山吹なるもの、己が姓にちなみてこの地に山吹を植えたものか、その後幾星霜、明治の初年頃までは大小何千株の山吹、越邊の沿岸に黄金の色を競ひ、後丘の松緑と映じてその美言はうやうやなかつたが、明治の中世より蠶業の發達と共に耕されて桑園と化し、または河川の荒るゝにまかせて今は荒廢、古の俤を見ることは出来ない。

土地の有志者は、この名高い山吹の里を、古へにかへすべく、今力をつくし、これが復興を計つてゐる。

牛島の藤

柏壁驛から十町、幸松村牛島に牛島の森がある。樹陰百六十餘坪、樹齡二千年幹の周圍一丈餘、根本の周圍三丈餘に達する。

その藤棚は東南延長二十間餘、西北側九間餘、花房六尺に達する。古くから關東一の稱があり、昭和三年一月十八日、天然記念物に指定せられた。

群馬縣勢

總説

位置・區劃

本縣は關東地方の西北部を占め、東は栃木縣、北は福島、新潟の二縣に、西は長野縣、南は埼玉縣に隣接してゐる。三面山地を繞らし、たゞ南部の一面のみが平野をなし、その平野部は利根川に沿ふて東南部に向つて半島狀に長く突出し、栃木、埼玉の兩縣と交界してゐる。面積は六三〇〇平方軒あり、人口は百二十萬を算へる。前橋、高崎、桐生の三市と、勢多、群馬、多野、北甘樂、碓氷、吾妻利根、佐波、新田、山田、邑樂の十一郡に分たれ、縣廳を前橋市に置く。

山嶽

東境山地は足尾山塊及び日光白根等から成る。足尾山塊は秩父古生層によつて構成せられ、氷室山、横根山、地藏嶽、三境山、鳴神山等がそびえ、山塊は渡良瀬川谷に急斜し、東南に向つて緩傾斜をなしてゐる。その北方には錫ヶ嶽、白根山、温泉岳等の日光白根火山群があり山中に五色沼、菅沼、水尻沼等の湖沼が散在する。

西北境の山地は三國山脈で、新潟縣との縣界をなして東北から西南に向つて走り、東北の延長は只見川と信濃川との分水嶺をなしてゐる。山體の殆ど全部は花崗岩、閃綠岩及び第三紀層からなるも山脈中の主峯は、三國山、仙ノ倉山、萬太

河川

河川は主に利根川諸流で、渡良瀬川、片品川、赤谷川、吾妻川、神流川、碓氷川等がその主なるものである。渡良瀬川は足尾山に發源し、縣の東部を南流して桐生市の南に至つて、桐生川と合し、後利根川に會する。片品川は東北境の尾瀨沼附近に發源し、沼田町に於て利根川と

郎山、茂倉山、七ツ小屋山、朝日嶽、北部に丹後山等がある。いづれもその解析侵蝕が進んで壯年期の地貌を呈してゐる西部には草津、白根、吾妻山等の火山が重疊する。

西南縣界には妙義山、荒船火山等が聳立して、利根川と千曲川の灌域とを分つてゐる。妙義山の西北には碓氷峠がある。更に縣内の地形を特色づけるものは、縣のほぼ中央を微北東から西南の方向に赤城、榛名の二火山が對峙すること、この二山は妙義と共に上州の三山と稱される。

合してゐる。片品川上流は急流が奇岩怪石に激し、風景美の甚だ稱すべきものがある。

利根川は群馬、福島、新潟の三縣界にある平嶽に發源し、清水峠の國道に沿ふて南流し、後閑に於て赤谷川を合せ、沼田盆地に至つて前記の片品川を呑み、澁川町、東で吾妻川と會し、前橋市の西を過ぎて東南に流路を轉じ、伊勢崎町の南に於て碓氷川及び神流川を合せ、群馬、埼玉兩縣の界をなして、千葉縣に流入する。本縣は概して山岳地域内に蟠居せるために低地極めて乏しく、利根川の沿岸に關東平野の一部である稍や廣い平野を見るのみである。

氣候

海に遠く、海洋の影響を受けること少なく幾分大陸性で寒暑の差甚だしく、殊に山間地方に於ては一層その差、大なるものがある。

降水量は、前橋に於て一三五四耗で、

海岸地方に比較すると著しく少ないが、上越國境の山地は、冬季裏日本から來る西北風によつて降雪を見、寒冷氣温と相俟つて根雪となり、表日本に於ける最深雪地帯をなしてゐる。

産業

農産物は米麥のほか、蕎麥、馬鈴薯があり、果實に梅、桃、櫻桃、苹果、枇杷梨、ミカン、ネーブル、生柿等がある。生絲工業及び機業は全國稀に見る盛んな地方で、桑の産額も多い。畜産では馬が最も多く飼養され、牛と鶏がこれに亞ぎ牛肉と鶏卵は殆ど東京市場に送られる。森林原野の面積は土地總面積の七五パーセントに相當し、わが國屈指の森林國である。従つて木炭の産も著しく、上越國境地方には未だ斧鉞を加へない美林が非常に多い。水産は利根の巨流をはじめとして、片品、吾妻、碓氷等の河川に鮎、鯉、鱒、鰻などを産し、就中利根の香魚は有名である。鑛産の主なるものは、石

交通

本縣は古來關東の重要關門として重要な位置を占め、碓氷峠を越える中山道、越後に通ずる三國越、清水越があつた。その後、鐵道高崎線、信越線の開通と共に、高崎はその地の中心地として繁盛し昭和六年ループ式による清水トンネルの完成と共に上越線が開通して以來、上越の二地方は最短距離を以て結ばれた。その他高崎から桐生、足利に至る兩毛線、桐生から足尾に至る足尾線、伊勢崎から東京淺草間の東武電車、高崎と下仁田間

の上信電鐵、澁川と中之條間の東電々鐵新伊香保と榛名山間の關東ケーブル鐵道等あり、東南部の地域に鐵道網は甚だ密である。

名勝

山姿秀麗の火山、谿谷の清流と林相美に恵まれた西北部山地は到る處温泉湧出して全國稀に見る温泉郷をなしてゐる。

前橋市

上毛は製絲の國である。しかしその中でも最も盛んなのは碓氷、北甘樂の二郡及び前橋市である。

製絲工業の起源は分らぬが安政六年横濱の開港と同時に、前橋糸がアメリカ、フランスに輸出されたのが、輸出の最初で、明治三年藩士速水堅曹が、スミス人を聘して、細ヶ澤町に製絲場を設け、木

製六人繰りの器械を据ゑ、わが國製絲改良の先驅をなした。ついで交水社、昇立社、天原社など續々と設立を見、今日百三十餘の工場を數へ、年産額二千六百萬圓を計上される。

前橋とはこんな由緒を持つところである。しかも縣廳の所在地で、政治經濟の中心地として活躍してゐるが、縣廳は舊城本丸の址にある。

元來、前橋はもと厩橋と稱し、厩橋城は文明年間、太田道灌持資の始めて築くところで、その後長尾氏に移り、更に上杉、北條、武田、織田と轉々としてその所有を更へ、徳川の有に歸してからは、平岩、酒井、松平を経て維新の廢城となつた。今日ではその址は前橋公園となつて、利根川を西に見下ろし、春は土手の櫻花一時に咲き亂れて治亂興亡のあとを知らぬやうである。

人口約八萬五千、各種官公衙、中等學校、農事試驗所、蠶業試驗所等があり、鐵道は高崎を経て東京及び直江津に達す

るものと、桐生、足利を経て東北線に合する兩毛線とがあり、澁川を経て、伊香保、四萬方面に至る電車もここを起點とし、赤城山に遊ぶにもこゝよりする者が多い。

かくの如く、前橋は實に經濟、行政、交通上の一大中心地で、現在の隆盛なる都市の景観は、將來に於て飛躍また高調愈々その大を増すことであらう。

高崎市

今日でこそ前橋市に縣廳があるため、出鼻を挫かれた形だが、昔の高崎は誰知らぬ者なき都であつた。中仙道第一の都邑で、關東から信越への要路を握り、物資はすべてこの地に集散され、高崎田町に織物市場が出来たのも古い元祿三年のこと、附近の農村で織られた絹、太織は、高崎絹の名を以て、關東、京阪、東

北方面に廣く賣り出されてゐた。參觀交代の諸大名は、必ずここに立寄つて土産物をとりのへたもので、黄金の雨は常にこの地に降つた。

しかし時代は變つた。交通文明の發達は、必ずしも高崎市を物資の集散地とするを要せず、信越と東京とを容易につないでしまつた。かくて本市は商業地として衰へ、今、工業都市として更生の途に向ひつゝある。製粉、板紙、絹絲紡績、木材等、製造會社の存在は發展への道を指してゐる。人口は約六萬餘である。

名所舊蹟には、高崎公園、高山正之神社、大信寺、高崎城址等がある。抑々高崎は王朝時代赤坂の庄と稱し、藤原氏の莊園であつたが、源平時代源氏によつて始めて赤坂城が築かれ、後廢城となつたのを、鎌倉幕府の頃、和田義盛の六子義信が通れて群馬郡白川郷に來り、六世の孫義信再び築城して和田城と呼んだが、和田氏没落の後、徳川氏關東を領し、箕輪城（現に市の北東四軒の地にその址が

ある）の城主井伊直政を和田に移し、ここに高崎と名を收めて、規模宏大なる高崎城が出來た。城址は今歩兵第十五聯隊の兵營となつてゐる。これに隣りして高崎公園が、烏川を隔て、觀音山に對し、眺望絶佳の地を占めてゐる。

桐生市

桐生市は北東から南西に細長い市で、三方が山に圍まれ、西南の一方のみ開いて、東部を桐生川が流れ、西南部を渡良瀬川が流れてゐる。人口約五萬に對し、七八臺ぐらゐの織機をもつた機業家が約八百戸をかぞへ、機業地として年々發達し、頗る活氣を帯びてゐる。

元文年間、京都の織工が輪子及び縮緬の技術を傳へ、天保年間には桐生獨特の縮緬を織出した、これが今のお召で、將軍家齊公に獻じたのを、將軍がお召し

になられたのでその名が起つたのだといふ。また天保年間には襦子の織法が京都から入り、更に文政の始めやはり京都から絲錦が傳はつた。かくて桐生織物はますます發展し、遂に京都の西陣と相對立する關東織物の本場となつたのである。

その種類を數へたてゝ見ると、桐生お召桐生袖、桐生銘仙、絹、紗、輪子、緞子羽二重、純絹帶地、人絹帶地、絹綿交織胴裏地、羽織裏地と、限りもないほどである。年産出高は、内地向三千萬圓、輸出向、千五百萬圓といふ數字を示してゐる。最近は絹綿交織物、殊に人絹帶地が素晴らしい躍進を呈してゐる。

織物工場では東洋織布、兩毛整織、共立機業、飯塚工場、堀工場などがその規模大きく、主として輸出物を製造し、インド、濠洲などがその華客である。

市中の井戸は水質悪く、濾さないでは飲用に適しないほどであるが、幸ひ桐生川の水が清澄であるために、織布はすべて川の水を以て洗つてゐる。

市内には高等工業學校があつて、織物業、染色、圖案、紡績等の高等技術を授けてゐることは見逃せない。

機業都市だけに、名所舊蹟は極めて少く、桐生天満宮に西の宮神社、岡公園、丸山公園、白瀧神社がある位である。

農蠶の地 勢多郡

本郡は縣の東部、大利根の流れが關東平野に出づるところに位し、東は栃木縣上都賀郡北は利根郡、西は群馬郡及び前橋市に境し、南は佐波、新田、山田の三郡に接し、西に利根川、東に渡良瀬川が流れ、北境には赤城火山の高峰をはじめ山岳重疊して郡の半部を占め、面積は四二・七〇二方里、廣袤東西十里二十三町南北八里三十四町を數へる。

鐵道は郡の西南隅を過ぎて前橋市に走る兩毛線があり、國道は前橋市より大胡

町を経て山田郡大間々町に續いてゐる。

續紀に「天平勝寶元年上野國勢多郡少領上毛野朝臣足人、獻當國分寺知識物」とあるを始めとし、和名抄によれば、眞壁、時澤、芳賀、驛家、朝倉、深田、藤澤、深渠、田邑の九郷に分れ、郡名は中世世田に作り、上野名跡考には「此郡赤城の大山の下にあれば、即ち志多の義ならん」とある。いつの頃よりか利根郡片品川以南赤城山麓の村里をも併せ、近世に及んでは凡そ五萬七千石の總高であつた。明治になつてから一時南北兩勢多にわかれたが、明治二十九年舊に復し、更に東群馬郡をも合併して現在に及んだ。

山林原野に富む一面には平野も少しとせず、農業盛大であり、蠶業もまたその雄をなし、その生産總額は遙かに他郡を凌ぐものあり、主要産物には米、麥、繭、川材及び薪炭、竹材、滿庵、製絲、酒、醬油等があり、價格から見ると製絲が第一等である。

行政上次の如く一町十六ヶ村に分れる

大胡

村 上川淵、下川淵、南橋、北橋、横野、敷島、富士見、芳賀、木瀬、荒砥、宮城、粕川、桂登、新里、黒保根、東

大胡町

赤城南麓の大邑で、前橋市の東北一キロ餘り、山上、膳を経て大間々に達する街路筋にある。町は大宇大胡、横澤、河原濱、樋越、上大屋、瀧窪、茂木、堀越の八部落から成り、商工業が盛んで、糸の織物の産が多い。近世の初めには牧野右馬允康成、子駿河守忠成が大胡城に據り元和二年越後長峰城に轉封されて城は廢せられ、今は古城址としての面影をとどめ、且つ大胡公園となつてゐる。

城山城址、千貫沼、大胡公園、奈良塚大胡太郎碑、豊國山、躰躰園等の名勝舊蹟に富む。本町にはまた大胡小學校、大胡郵便局、前橋區裁判所出張所、穀物検査所出張所、銀行支店、會社その他商店

工場等多く、町内の社寺は神社一、寺院十二を数へるの現勢である。

上川淵村

兩毛線駒形驛に近いところ、前橋市から約一キロの地點に位し、大字朝倉、後閑、樗島、下佐島、上佐島、宮地の六部落から成り、村民は、概ね半農半商である。古くは朝倉郷といはれ、群馬縣驛家の郷の南東に隣り、鞆田郷の北に當り、當時は下川淵村の地を含めて朝倉郷といつた。戸數五百八十、人口約四千人である。昔、實正の渡しと云ひ、前橋藩で守備した利根川の渡は字六供にある。更に前橋と朝倉の間、天川原に双兒山がある。小丘は駱駝の背の如く東西に長い上代の古塚で、双兒山の北寄りに懷塚あり、往年石棺を發掘したことがある。

下川淵村

前橋市を去る一キロ半、利根川畔に在し、大字三公田、房丸、横手、徳丸、龜里、下河内、力丸、新堀、鶴光路の九部落に分れ、戸數千九百餘、人口八千五百人をかぞへ、會ては上川淵村と共に朝倉郷と呼ばれ、村民の生業は多く半農と半漁で、産物には米と麥が取れ、魚類の産も少ない。村には下川淵尋常高等小學校がある、施設よく整ひ、兒童學業成績は頗る良好である。字鶴光路は佐島の南で、前橋市より玉村町に至る縣道がこゝを通る。鶴光路とは元は寺院號であつた。また公田は古代田制の一區劃をなしたところと覺しく、力丸は後上野誌によれば、那波の一族、日向守廣向、貞治六年これに移居して氏を力丸と改め、力丸城に據つた。その後裔たる力丸佐介は天正十八年に死歿の記録が残つてゐる。

南橋村

本郡の群馬郡と境を接するところに在り、越南線は群馬郡澁川驛をつくり、伊香保行の電車は村の西端を走つてゐる。昔は時澤郷と呼ばれ、早くより文化の開發せられた土地である。當村は大字北代田、日輪寺、下細井、川端、青柳、下小出、龍藏寺、上小出、上細井、荒牧、田口、川原、關根の十三部落より成り、産物は米、麥、甘藷、繭を主とする。大字田口には橋山があり、傳説によれば、觀應年中、上杉民部大夫憲顯が橋山に在城し、これを根城となしたものだといはれてゐる。關根は夏目藏人介が、上杉家を退去の後、石岡兵庫を殺したところ、荒牧は永正六年紀行に荒牧和泉入道の宿所たりしと記されてゐる。荒牧東北の日輪寺は樓門殊に壯麗を極めてゐるが、このあたりは昔は伊勢神領であつたといはれ、頗る名所舊蹟に富んでゐる。

北橋村

南橋村の南に隣り、鐵道越南線澁川驛に隣接し、八崎、眞壁、上南室、下南室分郷八崎、小室、箱田、下箱田、上箱田の諸部落に分れ、戸數一千有餘、人口六千六百人を突破し、甘藷、麥、繭、米を主産とする。和名抄によれば、昔は勢多郡眞壁郷たりしところ、八崎は利根川を阻みて白井、澁川と相對し、不動城趾がある。双林寺昌賢影像記には發崎に作り、長尾左衛門尉伊玄が據つたところ、永正六年伊玄は越後の長尾爲景と心を協せて山内殿に背いた。大字箱田は利根川に臨み、前橋澁川間の要路に當り、箱田の木曾神社は、俗説あれど荒誕を免れずその溪流は年魚を名産となし、噴泉飛瀑の清幽ありて、湧玉の溪または玉簾瀧の雅名を命ぜられ、その神祠を瀧三社とも云ふ。なほ附近には古蹟が少なく、常に

横野村

利根川の東岸、赤城西南の山麓に地を占め、大字北上野、持柏木、勝保澤、溝呂木、宮田、瀧澤、三原田、見立、上三原田、澤樽の十部落より成り、戸數約九百五十、人口五千五百をかぞへる。村民の生業は概ね農で、その主要産物は甘藷である。縣道は敷島驛に通じて交通の便は良好である。大字溝呂木は津久田の南で、利根川の東岸に在り、村家田宅は高原の上に散在し、古の沼尾牧野であつた。三原田は御牧で、牧中の田の義であらう。大字宮田は山吹日記に「宮田村南向院什物、烏帽子被たる藁人形、永正八年十二月一日、狛犬、文明六年九月十九日、不動山の麓に熊野三島の社あり、石燈籠、嘉吉三年云々」とある。村内には横野尋常高等小

敷島村

上越南線敷島驛のあるところで、大字津久田、猫、赤城山御料地、長井、小川田、棚下、深山の六部落に分れ、戸數千二百餘人口六千二百餘人を算し、村内主産物は花百合と甘藷を以て第一とする。大字棚下は赤城山の西、利根川の峡谷中にあつて、南雲山あり、數峰相連り、山頂は廣平、縦横二里餘、百原といふ。民家はその北溪の中に在る。加澤記には「天正十年六月下旬、長尾領分、津久田猫の要害には長尾一井齋の家臣、牧和泉守、樽の要害には子息彌六郎立籠りければ沼田の矢澤頼綱下知あつて押寄せたりしも、敗北して南雲の澤邊に傳ひ落ちたり云々」と出てゐる。村内には小學校、郵便局、會社銀行支店等がある。

杖を曳くもの絶えることがない。

學校のほか銀行支店、電氣會社等あり、各種團體もよく組織されてゐる。

富士見村

前橋市より北へ一キロ、赤城山の西南麓に位する村にして、大字小暮、時澤、皆澤新田、横芝、原之郷、田島、引田、漆窪、米野、石井、小澤新田、山田、市之木場、横室、赤城山御料地より成り、戸數一千七百有餘をかぞへ、主要産物に米、繭、製糸、甘藷等がある。

昔は南櫻村と共に時澤郷と呼ばれた。時澤川は白川とも稱し、赤城山地蔵岳に發する溪流で、桃木川に注いでゐる。米野は箱田の東に在りて、菅窺武鑑に「天正十年瀧川勢は厩橋より新巻へ出で米野の臺へ押上げ、長井坂を越えて沼田城へ攻め寄す」とあるはこの地である。小暮は赤城山西麓の村里、赤城山へ登るには小暮より東北に攀登し五里ばかりにして神廟に至るを得る。

富士見尋常高等小學校と他二小學校あり、また小暮郵便局、種馬場、郷社赤城

神社等を有し、その名勝としては赤城山の高山植物、赤城つゞじ、スキー場などがある。

芳賀村

本村は富士見村の南東につゞき、大胡町より赤城山の裾野を経て小暮箱田へ至る縣道は本村大字小坂子を貫き、交通の便益尠なからざるものがある。村は大字端氣、小神明、五代、鳥取、勝澤、嶺、小坂子、赤城山御料地の八部落から成り戸數約八百、人口五千百人を算し、産物は富士見村と大差がない。

本村は往昔芳賀郷と稱されたところで和名抄には勢多郡芳賀郡訓波加とある。大字鳥取には勢多郡從三位鳥取神社があり、端氣は赤城山の南麓に在りて前橋市を去ること東北へ一里の地點に當る。古刹善勝寺がある。小學校は芳賀、嶺の二校を有し、共に郷土に即した教育を施してゐる。

桂萱村

前橋市と大胡町の中間に位し、縣道通じて交通の便よく、大字上泉、石關、龜泉、西片貝、幸塚、堤、下沖、荻窪、堀之下、三俣、東片貝、江木、上沖の十三部落より成り、戸數約千三百三十戸、人口約九千人を數へる。桂萱尋常高等小學校、縣立勢多農校學校があり、教育思想の普及他に比して徹底してゐる。

本村主要産物には米、甘藷、梨、蠶糸類がある。

昔は桂萱郷と呼んだ。大字上泉は片貝と端氣の間にあり、桃木川が左邊を流れ關八州古戦録によると「弘治元年北條氏康上州へ發向、厩橋に在城、沼田倉内の城代猪俣能登守則直に上泉を攻めさす。城主大胡武藏守信綱、寡を以て衆に敵し難く、一旦の害を脱せんとや思ひけん、和を乞ふて北條に降る。上杉輝虎、時に平井に在り、大胡武藏等が、密使により

云々」と出てゐるは當地のことである。

木瀬村

本村は兩毛線の一驛たる駒形驛のあるところで、大字小屋原、下大島、上長磯、女屋、上増田、駒形、野中、天川大島、上大島、下長磯、下増田、筑井、小島田、東上野等の部落に分れ、戸數約千八百戸、人口一萬人を越える。

鐵道は縣道に沿ひて走り、交通至便である。産業は農商相半し、主要産物には米甘藷、繭等がある。

大字駒形は前橋市の東南二里に當り、上廣瀬川と桃木川の交會點にして、駒形驛は新田と稱し近世の開拓に係り、元は廣瀬川と白川の交會地で、不毛の荒野であつたが、伊勢崎境町への往來に當り、前橋酒井家の時、驛家を定められたのである。

駒形明神の祠宮がある。大島は駒形と前橋天川町の中間で、長磯と相隣り梨の

栽培を以て著はる。

荒口村

郡の南端、木瀬村の東に在り、大字荒子、今井、新井、下大屋、荒口、東大室、二ノ宮、飯土井、富田、泉澤、西大室の諸部落から成り、戸數約千四百戸、人口八千五百人を越える。村民の生業は概ね農桑の業で、産物の主なるものは米と甘藷である。

荒砥川は北より來りて村内大字富田を流れてゐる。

富田の南には溝渠の址がある。この址は西方上泉の方より起り、岡陵溪谷を横斷して東に馳せ、荒口、二宮、飯土井を經、佐波郡波志沼の北を過ぎて粕川に及んでゐる。大字二宮は増田の北で、赤城神廟がある。南方傳記に「康正元年十一月、千葉小山成氏と一味し、上野國二宮に蜂起すとあるは此處歟」と出てゐる。また郷社二宮赤城神社、村社産泰神社

等がある。

宮城村

本村は赤城山の南麓に在り、鼻毛石、市ノ關、三夜澤、苗ヶ島、柏倉、馬場、大前田の七大字より成り、戸數約一千戸、人口約六千人を算し、大胡町から來た縣道は村内を貫いて交通の便よく、産物は米麥を以て主とする。

村内には縣社赤城神社がある。山中の湖畔にあるを本宮とし、南麓三夜澤にあるを里宮とする。別宮は地藏岳に在りて大己貴命を祀つてゐる。

赤城山は、榛名によく似た二重火山で荒山、鉞柄峠、鳥居峠等をつらねる外輪山があつて、その一部分に黒檜山、長七郎山等が高く聳え赤城大沼の火口原湖がある。

その登山の便利は到底榛名のやうではないが、俗塵を去ること一層遠く、特にその火口湖たる大沼湖畔の閑靜に至つて

は上毛三山中こゝを第一に推さねばなら
ない。 大字名に残つた。

粕川村

郡の東部、大胡町より大間々町に至る
縣道の沿線に所在し、大字西田面、新屋
稻里、前皆戸、勝・室、上東田面、下東
田面、女淵、込皆戸、深津、一日市、中
月田等の部落より成り、村民の生業は概
ね農業で、また副業に養蠶が盛んに行は
れる。戸數約千二百、人口八千九百人を
有し、村内には粕川尋常高等小學校、月
田尋常小學校、銀行支店、水電會社等が
ある。

曾ては深渠郷と呼ばれたところで、和
名抄には、勢多郡深渠郷調布加無曾とあ
る。しかし中世に及んで深栖に訛り、保
元物語には上野國住人深栖七郎清國とい
ひ、盛衰記には、新田入道長井渡勢揃の
條、新田の一門、應護、大室、深栖一門
等を載せてゐる。後、更に深津となつて

新里村

山田郡大間々町に隣接し、行政区に大
字武井、野村、山上、板橋、鶴ヶ谷、大
久保、新川、小林、關村、奥澤、高泉の
十一部落があり、戸數約千七百七十、人口
六千九百人を算へ、村民は概ね農業を經
營して特に甘藷の産が多い。縣道には自
動車の往來が頻繁で交通の便よく、村内
には新里尋常高等小學校、醬油會社等あ
り、各種團體組合はいづれも事業成績優
秀である。

往昔は田邑郷の一部であつた。大字山
上は月田、田面の東北に續き赤城山の東
南麓に當り、前橋市を去ること、約三キ
ロ、關東古戦録に「弘治元年北條氏康、
猪俣能登守則直を以て山上城を攻め、山
上藤七郎氏秀は強梁の若武者で、能く防
ぎ戦ひて切抜け、行方知らず落ち失せり
云々」とある。山上城址は今山上西元町

に残つてゐる。

黒保根村

鐵道足尾線上神梅驛及び水沼驛のある
ところで交通の便よく、大字水沼、八木
原、下神梅、上神梅、宿廻、上田澤、下
田澤、鹽澤の八部落に分れ、村民は概ね
農を生業として米、麥、甘藷の産多いが
蠶糸類もまた少なくない。
戸數は千百戸弱、人口は六千三百有餘
をかぞへる。

往昔は大野郷に屬し、赤城山の東南麓
に位置し、黒檜山の下故に黒保根と稱し
たと謂ふ。大字宿廻は神梅の北、田澤と
共に渡良瀬川の右岸にありて深澤の城址
がある。愛久澤氏の據れるところで、管
窮武鑑に「天正六年、上州の諸城は北條
方となりつるに獨り深澤の城主深澤兵部
少輔定政は上野先方の士大將にて無二の
景勝方なり云々」と見えてゐる。また名
勝梨木鱈泉を有し、四季を通じて湯治客

に賑ひを呈してゐる。

東村

本村は渡良瀬川の上流、黒川谷のある
ところで、花尾線花輪驛、神土驛、澤入
驛は本村交通を輔けること多大である。
大字花輪、小中、萩原、草木、座間、小
夜戸、神戸、澤入の八大字より成り、東
尋常高等小學校ほか二校と、花輪郵便局
花輪警察署、前橋區裁判所出張所、電力
會社その他の會社商店等があつて、山間
ながら一邑をなしてゐる。戸數千四百戸
人口七千二百有餘人を算し、村民の生業
は農を主とするが、一部には商業が行は
れてゐる。産物は米、甘藷、木材を主要
なものとする。

黒川谷は足尾谷の南に連り、弘治の昔
勢多神梅の郷士たる愛久澤能登守が越兵
を支へたところと傳へられる。往時は大
野郷に屬し、木曾路より日光に至る要衝
であつた。

養蠶を誇る

群馬郡

本郡は天空を跳躍する駿馬の如く、上
野國の中央に位する縣下第一の大郡であ
る。東は利根川を隔て、前橋市及び勢多
佐波の二郡に境し、西は高崎市及び吾妻
碓氷の二郡に隣り、南は北甘樂郡及び多
野郡、北は利根郡及び吾妻郡に連つてゐ
る。東西八里八町、南北八里二十町、面
積二・九六七方里である。

地勢は北境に小野子、十二ヶ嶽聳え、
山岳丘陵處々に起伏して一般に傾斜地を
なし、西北部には榛名山を始め掃部嶽、
榛名富士、相馬ヶ嶽、天神嶺など連亘す
る。中部地方は西に漸時高く岳陵多くし
て山林繁茂し、東部は低地にして人家や
耕地が多い。また西には榛名山脈が走つ
てゐる。

本郡養蠶業は縣下隨一たるばかりでな

く、先進國として他府縣に誇るに足るも
のがある。林産は郡北の山地及び榛名一
帯に盛んで、畜産は往時には相當旺盛で
あつたが中世に稍や衰へ、最近はまだ復
興の氣運が著るしい。製糸業も非常に盛
大を極めてゐる。

群馬は古くはクルマと稱し、和名抄に
は久留末と註したが、後に宛字を音讀し
てグンマと呼ぶに至つた。中世には群馬
西郡、群馬東郡に分れたが、後ち合して
一となり、和銅元年元總社村附近に國府
が置かれてから上野國政教の中樞となつ
たのである。

行政区劃は七町二十八ヶ村に分れ、町
村名は次の通りである。

町 總社、金古、倉賀野、澁川、伊香保
室田、箕輪

村 佐野、岩鼻、大類、澁川、京ヶ島、
東、元總社、新高尾、中川、六郷、長野
久留馬、倉田、車郷、相馬、上郊、堤ヶ
岡、長尾、白郷井、小野上、國府、清里
駒寄、古卷、明治、桃井、豊秋、金鳥

倉賀野町

郡の東南端、烏川の沿岸に位し、榛名山麓遠く東南に延び、武蔵野にも似た風景を展開してゐる。中山道は町を東西に貫き、人家を穿つらねて商業を営むが、住民の生業として最も盛大なのは養蠶業である。戸数約八百五十戸、人口四千二百餘人をかぞへ、高崎線の沿線にして倉賀野驛を置き、倉賀野郵便局、倉賀野尋常高等小學校、倉賀野神社等のほか、銀行支店、製藥會社等がある。

中古、宮原莊に屬し、倉賀野名は群馬之野の義にして、古はこのあたり一帯が原野で、群馬の野末であつたため、野の遺稱がある。また慶長の頃は倉金とも稱した。治承文治の頃、兒玉黨秩父行高の子高俊、倉賀野氏と稱して來據した。後瀧川一益に至つて北條氏に屬し、明治までは高崎領であつた。いま宇城の烏川のぞんで倉賀野城址がある。

室田町

土地肥沃にして農耕養蠶の業早くより發達し、製糸また旺んで、下室田には商家軒をつらね、毎月市を開いて人を呼んでゐる。また山間部には植林盛んで、薪炭の産が多い。戸数約千二百、人口六千七百を突破し、室田郵便局、穀物検査所出張所、高崎區裁判所出張所を置き、交通は信越線高崎驛より碓氷郡を経て八哩四分を乗合自動車が毎日往復して極めて便利である。

昔、傳教大師が「この山里は宮の内に田あるかと疑はる」といつたところより室田と稱したといはれ、また元は毛呂田または諸田と書き、國府官稅收監料等の地の相錯綜せしに起るともいふ。榛名公園をはじめ、瀧不動、湯殿山には都人士の杖を曳くもの多く、縣社榛名神社は近郷の名祠として著はれ、溪流よりは山椒魚の産あるを以て名高い。

箕輪町

郡の殆ど中央に位し、高崎、前橋の兩市へは共に三里、戸數約八百、人口四千七百を越え、舊城下の西明屋、上芝、矢原は商家軒を並べて市街の觀がある。箕輪郵便局、高崎區裁判所出張所、箕輪實業中學校、箕輪尋常高等小學校を置き、村社三、寺院八を數へる。また箕輪城址法峰寺春秋の景、大平の櫻、城見橋附近白川の河鹿、榛名神社等いづれも著名である。

劍聖上泉伊勢守秀綱及びその父武藏守信綱を出した勇武の譽れ高き地で、古くより群馬郡に屬し、青木の莊とも呼ばれた。大永年間長野業政箕輪城に據りて箕輪と稱し、後ち武田、織田、小田原北條氏に屬し、天正十年井伊直政箕輪城に入り慶長三年高崎に移るまで城下町として繁榮した。町制施行は大正十四年四月である。

總社町

本町は古くより政治の中心となつた名邑にして、豊城入彦當國に下り、國府を創置してよりその治下となり、降つて觀應二年の頃、長尾忠房この地に總社城を築き、諏訪頼忠を経て秋元長朝の時、慶長六年民家に始めて町屋を立て、同十五年に完成して總社町と稱した。郡の東部利根川に臨み形状は武裝した兵士のやうである。

養蠶業は本町の主産業をなし、區民の生命線であり、西北部に桑園が多い。町には蠶業試験場總社支場もある。農業もまた盛んで、南部一帯に水田よくひらけ米穀、蔬菜を産し、最近商家の激増したのも目立つ現象である。上越南線群馬總社驛の所在地で、學校に總社尋常高等小學校がある。社寺には總社神社外村社三光嚴寺ほか寺院四を有し、石倉城址、勝山城址、總社城址、楡田城址、八日市場

城址、國分尼寺址、王屋敷、二子山等の古蹟が多い。

金古町

三國街道に沿ふ郡中央部の小郡邑にして、高崎市及び前橋市へは共に二里の地點にあり、北方には人家連り、戸數約五百五十戸、人口三千二百餘人を算へる。住民は大部分農業に従事し、半農半商のものこれに次ぎ、殊に養蠶業は町經濟の根本をなすといはれるほど盛大を極めてゐる。金古郵便局、高崎區裁判所出張所、穀物検査所出張所を置き、銀行支店、農蠶具會社等もあり、學校には金古尋常高等小學校を有し、施設訓練共に良好の成績を示してゐる。また社寺は村社二、寺院二をかぞへる。

もと井伊直政、下島甚左衛門の所領地で、寛永三年、大字金古驛は旗下三氏に分領され、正徳二年に代官岡田庄太夫の所轄となつて、享保十六年より土岐山城

守の世襲するところとなり、明治維新に及んだ。

澁川町

郡内で最も文化の進んだ謂はゞ都會地であり、また郡内隨一の商業地である。最近人口の増加と上越南線その他電鐵の開通により著るしく擡頭し、戸數約二千四百、人口一萬三千二百を突破の現況にある。郡北の生産物は悉く本町に集りこれを他に搬出して所謂商業の中心をなし、従つて商家頗る多く、工業これに次ぐ。銀行會社等の町内に事務所を有するもの十指に餘り、官衙には澁川警察署、澁川郵便局、前橋區裁判所出張所、穀物検査所出張所があり、更に縣立澁川中學校、縣立澁川高等女學校、澁川尋常高等小學校がある。社寺には村社一、眞光寺ほか寺院四をかぞへ、利根の清流遙かに赤城を望む澁川公園、梅櫻と賑ふ芝中公園八幡の櫻、眞光寺の枝垂櫻は近郷に聞

え城の址、駒形山月藏院、伴松庵は昔の香りが高い。

伊香保町

文豪徳富蘆花氏の「不如歸」によつてその名を傳へられた本町が、温泉地として有名なのは喋々するまでもない。温泉は垂仁天皇の頃に発見されたといひ、源泉は南の南方八町、上の山の谿間にあつて、竈で各浴室に導いてゐる。泉質は酸性で、浴室その他の設備よく、近代的なホテルが多く、外人の來遊も頗る多い。伊香保八景を始め、八千代園、二ツ岳附近の櫻、辨天の瀧、大瀧、船尾の瀧、水澤觀音、ガラメキ鍍泉、伊香保沼、伊香保富士等の名勝は絶好の行樂地である。町は郡の西北、榛名山の中腹に位し、東武鐵道伊香保驛がある。町の由來は垂仁天皇の頃であつたことは疑ひなく、延喜元年より伊香保神社領となり、更に上杉憲實、長尾氏七代、内藤昌豊、瀧川一

益、長尾景政、井伊直政、水野元綱等に歴屬した。

佐野村

郡の南端に位し、西北は高崎市に接し戸數凡そ七百五十、人口四千六百をかぞへる。

月かげに空飛ぶ雁のかすみへて
ながめにたてる佐野の船橋

夫木集にあるこの歌の船橋の古蹟は今に傳はり、また本村には謡曲「鉢の木」で名高い佐野源左衛門常世が住んだといふ舊趾もあり、その他放光寺の古蹟、勝塚、茶白山の下之城址等の舊蹟ありて本村の歴史的價値を高めてゐる。

住民の大部分は農業を營み、商工業は數ふるに足らず、藪のほか米、麥、茄子等の産出が多い。學校には佐野尋常高等小學校があり、村社五、寺院九をかぞへる。古くは高崎藩領であつたが、廢藩置縣後は北第五大區となり、明治二十二年

現在の和田多中ほか七大字を以て佐野村と稱した。

岩鼻村

郡の東南部に位置し、戸數約七百五十人口四千餘人をかぞへ、生産は農蠶業を主とし、商業これに次ぎ、工業を營む者も尠くない。村社には岩鼻火藥製造所及び岩鼻輕便鐵道會社があり、學校に岩鼻尋常高等小學校を有し、村社六、寺院六をかぞへる。

春は堤上に咲き亂る、櫻の花、夏は橋上に涼風を納れ小舟を浮べては漁獵に興じ、南方遙かに秩父の山々を眺め、西は妙義の奇巖屹立し、後方には淺間の白煙たなびき、北方よりは赤城、榛名の雄姿連々として聳ゆる、烏川の清流に架した柳瀬橋は本村唯一の名勝である。天文より永祿の頃までは平井城主上杉憲政の領に屬し、後、松平重邦、井伊直政、酒井氏を経て代官伊奈氏の支配となり明治維

新に及んだ。

大類村

郡の東南部に位し、北は猪野川に臨んでゐる。土地平坦畑畑大部分を占め、耕地は水田六分に畑四分の割合で、稲作は主要作物中の大宗で裏作に麥の栽培をなし、畑地は桑園が多く、本村經濟上より見れば農蠶業が最も重要な地位を占め副業に養鶏、養豚が盛んである。

學校に大類尋常高等小學校を有し、設備完全、また村社四、寺院五がある。平治の頃、本村に大類行義、その子行定等が住居したと傳へ、村名はそれに出たものであらう。元は六大字のうち中大類を除いては高崎城附五萬石の内といひ慶長の頃より井伊直政、酒井家次、安藤重信、松平右京太夫に歴屬した。中大類は吉井二萬石の領内で、慶長の頃、菅沼正家に歸し、寶曆年間より松平領となつたもの。

瀧川村

郡の東南隅に位して戸數六百二十餘、人口四千餘人を擁し、土地豊沃にして農作物豊富で、また桑園に好適し、養蠶業が盛んに行はれる。瀧川尋常小學校は熱心なる職員指導により、兒童學業成績良好を極める。社寺に村社九、寺院五あり、慈眼寺の櫻は少將櫻とも稱し近郷に名高い。

人の住む限りは不二の裾野かな
と詠んだ正風俳諧の中興羽島半海は本村が生んだ雅人である。その昔、關東に武名を馳せた瀧川一益の主領地なりしにより瀧川村と名づけたもので、西横手は天正十八年既橋城主となり、その他、宿横手、下瀧、坂井、下齊田、八幡原、貫等も領主或は代官の支配下に屬した。

京ヶ島村

郡の東南部、利根川に臨む村落で、土地極めて平坦、地味肥え、田畑多くしてその間に宅地が点在し、近年は到るところ桑園の數を増し、良藪の産地として驚異的發展を示してゐる。戸數約五百五十戸、人口約三千二百人を有し、人情は質實、村民は一般に勤儉愛汗の精神に富んでゐる。

東村

小學校は二校あり、共に高等科を併設し諸施設宜敷を得て學業成績見るべきものがある。村社は六、寺院も六をかぞへる。抑々本村は七大字より成り、その内京目と島野は元赤坂庄に屬し、萩原及び大津は青木庄總社郷と稱したところで、元島名は赤坂庄島名郷と呼ばれ、八阪と西島は八阪庄に屬した。村内には古城址がある。

前橋市に接し、利根川の右岸に位し、關東平野の一部で、土地は全く平坦であ

る。北方には赤城、榛名の雄姿を望み、東には坂東太郎の清流を控へ、村内頗る風光に富んでゐる。地味肥沃で氣候温和桑樹茂つて村民は殆ど全部が養蠶業を営み、江田、古市は早くより養蠶組合を組織して斯業の堅實な發展に盡すところ多く、成績優秀の廉を以て日本蠶糸會より表彰されたことがある。また最近はお前橋市の發展につれ、副業として蔬菜の栽培が盛んである。戸數約六百五十、人口三千八百余人を算し、東尋常高等小學校、は村社一〇、寺院四がある。

元總社村

東に利根川を隔て、前橋市に相對し、農商相共に榮え、蒼海城址、平將門の古戰場、大渡關所址、國府廳の舊跡、諏訪

氏屋敷跡等が残つてゐる。

今の大字元總社は、古くは蒼海と稱し上毛野氏が代々居住したといふ。和名抄の久留馬郷はこの邊一帯の總稱である。和銅元年に上野國司を任命し、司廳を置いて國府または府中と稱した。鎌倉時代の青木庄高井郷はほゞ昔の久留馬郷にあたる。足利時代の初期に長尾忠房がこゝに蒼海城を築き、地名を總社と改めたが諏訪頼忠の次に秋元長朝來り、今の總社町大字植野に新しく城池を設け、本村を移し、町屋を建て、總社と稱したので、舊府邑は元總社と呼ぶに至つた。しかし俗に今なほ當地を總社、總社町を植野總社と呼んでゐる。

新高尾村

前橋市と高崎市のほゞ中央に位し、縣道に跨り、郡の中央部より稍や東南に位置してゐる。按摩業者で知らぬ人なき三吉野檢校は當村の人である。また蠶絲の

産地として知られ、全村殆ど農蠶業者で米穀の産も尠なくない。戸數約五百五十戸、人口三千六百有余人をかぞへ、新高尾尋常高等小學校は出席歩合頗る良好にて他校の範となり、神社六、寺院七があり、蜘蛛の巢池は、むかし一夜にして二町四面に蜘蛛の巢を張つたといふ傳説で知られてゐる。

中川村

本村は舊幕府時代慶長九年に高崎城主酒井左衛門尉の所領となり、松平丹波守同伊豆守、安藤對馬守、松平右京大夫、間部越前守を経て再び松平右京大夫の領地となり、明治維新に及んだ。

營むもの多く、商工業は盛んとは稱し難い。學校には、中川尋常高等小學校を有し、村社五、寺院四がある。名所舊蹟には見るべきものないが、大字濱尻には天皇山と呼ぶところに石墳があり、大正天皇の御野立所である。

六郷村

高崎市の北に接し、郡の南部、烏川の左岸に位する。土地平坦にして見渡す限りの耕地續き、全村殆ど田と畑の觀があり、人家はその間に散在する。随つて住民は農を以て生業の第一とし、養蠶業がこれに亞いでゐる。殊に養蠶は大正末期頃から發展の跡著るしく、農家にして斯業に従はざるもの殆どなく、收購高も頗

る高額に上つてゐる。機業は、工場組織に於てよりもむしろ家内工業として發達し、多量の生糸が移出される。しかし商業は市街地に迄接するため見るべきものがない。戸數約六百戸、人口三千五百人を越え、村内には六郷尋常高等小學校、天龍護國寺、村社六、寺院五があり、古蹟として上杉榎壘址、鏡ヶ池、長池及び稻荷山、愛宕山、天神宮、不動瀧の護國鎮護の四社がある。

長野村

郡の南部に位し、高崎市の西北一里半の地にあたり、三國街道の西約一里である戸數凡そ六百三十戸、人口三千八百餘人に上り、一般に農業及び養蠶業に従事してゐる。學校は長野尋常高等小學校を有し、實績顯著なるものあり、村社八、寺院五の社寺がある。また村内には矢島久右衛門の城址、北爪土佐守の城址などがある。

久留馬村

郡の西部に位し、戸數約七百五十戸、人口四千四百餘人を算し、大部分は農蠶の業に従ひ、女子の製糸に従事する數も多い。久留馬尋常高等小學校、村社七、寺院七があり、權現陵、大塚の古墳がある。夫木集に、

都よりかへりくるまの里人は
ひとれ川をや渡らざるらん
とあるはこの地のことなりといはれ、和名抄に久留馬郷とある所である。
大永の頃箕輪城主長野氏に屬し、更に

内藤昌豊、瀧川一益、北條氏直、井伊直政、天領、板倉内膳正の所領を経て、天和の頃より酒井越前守領となり明治に至つた。明治十七年、高濱、本郷、白岩、宮澤、十文字、神戸、三ツ子澤の七ヶ村聯合となり、同二十二年合併して久留米村となつた。

倉田村

郡の西北隅に在り、西南には烏川流れ東北より南にかけて榛名山脈が迫つてゐる。戸數約七百五十戸、人口約四千人を有し、林業を主とし、傍ら農を行ひ、近年は副業に養蠶が盛んに行はれるやうになつた。小學校は三ノ倉、權田の二校ありて共に高等科を併設し、なほ村内には三ノ倉郵便局、高崎區裁判所出張所を置き、村社二、寺院三がある。夫婦石、劍磨石、立石、鳴石、動石の所謂權田の五名石の所在地として知られ、大字三ノ倉は昔御藏と稱し、後、誤つて三ツ倉とな

つたもので、豊城入彦命が本村に貢の藏を建て、御藏と稱すと口碑にも傳へてゐる。大字權田はもと近田、または譽田村といひ、後、權田村となつた。明治二十二年兩村を合せて倉田村と改め、權田、淡路守の居た古城址、小栗忠順の計畫した觀音山城址が残つてゐる。

車郷村

白川を隔て、箕輪町に對し、北部一帯は榛名山の一部で、山岳重つて土地高く南部のみ稍や低地をなしてゐる。戸數約四百五十、人口二千九百をかぞへ、産業は農蠶業を以て第一位とする。學校には車郷尋常高等小學校を有し、村社四、寺院三がある。村名は往古の久留馬郷に因んだものである。自治制施行の際、善地、富岡、和田山、白川の舊四ヶ村を合して一村となつたもので、大字富岡に役場があり、古くは業政の弟たる長野直業が居たといふ

下屋館殿の遺蹟が残つてゐる。白川岩跡は大字白川にあり、大永の頃、白川滿勝が白川岩を築いた跡といふ。そのほか村内には治尾牧の遺蹟、治尾泉、和田義國の邸址、酒井大和守の白川陣屋跡などがある。

相馬村

相馬山の南の麓一帯を占め、染谷川の水源地にして、郡の中央に在り、箕輪、室田、伊香保の各町に接し、戸數約五百戸、人口三千六百人をかぞへ、住民は農を主業とし、養蠶は本村の生命をなし、關東に稀なる緬羊地である。村内に相馬組製糸場があり、また相馬尋常高等小學校、村社四、寺院四がある。村名は相馬山に因んで付けられ、大字柏木澤、廣馬場より成る。所謂相馬ヶ原は陸軍の演習地で、方數里の大平原には朝に夕に砲銃聲の股々たる響きが絶えない。更に南麓の我樂目嬉

温泉は、昔より効顯著るしき温泉として名高く、一望に富嶽を望見して風光明媚四時浴客の絶間がない。村の中央にもまた旭龜泉があつて、遠近より來る客が多い。更に相馬ヶ原の北端は櫻の名所として知られる。

上郊村

榛名山の南麓に位し、郡の中央より稍や南寄りの地を占める。高崎相馬線と箕輪前橋線の二縣道村内を貫き自動車を通じ交通の便良好である。戸數約五百六十戸、人口三千六百人を擁し、生業の主なるものは農業にして、米、麥、蕎麥は主要産物をなし、その他豆類、蔬菜類の栽培行はれ養豚も盛んである。學校には上郊尋常高等小學校があり、村立圖書館を備へ、社寺は村社三、寺院五を數へる。古記録に依れば、本村一帯の地は古くは青木庄と稱し、箕輪村の一部落で、内藤大和守の領地であつた。大字井手は、景行

天皇御巡狩の際、榛野に駐駕し給ひ、嵯峨八坂の土手下より涌く清泉を得て井堤大明神を建て給ひ、これにより村名を井手と稱し、井伊氏を經、松平氏百五十六年間の領土であつた。

堤ヶ岡村

金古町に隣り、郡のほぼ中央に位する本村は、高崎市より北へ一里、三國街道に跨り、自動車、電車の便がある。戸數約六百六十、人口四千を擁し、村民の生計は専ら養蠶業を以て立ち、水田は全く天水場にして水源なく旱魃に遭へば七十町は草原と化する有様である。米麥蔬菜も重要ならず、女子の副業に絹布の産があり碓氷社に屬する製糸工場二がある。學校は堤ヶ岡尋常高等小學校を有し、村社五、寺院五があり、石塚と呼ぶ古墳の中央には甕に靈驗ありといふ虎薬師がある。古くは青木庄長野郷に屬した地で、豊城入彦命の治下にあり、後、田口朝臣

益人に屬し、親王の任國となり、更に安達、上杉氏の守護地に移り、長野、井伊酒井氏を經て高崎領となり明治維新に及んだ。

國府村

郡の東部に位し、戸數約四百二十戸、人口約三千人を有し、農業頗る盛んで、全村に互る桑園は養蠶の業隆昌なるを語らずして示してゐる。蠶種製造家のごときは、郡内全體の三分の一を占めるといふ。國府尋常高等小學校、村社六、寺院二があり、妙見堂と染谷川一帯の妙見の櫻は近郷に名高く、聖武天皇の御創建になるといふ星山妙見寺は花園に舊址あり同じく國分寺址は大字東國分にある。王朝時代の國衙の地で、崇神天皇の皇子豐城入彦命より十四世の治下にして、和銅元年、國司田口朝臣益人の直轄となり、更に安達、上杉、長尾、武田、北條の諸氏に領せられ、徳川時代には總社城

主領、高崎領、代官支配等を受けた。現在引間、塚田、東國分、西國分ほか四大字より成る。

清里村

地形南北に長く、三國街道に沿ひ、郡の中央に位する、本村は地勢概して平坦、農蠶を主とし、耕地の大半は桑園で占め、養蠶は本村經濟を左右するものである。工業は女子の副業として製糸と製織、男子には藁細工あり、街道に沿ふて商家が並んでゐる。戸數四百戸、人口二千五百人に近く、學校に清里尋常高等小學校があり、村社五、寺院三をかぞへる。大字野良犬は天正十八年より箕輪城主に屬し、後、安中城主、幕府代官、旗本等に歴屬し、文久より關東郡代の所管となつた。池端は箕輪城主、高崎城主、代官を経て、元祿十一年より幕府旗本領となり、また上青梨子は厩橋領、青梨子は代官、總社城主を経て、明和元年より沼

田領に屬した。

駒寄村

本村は利根川に沿ふ裕福な農村で、對岸には前橋市を控へ、南は總社町に隣り、本郡中部地方の東北部を占める。戸數約六百五十、人口三千七百餘にのぼり、土地概して平坦で地味肥沃、住民の三分の二以上は農蠶の業に従ひ、繭、生絲、米、麥等を主要産物とする。學校は駒寄尋常高等小學校があり、施設の整備せる點他に誇るに足り、社寺は村社二、寺院三がある。

大久保は古く、青木庄高井郷に屬し、平治年間大窪太郎なるものが住み、舊大久保村の開祖となつた。永祿三年、室田城の没落後その臣十二人で漆原に來り開拓し、これを十二祀といふ。漆原は桃井庄長岡郷に屬したところである。村内古墳に十石塚、女塚あり、開拓の古きを忍ばしめるに足る。

古卷村

郡の東北に位し、上越南線及び電氣鐵道が通じて交通の便がよい。戸數七百餘人口四千二百人をかぞへ、その大多數は農蠶の業に従事し、商業を營む者はまれである。

學校は古卷尋常高等小學校があり、愛汗主義による郷土教育が、殊に徹底してゐる。

村社二、寺院は六である。

上毛や田でもおそき有明の
かげ見ぬ月の末の駒引

の古歌で名高い大字有馬は延喜式にある有馬牧の地で、昔こゝで貢上の馬を品定めしたといふ。古くは阿里馬公この地を開拓し、有馬郷を開いたといひ傳へられてゐる。

大字半田は元畔村と稱し、奈良朝の頃より半田と改め、今、比企藤太郎が據つたといふ劍城の遺跡がのこつてゐる。

明治村

本村は淺間ヶ嶽が利根河岸に迫る中腹にあり、戸數八百餘、人口四千四百を超え、大部分は農業及び養蠶の業を營み、三國街道に沿ふて商家も點在する。村内には明治尋常高等小學校、村社五、寺院五があり、桃井城址、桃井池、釜屋山西方院無量寺跡、不動尊址、桃井館、一里塚等の古蹟がある。また船尾瀧南方一帯の地は船尾九十九谷と稱し、太古の阿蘇山つゞらにして、遙か關東平野を瞰下す雄大なる景色が開けてゐる。谷の數九十九、いま一つあれば天下無比の靈場となつたが、相馬ヶ嶽天狗が榛名富士をつくり遂げなかつた恨みでこれを匿し、船尾瀧を鬼門に向けたといふ傳説が、未だに残つてゐる。

小倉、上野田、北下、南下の舊五ヶ村より成り、明治の年號に因み明治村と稱した。

桃井村

榛名山の東麓、郡のほぼ中央に位し、土地豊饒にして水利に富み、米麥その他の穀類、蔬菜等の産出多く、殊に大根の産地として有名である。また養蠶業が盛んに行はれ、收購及び生絲の産多く、林地には植林事業が極めて旺んでゐる。戸數約六百八十、人口四千三百人をかぞへ、教育機關には桃井尋常高等小學校、青年學校、村立圖書館があり、社寺は神社四、寺院四がある。

大字山子田は豊城入彦命が國守となつてより幾多の變遷を経、弘化四年より慶應三年まで松平左兵衛、明治元年より二年まで吉井鐵丸の領地であつた。大字新井は正徳元年より公卿堀川大輔の領であつた。なほ村内には桃井城址がある。

豊秋村

澁川、伊香保の兩町に接し、上越南線及び伊香保電鐵は村内を通過して交通至便の村である。戸數約五百七十戸、人口約三千四百人をかぞへ、村内は田畑多く農業に適し、且つ山林に富み、住民は農業及び林業を主とし僅かながら商工業に従ふものもある。學校は豊秋尋常高等小學校を有し、村社三、寺院三がある。

村内には有名なる清泉が多く、行幸田の苔の清水、巴水（萩原水）、石原の寶川等近郷に著れてゐる。また古城址、猪塚等の古蹟に富む。なほ本村は明治二十二年湯上、石原、中の三ヶ村を合して豊秋村となつたもので、同二十八年湯上を行幸田と改めて今日に至つた。

金島村

郡北に位して榛名山麓にあり、東北には吾妻川を控へ、南は澁川町、西は伊香保町に接してゐる。西南は丘陵起伏し、東北に漸次傾斜して田圃拓け、穀菜の栽

培に適する。戸數凡そ八百三十、人口四千七百を算し、大部分は農業に従事し、養蠶業また盛んに、數ヶ所の製糸工場があつて、常に數百の工女が製糸に従事してゐる。學校は金島尋常高等小學校があり、郷社甲波宿程神社の鎮座地で、ほかに村社三、寺院三をかぞへる。また奎の關の古跡がある。

五大字より成り、舊幕時代にはいづれも領主の變遷常ならざるものがあつた。

長尾村

郡の北部子持山の南麓に位し、東は利根川に臨み、戸數約八百、人口四千七百餘を擁し、村民の多くは農蠶業に従ひ、商工業を営む者は僅少に過ぎない。學校には長尾尋常高等小學校を備へ、社寺には村社四、双林寺ほか三ヶ寺がある。關東一の名將たる長尾景伸を始め、長尾氏がその勢力を振つた長尾城は、今、子持山の南麓に址を止め、魚漁の多きと風光

の美を兼ねたる白井築は利根川と吾妻川の合流點にあつて名高い。

むかしは本村を中心に白井庄と稱し、康元元年に上杉憲實この地を賜つて白井城を築いたところである。同年長尾景照入部し、天正十八年に滅亡、その後は本多、牧野、酒井、代官等に歴屬した。

白井村

戸數約八百、人口約四千七百を有し、土地肥沃ではないがよく農業に力を傾け養蠶盛んにして養鶏、養豚、林業を営む者多く、利根川の鮎は、本村の名産である。小學校には上白井、中郷の二校あり共に高等科を併設する。社寺に郷社子持神社、双林寺のほか村社一、寺院二がある。

綾戸の絶勝は白井郷耶馬溪の稱あり、所謂綾櫻トンネル附近は古の沼田街道で十八坂峠の東麓子持岳より利根岳に連るところで、仰げば奇岩萬丈の絶壁に白雲

絶間なく、瞰下せば坂東太郎の急潭巖を嚙むの絶景である。また丸石の築は利根肥大にして多獲なるを以て聞えてゐる。

小野上村

郡の西北端、小野子山の南麓に位置し戸數約四百八十、人口二千七百餘を有し生業は大部分が農蠶業で木炭、生糸、蠶糸類はその主産物である。學校に小野上尋常高等小學校があり、村社及び寺院各二を數へる。昔桓武天皇の皇子小野金善卿が北箱島即ち今の小野子に移住されてより、地名を小野郷と呼んだといふ。後小野子郷と稱し、更に承應三年小野子村と改めた。

上野國志に上州第一の佳景と折紙をつけられた古城臺と岩井堂附近の吾妻川にのぞむ絶景とは共に本村の誇りとするもの岩井堂は往古これを白井の關門とし支城を置いたところ、また赤城榛名を望み

利根吾妻を瞰下す如意庵の丘陵も縣下に開えた勝景である。

織物で鳴る

多野郡

わが多野郡は群馬縣の西南部にあり、東より南は埼玉縣に、西は長野縣に接し北は佐波、群馬兩郡に、西北一帯は北甘樂郡に隣する。地形は狭長で、東西約十一里あり、その面積は三四・五七方里である。

西南方面は山岳重疊、山脈概ね東西に連互してゐるが、東北部に至るに従つて低平となり所謂關東平野の一部をなす。西方御荷鉢岳は郡内最高の山岳で、標高實に一二八六米に達する。神流川は源を上野村に發して東流し、新町の近くで烏川に合流する。鍋川は北甘樂郡より來り烏川に入る。河川の多くは景趣にすぐれ神流川の三波石、鍋川支流たる鮎川の奇

岩等特に知られる。

烏、神流、鮎の流域は土地低平にして田畑よく開け、南部は地勢高燥にして山林原野が多い。本郡の水田は殆ど二毛作で、裏作には麥を栽培するのが普通である。畑地では大小麥、大小豆、青芋、粟甘藷、花百合、牛蒡の産が多い。養蠶は本郡民の主要産業で、専ら婦女がこれにあたる。更に絹織物の産も多く、藤岡絹高崎絹は夙に著名である。郡面積の約四分の三が林野で、用材、椎茸、樹皮、木炭の産あり、植林事業は將來非常に有望なりといふことが出来る。

明治二十九年、綠野、多胡、南甘樂の三郡を併せて新に設けられた郡で、綠野郡は和名抄に林原ほか十郷を載せ、多胡は山宗ほか六郷、南甘樂郡は貫前ほか十二郷に分れてゐた。現時、行政上次の如く五町十三ヶ村に區劃される。

町 新、藤岡、吉井、鬼石、萬場
村 小野、八幡、美土里、平野、美九里、三波川、神流、多胡、入野、白野、美原

中里、上野

藤岡町

利根川の支流たる神流川の合流點近くにあり、戸數二千百餘、人口九千四百餘人をかぞへ、多野郡第一の町邑である。

永享の昔、有田大舍人少屬定景がこゝに城を築き、菅田幸貴が據り、天正十八年にはその曾孫松平康寛が三萬石に封ぜられた舊城下町である。慶長以來は代官所が置かれた。明治二十二半、小林村を併せて今日の街衢を展開した。古來養蠶の盛んなところで、繭の集散市場であると共に生糸と瓦を主要産物としてゐる。

町内には藤岡尋常高等小學校、藤岡中學校、藤岡高等女學校、高山社蠶業學校裁縫女學校等の教育機關はあり、稅務署郵便局、警察署その他の官公署を置き、會社銀行等も多い。富士淺間神社は木花咲耶姫を祭神とする古社、蘆田城址は毎春競馬の行はれるところとして名高く、

その他應永塔、諏訪公園、浅間公園等の名所がある。

知られ、神流川の古戦場もまた本町内にある。泉、牡丹長者屋敷等の名所がある。

新 町

神流川が利根川に合流するところ近くに國鐵高崎線新町驛がある。驛は本町の表玄関で、戸數約千五百五十、人口八千八百を算へ、町は小さいが蠶糸業の本場だけに、鐘ヶ淵紡績工場、同製糸工場、片岡製糸工場、九十紡績工場、大資本の絹絲紡績工場を有し相當活氣ある町相を呈してゐる。

新町は町制實施の時に改めた町名で、元祿の昔は笛木新宿といひ、享保の頃は新町宿と稱したといふ。昔は金窪城主畑時能の領土であつたが、後、武田氏を経て天領となり明治維新に及んだ。町内には新町尋常高等小學校、青年學校があり、八幡宮、寶勝院ほか二社二ヶ寺があり、官公署には町役場、巡查駐在所、郵便局等を置く。明治天皇の御野立所はすでに

鬼 石 町

郡の東南部に位置し、秩父地方及び北甘樂方面への交通の要衝にあたり、戸數約九百、人口四千百餘をかぞへ、町は鬼石、淨法寺の二大字から成り、西方一帯は御荷鉾山の山脚を負ふて坂路が多い。産物は甘藷、馬鈴薯、生糸を主産物とし米麥等も少なくない。町内には鬼石、淨法寺各尋常高等小學校、青年學校、高崎區裁判所出張所、郵便局、巡查部長派出所、銀行支店、製材會社、製氷會社、多野郡木炭同業組合、信用組合甘樂社淨法寺組等がある。

地名を生んだ鬼石神社は、往古鬼石大明神と稱し、元祿十一年に正一位を授けられた古社である。また丹生神社、御倉御子神社、日枝神社等共に名高く、淨法寺は聖德太子草創の名刹、その他八鹽鐵

吉 井 町

郡の西北部、鑄川の右岸に位し、吉井氏一萬石の舊城下町で、大字吉井、下長根、長根、小棚、片山ほか四部落より成り、明治初年頃までは、吉井驛と呼ばれた。戸數千七百七十、人口七千餘を有し、特産として煙草、蓮華葉を出し、生糸その他の農産物があり、産業組合、衛生組合、納稅組合、火防組合、水利組合等がよく發達してゐる。町内には吉井尋常高等小學校、青年學校、專賣局支所、高崎區裁判所出張所、警察分署、郵便局、銀行支店、會社等がある。

多胡碑は大字池にあつて、須賀國造碑多賀城碑と共に日本三碑と稱され、また本郡山ノ上、金井驛兩碑と併せて上野三碑ともいはれる。吉井藩治址碑、皇太后皇后兩陛下御駐紮跡碑、吉井城址、古墳等の古蹟が多い。

萬 場 町

郡の南部、御荷鉾山の南麓、三波川の奇勝を眺める神流に沿ふて、上信の國境十國峠街道に跨る町で、戸數約千二百、人口五千八百餘を有し、大字柏木、麻生、生利、萬場、鹽澤ほか六部落より成り、御荷鉾山と秩父山麓との間に介在せる溪谷に人家點在し、産物は繭生糸を主としこれに亞ぐものは材木と木炭があり、紙と大豆の産も少なくない。町内には萬場尋常高等小學校、青年學校、凱旋記念圖書館、高崎區裁判所出張所、巡查出張所郵便局、銀行支店、甘樂社柏木組その他各種團體があり、名勝では瀧ノ澤、池の各種舊蹟では霧の城址、胴貫房、城山が知られる。

瀧ノ澤は御荷鉾山中にありて溪流奔轉遂に十丈の瀧をつくり、景勝いふべくもない。霧の城址は落武者の據つたところとして傳へられる。

神 流 村

神流川のほとりに位置し、岡之郷、下栗須、下戸塚、上戸塚の舊四ヶ村を合併して成り、元祿時代には酒井雅樂頭の領地であつた。天正十年六月、前橋城主瀧川一益と鉢形城主北條氏邦が戦つたといふ古戦場は村内にあり、胴塚稻荷、首塚八幡は瀧川勢の戦死者二千餘人を祀つた遺跡である。古戦場址にある旗神社は、瀧川氏が軍旗を建てたところと傳へられる。なほ水沼神社、水宮神社、稻荷神社、西勝寺、觀音寺、光蓮寺、水宮寺、眞樂寺等の古社古刹がある。

神流尋常高等小學校、青年學校は共に成績よく、農事實行組合、産業組合、養蠶組合等の發達大に睹るべきものがある

小 野 村

中山道お伊勢の森で知られた本村は、

八 幡 村

郡の北部、新町及び藤岡町に隣接し、戸數約七百戸、人口三千九百有餘人を擁し森村、立石、立石新田、中島ほか四大字より成り、舊幕時代には多く酒井雅樂頭の所領であつた。村内には栗須往還、中山道の國道と、縣道前橋藤岡線及び鐵道高崎線が走つてゐる。

村内には小野尋常高等小學校、青年學校、巡查駐在所があり、社寺は神明宮、赤城神社、泉通寺、立石寺ほか四社七ヶ寺がある。名勝中山道お伊勢の森は大樹鬱蒼として晝なほ暗く、烏川に面し、往昔の旅人は必ずこゝで憩ふたといふ。銅鈴觀音は立石の祠で、この附近は奇景勝觀に富み、小野村八景その他の名勝地がある。村名は萬葉集十四上野歌よりとつて名づけたものである。

郡の北部清流烏川と鑄川の合流する三角洲に介在し、耕作灌漑の便に富む平野

を占め、戸數約六百六十、人口三千八百をかぞへ、山名、阿久津、根小屋、木部の四大字より成り、幕末當時は天領、京極氏大井氏、長谷川氏の各領主によりて治められてゐた。明治二十三年舊四ヶ村を合併、その氏神八幡神社の社名を村名とした。

村には八幡尋常高等小學校、青年學校、巡查駐在所、耕地整理組合等がある。前城山の山名城址は鎌倉時代に山名伊豆守義範が據つたところ。根小屋城址は四村の眺望に富み嘗て武田信玄が砦を築いたところと口碑に傳へてゐる。その他木部城址、山ノ上の板碑、太刀割石等があり社寺は郷社八幡宮、光台寺、西台寺ほか一社四ヶ寺をかぞへる。

美土里村

本郡の平坦部中央を占め、大部分は鮎川の右岸にあるも、獨り大字上落合だけは左岸にありて鮎川と鮎川の夾角内を占

めてゐる。戸數約六百三十、人口三千六百をかぞへ、下大塚、上大塚ほか四大字に分れ、各字とも水路縦横に疏通して灌漑の便よく、天與の豊饒地をなしてゐる。主産物は繭、蠶種、生糸で、米麥がこれに次ぐ。

美土里尋常高等小學校、青年學校、巡查駐在所、國有種馬美土里種付所、その他團體組合等がある。飯玉神社は、昔、綠野郡の總鎮守であつた名社。平地神社は相殿に羽黒神社がある。大雲寺は安永八年創建の古刹。千手寺は聖徳太子御作一寸八分の千手觀音をまつる。その他城址、古邸址等の古蹟が多い。

平井村

藤岡町の西に隣り、白石、綠塋、鮎川ほか三大字より成り、文明の昔、上杉氏が築いた東國の名城平井城のあつたところで、昔は綠野郡に屬し、中世高山莊金井郷と呼ばれた。天正以來吉井城主菅沼

定利を経て、旗本土倉内匠が領有し、延寶二年高家吉良の封地となつたが、元祿十五年官沒されて天領となつた。村内には、平井尋常高等小學校、同分教場二、青年學校、巡查駐在所、産業組合等がある。名勝古蹟の平井城址、双子山古墳、大聖寺跡、圓光寺跡、吉良邸址、千部供養塔、綠野屯倉の遺址、上杉供養塔は廣く知られ、社寺には三島神社、秋葉神社、美國神社、仙藏寺、常光寺のほか八ヶ寺がある。

美九里村

藤岡町の南、鬼石町の北につゞく神流川畔の平和境で、西南部には鎌取山を初め、御荷鉢山脈の餘派は丘岳をつくり、三名川は鎌取山から發源して神流川に注ぐ。村は東北より西南に長く、東西凡そ三里三十町、南北凡そ一里二十町に互り神田、矢場、保美、三本木ほか五大字より成り、幕末時代には酒井雅樂頭その他

二二三の旗本領に分屬した。主産物としては米、麥、菽、繭、生糸、薪炭、木材等がある。

關屋敷、龍源寺跡、埴輪竈跡碑は舊蹟地として知られ、行樂園は關孝和發祥の地で、園内に往古の史跡を探るに足る博物館があり、行樂園八景の景觀と相俟つてその名を高からしめてゐる。

三波川町

鬼石町から四キロ西に行くと、奇勝三波川がある。清冽な三波川の水に洗はれた御荷鉢山の裾の緑の緑泥片岩、黒の石墨片岩、紅の紅簾片岩が美しくかゞやいてゐる。

本村は三波川の奇勝地を占め、戸數三百餘、人口一千八百有餘をかぞへる。三波川は、口碑に、甘樂、多胡、綠野三郡の水が合流するところの意から生れた名だといふ。全村が山で、平地が少く、耕耘には緩斜の地を利用してゐる。慶長三

年までは郷主飯塚和泉守の所領であつたが、同年から徳川幕府代官伊奈備前守の支配を受けて明治維新に及んだ。古來三波茶と稱する本郡第一の綠茶の産地として有名であり、村内の姥神社は大同年間創建で、本村草創以來の鎮守である。

多胡村

朝日岳の山脚が長く北に延びて北甘樂郡との境をつくる本郡の西部にありて、北は吉井町に接してゐる。鹽、多胡、神保、東谷外二大字より成り、大字多胡は和銅四年綠野、甘樂兩郡を割きて新に多胡郡を置いた當時、郡内最極要の地で、村名が郡を代表したものと思はれる。

物産の主なるものは繭と生糸で、葉煙草、薪炭等がこれに次ぎ、大字東谷と大澤には杉の良材を産出する。村内には多胡尋常高等小學校、青年學校、多胡圖書館、巡查駐在所、産業組合等あり、社寺は二社四寺を數へる。多胡領は大字多胡

の南部にありて城山といひ、源義賢の居城址があり、四方の眺望は美しい繪畫を見るが如くである。

入野村

吉井町の東、鮎川畔にありて、大字馬庭、小暮、岩井は川の北岸に、多比良、黒熊、深澤、石神、小串、中島は南岸にある。入野高等小學校、馬庭、鮎南、多比良尋常小學校、青年學校があり、淺間神社、大武神社、延命寺、眞光寺ほか二社五ヶ寺を有し、村役場は小串にあり、馬庭堰水利組合、養蠶組合、産業組合、その他産業團體よく發達し、専業成績頗る良好である。

入野碑は萬葉集にも歌はれた名勝の一つで、新堀城址は多比良友定の據つたところ、その附近に一郷城址、深澤城址、峰山城址、馬庭城址、馬庭念流道場、應永塔等があり、就中馬庭念流道場は敏士館と稱し有名である。

日野村

郡の中央部より西北境に横はり、東西十里、南北二里、昔から日野谷十里と稱せられてゐるところで、西御荷鉢山や鮎川は山と川とを代表するもの、和訓栞、和漢三才圖會に日野上野邑名也とある。往古は緑野、多胡、甘樂の三郡に互つてゐた。そして處々から發掘される石器類は神代時代の文化を思はせるに充分である。鎌倉時代には高山氏が居り、戦國時代には上州高山黨の根據地であつた。現在戸數約八百、人口四千二百を擁し、生業は農蠶業と林業とが、最も旺んであり、用材、薪、炭などの林産物が豊富である。

名勝舊蹟には御荷鉢山、御前岩、千ヶ瀧、日野お天狗、日野坊、潮音庵跡、納蕨、古代土器竈跡その他があり、寔に本村は傳説の村であり、名勝舊蹟の郷土である。

美原村

所謂中谷の入り口で、村の東南には神流川が流れ、北境一帯は三波川村と犬牙錯雜して、西は萬場町に隣する。住民の生業は養蠶業と林業で、大字美原からは蜜柑がとれる。村内には美原尋常高等小學校、青年學校、保美濃山圖書館、巡査駐在所、産業組合等があり、社寺は神社四、寺院二をかぞへる。三波石、鍋石、八壺石、諸松葉城址、鏡森の古跡等があり、神流川上流の奇勝、奇岩怪石の散在は山水の美と相映じて探勝の心をそよものがある。これらの名勝地は地質學上から見ても標式的なものといはれ、探勝の客が跡を絶たない。

上里村

山中谷の中央部、萬場町の西に隣り、神流川は本村を貫いて東流し、人家は大

抵その沿岸にある。戸數五百四十餘、人口二千八百をかぞへ、魚尾、神ヶ原、平原、尾附の四大字から成り、生業並に物産は萬場町とほぼ同様である。

中里尋常高等小學校、同分教場二、青年學校、圖書館、銀行支店等村内にあり、産業組合は組織堅實にして業績著るべきもの多く、大見山風穴蠶種貯藏所は大字平原にあつて名高い。叶山は一〇一五米満山石灰岩より成り、立處には石灰洞がある。圓岩燧石の瀧、城山古城は夙に世人に聞え、その他中山神社、延命寺、東福寺、松源寺址等がある。

上野村

郡の西南端、いはゆる山中谷の最西部に位置し、神流川の沿岸に人家點在し、戸數約八百五十、人口三千八百五十を擁し、新羽、勝山、川和、野栗澤ほか三大字に分れる。住民の生業は農と養蠶と林業が主なもので、木材、木炭、繭、生糸

農業の旺んな 北甘樂郡

本郡は縣の西南部に位し、東南は多野群馬二郡に接し、西は長野縣に境し、北は碓氷郡に連り、西南には山岳巍々として相聳え、妙義、荒船、大桁の諸山高峰洋々として頗る峻嶮を極め、北部は丘陵多く、東部は低平にして土地豊饒、鏡川

樹皮、岩茸等を主産物とし、蒟蒻の栽培も近年盛んになつて來た。上野東上野西各尋常高等小學校、青年學校、上野圖書館等あり、郵便局、巡査駐在所、小林區署、區裁判所出張所等もある。各種團體及び産業組合等よく發達し、社寺は神社五、寺院六をかぞへる。三國山は上野武藏信濃三國に跨りてその高さ一九六〇米に及ぶ。白井關門跡、城山不二穴、大蛇座山、高天原、速旭嶺山祠等も著名である。

は郡の中部を貫流して東に走り、蜿蜒十里、高田川を合せて多野郡に入る。東西九里二十三町、南北五里十五町、面積は三二・七六方里である。

本郡は古來農業盛んにして、米、麥、野菜、麻、楮、馬鈴薯、果實、蒟蒻、煙草、茶、等を多く産し、養蠶も頗る隆昌である。またこの地方には砥石石材及び石灰の産もあり、薪炭、瓦製造が盛んで西牧の神津牧場には馬の放牧行はれ、また妙義山麓の葡萄園は本郡産業の景觀に一異彩を添へてゐる。

舊事記には「上野國、瑞籬宮朝、皇子豐城入彦孫、彦狹島王、初治平東國十二ヶ國云々」とあり、大化を過ぎて奈良朝に入るや、萬葉集は上野の歌を載せて先人活躍の天地を傳へ、平安に入りては業平の傳説をこゝに生み、藤原將門は當地に來りて戦ひ、鎌倉時代に入りて小幡氏榮え、織豊時代には奥平氏、一宮氏の盛衰あり、徳川時代には大名として小幡織田氏、七日市に前田氏がゐた。

全郡を分ちて六町十七ヶ村とし、町村名は次の通りである。

- 町 富岡、一ノ宮、妙義、下仁田、小幡
- 福島
- 村 黒岩、高田、丹生、小坂、須部、青倉、岩平、新屋、月形、尾澤、吉田、高瀬、馬山、勢戸、西牧、小野、秋畑

富岡町

郡の中央よりやや東に偏在し、鏡川及び高田川の間に介在し、富岡、七日市、會木の三大字より成る。

誰がためと織りなすならし秋の色に
富の岡邊の春の景色は
と雲玉集に詠まれ、上野名跡考には上古天子の御獵には鳥見部ノ射部などありと見え、鳥見部は今の富岡といはれる。誇りとすべきはここが日本に於ける機械製絲の元祖であること、即ち、明治五年佛人ブリュエナ氏が陣屋跡をトして佛國式製糸機械によつて事業を開始した

のがそれで今日の工業都富岡町を生んだのである。町内には縣立富岡中學校、縣立富岡高等女學校、稅務署、警察署、郵便局、北甘樂區裁判所、また蠶業取締所支所、穀物検査所支所などあり、名所舊蹟も多い。

一ノ宮町

郡の中央、拔針の神山を中に、地勢西方に傾斜し、大桁山麓の不動瀧に發源した丹生川の高田川に注ぎ、鑄川と共に町の中を流れてゐる。一ノ宮、宮崎、田島、宇田、神農原の五部落から成り、上州電鐵神農原驛及び一ノ宮驛あり、また一ノ宮尋常高等小學校、一ノ宮郵便局のほか銀行支店、運送倉庫會社等を有す。國幣中社貫前神社は安閑天皇の元年三月の創建で、天武天皇白鳳二年三月初めて祭典を執行、祭神は經津主神で、古來武將の崇敬篤き名社である。拔針神社、大臣神社、光明院、源正寺ほか二社十ヶ

寺の古社寺を有し、名勝舊蹟には岩崎觀世音、北向觀世音、下り松聖徳太子堂等あり、宮崎城址は小幡家累代の居城であつた。

妙義町

妙義山麓に展開された町で、妙義、大牛、行澤ほか五大字より成り、町内には妙義尋常高等小學校、選種園、菅原神社、波古會神社ほか二社三ヶ寺を有し、菊女の墓、二ツ岩、小澤葡萄園、姥ヶ森の名所あり、菅原城址は高田氏の據つたところである。

妙義山は元來荒船火山の一部をつくる集塊熔岩の一部であるといはれてゐるが長い間風雨米雪に侵され、今や山骨空しく残つて、その獨特の岩質と東西に走る垂直の割目とに應じ、堅巖は聳え、脆弱部は壊れ去り、怪岩奇峰天に冲して亂立し雲霞を帯び松樹を點じ、楓葉を載せて天下に名を成すに至つたのである。森殿

壯美の妙義神社はその絶壁の麓に鎮座し日本武尊、菅原道眞公を祀り、山の神聖を加へてゐる。

下仁田町

郡の西部、四面山に圍まれた盆地で、南牧川及び西牧川が町を貫流してゐる。下仁田、吉崎、川井、栗山の四大字から成り、荒船山には神代の傳説があり、萱神社は白鳳の昔に創建されたといふ。下仁田の文化早くより開けたことが分る。抑々本町は蠶糸工業の町で、工場をはじめ製糸組合下仁田社等あり、更に蒟蒻粉の製造は本郡下の中心をなし、蒟蒻製粉同業組合があつて東京大阪を主に、その他東北、北陸、遠くは朝鮮までも移出してゐる。更に下仁田葱は下仁田名産の一で山の町だけに木材も出してゐる。下仁田尋常高等小學校、下仁田警察署、下仁田郵便局、その他銀行會社等あり、名所舊蹟として鷹巢城址、清水寺法華塔、

跳越の勝は有名である。

小幡町

郡の東南部、福島町の南に隣り、松平氏二萬石の舊城下町である。小幡、轟、上野、國峰、善慶寺の五大字から成る。明和四年、松平忠恒は織田氏の明和騒動の後を承けて陸奥國桑折城から移封された。爾來善政を施して明治まで續いた。東西一里四町、南北一里十四町で、町内を雄川が流れて灌漑の便よく、昭和四年には自治旗と共に縣當局から表彰されたといふ模範村で、産業の隆昌大いに睹るべきものあり、米、麥、繭、生糸を重要物産とする。

赤城神社は古來總社の號を有し、天皇第十七代履中天皇の御代に創建されたといふ古社である。その社寺は十八社、十七ヶ寺を數へ、寶積寺は本郡屈指の靈刹で寶徳二年の開草と傳へられる。

福島町

郡の東部、鑄川を境にはゆる横野ヶ原の一部を占め、玉子湯の鑛泉があるのが高い。今より三百年前京都公家附武家根岸三河守は腰掛石に腰掛けて東西の町端までも見渡し、數多の入夫を使役してこの町を開いたといふ。福島、田篠、小川、君川、星田の五部落から成り、戸數約六百八十、人口三千八百人を擁してゐる。

上州電鐵上州福島驛あり、昔の鎌倉街道も町を横切り、交通の利便は商工業の殷盛を齎らしてゐる。町内には福島尋常高等小學校、郵便局があり、諏訪神社、東覺寺ほか一社五ヶ寺の社寺を有す。

大字田篠の東北にある奴加部の井は古來清泉の湧き出づるを以て名高く、星の井は星神社の境内にありて晝なほ星の映ることありといふ。

黒岩村

郡の東北部、富岡町の北に接し、概して丘陵の起伏多きところで、九十九谷はよく本村の地勢を物語つてゐる。廣袤東西一里八町、南北十八町、面積〇・四一三方里にして、古は小野郷に屬し、原始時代の遺跡も發見される事多く、寛政の山崩れには字打越より馴鹿族の獸骨を發見して、古考學上に好箇の資料を提供したことがある。

鎌倉時代には上野權介小野朝臣が領有し大字には上黒岩、下黒岩、黒川、別保の四部落がある。黒保尋常高等小學校、青年學校、青年圖書館等の教育機關備はり、社寺は赤城神社、縣神社、遍照院のほか六社二ヶ寺あり、高林城址は小野朝臣の居住せしところ、黒川城址は澁谷次郎高重の據つたところ、物見山、頼朝の腰掛石、落合觀音も著名である。

丹生村

妙義山の南一里、一桁山の東麓に在つて、南に長足山がそびへてゐる。丹生尋常高等小學校は郷土の環境に即應した校外教育が施されて成績よく、學校附近からは縄文式の土器が發掘されてゐるのを見ても、原始時代より人間の住んでゐたことが察知できる。昔は、貫前の郷に屬し、宇伎の北にあると和名抄では云つてゐる。

當村は、大字下丹生、上丹生、原の三部落から成り、村民の生業は主として農蠶業と林業で、大字原からは黄鐵鑛が出る。上信電鐵一ノ宮驛に近く、山村ながら交通の便良好である。

丹生明神、三日月石、御花畑、自害久保、弘法池、三光坊等の名勝舊蹟の地多く、丹生山の古城址は丹生四郎金乗の城址といひ、御花畑は新田四郎がつくつた花園である。

高田村

郡の西北部に位し、東は一ノ宮町に接き、西は妙義町に隣り、上高田、八木蓮下高田の三大字より成り、中央に高田川が流れ、村民は概ね、農林を業となしてゐる。

鎌倉時代には高田氏これを領し、徳川氏に至つて代官中野、池田稻垣の諸氏が支配した。

高田尋常高等小學校、高太神社、伏見神社、磨黒神社、八幡神社、諏訪神社、熊野神社、賀茂神社、生壽寺、正法寺、水月庵、眞福寺、正谷寺、禪定庵、大善院等がある。

高田城址は高田肥前守の壘址たりしところ、後、高田小次郎がこれに據つて勢威を四方に張り、大に成すところあらんとした由緒のあるところだ。その近くには築前上壘址、郷土谷津壘址、藤薬師等の舊蹟がある。

小坂村

北に妙義山の連峯を負ひ、南方もまた荒船山にたつらなる山脈を以て限られ、中央また支脈を走らせてゐる。東野牧、下小坂、上小坂、中小坂の、四部落より成り、村民は半農半林を業とし、養蠶業を副業としてゐる。嘗ては小坂鐵山として知られたが、今は休鑛である。冷泉春日田鑛泉と若林鑛泉は腺病並に胃腸病に効あるを以て名高い。

中の嶽神社、荒船神社、永壽寺、延命寺があり、城山城址は四面懸崖の要害地にあるが居城主は不明である。御屋敷址は高田小次郎憲頼の邸址、匿久保址、陽雲寺址、城山址、神光寺址、中の嶽の石門、玉綾の瀧、蜘蛛の瀧、太子堂がある。なほ石堂の瀧は大字東野牧にありて、その高さ五丈三尺、懸崖にかゝつて散るの美觀を賞せられ、水は落澤川となりて西牧川に入る。

西牧村

小坂村の西に接し、碓氷の山嶺は北より本村に迫り、東は妙義山、西は荒船物見山に至る。本宿、南野牧、西野牧の三大字より成り、村民は農林を主業とし、副業に養蠶を行つてゐる。神代の昔、武甕槌神、經津主神の二神が建御名神を征伐し給ふ時、荒船山頂に陣屋を設け、信州佐久郡の方を展望して作戦計畫を樹てたといふ。

中山道の裏街道は字本宿より發智峠を越えて發智に至る道と、志賀峠を越えて志賀に至る道と、内山峠を越えて内山に至る道との三つがある。何れも上信交通路の要點である。

廣袤東西三里二十五町、南北三里二町西牧川は途中三つの川を併せ、兩岸は多く懸崖絶壁である。村内には西牧尋常高等小學校、本宿郵便局、神社九、寺院六がある。

尾澤村

郡の西南隅により、四面に山脈をめぐらし、東端月形村に接するところに南牧川が流れ、僅かに一條の門戸を開いてゐる。村は砥澤、星尾、羽澤、熊倉の四大字から成り、戸數五百二十餘、人口二千六百餘をかぞへる。蓋し本村は千有餘年前の住民の遺跡をのこし、小幡氏、武田氏等が永祿の昔當地方を治め、後、武州鉢形の城主北條氏邦を経て豊臣の世となり、徳川時代には多く天領に屬して代官の支配を受けた。産物は米、麥、甘藷、繭を主要なものとし、また良材の産も尠くない。

尾澤尋常高等小學校、砥澤郵便局、發電會社がある。砥山神社は千餘年前砥山發見の當時勸請せるもので年代は不詳、その他人麿神社、熊野神社、吉祥寺、中道院のほか七社を有し、砥澤關所址等古蹟も多い。

月形村

下仁田驛あり二里二十町、村は大字大日向、大仁田、六車の三部落から成り、戸數約四百七十、人口三千四百人にのぼり、古くは鎌倉北條氏に従ひ小幡氏の領となり、或時は新田氏に屬した。

月形尋常高等小學校は郷土教育の施設充實せるを以て聞え、校外教育方面に於ても常に新機軸を出してゐる優良校である。社寺には神明宮、伊勢神明宮、安靜寺、大雄寺のほか、神社二十社をかぞへる。

城山狼煙臺は笹の平にあり、永祿の年中、武田氏の臣市川氏が長野信濃守の臣小幡氏と戦つたところだといふ。その近くに天神瀧、釣掛瀧、辨天瀧等があり、これらは蟹掛山より發する溪流をあつめて敷瀧を成したもので、中でも釣掛瀧が勝景最もすぐれ、直下實に二十丈に及んでゐる。

磐戸村

郡の西南の地を占めて下仁田街道に沿ひ、地勢高峻、海拔約六百呎より六百三十呎の間にある。村は磐戸、千原、小澤大蘆澤、檜澤の五部落にわかれ、村民は概ね農林を以て生業となし、農産物に富むほか蠶繭の産が頗る多い。戸數約八百十、人口四千四百をかぞへ、廣袤は東西一里、南北約二里、檜澤川は大字檜澤に發源して流程凡そ一里、川海苔を産するを以て名高く、沿岸住民は製糸、蒟蒻玉の製産に従事するものが多い。本村の起源は遠く千有餘年前に遡り、鎌倉時代には小幡氏が權勢を振つてゐた。

磐戸尋常高等小學校、神社四、寺院十を有し、就中黒瀧山不動寺は本尊に不動明王を安置し、元正天皇の御宇、行基菩薩の所作に係るといふ名刹である。しかも黒瀧山は奇勝を以て上毛に鳴り、水聲涼々松籟颯々の幽境、正に仙宮に入るの

感がある。

青倉村

本村は東西南の三方に群山環擁し、その北は地形漸く狭く、里道は村の中央を貫いて南走し交通の便は悪くない。北は下仁田につゞいてゐる。大字は青倉、風口、大桑原、平原、宮至の五つにわかれ、戸數約四百二十、人口二千三百を有し、上信電鐵下仁田驛に近く、村民は農を生業とし、副業に養蠶が盛んである。

戦國時代の頃、下仁田の鷹巣城主小幡圖書の支配を受け、徳川時代には代官によつて治められし天領であつた。青倉尋常高等小學校は校外教育に力を注ぎ成績顯著である。

青倉神社は村社であるが、往昔羽の羽黒權現が來てこの地に鎮座したものと、今もいはれてゐる。八幡神社、天神社、修學寺ほか三ヶ寺、供養塔、經塚等

の尊い古蹟がある。

馬山村

郡のやゝ西部にあつて、馬山、白山の二部落にわかれ、稻含山から分れた黒内山は村の南境に聳え、地勢一般に高く、東西南の三方には小丘を負ひ、鑄川と横瀬川と鎌田川とが村内を流れてゐる。戸數四百五十餘、人口二千八百を有し、住民は農林を業とし、米、大麥、粟、麻、桑、楮、芋、蒟蒻を主要物産とする。廣袤東西一里十町、南北一里二十町に及び村名は牧場に馬を飼つたところから起つたといふ。黒内山には昔牧場があつたのである。

建武の頃、新田義貞の領となり、應仁に至つて小幡氏の統治に屬し、徳川時代には代官によつて治められた。

上信電鐵吉井驛に近く、村内には馬山尋常高等小學校、神社二、寺院四がありまた東城山及び西城山は共に古城の址で

ある。

吉田村

郡の中央より稍や西方に位し、東は一ノ宮町に接し、西は下仁田町につゞく。鑄川は村の南を流れ、西方に山岳が重疊する。村は上小林、神成、南蛇井、中澤、蚊沼の五部落から成り、戸數約五百八十人口約三千三百をかぞへる。

本村の起原は遠く原始時代に遡り、神代に至つて武甕槌命、經津主命の二神が諏訪の神を征し給ふ時にこの邊を通過せしに因んで、神沼(蚊沼)或は神成といふ地名を後人に傳へてゐる。天智天皇の時には南蛇井三郎忠綱といふものが、彼の多胡碑にある小幡半太夫に従つて官軍に抗戦したと傳へられる。

神社四、寺院三を有し、吉田ヶ池は大字神成にあつて面積五坪程の小池であるが、太古以來清泉の湧水止まず、當村の村名もこれに因んで名づけられたものだ

といはれてゐる。

高瀬村

郡の中央に位し、北は鑄川を劃して富岡町に境し、東は管川を挟んで福島町及び小幡町に接してゐる。大島、内匠、高瀬の三大字から成り、戸數四百五十餘、人口二千七百五十あり、村民は農林を生業とし、特に養蠶が盛んである。嘗ては村内より大寶元年の古碑を出してその古きを證し、その他村内各所に古墳があつて、そのうちには埴輪土器等をも發見した。南北朝の頃、光嚴天皇はこの地に幸せられて、今の光嚴寺を開基せられたといふ。

村内には高瀬尋常高等小學校、高瀬農事組合、産業組合等あり、また社寺は神社十五社、寺院五ヶ寺を有し、高瀬神社は明治四十二年村内各所に散在せる十七社を合祀せるものである。名勝舊蹟としては内匠城址、上の宿城

址、それに金ヶ橋、觀音石像、鶴龜松等有名である。

額部村

稻含山の支脈及びその他の小巒に取り圍まれたところで、南後箇、岡本、野上、岩染の四部落に分れ、村民は半農半林、特に養蠶は盛んである。元和元年、大字後箇地方は、織田越前守の所領であつたが、明和の騒動により、織田氏天童に移されて後は、幕府の代官たる池田、稻垣氏等が分知した。その後更に小幡藩主松平攝津守の所領となり明治維新に及んだのである。

額部尋常高等小學校、染岡神社、近戸神社、荒垣神社のほか、神社一、寺院七が村内に散らばつてゐる。茶白山々上の古墳は「朝日さす、夕日輝く駒のみどり黄金が千ばい、朱が千ばい、後の世建立の爲め」との謡曲がこの山の口碑として傳はつてゐる。その他西平原城址、藤田

城址も著名である。

秋畑村

郡の東南部に位置し、南は西御荷鉢山一帯の分水嶺によつて多野郡と堺してゐる。廣袤東西三里、南北一里半、地形宛も煙草の葉に似、唯雄川、入山川が村内を貫流する。村民は概ね農を業とし、特に養蠶が盛んである。嘗て建長弘安の間に建設されたといふ白山社、岩窟中異形なる塔碑は、當時すでに本村が重要な地區として開發されてゐたことを知るに充てである。

當村は徳川氏の初め旗本渡邊氏の所領となつてより二百有餘年、平和そのものの天地として明治維新に及んだ。村内には秋畑尋常高等小學校、第二尋常小學校があり、稻倉神社は人皇第六代孝安天皇の御代に創建されし古社、峰城址は俗に城山といひ、小幡氏の據つたところである。

新屋村

郡の最東部にあり、全村を分ちて、白倉、天引、金井、庭谷、造石の五大字とし、北に鑄川が流れ、對岸に吉井町がある。戸數約六百三十、人口五千百を算し、産物は米、麥、甘藷、繭等を主要なものとする。

元明、元正兩帝の頃は半太郎といふ者が多野郡の八束山に居住してゐたが、望樓をわが天引山の城山に築き、その勢力頗る盛んであつた。白倉地方は天長年間以後、白倉氏の住地であつたといふ。

金光山頂には白倉神社がある。諏訪神社は天引にありて祭神に建御名方神、八坂刀賣神を祀り、數十階の石段山腹にかり、老樹蒼鬱として境内に繁り、溪流潺湲として社前を洗ふの佳境で、近くに向陽寺、大日堂圓通閣、寶勝寺等の名社古刹が多い。

舊蹟に白倉氏累代の居城址及び大山古

墳がある。

岩平村

郡の極東に位置し、東は縣道を境として吉井町につゞく。大字坂口、岩崎、下奥平、上奥平の四部落より成り、村民は概ね農を以て生業となし養蠶の業また盛んである。

戸數約四百二十、人口二千三百を擁し、上信電鐵下仁田驛に近く、交通の便良好である。

岩平尋常高等小學校、巡察派出所等あり、八幡神社は應神天皇をまつり、社殿結構莊麗、嘉永元年八月の遷座なりといふ。山神社、北野神社、密藏院、泉量寺ほか二社三ヶ寺を有し、岩崎左衛門入道の城址は大字岩崎字城山にあり、その他奥平城址、寶勝寺平、公田、奥平氏廟所等著名である。

本村は本郡中最も早く開拓されたところで、先史時代の遺跡が多く、鎌倉時代

以後、奥平、水野、前田の諸氏に支配された。

小野村

郡の東部、富岡町の北、福島町の西北につゞき、四面丘陵に圍まれ、崇台山は村の西隅にありて海拔千尺の高度を有してゐる。村は上高尾、下高尾、藤木ほか六部落に分れ、住民は殆ど農林の業に従事し、主産物に米、麥、繭がある。因に本村は和名抄に小野郷とあり、慶應の頃七日市城主水野忠清の領邑に屬した。村内には小野尋常高等小學校があり、社寺に八坂神社、白山神社、熊野神社、長榮寺、得成寺、普門寺のほか三社、七ヶ寺を有する。また村内には名勝頗る多く、いはゆる小野八景はすでに世に知られ、古蹟には夫婦岩、根小屋城址、仁治の碑、蓮華塚古墳、五輪塔、小野古墳などがあり、いづれも考古學の參考にならぬものとてはない。

生絲業地の碓氷郡

本郡は縣の西端に位置し、北の一部は笹戸山脈を境として吾妻郡に、更に北より東に互つて群馬郡につゞき、南部一帯の地は北甘樂郡に隣り、西部は長野縣北佐久郡及び本縣吾妻郡の一部とに隣りな

りその間に淺間山、隱山が聳えてゐる。東西八里六町、南北五里二十八町、面積二五・六方里にして、地形は鶴が翔けてゐるといふ本縣の恰もその右翼の一部をなし、中山道が郡の脊梁となつて、四圍

は殆ど山嶽または岳陵で抱擁せられ、唯僅かに東端の一部が開かれて所謂碓氷盆地を形造つてゐる。

住民は農家が大多數を占め、天與の自然的條件を具備して米、麥、繭の産出多く、就中養蠶業の盛大は驚くべきものがある。畜産業は古來盛大で、殊に秋間村

の飽間の牧は有名であつた。林業は萎微不振の状態にあるが、元來山地に富むを以て將來を囑望されてゐる。水産は河川多きため淡水魚の養殖が盛んで、養殖場は約百ヶ所を數へる。

工業は今、本郡生業中の首位を占め、とりわけ製糸は最も盛大で、その他製板業、製氷があり、石炭、石材の産も少なくない。

崇神天皇の四十八年、皇子豊城入彦命が本郡坂本に來住して上野國を統治し、足利時代には上杉氏が平井城に據り、江戸時代には八幡に本多氏、安中に井伊氏

が他は前橋、高崎の二藩及び旗本の采邑であつた。

本郡を分ちて七町十一ヶ村とし、町村名は次の通りである。

町 安中、原市、松井田、白井、坂本、磯部、坂鼻

村 西横野、東横野、岩野谷、八幡、豊岡、里見、秋間、後閑、九十九、細野、烏間

安中町

碓氷川を南に控へ、東西に長い町で、昔ては板倉氏三萬石の城下町である。城は永祿二年原市榎下城の城主安中忠正が築城したに初まり、慶長十九年井伊兵部寛永十九年水野元綱、寛文六年堀田正俊等の領主を経て、天和四年板倉重形の領となつた。

町は安中驛、古屋、高別當ほか二大字より成り、曾ては中山道の一驛として繁昌したところ、今も信越線安中驛があり機業都市として且つ養蠶製糸の中心地として賑はつてゐる。産物は絹織物と米と麦とが主なものである。

學校に安中蠶糸學校、縣立安中高等女學校、安中尋常高等小學校あり、官公衙に警察署、郵便局、區裁判所出張所、穀物検査所出張所を有し、會社銀行もあり社寺名勝にも富んでゐる。

原市町

碓氷川の北岸にある狭長な町で、原市郷原、嶺、築瀬の四大字から成り、信越線磯部驛まで二里五町、乗合自動車毎日々往復してゐる。主要産物は米、麥、繭製糸類で、本邦製糸界を牛耳つてゐる感があり、産業組合碓氷社は明治十一年の創立以來、販賣事業のほか特別の工場を設けて製糸の揚返し、検査整理をやつてゐる。

町には原市尋常高等小學校、銀行支店のほか、榎下神社、日枝神社、稻荷神社、満願寺、久昌寺、眞光寺、觀乘院の社寺をはじめ、榎下城址、菅沼城址等の古蹟がある。

榎下城址は、大永五年、從三位安中忠清の創業に成つたもので、永祿二年安中城に移るまで在城したところ、菅沼城は文祿年中、菅沼治郎右衛門定清が築いたものといふ。

松井田町

信越線松井田驛のある所、碓氷川が町を流れて、上州三山の一つたる妙義山の登山口にあつてゐるので名高い。戸數九百有餘、人口四千をかぞへ、住民は農商工の三部に分れ、機業は頗る盛んで繭と製絲を特産とする。

町内には松井田尋常高等小學校、松井田警察署、松井田郵便局、高崎區裁判所出張所、穀物検査出張所、銀行支店、無盡會社等を有し、八幡宮、諏訪神社、琴平神社、崇徳寺、本照寺、補陀寺、金剛寺等の社寺がある。補陀寺は曹洞宗の古刹で、應永元年無極慧徹の開基に係り、日本三幅の一つだといふ藕絲製曼茶羅の一幅が秘藏されてゐる。松井田小屋城址は弘長二年、時の執權北條時頼が青砥藤綱に命じて築いたものだといふ。妙義の峻峰を仰ぎ、淺間の噴煙を眺め、松井田の風景は見捨て難い。

白井町

碓氷峠の東山麓にあつて、曾ては碓氷關を設け、安中城主これを守り、箱根足柄と並び稱せられた難路であつた。町村制實施の際、舊五科村及び横川村を合併して白井村とし後、町制を布いた。戸數は約七百八十、人口は約三千九百をかぞへてゐる。その生業は農業と商工業が相半し、主要産物には米、麥、繭、蒟蒻、林産物等がある。

白井尋常高等小學校、横川郵便局、巡査駐在所、高崎營林署横川擔當區、銀行支店、製糸工場、産業組合を有す。碓氷關址は醍醐天皇の昌泰二年九月坂東に群賊が蜂起したので、天和元年に徳川氏が軍事的見地から碓氷峠の麓なる横川に關所を開いて以來、明治に及んだ。峠の絶頂は九百米に達し、晩秋の満山錦を着て風光絶佳である。

坂本町

白井町から中山道を更に進んだところに坂本町があり、こゝで碓氷峠を登りつめたことになる。

碓氷峠の権現様よ
わしがためには守神

その権現様、即ち熊野明神を勧請するところの碓氷神社は舊道に沿ふて鎮座する。町は坂本、原、入山、北野牧、西野牧、峠町の六大字より成り、信越線横川驛に近い。

小學校は二校あつて、共に校外教育に力を入れてゐる。碓氷峠の上の熊野神社は伊佐那美命、速玉男命、事解男尊を祀り創建は景行天皇の四十年で、日本武尊の御手に成りしといふ。今は縣社で熊野皇太神社とも申し上げる。その他八幡社諏訪神社、入山神社等があり、口碑や傳説に富み、古蹟も町内到處に散在する。

磯部町

碓氷川に直面して榛名の雄峰を軒の端に眺め、古來名高い炭酸食鹽泉に恵まれ大小の湯の宿、軒を並べた磯部鎮泉は、その温度こそ低い、含有量は甚だ豊富である。

温泉の西方三里には妙義の奇峰あり、淺間の噴煙を望み、上信國境の連峰を眺めるの景觀は、磯部せんべい、鎮泉おこしの名物と共に獨特を誇るものである。住民は半農半商で、木材の産出もまた尠なくない。

信越線磯部驛ありて交通の便よく、小學校同分教場、圖書館を有し、社寺には神社二、寺院五をかぞへる。大字東上磯部の松岸寺には、大野九郎兵衛の墓がある。また同寺境内には今なほ蒸した古碑二つあり、これは佐々木三郎盛綱夫妻の墓で、建保年中の創建であるといはれてゐる。

板鼻町

郡の東端に位置して安中町につゞき、新町、上町、關町、上ノ山ほか八大字より成り、信越線安中驛も近くて交通の便も良好である。産物の主なるものは米、麥、繭及び製糸等である。

本町は昔高渠といひ、和名抄には片岡郡高渠の郷とある。町の西方鷹巢山上には鷹巢城址あり、北に山を負ひ、東南より西にかけて高さ數十丈、殆ど登攀の術もなき斷崖が懸つてゐる。その根のところを碓氷川の奔流が町に沿ふて流れ、山上よりする四顧の展望は戦術上優勝を占むべき頗る堅要の地である。

この城はもと群馬縣白井の城主山内上杉氏家臣長野氏の所領であつたが、永祿の初めごろ、武田氏が侵略してその臣依田六郎をして守らしめたが、後、北條氏に屬して、小田原没落後、この城も全く破却された。

西横野村

南は北甘樂郡と境し、二軒在家、人見八城、行田の四部落から成り、信越本線松井田驛で降りると、大字二軒在家まで僅かに數町である。曾ては碓部郷の一部で、續日記本にはこの邊を上石部と稱してゐる。

小學校は一枚、社寺には大宮神社、諏訪神社、慈雲寺、天祐寺のほか神社二、寺院二を有し、慈雲寺は寛永十五年越中金山の城主河田氏の開基に係る曹洞宗の古刹である。

なほ名勝としての横野ヶ原は古來董を以て有名である。

萬葉集に

紫の根はふ横野の春の庭

君なかけつゝ鶯鳴くも

とあるのもこゝである。昔は妙義の山麓から東碓氷、甘樂の兩郡の境に互る一帯を稱したらしい。

東横野村

碓部町の東につゞいて、碓氷川畔に在り、大字鷺宮、中野谷、上間仁田、下間仁田の四部落に分れ、徳川時代には仙石因幡守、溝口源右衛門、島田治兵衛、その他の統治下にあつた。

本村現在の主要物産はといへば米と麥と繭とであるが、村民は裕福な生活を營んでゐる。

小學校は一枚、中野谷神社、間仁田神社のほか四寺院あり、城山城址は昔は碓部の城ともいつた。建仁年間、佐々木盛綱の築城に係り、北條九代記、鎌倉見聞記にもその名が出てゐる。石尊山壘は城山の山續きによつて、石田三成が亂を起した時、眞田幸村、同昌幸が遙かに西軍に應援して坂本松井田を扼し、秀忠の軍を拒んだといふ。

なほその他に天皇山の烽火臺等の古蹟がある。

岩野谷村

碓部町の東にありて碓氷川の南岸に沿ひ、舊片岡郡乗附村と隣りし、和名抄には碓氷郡石井郷とあるところで、現在では野殿、岩井、大谷の三部落に、分れてゐる。

住民は主に農業に従事し、産物には米、麥、繭等がある。信越線安中驛へは一里十二町、乗合自動車が行往して交通至便である。

岩野谷尋常高等小學校、同青年學校があり、教育思想の普及なか／＼顯著なるものがある。

白山比咩神社は菊理比咩神を祀り、慶長年間の創建である。常樂寺は天台宗の古刹で、天平勝寶元年、行基菩薩の開基に係る。

その他に神社二を有し、寺院は昌井寺、明靜院、定泉寺、玉椿寺等のほかに二をかぞへる。

八幡村

昔の若田郷の地で、若田、劍崎、金井淵、下大島、町屋、八幡、藤塚、鼻高の八部落から成り、大聖寺八幡宮のあるを以て知られ、産物に米と麥が取れる。

信越本線群馬八幡驛で下車すると程遠からぬところに八幡宮がある。近世神領百石、一州の名刹、今は眞言宗、と名跡誌にいひ、上信日記には「大聖寺八幡最も神々し、二天門、神樂殿、末社もあり昔奥州前九年の折八幡太郎といひ給ひし跡とも云ふなる云々」と出て居り村名はこれから取りしものと察せられる。なほ

村内には大鳥神社、大聖護國寺、達磨寺、福泉寺、金剛寺、寶積寺、福泉寺、吉祥寺等がある。

豊岡村

八幡村の東に隣り、碓氷川と烏川は村

里見村

の南と北を流れ東端に於て互に合し、對岸には高崎市街を望んでゐる。村は下豊岡、上豊岡、中豊岡の三大字から成り、高崎驛より僅かに三十三町、交通至便である。昔は若田郷の一部で、徳川時代には高崎藩に屬してゐた。村内には豊岡尋常高等小學校、村立圖書館等がある。

常安寺は曹洞宗の古刹、近くに宗傳寺、藥王寺、若宮八幡宮がある。若宮八幡宮は大雀命を祀る村社で、源義家が安倍貞任を討伐の際、本社に祈願をこめたといふ神社である。また史蹟一里塚は中山道の往還に方五間の小丘を築き、その上に樹木を植えて、里程の標識としたものである。

板鼻町の北一里半の地に位し、烏川の岸崖によりて、榛名権田の山谷の口に當り、對岸は群馬郡室田村である。源氏の名族、里見家の家名の發せる地で、上里

である。郡の建置は、光徳天皇大化二年で、吾妻の名稱が正史にあらはれたのは日本書紀景行天皇記に日本武尊御東征に關する條がある。しかし郡名としては延喜式に擧げられたのが最初で、吾妻の字を用ひ、アガツマと發音した。また和名抄には長田、伊參、太田の郷が記載されてゐる。區劃上全郡を次の四町十ヶ村に分つ。

町 中之條、原、長野原、草津
村 六合、婿戀、高山、東、太田、坂上
岩島、澤田、伊參、名久田

中之條町

北に連山を負ひ、南は吾妻川の清流を隔て、榛名の峻嶺を望み、關東耶馬溪の關門に當る岩井洞を有し、また昔より四方その他郡内の諸温泉に至る要衝にあたり、元は郡役所の所在地にして、今なほ郡の首邑として榮えてゐる。縣立中之條農業學校、中之條稅務署、中之條營林署

中之條區裁判所、中之條郵便局、穀物検査所支所等があり、會社銀行も多く、米、蕎麥、生糸、甘藷、馬鈴薯、鶏卵、蔬菜、清酒の産が多い。
古くは伊勢郷に屬し、山代莊の内、伊勢町中之條村と稱した。また河原宿と稱し、古城の下、吾妻川と名久田川が落合ふ所との意である。吾妻城、伊勢城、古城、和利宮城、城峰壘などの古跡に富んでゐる。

原町

中之條町の西南に接して、龍臥山と岩櫃山の奇勝を以て知られ、町内には縣立吾妻高等女學校、原町警察署、原町郵便局、小學校等があり、米、麥、蕎麥、生糸、甘藷、馬鈴薯、蒟蒻芋、清酒、木製品等の産多く、銀行會社も多數所在する。村社三、寺院三の社寺あり、近古に於ける本郡の首城たる岩櫃城址をはじめ、内出稻荷、柳澤、高野平等の名城址及び原町

温泉の名所がある。
元太田莊に屬し、中古より山代莊岩山郷平川戸と稱し、建久の頃、吾妻太郎在城してより上の宿を城下とし、平川戸といつた。元和元年眞田領となり、同二年郡代を置き、平川戸町を廢し吾妻原に今の町地を開いて引續き今日に至つた。

長野原町

往時の三原庄兩橋里にして、兩橋は加澤記に須川橋と琴橋とあり、長野氏と關係深き地であつた。また須賀尾道と雁ヶ澤道の會合點たる交通の要衝にもあつてゐた。
吾妻四湯の一たる川原湯は、金雞山の麓、吾妻川にのぞむ勝景の地を占め、昔は草津浴客の歸り療養所であつた。今は入浴を兼ねた紅葉狩りの遊士を集めて繁榮してゐる。
川原の出湯にかゝる藤かつら
はふ木あまたの人になりけれ

町内には警察署、郵便局、區裁判所出張所、神社八、寺院四があり、米、麥、蕎麥、生糸、甘藷、鶏卵、木炭、清酒、蜂蜜などを産し、澁川町へは、國道が通じてゐる。

草津町

關西の有馬に對して、關東の大關として押しも押されぬ温泉界の王座にある湯の町草津を知らぬ者はあるまい。傳説によれば、温泉の起りは、天正帝の御宇養老年間、行基菩薩が藥師如來の示現によつて發見したといひ、後、源頼朝も今の御座の湯に浴したといふ。徳川八代將軍吉宗公御汲上の湯を中心に熱の湯、御座の湯、地藏湯、鷲の湯等があり、泉質は酸性でラヂウムを含み、皮膚病に特效があるので名高い。
街は白根火山の東斜面、高山のやうな林の間に開け、奥上州の山々や榛名を望み、脚下には水脈を瞰下す絶好の位置に

ある。草津電鐵は輕井澤まで延び、町内には旅館ホテル等數十に上り、湯治客が常に満員してゐる。郷社白根神社、光泉寺、白根山等の名勝も共に捨て難い趣を持つてゐる。

東村

中之條町の東南に接し、郡の東南部に位する。村の南境には榛名山が聳え、沼尾川は村境を走つて吾妻川に合流する。養蠶業の盛んな農村にして、蕎麥のほか米、生糸、甘藷、木炭の産が多い。村内には箱島郵便局、東尋常高等小學校、村社五、寺院二があり、新巻平石は高さ一丈七尺、横二十一間、縦十七間、埧塙のやうな奇岩である。その他白狐、寄居、根古屋の各城址が現存する。
村名は、郡の東を意味し、吾妻に通ずる。五町田、箱島、岡崎新田、奥田、新巻の舊五ヶ村より成り、往古の桃井庄白井郷及び吾妻莊太田郷に屬した地で、明

太田村

原町の東、中之條町の南に接し、南方には榛名山が屹立してゐる。蕎麥筆頭に米、麥、生糸、甘藷、用材、木炭の産多く、村内には水電會社、太田尋常高等小學校、村社四、寺院三がある。
元の太田郷の地で、大字植栗はもと三澤村と稱したが、元慶年間に、聖徳太子の御子殖栗王の子孫たる植栗氏が來住してより村名を改めた。植栗安藝守代々これを領し、天正後は眞田領となつた。大字岩井は、多く磐居と解し、岩のあるところの意である。大字小泉は太田莊隣郷の地にして、大字泉澤も同様隣郷に屬した。
明治二十二年舊四ヶ村たりし以上四大字を合して太田村と稱した。今、栗植城址が残つてゐる。

岩島村

原町の西に接し、吾妻川は村の中央を貫いてゐる。川中温泉、松之湯、鑛泉の所在地で、川中温泉は建久四年源頼朝の家臣重田四郎が長く浴療したと傳へられる古い温泉で、無色清澄の硫化水素臭を有し、稍やアルカリ性を呈し、皮膚病に利く。米、麥、蕎麥、用材、木炭、清酒の産あり、銀行支店、郵便局、小學校二、村社六、寺院四を數へる。村内の萬年橋は長生橋ともいひ、古くより北國及び三國裏街道の要衝に當る。また史蹟に岩下城址、根古屋城址がある。

岩下、矢倉、郷原、松尾は元一村にして山城莊岩間郷に屬し、三島、原田は太田郷の一部であつた。

坂上村

寛永八年碓氷關の裏固めとして設けた

嬭戀村

大戸關は本村にして、また本宿關をも置かれたる地で、古來の要衝の地である。國定忠治が、磔刑にあつたのも本村にして、その他大宇大戸の仙人窟も古來奇勝を以て鳴り、大戸城山勝城、平城、羽田城址、丸山城址、萩生城址等がある。村は長野原町の東に接し、戸數千を越え、人口約五千二百である。生業は農を主とし、麥及び蕎麥の産殊に多く、その他米、大豆、生糸、大麻、鶏卵、用材、木炭が豊富である。村内には大戸郵便局、坂上尋常高等小學校を有し、村社五、寺院がある。古くは群馬郡に屬し、坂上郷と稱したが、中古より本郡に轉じたものである。

白根山と淺間山に挟まれ、古い傳説をつゝみ、幾多の遺蹟に富む本村は、日本武尊が高井峠にて吾嬭者耶と三嘆された故事により村名を嬭戀村としたもので、

六合村

曾我物語に「建久四年、上野三原は狩倉にあり、右幕下頼朝三原の野を狩らせ給ふに空かき晨りければ
きなふこそ淺間は降らぬ今日は又
みはらし玉へ夕立のかみ
と梶原源太景季の歌へるに、やがて晴れたるを頼朝卿御感あつて、碓氷の麓に五百餘町歩を源太に給ふ」といひ傳へる。村は郡の西南に位し、本郡隨一の太郡で、村内に草津電鐵嬭戀驛を置き、産物は米、麥、大豆、蕎麥、馬鈴薯、鶏卵、木炭、硫黄等を主なるものとし、鹿澤、萬座、川入、馬洗井等の浴泉がある。

草津町の東北に接し、面積一二方里餘郡内嬭戀村に次ぐ大村である。住民は農業を主とし、麥、蕎麥、用材、木炭、木製品の産があり、小學校一、神社四、寺院二を有し、村内の湯ノ平温泉は大正十一年の創設で、新しいが草津にも近く將來

の發展を刮目されてゐる。

本村は明治三十六年草津町より分離して一村をなしたものである。入山はもと三原莊三原郷に屬し、天正以後は眞田氏これを領し、天和二年、代官支配となつた。生須は元社々木村と稱し、天正年間にして、明徳年間に分れて二村となり、赤岩は往昔三原郷に屬し、小雨もまた同様である。

澤田村

野州の鹽原に對して近來その名を賣出し、紅葉の名所として知られる温泉に四萬がある。四萬川の溪流に沿ひ、水音も清らかな幽邃境で、延暦の昔、坂上田村麻呂が発見したともいひ、胃腸病、神經痛に特效がある。また澤登温泉は海拔三千二百尺の高地にあり、源頼朝が三原狩の際入浴したといひ、胃病及び腺病に效力があるので知られる。

伊參村

本村はこの二温泉によつて著はれ、温泉は共に設備整ひ、旅館のサーピス満點である。なほ村内には日向見藥師堂、定光寺址、入道城壘址、血阿山古城、内山城址、山田城址、寺山要害、蝦蟇橋等の名所あり、産物としては米、麥、蕎麥、生糸、甘藷、馬鈴薯、用材、蒟蒻芋等があげられる。

た大字新田も一時は蟻川と一村にして、延享の頃分離したものといはれる。いづれも天正の頃より眞田氏の領地となり、天和二年代官支配に移り、後、一部は旗本領となつたところもある。村名は郷名に因んで付けられた。

名久田村

村内を流れる名久田川によつて村名を生んだといふ本村は、中之條町の北に接する農村で、米、麥、蕎麥、生糸、甘藷、蒟蒻芋等を主産物とする。村内には水力電氣會社、名久田尋常高等小學校、郷社吾妻神社のほか寺院三がある。

大塚温泉は慶長の頃は湯も熱く、温泉場として榮えたが、あまり繁昌した爲め旅館の女中がこれをうるさがり、湯の中へ馬の骨を入れたので、温泉薬師が退き給ひ、それからはぬる湯となつたといふ傳説がある。その他村内には平鑛泉、八幡要害、壁谷の要害、釜ヶ淵などの名所

がある。因に明治維新前には村内五部落は、代官支配地と、それに旗本領とに分れてゐた。

高山村

郡の東端に位して小野子、子持兩山の北麓にあり、中之條町より來る縣道は、村の中央を東西に横斷し、權現峠を経て沼田に通ずる。養蠶の盛んな土地で、村内には銀行支店、郵便局、小學校三、村社一、寺院四がある。

中山はもと桃井莊白井郷と稱し、上野國神明帳に、中山明神とあり、平安朝の頃すでに中山と稱してゐたらしい。上野歌解のうち子持山の歌解に「三國通の往來を隔て、東を子持山、西を男子山といひ、中道を中山峠といふ云々」とあり、中山は兩山の中間の義である。

なほ尻高は、昔の上尻高村で、應永の頃、尻高重義が覇を稱へたところとして知られてゐる。

農工の地 利根郡

縣の最北端に位し、東西十三里三十五町、南北十三里二十四町、面積一一四・二六方里で、縣下第一の尨大な面積を持つてゐる。四面は殆ど山で圍み、西南沼田地方は盆地をなし、その他は山岳重疊してゐる。利根、片品、赤谷の諸川は源をその間より發し、相合して西南に流れてゐる。人家は諸山溪谷の間とこれ等諸川の沿岸平地に點在する。

産業の大宗は農工の兩者で、林業がこれに次ぎ、農工の生産価格は全生産の殆ど大部分を占めてゐる。

農業では第一が藪で、米、麥、蔬菜、葉煙草がこれに亞ぎ、葉煙草は縣下第一の産額を誇つてゐる。

工業的施設には乏しいが、發電事業は頗る活氣があり、利南村上久屋、古馬牧

久呂保村伏見の各發電所などはその代表的なものである。工産額の筆頭は生糸で清酒、木製品等これに亞ぎ、帚の特産がある。

本郡はまた山林原野に富み薪炭材の産多く、總じて林野物産は縣下第一位を占め、縣總額の約四分の一に當るの状況を見せつゝある。

利根とは光りたる嶺の意で、地勢の上か起らつた名である。遠い昔に於ては一面漂渺たる一大湖水であつたといはれ、貝類化石を包含する地層はこれを説明するに足るといふ。明治維新當時は、土岐氏の沼田藩がその大部を占め、前橋藩領旗本領及び岩鼻縣領がその間に介在してゐた。

全郡をわかつて、次の一町十五ヶ村とする。

町 沼田
村 利南、白澤、東、片品、川場、池田、薄根、古馬牧、水上、桃野、新治、川田、久呂保、糸之瀬、赤城根

沼田町

土岐隼人正三萬五千石の舊城下で、初め永祿三年沼田氏の居城するや、根岸村（現榛名町）の民家を移して創立した市井で、初めは農人を集めて住居せしめたが、眞田氏の慶安年間に至り、東南に擴張して今の如き市街の規模がほど定まつた。郡の南方三國街道及び會津街道に沿ふ要路にあたり、面積零方里四一八、赤城、子持、三峰の三山に圍まれた一盆地で、郡の首邑であり、且つ縣北部に於ける藪系の集散地として商業盛大である。

町内には警察署、區裁判所、郵便局、稅務署、營林署、銀行、林業會社、電力會社等所在する。沼田城址は、人呼んで久米公園といひ、始め沼田氏がこれに據り、天正十八年眞田氏が領し、寛保二年より土岐氏の領となつた。なほ淨土宗正覺寺には眞田信幸夫人墓があり、妙光寺には加藤清正の曾孫正良の墓がある。

利南村

郡の南部に位するを以て利南と稱する本村は、戸賀野、沼須、上沼須ほか四大字から成り、沼田町の町に接して片品川に臨み、面積零方里五九で、地形は瓢箪に似てゐる。片品川には東電經營の發電所二ヶ所があつて關東一圓に配給される動力電燈の源をなし、また片品の鼻曲鮎と稱し香魚の名産地である。主産物は米、麥、大豆、甘藷、藪等で、機械製糸は頗る盛大である。

村内には村社上久屋神社、下久屋神社、同愛宕神社、同八幡宮、孝養寺、延命寺、壽量院、正福寺、華藏院、千日庵の社寺あり、大字上久屋の岩井堂は眺望佳なるを以て沼田勝景の一に數へられる。

白澤村

村名は白澤川の名に因んで命名したも

東村

郡の東部に位し面積八・三一方里、東部は高山連互し、西北は丘陵起伏し、片

ので、高井、平出、生枝、尾合、岩室ほか二大字から成り、沼田臺地の東端にあつて、面積一・八四方里あり、主産物は大豆、粟、柿、藪、木炭にして製糸の業も相當行はれる。白澤尋常高等小學校は青年學校を附設し、分教場二を有し、校外教育に特に見るべき點が多々ある。

節別けは袖こそやれめ利根川の石はふむともいざ河原より

と橋仲遠が詠んだ笹峰は、大字高平にあり、また大字尾合字安場の山林中にある杉は、高さ五丈、根廻り二丈七尺餘、目通り別れて十三本となり、古來十二山神の神木と尊崇されてゐる。また寶曆年間鹽原太助が愛馬青と泣別れしたといふ一本杉は大字上古語父字道明神の塚の上にある。

品川は北より南に向つて貫流し、その兩岸に狭長な平地がある。片品川は谿谷深くして灌漑の便は乏しいが、河床の岩磐裂けて流水を呑み盡す吹割の如き、更に千尺の斷崖、溪間の紅楓、奇勝絶景の多いのがその特色で、また發電用にも供されてゐる。

産物は米、大豆、麥、蕎麥、粟、繭、用材、木炭等を主とする。小學校は大字追貝に本校を置き、村内四ヶ所に分教場を設けてゐる。なほ村内には郵便局、營林署、區裁判所出張所、銀行支店があり、大字老神の老神温泉は、溪流に沿ふ岩壺から湧出するもので、皮膚病、花柳病に特效ある硫黄泉である。その一里餘の地には數多の瀑布がある。

片品村

郡の東北隅に位し、新潟、福島、栃木三縣の境にある南北七里半、東西六里、面積二五方里の大村であるが、山間の僻

地で交通の便なく、全くの寒村である。

たゞ片品川の源流をなし、菅沼及び尾瀬沼の所在地として、世人に記憶されてゐる。住民の多くは農林業に従事して養蠶を副業となし、米、麥、大豆、粟、繭、木炭、板等を主産物とする。學校は片品尋常高等小學校一校であるが七ヶ所に分教場の設置がある。

神社三、寺院六を有し、名勝古蹟として菅沼、尾瀬沼をはじめ、寄居山城址、鳩待峠、千貫松、穴観音、戸倉古戦場、關所址、羽倉銅三郎墓、花咲岩等が廣く知られてゐる。

川場村

脚氣川場と謳はれて縣下に名高い本村は、門前、天神、谷地、川場、湯原ほか五大字から成り、郡の中央に位し、東西一里、南北二里十五町、面積二方里餘、全村の大部分は北武尊山の餘脈で、僅かに南部に平地があるだけである。住民の

生活は農林業及び養蠶を以て立ち、主産物は米、大豆、麥、菜菔、繭、用材、薪炭材、木炭等で、特に繭の産額が多い。川場尋常高等小學校、同分教場、青年學校を有し、教育の實績顯著である。

川場温泉は、脚氣病に特效ありと稱され、青龍山吉祥寺は延元元年の開創で、開山は惠濟禪師、開基は大友刑部大輔である。また桂昌寺東には大友氏時の墓がある。

池田村

迦葉山に屬する地で、迦葉山は四季の風光に富み、殊に秋の紅葉の眺めは素晴らしい。深山なれば、夏秋の候は佛法僧鳥の啼くを聞くことありといはれ、山頂に近く龍華院彌勒寺がある。その參道には老杉鬱蒼とし、馬隠の名ある杉の如きは誠に馬を隠すに足る程の老大木である。

村は佐山、上發知、中發知、下發知ほか、四大字より成りて郡の中央に地を占

め、東西二里十四町餘、南北三里三十三町餘、面積四・六方里にして主産物は米、麥、大豆、粟、繭、用材等である。池田尋常高等小學校は郡内屈指の大校で、施設充實して兒童の學業成績は他に誇るべきものがある。

薄根村

石器時代の遺物や奈良朝以前と認めべき古墳、祝部土器、朝鮮土器等によつて本村の草創は極めて遠きことが推定できる。平安朝の始め頃、下沼田、和田、恩田、硯田、庄田、町田の六部落はすでに創設せられ、神社佛閣なども造營されてゐた。

郡の西南部に位し、面積一・〇二方里にして土地は概して平坦である。主産物には米、大豆、繭、麥、甘藷、柿、木材等があり、米と繭が村の經濟的主力を構成してゐる。

名勝としては河内神社と石田三成の墓

を擧げることが出来る。河内神社は大字

宇楚井字三峰山にあり、大己貴命、日本武尊ほか十二柱の神を祀り、社格は郷社である。三成の墓は、同じく宇楚井にあり、三成僧となりて風月を友としこの地に歿したといふ。

古馬牧村

明治二十二年眞庭、政所、師、後閑、下牧、上牧ほか二ヶ村を合して組成し古馬牧村となつたもので村名は往時牧場ありしに因んだものといふ。面積約二・三方里にして交通上極めて便利な位置にあり、縣道は村の中央を貫通し、上越線の後閑、上牧の二驛がある。

住民の大半は農業に従ひ、養蠶若しくは林業を副業とするものが多い。主産物は米、麥、繭、木炭である。小學校は古馬牧南、北の二校を有し、共に高等科を有し、青年學校が附設される。後閑驛の北方約十町のところに玉泉寺があり、白

井城主長尾景伸が一州正伊を開山として創建した寺で、維新まで寺領五十石を持つてゐた。なほ寺内には、知高義隆の墓がある。

水上村

湯原、小日向、高日向、小仁田、寺間ほか十三大字より成り、東西五里八町、南北六里三町、面積三四・三方里本郡第一の大村で、利根川は源を藤原丹後に發して村内を南に流れ、河岸に沿ふて平地が開け、各大字はこれらの平地に部落をなして散在し、上越線水上驛は村の中央に位置する。

村内到るところ山水の美に富み、優趣をなすところ多く、就中利根の本流に架する銚子、水上、大鹿の三橋、横平の紅葉、洞元の瀧、武尊の瀧は世に知られ、また、湯の小屋温泉附近一帯を藤原といひ、源賴朝に亡された奥州藤原氏の一門が遁れて部落をなした地と傳へられ、未

だ物質文明に浴してゐないが、それだけ淳朴である。

桃野村

武家時代北條氏滅びて徳川氏が關八州を領して天下の形成を一變せしめた導火線となりし名胡桃城址を有する本村は上津、下津、月夜野、小川、石倉の諸部落より成り、吳桃の桃と月夜野の野を取つて村名とした。東西一里十町、南北三里二十五町、面積一・二八方里に及び村内には郵便局、區裁判所出張所、穀物検査所出張所、銀行支店、桃野尋常高等小學校等があり、主産物としては米、大豆、麥、煙草、繭、用材、木炭等が擧げられ米と繭はその大宗である。

大字月夜野には茂左衛門地蔵と稱する千日堂がある。茂左衛門は月夜野の農民で、作家藤森成吉氏の「礎茂左衛門」に書かれて文藝愛好家は勿論の事、一般大衆にも廣く知られる。

新治村

沼田町に次ぐ郡内第二の商工業地で、戸數約一千五百、人口約八千三百をかぞへ、郵便局、銀行支店、醋酸製造會社、電氣會社等を村内に有し、明治四十一年五月、湯ノ原村と久賀村を合併して新治村と稱したもので、郡の西隅に位置し、面積一・八四方里あり、主産物は米、大豆、稗、甘藷、煙草等の農産物及び用材、薪炭材、木炭等の林産物のほか、繭機械製糸の産が多い。教育またよく普及し、尋常高等併置校二校とその分教場一があり、私立圖書館も設置される。その他公共團體、産業助成機關もよく整備し殆ど理想に近い。

本村は鹽原太助の出生地で、その邸宅は大字羽場に残り、墓は羽場縣道の杉垣の中にある。また相生橋、石門山、綾櫻の瀧、布瀧、鹽原公園等は四季の勝地に富む。

川田村

古來から川田と稱した地で、下川田、上川田、今井、屋形原、岩本の四大字から成り、郡の西南に位し、面積一・八一方里地勢は概ね子持山の麓に至る傾斜地で、西南に高く、東方利根川に向つて漸次低下する。利根沿岸は頗る勝景に富み、關東の耶馬溪たる綾戸の絶景をなして群馬、勢多の二郡に流入する。その水清澄にして鮎、石斑魚、鰻、鱒等を多く産し、夏の納涼、秋の鮎漁等都人士の杖を曳くものが多い。上越南線は岩本驛を置き、高崎市と沼田町に連絡し交通の便をする。

住民は農を主業とし、大豆は本村の特産で古くから品質優良を以て知られ、煙草また名高く、川田煙草の名は世に喧傳せられ、養蠶も盛んである。なほ大字下川田には歌人として知られた圓珠姫の墓がある。

久呂保村

郡の南部に位し、面積一・七六方里地勢東に高く西に傾斜し、西には片品、利根の二川が流れてゐる。西南には子持山が聳え、赤城の山裾は緩く長く村内を走つて一大原野を形成する。主産物は繭、米、麥、大豆、薪炭で、教育機關には久呂保尋常高等小學校のほか村立圖書館が設置される。

大字森下の御寶塚は豊城入彦命の御陵墓と傳へられ、御門塚はその皇子御室別命の御陵墓といふが確實ではない。その附近より發掘された古刀劍、金環、銀環曲玉、菅玉、五鈴鏡等は帝室博物館に秘藏せられ、これにより貴人の墳墓なることは確かである。

糸之瀬村

太古の民族が住居した地で、糸井郷と

赤城根村

呼ばれてゐた。郡の東南部に位し、面積約二方里あり、東部に高く西部に低く傾斜する。古くから農を以て本務とした地で、約六百二十町歩の耕地を有し、主産物は米、大豆、麥、繭等にして、林業は從來極めて幼稚であつたが、近年やうやく重視されるに至つた。學校は糸之瀬尋常高等小學校一校で、青年學校を併設して、その他社會教化の機關も組織せられてそれぞれに活動してゐる。

大字糸井の後藤氏宅地内にある櫛は、樹令二千百餘年に及び、高さ十間、地上五尺の廻り三丈八尺あり、縣下屈指の老木として珍重されてゐる。

里全村山嶽起伏して四面を擁し、部落は赤城山の北麓と片品川、利根川の沿岸に点在する。繭及び木炭の産額は郡下に冠絶する。

片品川沿岸は、奇岩突兀障壁脚下に削り、急湍あり深淵ありて秋紅葉の候には満山炎と燃え、美觀いふべからざるものである。なほ溪間に獲れる鮎は、俗に鼻曲鮎と稱せられ、明治四十二年、南郷鴨の夢と稱するところで獲れたものを宮内省に献じ嘉賞の光榮を得たことがある。

農蠶機の佐波郡

赤城の山麓が勢多郡に裾を曳き、更にその南に平野遠く連つて利根川に臨むところ、その一帯が佐波郡である。縣の東南に位し東は新田郡、西は群馬郡に接して、南は烏川を越え多野郡及び利根川を挟んで埼玉縣と相對する。地勢概して南

方へ緩傾斜して平地をなし僅かに東北隅と赤城麓に小丘陵があり、その間を利根川、廣瀬、粕、早川の諸河が、流れてゐる。

農業、養蠶業、機業は、本郡に於ける産業の三要素である。農業はいふまでもなく米麥作を主とし、また最近は蔬菜及び果實の栽培が著るしく發達して來た。養蠶は山丘平地を問はず、見渡す限りの桑樹に驚く程で、收繭高は縣下第四位にある。しかし産業の大宗は、やはり機業で、近來は從來の家内工業から工場組織への變革が目立ち、絹織物は桐生市に次ぐ産額を示してゐる。その他製糸業も漸次盛大に赴きつゝあり、清酒産額は縣内第一位を占めてゐる。

古くは佐位、那波の二郡に分れ、廣瀬川の東が佐位、西が那波であつた。佐位は縣境目の義で、今の境町の郷名に基くか、又は地積狭少の義であらう。和名抄には名橋、岸新、反沼、佐井、淵ノ名ほか三郷をあげてゐる。那波郡は上

野名跡考に、那波は繩にて、國を定め縣を分つに測量して繩入に出でたるか、又は那の字は平の議かといつてゐる。和名抄には朝倉、粕田、田後、佐味ほか三郷名が載せてある。明治二十二年この二郡が合して佐波郡となつた。

面積一〇・三九方里で、縣内の最小郡これを次の三町十三ヶ村に區劃する。

- 町 伊勢崎、境、玉村
村 島、三郷、赤堀、東、殖運、茂呂、采女、剛志、豊受、名和、芝根、上陽、宮郷

伊勢崎町

桐生織が開口の廣いのに対し、伊勢崎織は地味で實用的な銘仙一點張りで、年産四千萬圓を突破する盛況は偉とすべきである。この伊勢崎銘仙の本場たる本町は郡の中央に位置し、本郡商工業の中心地たることはいふまでもない。昔は赤石の郷と稱し、永祿九年、伊勢大神宮に神

境町

商業の一中心地で、住民の約八割はこれに従事し、多くは機業と生繭取引で、ことに生繭の取引は、關東一の稱さへあり、また伊勢崎銘仙の生産に従事するもの頗る多い。郡の東端に在り、東武鐵道

に沿ふて交通の便よく、警察署、郵便局の設備あり、運輸倉庫會社、銀行支店もあり、學校に境町尋高校を有し、社寺は村社一、寺院三をかぞへ、刈埜戸壘城はもと小此木長光の居たところで、今は僅かに遺跡がある。

もとは小此木村と一村で、後、分れて假宿村と稱し、更に佐位、新田兩郡の境界にあるため境村と改めた。次で慶安の頃、市街の形となり境町と改稱し、現在の町は當時の支街で、舊市街は東隅に元屋敷、元宿の名を残してゐる。

玉村町

利根川と烏川に挟まれ、高崎市より七哩五分、乗合自動車が行復する。平坦なる土地で農作物に適し、町は商業地といふよりも寧ろ蠶業を中心とする農業地ともいふべきである。郵便局、區裁判所出張所、蠶業取締支所、穀物検査出張所等を置き銀行もあり、社寺は村社二、寺院

一〇を數へる。

昔は淵名氏、那波氏の領で、徳川時代に入り代官領となり、寛永から延享までは前橋藩酒井氏に屬し、明治維新前は幕府の料所、旗本采地に分屬した。正保の頃、日光例幣使街道の開かれてより俄かに街區を成したもので、現在は上新田、與六分、齋田、下新田、上之手ほか四大字より成る。

三郷村

伊勢崎町に隣接する農村であるが、兼業として織維工業或は商業を営み、近年は伊勢崎銘仙の發展につれて斯業に従事する者が激増してゐる。省線兩毛線が通過し、南境に伊勢崎驛があつて交通至便である。村内には三郷尋高校、青年學校村社三、寺院三を有し、また間の山、不二山、安堀などの古墳が多い。豊城入彦命が東國を治め給ふてよりその裔の治下にあること久しく、後、淵名

赤堀村

縣内の模範村として大正五年三ヶ年縣より自治旗を授けられた村で、郡の北端に位し、住民は悉く農に従ひ、米、麥を主産物とし、副業に養蠶が盛んである。學校には赤堀尋高校、青年學校があり、郷社大雷神社鎮座して、ほかに村社五、寺院二がある。赤堀氏代々の居城たりし赤堀城址は、いま、大字今井に高阜を成し、天正の頃牧彈正がゐたといふ毒島城址もまた今井にある。その他女塚、手石の名も相當に著れてゐる。明治二十二年町村制實施に際し、今井、下觸、五目牛

堀下、市場、野、西久保、曲澤、間野谷ほか三部落を合せて赤堀村と稱し、これらの従来の各村を大字として、今日に至つた。

東 村

長脇差の華と謳はれ、三歳の子供もその名を知る國定忠治を生んだ國定村——それが、今の東村である。郡の東北に位し省線兩毛線に沿ひ村内には國定驛がある。純農村にして、婦女子の副業に伊勢崎銘仙の賃織が盛んである。郵便局、小學校、青年學校を有し、村社三、寺院四をかぞへる。國定忠治の墓は安養寺にあり、小保方の三景、頼光塚、芭蕉塚、國定古城址、獨鈷田の如き見るべき名所舊蹟も少なくない。

村は五大字より成り、維新前には、旗本久永氏、松平河内守、前橋城主松平大和守、旗本土岐下野守などの諸氏に分屬した。

殖 蓮 村

郡の中央に位し、西は粕川を隔て、伊勢崎町に相對する。人口は年々増加し、現在では七千百人を突破し、大字下植木は全くの商工業地で、織物業盛んに商家軒をつらねてゐる。學校には殖蓮尋高校青年學校があり、社寺は村社三、寺院六をかぞへる。

また名所舊蹟に富み、宴飲地蔵をはじめ、掛矢清水、吾妻道、七屋敷、惠家山白鞍淵、尼ヶ池、八寸權現山など著名である。

村内には兩毛線及び東武鐵道が通してゐるが停車場の設けはない。なほ本村産出の絹織物は年産三百數十萬圓の多額に達する。

村は三大字より成り、元の八寸村は和名抄に佐位郡反治郷とあり、後、蓮村と稱せしものである。反治は土師の遺號である。

茂 呂 村

伊勢崎の市街地に近接し、銘仙の産地で、織物製造業と賃織業者の多い村である。蠶業もよく發達し、米麥の産も尠くない。

學校には茂呂尋高校、青年學校村社三寺院二がある。新田義貞が、宗良、伊良の二親王を奏請したといひ、また慶安の頃茂呂勘解由左衛門尉が城主でもあつたといはれる茂呂城址は、いま廣瀬川に沿ふて塹廓を残してゐる。

采 女 村

郡の東南に位し、東武鐵道境町驛に近い。住民は農業を主とし、近來は織物業も隆盛を極め、年産百萬圓に達する。學校に采女尋高校、青年學校があり、郷社大國神社ほか村社五、寺院四をかぞへ、淵名壘址、双兒山、壽久茂塚、比丘尼塚御手洗塚、大墳、五惇堂などがある。

古くは淵名太夫の支配を受け、後、赤堀、那波、由良、稻垣諸氏を経、厩橋領より伊勢崎領となつた。明治二十二年、伊興久、上淵名、下淵名、東新井、木島百々の諸村を合せ、昔朝廷の膳部を掌つた采女を買した車に因み、今の采女村と稱した。

剛 志 村

東武鐵道に沿ふて剛志驛を有する本村は、境町の西に接し、農蠶業を主とし、

島 村

伊勢崎銘仙の産地にてその染色工業は盛んである。絹織物は年産百六十萬圓の多きにのぼり、村内には蠶業取締所境支所がある。教育機關には剛志尋高校、青年學校、村立圖書館を有し、村社五、寺院三をかぞへる。また城山は昔根岸繁道の居館なりといひ、村内には古墳や遺物が多い。

大字保泉は、和銅年間に穂積親王御駐輦の地たるに因み命名し、天正の頃より保泉の字を用ひた。大字武士は古くは竹石または武石と書いたが、安達景盛がこの地を武を鍊つてより武士と改め、慶長の頃、上下に分れた。小此木は天平神護の頃の朝日の里である。

郡の東南隅に位し、東武鐵道境町驛より一里半、高崎線本庄及び深谷兩驛からも一里半、自動車の便がある。蠶業の先驅をなせる村で、天正の頃すでにこれを

豐 受 村

伊勢崎銘仙の産地として、近來斷然斯界を壓倒し、全村の大半は、機業に關係し、産額四百數十萬圓に上る機業地である。利根川の北岸にありて、古來蠶業も頗る盛んで、殊に蠶種製造には天祐地とまでいはれてゐる。郡の南部に位置し、

營み、文久年間には蠶種の海外輸出を行ひ、今日まで學村的に蠶種製造が盛んである。明治四年、吹上御苑に育蠶せられ給ふや、本村の田島武平氏は養蠶指圖役を命ぜられ、宮中御養蠶の始めをなすの光榮さへ有し、明治十四年には本邦最初の蠶病豫防法を實施した。今や蠶種の年産三十萬枚に近く、蠶繭三千石を突破する。村内には郵便局、小學校、青年學校神社二、寺院二があり。利根川堤の櫻は安政の頃より勝地として名高く、沿岸數十町の月見草もまた盛夏の一夕の興を満たすに充分である。

東武鐵道境町驛に便よく、村内には豊受尋高校、青年學校、會社、村社四、寺院四等がある。

明治二十二年町村制實施の際、下道寺富塚、除箇、大正寺、馬見塚、長沼、上蓮沼、東飯沼、下蓮沼、國領の諸村を合して組織したもので、幕政時代は、旗本領、松平八十郎氏領、伊勢崎領等に屬してゐた。

名和村

郡の南端に位し、利根川を控へて土地肥沃、田畑よく開けてゐる。最近までは殆ど純農村であつたが、近來機業の勃興見るべきものあり、年産數十萬圓に達してゐる。學校には名和尋高校及び青年學校を有し、村社八、寺院五があり、久しく郡の首城であつた那波城は今本村大字堀口にその遺址をとめてゐる。

その昔高倉帝の御宇、那波季廣はこの地に在り、建久四年大江廣元の養子那波

政廣始めて封を受けて當地に城を築き、爾來二十一代四百年に及んだ。明治二十二年町村制實施に當り、堀口、中、戸谷塚、柴町、北今井、山王道、葦塚、八年島、下福島、阿彌大寺を併せ名和村と改め今日に至つた。

芝根村

利根川と烏川が落合ふ三角形の地で、面積は〇・五方里である。村民の生業は農を以て第一として、米麥を主産物とするが、川に近い地方は桑樹の栽培に適し養蠶業が盛大である。學校に芝根尋高校青年學校を有し、社寺に郷社火雷神社をはじめ村社四、寺院五がある。また元祿十年に建てた五料の關址、天正の初め頃齋藤定盛が築いた川井城址などが残つてゐる。

舊幕時代は那波郡に屬し、佐味莊芝根郷に編入されてゐた。當時下茂木、上茂木、後箇は玉村郷の一部である。慶長元

祿の頃は厩橋領で、延享寛延の頃は幕府領、旗本領、前橋藩領等に分れ、明治に至り現九大字を併せて芝根村とした。

上陽村

郡の西端に位し、地形南北に長く、南は利根川を隔て、玉村町に對してゐる。村民は、殆ど農業に従事し、米の産に富み、また利根川沿岸は桑園に適して養蠶業は本村産業經濟に樞要の地位を占めてゐる。學校には上陽尋高校及び青年學校がある。神社寺院各三をかぞへ、舊蹟としては八王子塚、番所、大膳池、嚮義堂が擧げられる。

徳川時代には前橋藩、伊勢崎藩、旗本等の支配を受け、各字とも領主を異にしてゐた。明治二十二年、町村制實施に際し、山王、西善、中内、東善、飯塚、藤川、樋越、上福島を併せて上陽村と稱し今日に至つた。交通の便に恵まれ、住民は概して敬神崇祖の念に富み、教育の普

及見るべきものがある。

宮郷村

連取の笠松で知られた地で、伊勢崎町の西に續いてゐる。笠松は菅原神社の境内にあり、一に天神松ともいふ。幹は青苔で包まれ、高さ丈餘、枝葉四方に垂れて南北十間、東西二十間、傘の如く擴がつてゐる。享保年間に植えたもので、文人墨客の杖を曳く者が多い。其他村内には今村城址、駒井氏陣屋址などがある。地味肥沃で農蠶業に適してゐるが、近來は伊勢崎織物の發達につれ、機業が頗る隆盛である。従つて産物は絹織物、米甘藷、馬鈴薯を主とする。村内には宮郷尋高校、青年學校、土地會社、神社七、寺院四がある。古くは那波郡に屬し、久しく那波政廣の子孫の領地であつたが、後、長尾、上杉、北條三氏を経て厩橋藩領となり、維新前は伊勢崎藩領、旗本領厩橋領に分屬した。

農牧業の新田郡

縣の東南部に位し、東は邑樂、山田の兩郡に、西は佐波郡に接し、北は勢多、山田の兩郡に、南は埼玉縣大里郡に境し面積一〇方里餘、坂東太郎利根川とその支流渡良瀬川との間に介在するため、土地概ね低平で、東北に丘陵性の金山、連崗があるのみである。地味は一般に肥沃で、農業に適し、殊に南部地方に於て絶好である。

本郡の主産業は農牧業と工業である。米は勢多、邑樂、群馬の三郡に次で産額最も多く、縣下總産額の六分の一を占める。小麥もまた年産四萬石を越える現狀にあり、その他大豆、小豆、蕎麥の産も少くない。食用特産物には大根、甘藷、青菜、漬菜等あり、西瓜は佐波、勢多の二郡に次いで多い。牧畜、養鶏も行はれ

特に養鶏業は、近時ますます繁榮を見せられてゐる。製絲、機織が盛んで、またラムネ、葡萄酒の製造が行はれる。

中古、藤原氏盛榮の頃から源氏の領となり、鎮守府將軍源義家の子義國こゝに住し、始めて新田氏を稱した。保元二年上西門院の御料地となり、義國の子義重がその下司職となつて以來その一族は次第に蔓延した。後醍醐天皇の頃、新田義貞が出て忠勤を勵んだことは餘りに有名な事である。徳川時代には諸藩に分領せられた。行政上郡内を次の四町九ヶ村に區畫してゐる。

- 町 太田、尾島、木崎、藪塚本
村 九合、澤野、瀬良田、寶泉、鳥之郷、強戸、生品、綿打、笠懸

太田町

郡の東部に位する名邑で、東武鐵道本線と同相老支線との分岐點にあたり、且

つ舊日光例幣便街道及び足利、館林、熊谷、大間々、伊勢崎諸街道の要路にあつてゐる。渡良瀬川と利根川の中間を占め、北部の金山一帯を除くは土地概ね平坦である。東西約二十町、南北約一里二十九町の廣袤を有し、町内には警察署、郵便局、新田區裁判所、穀物検査所出張所、縣立太田高等女學校、太田實科高等女學校、小學校等あり、また建物、織布、倉庫の各會社、銀行支店等を有して、商業股賑を呈するも、産物は農産物のほか微々たるものである。

勝地には金山及び八幡山等あり、共に眺望絶佳である。金山々上には新田氏支族の城址、縣社新田神社、山麓には縣社高山神社、大光院、金龍寺等の名社古刹があり、廣く知らる八幡山には郷社、八幡神社がある。

尾 島 町

住時のいはゆる小島の地で、郡の南部

木 崎 町

郡の南部に位し、中江田、下江田、高

に位置し、利根川を隔て、埼玉縣大里郡と相對し、太田町を距ること西方二里の所である。龜岡、尾島、阿久津、堀口、岩松、押切ほか六大字より成り、人口凡そ九千で郡内最多を誇り、生糸、繭の取引盛んに行はれ、米、麥、蔬菜等を多く産する。

弘安元年の頃は岩松經兼、建武元年頃は岩松直國の領有で、また岩松、大館、堀口の諸氏が旗擧げしたところとして著名である。岩松は町の東部に位し、もと大沼といひ仁安三年、新田義重が京都在藩の時、奏聞を経て山城國の岡清水八幡宮をこゝに勧請し、同社境内の小松を移植して岩松と稱し、爾來岩松八幡宮は新田郡總鎮守として崇敬をあつめた。なほ安養寺には俗に觸不動と稱する古刹がある。

尾、赤堀、木崎等の大字より成り、東武鐵道は町の南端に木崎驛を置き、昔時は頗る繁榮を極めたが、今は寂しい町となつた。

南山巡狩録に「觀應五年足利尊氏、岩松禪師頼宥に世良田右京亮の跡及び上野新田莊内木崎、安養寺等を與ふ」とあるから、南北朝時代の頃は、岩松頼宥がこの地を領有したことが知れる。その後元治元年、水戸天狗黨が武田耕雲齋を擁しこの地を過ぎんとした時、武藏岡部の邑主安部氏がこれを討たんとして果さなかつた史實がある。

木崎驛の近くに、甲州身延山久遠寺末の妙高寺がある。大字中江田に一池あり、江田の池といひて、その水は潤濁せることなしと傳へられ、

秋風に吹かれたる鳥松の

枝の池にや波のこゆるん

といふ從三位行家の歌がある。

藪 塚 本 町

もと新田義重の孫長岡次郎經氏の據つたところで、今藪塚温泉を以て廣く聞えてゐる。同温泉は大字藪塚にあり、一を湯の入鑛泉、一を瀧の入鑛泉といひ、共に鹽類泉で、脚氣、瘡癬、胃病、子宮病に特效がある。また附近からは藪塚石といふ石材が出る。

東武鐵道に沿ひ藪塚驛を置き、また藪塚尋常高等小學校、本町郵便局、銀行支店等が町内にあり、戸數約一千、人口約五千五百を擁し、甘藷の産頗る多く、年々二十七萬貫を越えてゐる。なほ大字本町にある岡上神社は、寶曆二年九月の創建で、徳川幕府の代官にして笠懸野の開拓者たる岡上次郎兵衛景能の靈を祀る。

九 合 村

飯田、内ヶ島、東矢島、小舞木、新島

ほか四大字より成り、郡の東南端に位して、太田町の南にある。交通の便良好にて、村内主産物としては繭を以て第一等となし、年産十萬圓にのぼる。

大字内ヶ島を通る縣道太田館林線の南側に一見自然の丘陵をなした壯大な古墳がある。天神山の古墳といひ、所謂車塚をなし、規模の雄大なる點に於て縣下屈指のものである。その東三町餘のところ朝子塚と呼ぶ古墳があり、墳上は雜木林になつて居り内務大臣より史蹟に指定されてゐる。また郷社八幡神社は石清水八幡宮を勧請したもので、境内に太さ數抱にあまる摩天の老杉があり來歴の古いことが知れる。

澤 野 村

富澤、福澤、牛澤ほか、七大字より成り、太田町に接するため交通の便は良いが、産物は米のほか記するに足るものがない。戸數は約八百五十、人口は五千に

近い。

大字細谷は勤王家高山彦九郎正之の出たところで、その邸址の西約一里余の地に高山家の先塋がある。また同字には伏見、信田、王子、妻戀、豊川、田沼の稻荷と共に、日本七稻荷の一に數へられたる冠稻荷神社がある。源義經東下の途次この地に留まること數日、會々冠中に秘藏せし山城國伏見稻荷神社の靈を鎮祭せしに始まるといひ、爲めに冠稻荷の名があり、社格は郷社で、祭神は宇迦之御魂命ほか二柱の神で、また大己貴命、少彥名命も配祀する。

世 良 田 村

郡の南西部に位する舊新田莊の地で昔は長樂寺領であつた。今は世良田、三ツ木、米岡、上矢島ほか八大字より成り、舊例幣便街道は村内を貫き、東武鐵道は世良田驛を置き、また利根川の平塚の渡は、古來武州熊谷方面より伊勢崎、前橋

に至る要津であつた。主産物は繭、米、銘仙織物で、織物は年額三十数万圓に上つてゐる。小學校は一校で高等科を併置し、ほかに村立図書館の設けがあり、教育はよく普及してゐる。

この地は新田氏、徳川氏の發祥地なので舊蹟社寺多く、歴史家に好資料を興へ就中大字徳川(舊徳川郷)は徳川家遠祖の住地で、名刹永徳寺あり、堂内には徳川氏累代の位牌が安置されてゐる。

寶泉村

郡の東南部に位し、東武鐵道の沿線にありて交通の便に恵まれたる本村は、由良、西野谷ほか七大字より成り、戸數約一千、人口約五千八百に餘り、逐年發展的傾向にあり、村民は一般に生活程度が高い。

大字別所には御寶山圓藏寺がある。寛文二年新田義政の開基で山城御室の高僧靜毫阿闍梨を開山とする。境内には國良

親王の墓があり、觀音堂附近に十三基の堂塔がある。その最大なるものは義貞の父朝氏の碑である。大字由良には由良城址があり、その南には岩松滿國入道寶泉利居の遺址がある。大字脇屋には眞言宗の古刹脇屋山正法寺がある。延喜年間の開創で、行基作の聖觀音、聖徳太子自作の像を安置し、義貞及び弟脇屋義助の歸依が深かつた。

鳥之郷村

太田町の北に接し、大島、新野、鳥山、鶴生田、長手、太田の各大字より成り、交通の便よく、農業盛んに行はれ、殊に米の産出が多い。

大字大島に屬する八幡山は、奈良の三笠山に似た山で、俗に太田の三笠山とも稱され、山頂は眺望甚だ佳にして郷社八幡神社があり、彦狹島王命を祀る。また八幡山の附近には鑛泉がある。眞言宗西慶寺は大字鳥山にあり、觀應の頃、鳥山

強戸村

頼仲の建立した道場で、良覺法師を開山とする。寶物に新田義重の花押と義貞自贊の畫像がある。なほ大字大島は大島氏大字鳥山は鳥山氏の據つたところで、共に新田氏の支族である。

鳥之郷村の西北にある村で、頗る景勝に富むところである。西長岡の鑛泉地は西山、御所山、茶白山、石尊山、根本山、雷電山等の諸峰に圍繞せられ、高燥閑雅で、山水の眺望に富み、四時浴客が絶えない。またこの地からは鱈、鮒、鯉、鳥類、蕨、茸、石材などが出る。また繭の産額が多い。

賀茂川の瀧、西野の石山、大沼、小沼中の沼、奥の沼、甲岩等の名所あり、或る文士は、天王山春曙、西山早蕨、賀茂川流螢、長岡池扁舟、御所山紅葉、新田山茸狩、利根川眺望、御影井舊趾を以て西長岡の八景と稱した。眞言宗聖應寺に

は菊一文字の大刀及び鎌倉時代の兜一個を蔵してゐる。

生品村

元弘三年五月、新田義貞が大塔宮護良親王の令旨を奉じて、北條高時追討の義旗を擧げた歴史の地である。義貞は大中黒の旗を生品神社の社頭に樹て、一族郎黨百五十騎を従へ、北方里餘の笠懸野に向つて進軍したのだ。今は村田、小金井市野井、反町ほか四大字より成り、産業のトップは養蠶業で、米の産額も非常に多い。郷社生品神社の附近には新田堀、旗の木、旗塚、床几塚、起請塚、旗八幡など義貞に關する舊蹟多く、轉た歴史の變遷を追想せしめる。

綿打村

大根、權右衛門、上江田、溜池、大、嘉彌ほか五大字より成り、兩毛線伊勢崎

驛、東武鐵道太田驛の中間にあるので交通の便よく、住民は概ね農業によつて生計を樹て、米の産額は、郡下に秀でたものがある。

綿打尋常高等小學校、同分教場、實科高等女學校の教育機關あり、分教場數地内には大正天皇皇太子殿下時代の行啓記念碑がある。明治四十一年近衛師團の機動演習の時、御休憩あらせられたところで、庭前に金松樹を御手植遊ばされた。また大字大根は古の青根で、もと世良田村の世良田山長樂寺領だつた。

笠懸村

古の新田原と呼ばれた一部で、源頼朝が那須野狩の歸途、建久四年四月、新田義重を、新田の館に訪ふた時、義重は頼朝のため笠懸の射的を行つたので、後世これを笠懸野と名づくるに至つた。その後此の地はしばしば戰場となつた。いま、鹿村、西鹿田、久宮、阿佐美の諸部

落より成り、阿佐美には沼がある。もと淺海または淡海とも記し、現今は阿佐美沼といふ。廣さ十九町歩、鮒、鰯、蔬菜等を産する。また村には南に八幡神社の鎮座する八幡山の一小丘があつて、風色頗る絶佳である。村内戸數約一千、人口五千八百を有し、農を營む者の大部分を占め甘藷の産が多い。

機業を生命の山田郡

渡良瀬川の中流とその支流たる桐生川の沿岸地で北は勢多郡の連山と接し、東は栃木縣に隣り、西は新田郡、南は邑樂郡に續き、東西に細長く、そのほと中央に桐生市を抱いてゐる。北部は足尾山脈に連る山地にして、河岸に沿ふほかは殆ど人煙稀であるが、桐生市を劃線として南部は土地平坦で地味肥え、こゝに盛大なる機業が行はれる。

機業が本郡の生命をなすことは、斯業に携はるもの二千六百餘戸に上るを見ても領ける。絹織物の産額は桐生市及び佐波郡に亞ぎ、殊に佐波郡とは殆ど伯仲してゐる。これに關聯する養蠶業、製糸業も盛大である。農産物では米、蔬菜類を主とし、麥、大豆、小豆、甘藷、青芋、大根、瓜類の産が多い。その他山地よりは林産物を出し、酒、醬油、和紙等の工産も相當の額を占めてゐる。

山田は和名抄は夜末太と註し、山田、大野、園田、眞張の四郷に分つてゐる。初めて文書に見えたのは、桓武紀延暦十五年の條である。續後紀に「承和二年、以上野園山田郡空閑地八十町、賜諱」とあるのは光孝帝龍潛の時、空閑は今地名を残さないが、眞張御寮米、矢場等の田野であらう。江戸幕府の頃は、檢地高三萬餘石であつた。

面積は一・一三万方で、行政上一町十ヶ村に區劃する。
町 大間々

村 川内、廣澤、梅田、相生、福岡、矢場川、韭川、休泊、毛利田、境野

大間々町

本郡唯一の町で、郡の中心をなしてゐる。桐生市より西へ一里三十町、足尾街道の要衝に當りて、足尾線大間々町がある。郡内の繭糸集散地にして、町勢活潑を極め、銀行會社多く、また警察署、郵便局、營林署、區裁判所出張所、穀物検査出張所等の行政機關を存置し、學校には實科高等女學校、公立普通學校、大間々尋常高等小學校などがある。

往時は和名抄にある佐位郡名橋郷に屬し、いつの頃よりか山田郡に入つたのである。名跡誌に、十六夜日記殘月抄を引き「間々とは墟にして、土の心のまゝに崩るゝ地をいふと、實にも此地は渡良瀬川の高崖にありて、躍瀧といふ邊の形狀に合へり」と記載されてゐる。明治二十二年町村制實施に際し、従來の大間々町

に桐原村を合せて現在の大間々町が出来たのである。

梅田村

桐生市の郊外にして交通の便よく、北方には太郎別當山が聳えてゐる。絹織物の産地にして十萬圓以上の年産があり、住民のこれに従事するものが多い。村内には電氣會社があり、教育機關には梅田尋常高等小學校、梅田尋常小學校の二校がある。

往時から山田郷にして、また昔の桐生郷の北偏である。明治二十二年四月、町村制施行の際、上久方、淺部、高澤、二渡、山地の舊五ヶ村を併合して梅田村と改め、各村を大字として今日に至り、大字上久方に村役場を設置する。

川内村

高津戸の絶景で知られ、織物發祥の仁

田山の故地として知られる。高津戸は渡良瀬川が平地入る所、左右より岸迫り、奇岩怪石舞ふが如く踞るが如く、その下には急湍激し奔瀾注ぎ、これを激瀧といふ。また、仁田山は今の山田の舊名といひ、白瀧姫が初めて織法を傳へた地で、仁田山つむぎが後に桐生絹となつたのである。

村は大間々町の對岸、桐生市の北に當り、絹織物の産地で、村民の大半はこれに従事する。小學校は川内南、川内北の二校ありて高等科を有す。足尾線大間々驛へは數町にて達するを得、交通の便良好である。昔は山田郷に屬した地で、高津戸、須永、山田、東小倉、西小倉の諸部落より成る。

福岡村

郡の西北隅に當り、大間々町に接し、渡良瀬川に沿ひて晩秋の頃には紅葉相映じて絶勝の地であり、自動車による交通

の便は良好である。住民の多くは農業に従事し、農産物中甘藷は産額頗る多く、また養蠶業も盛んに行はれてゐる。教育施設に福岡尋常高等小學校、同分教場、村立圖書館等あり、社寺には村社、貴船神社ほか三社、寺院四がある。

昔の山田郡大野郷に當り、關八州古戦録には、天正七年の頃、藤生紀伊守、金谷因幡守が新田氏の命を受けて、鹽原表に打つて出で、神明の森に陣取り、強戸高草木の者共と一戦を交へたことが記載されてゐる。明治二十二年町村制實施に際し、現在の淺原、鹽原、小平、長尾根の四部を併せ、福岡村と稱して今日に至つた。

相生村

郡の中央に位し、北は大間々町、東は桐生市、西は新田郡に接してゐる。機業地にして、絹織物の産額は九十萬圓に達し、村民の經濟を左右する。また村内に

は製氷凍化會社があり、學校は相生尋常高等小學校を有し、東京鐵道線と足尾線は近くの桐生驛にて分岐し、交通は頗る便利である。

和名抄に記載された園田郷に屬し、中世には伊勢神宮封となり、園田御厨と稱したところである。大字如來堂は、その昔園田太郎といふ武士が法然上人より阿彌陀如來一體を授かり、わが家に安置して、その跡を寺となしたる故、如來堂村と稱したので、また天沼は一に雨沼とも書く。今、大字下新田に村役場がある。

毛里田村

東武鐵道の足利驛より一里半、兩毛線の山前驛より一里、前者よりは自動車の便がある。戸數凡そ千四百、人口七千八百の大村にて米の産額多く、村内には銀行支店、毛里田東、毛里田西各尋常高等小學校のほか實踐女學校を有し、神社の數は十六の多きに達する。元は園田郷に

屬した地である。

只上では渡良瀬川の水を堰入れ、一は新田郡強戸に、一は東南の葦川、矢場川等に通ずる。只上及び市場は往時は足利郡の内であつたことが廢川により推察出来る。上野誌によれば、市場の國濟寺壘は岩松新田氏の臣、市場繁博が據つたところといひ、また丸山は高さ五十米の圓丘で、俗に米山薬師と稱し、越後米山より移した靈佛といふ。その南の矢田堀には古墳各所に點在する。

葦川村

郡の南部に位し、東武鐵道の太田驛に近く交通便利である。村民の多数は農業を生業とし、産物は米、麥、蔬菜類に限られてゐる。小學校は一校にて、高等科を併置する。

和名抄の山田郡眞張郷に當る地で、葦川とはもとは溝渠の名で、只上の方より來て沖之郷に於て東に折れ、廢水を合し

て矢場川に入るものである。自治制施行當時は現在の矢場川村及び休泊村もその区域内に收めたが、明治二十六年兩村を分離して各々獨立の一村たらしめて今日に至つた。

矢場川村

東武鐵道の太田驛より數町、郡の南部に位し、住民の生業は農業を主とし、米麥及び蔬菜類を主産物とする。村内には穀物検査所出張所があり、附近の産米はこゝで検査を受けるのである。また小學校は一校、高等科の設けあり、施設の充實見るべきものがある。明治二十二年町村制施行に際し、今の葦川村及び休泊村と共に一村をなしたが、同二十六年七月現在の矢場、大町、植木野、荒野の四大字を以て分離獨立の一村を形成し、今日に至つた。

往時の眞張郷の地に當り、矢場は、古くは例幣便街道の宿場として榮え、その

東境の溝渠は今も兩毛の境界にして矢場川と稱し、古の渡良瀬川の廢道である。なほ矢場は新田由良氏の家臣の姓にもその名が見える。

休泊村

郡の南部に位し、東武鐵道太田驛に近きこと葦川村と同様で、村民は生業は農業を主とし、米、麥、蔬菜を主要産物とする。戸數約七百三十、人口約四千百を有して、教育機關に休泊尋常高等小學校がある。

往時は眞張郷の地と覺しく、明治二十二年町村制實施の際には、矢場川、葦川の兩村と共に一村をなし、同二十六年分離獨立した。龍舞は邑樂郡との境にあり、太田より館林への通路にあたる。古くは寮米と書き、神風抄にも記載され、伊勢の御厨でありて、また鎌倉圓覺寺の文書にも、その名が見える。廣く世に知られてゐる。

農本位 邑樂郡

縣の東南端に位し、南は利根川を隔てて埼玉縣に境し、北及び東は渡良瀬、矢場の二川を以て栃木縣に、西は山田、新田の二郡に相接し、面積一一方里九三、全郡悉く平坦で一の山嶽もない。郡内に到るところ米、麥、雜穀、蔬菜の耕種に適するので館林、小泉の兩町を除くほかは農業を本位としてゐる。そして副業的な機械も頗る盛んで、養蠶はこれに亞ぎ、共に各村に互つて普く行はれるその他商、工、養鶏、水産業も頗る盛んである。

土地平坦で人口稠密なため、交通の便は大いに開け、道路は、郡内を四通八達し、東武鐵道は、郡の中央を南北に貫通し、更に館林よりは東西に支線が出てゐる。また利根、渡良瀬の兩河は水運の便

に富む。

郡名の由來、建置は不明だが、古來より邑樂郡と稱し、和名抄、和漢三才圖會等には「邑樂於波良岐とあり、古くはオハラキと呼んだらしいが、今は一般にオフラといふ。中古佐貫莊に屬し、藤原鎌足切田の内である。初め佐貫村に築城して佐貫太郎が莊務を司り、その子嗣綱は赤岩に城を築いて赤岩氏を稱した。武家政治時代に幾多領主の變遷あり、明治維新前には館林領、旗本采地、代官支配地等にわかれてゐた。行政上次の如く二町二十ヶ村に區劃してゐる。

町 館林、小泉

郷谷、大島、西谷田、海老瀬、大箇野、伊奈良、赤羽、千江田、梅島、佐貫六郷、三野谷、富永、永樂、大川、長柄高島、中野、多々良、渡瀬

館林町

秋元但馬守六萬石の舊城下で、中古は佐貫莊に屬した。郡の中央に位置を占め東西に長く二十町四十七間餘、南北は十二町五十間餘で、面積零方里二八あり周圍の外廓は舊城の横堀である。東武鐵道の全通以來交通頗る便利となり、従つて戸口もこれに伴つて増加し、商工業また大いに振興し、上毛モスリン日清製粉等の大工場をはじめ、織物、醸造等の工場多くして、また堅町にある織物市場の取引高は伊勢崎のそれに匹敵するものがある。更に土地一般に肥沃にして農作に適し殊に麥作には最もよく、館林麥の名は夙に著名である。町内には警察署、稅務署、區裁判所出張所、縣立館林中學校、同高等女學校、同農學校、館林尋常高等小學校、銀行支店等あり、名所舊蹟としては秋元但馬守館林城址、善應寺等が特に世に知られてゐる。

小泉町

郡の最西部に位し、上州鐵道小泉驛のあるところで、明治二十二年現今の上小泉と、下小泉の二部落を合せて小泉村とし、同三十五年八月町制を施して今日に至つた。面積零方里四一にして、小泉尋常高等小學校、縣立農業學校、郵便局、前橋區裁判所出張所、穀物検査所出張所、銀行支店、蕪市場、その他各種會社等が町内にある。

主要産物は米、麥、大豆等で生糸、小泉焼の特産あり、小泉焼の起原は數百年の昔のことで、初めは専ら婚禮、神饌、佛供に用ふる土器または炮烙鍋等で、農家の副業として行はれたが、寛文年間に土焼十能を出し、享保年間に棧瓦の製造をはじめ、遂に兩者を折衷して簡易な屋瓦を製出し、今では土管をも産出するに至つた。なほ大字上小泉にある小泉城址は天然保存物に指定せられる貴重な舊蹟である。

である。

郷谷村

郡の中央よりも稍々東北寄りに位し、面積零方里四八で、當郷、新當郷、田谷四ツ谷、館林の五大字から出来てゐる。住民の殆ど大部分が農民で、主産物は米と麥で、他に擧げるほどのものはない。教育機關には當郷尋常高等小學校及び青年學校が設置され、施設の充實大いに睹るべきものがある。

本村を有名ならしむるものは曹洞宗の巨利善長寺である。境内廣潤、堂宇宏大で、城沼にのぞみ、公園躑躅ヶ岡より水を隔て、望めば、墨繪の如き光景が湖面に反映して、風趣豊ふべきものがない。境内には舊館林城主松平忠次の母の墓がある。しかも本村にはこの歴史的價値ある善長寺のほかに社寺と稱して記すべきほどのものがないのも、不思議なことである。

大島村

中古下野國安蘇郡佐野郷に屬し、寛文八年、上野國邑樂郡に編入されたところで、もと北大島村と稱し、延寶二年の檢地帳には北大島と記されてゐる。郡の東北部に位し、南北十町三十間、東西約一里十九町、面積零方里三七で、渡良瀬川は渡良瀬村から来て、本村の北境を東流し、鯉、さい、まるた、鮎等とれる。戸數約四百五十、人口約二千三百を擁する純農村で、地味肥沃、米麥の産多く、副業の養蠶も盛んである。

教育文化の中心をなす大島尋常高等小學校は、明治六年十二月本村外八ヶ村で創立せる敬身學舎の後身にて、青年學校を併設する。また、村内社寺舊蹟としては、大島神社、豊山派無量院、曹洞宗春昌寺、豊山派明善寺、片貝因幡守城址、正義城址等がある。

西谷田村

渡良瀬川の流域にある人口三千九百の農村で、明治二十二年、除川、西岡、西岡新田、大曲、大荷場、細谷、籬の七ヶ村を合して生れた。郡の東北端に位し、面積零方里六五にして土地平坦地味肥沃なるため、古來農業の發達著るしく、作物は穀類を主とし、蔬菜類がこれに次ぎ、麥は村民の常食とするほか、多量を他に移出し、農家第一の財源となつてゐる。その他副業として養蠶、機織が相當盛んに行はれてゐる。なほ小學校は一校で高等科の設けがある。

歴史的なものといへば郷社西丘神社である。宇赤塚城に鎮座し、天慶七年藤原秀郷の勸請で、秀郷が兩毛二國の守護となり、下野國唐澤山に城を築いた時、社殿を建立したのである。その他社寺には除川神社、八幡宮、長柄神社、長徳寺、花藏院等がある。

海老瀬村

弘化十二年、弘法大師が二荒山に詣てた途次、當地を巡行し

線の瀬を渡ればここに八谷郷

その水底にしるし残れる

と歌ひ、これから八谷郷を蝦瀬と改めたといふことである。郡の最東端に位し、東西二十八町、南北二十四町、面積零方里六七で、大沼、小沼の屬する地であり全戸數は悉く農を本業となし、甘藷は本村の名産にして、また副業では養蠶が最も盛んである。海老瀬尋常高等小學校は青年學校を附設し、教育の實績を擧げてゐる。

村社一峰神社は、淳仁帝の御宇、勝道上人が二荒山開白の別行所として、二荒權現を勸請し、峰の權現と稱したものである。ほかに加茂明神社、松安寺の社寺がある。

大箇野村

群馬を大空に舞ふ鶴とすれば、その下嘴にあたる部分が即ち本村で、北は谷田川を隔て、伊奈原、海老瀬の兩村に對し東は古利根川を境として埼玉縣北埼玉郡に連り、南は利根川を以て埼玉縣に、東西一里二十四町、南北二十六町、面積零方里五九である。住民の殆ど大部分は農業に従ひ、米と麥とが主産物で、また副業には養蠶が盛んに行はれてゐる。大箇野尋常高等小學校は、明治六年十二月に創立された充善學校を前身とし、現在は青年學校を併設してゐる。

郷社高島神社は字高島にあり、菅原道真公ほか二十神を齋き奉り、その名は遠近に聞えて參詣者が多い。寺院には清淨院、延壽院、大徳院、寶性寺、金藏寺、藥師寺、地藏院、長養寺等がある。村内産業の伸展は各種組合の協同と相俟つて相當見るべきものあり。

伊奈良村

郡の東部に位し、東西一里三十二町、南北三十餘町、面積零方里七六あり、谷田川は村の南境を東流して灌漑の便を與へ、また村の東端には郡内第一の大沼たる板倉沼がある。周圍二里十三町餘に上り、鯉、鮒、鯰、鰻、鰻、その他雜魚がこの沼からとれる。村民は多く農耕に従ひ、米麥を主要物産とし、雜穀と蔬菜がこれに亞ぎ、養蠶は大字粗谷に於て最も盛んで、毎戸これを飼育し、蠶業組合を設けて、合理的な輔導發達をはかつてゐる。商業もまた比較的盛大で、銀行支店郵便局、前橋區裁判所出張所等が村内にある。伊奈良尋常高等小學校は明治六年創立の進修學校を前身とし、同四十二年現校名に改めた。

郡の中部より稍々東に偏し、北は館林町につき、東西三十町、南北二十五町面積零方里五二あり、村の北西に城沼があり、その南岸一帯は丘陵をなし、中央は躑躅ヶ岡公園といふ。俗には花山ともいひ、千數百株の古木叢生せる一町七段餘の岡は自然の高低を有し、花時はその水色と映發して美しさ言ふべくもなく、兩毛の諸山また遠景をなし、展望絶佳である。明治十九年五月、皇后、皇太后兩陛下の行啓あらせられてよりその名愈々あらはれ、今は縣有となつてゐる。

郡の東南にあり、東西一里十六町弱、南北十五町四十五間、面積零方里三八にして、住民の大部分は農業を主として米麥を俵り、副業として養蠶を營む者が多い。大字江黒の西瓜は往時より江黒西瓜として有名であり、また大字田島の梨子は聲價甚だ高きものがある。

赤羽村

千江田村

梅島村

郡の南部に在りて館林町の西南方一里半のところ位し、大正九年、模範村として表彰された理想の平和郷である。面積零方里二八あり、全村殆ど平地で、利根川は佐貫村より來て村の南部を流れ、灌漑及び運漕の便がある。戸數約四百、人口二千四百有餘の農村で、蠶業機業を副業としてゐる。南大島方面には梨子を産して館林市場で有名である。百合の栽培も盛んで、その他蔬菜、果實としても一般農家の作物備はらざるなく、米、麥豆の産業に蠶繭その他の農産物が續いてゐる。また東武鐵道の便があるのと館林町への道路が完備せるため商業も盛んである。

本村教育は大字新里の地藏寺を假用して晶明學校第二分校としたのがその濫觴で、明治二十二年、梅島尋常小學校と改め、後、高等科を置いて今日に至つた。

佐貫村

社寺は神社寺院とも各四をかぞへる。

六郷村

郡の南部に位し、東西一里二町餘、南北二十一町餘、面積零方里四五にして、交通の便に恵まれた村である。住民の大部分は農業に従事し、産物は米麥を主とし、大小豆その他の特用農産物がこれに次ぐ。蠶業は頗る盛んで、農家經濟上主要な地位を占め、また綿織物は十數萬圓の産額がある。村教育の中心をなしてゐる佐貫尋常高校は、十四番小學勸孝館を前身として發達したもので、明治四十一年現稱に改めた。村は須賀、川俣、大佐貫、矢島、大輪、沼新田、入ヶ谷等の大字から成り、大佐貫は藤原鎌足の後裔藤原小黒鷹將軍となり、寶龜十年、諸國巡檢の勅使として上野國佐貫莊に入り、村内に居住して貢祖の沙汰をした時に名づけられたといふ、社寺は神社四、寺院五がある。

昔嘶に名高い文福茶釜の茂林寺の所在地として有名な本村は、郡の中央にありて館林町の南に接續し、面積零方里六九を有し、住民は純朴、農を以て本體となし、松原、新宿を除くほかは殆ど農家で米、麥は勿論の事、松原は蔬菜、果實の栽培頗る盛んである。その他蕎麥、里芋大根、茄子等の收穫も村内一帯に頗る多い。

茂林寺は青龍山と稱する曹洞宗の古刹で、應仁年間、青柳城主赤井照光を開基とし、大林正通禪師を開山とする。大永二年、後柏原天皇の勅願所となり、永祿年中には長尾景長の造營あつて寺領も寄進せられた。文福茶釜は今に紫金銅の文福茶釜と呼ばれて寺寶になつてゐるが、この茶釜に因由ある守鶴は、境内の守鶴堂に祀られてゐる。村産業の伸展にも暗るべきものがある。

三野谷村

上三林、下三林、野邊、入ヶ谷の四大字より成り、郡の中央より稍々西南に偏在し、東西一里九町餘、南北十三町五十間、面積零方里三五で、住民は概ね農を本業とし、米、麥、大豆を最も多く産するが、養蠶、機業も盛大で、織は大抵館林市場に送られてゐる。また田面河沼を以て圍繞せられてゐる本村は水産業も行はれ、鰻、鰻、鯉、鮒、鮓、鱸の魚獲がある。

學校は、三野谷尋高校と青年學校を有す。大字上三林小曾根には三好十郎廣時の墳墓があり、大日畑と稱してゐる。また大字野込の松林堂には松澤織部の墓がある。

松澤織部は武藏國忍の城主成田義長の後裔で、寛永の初め、この地を開墾して一村落となし、野邊村と村名をつけた人である。

富永村

館林町を距る約三里、利根川の沿岸にある村落で、面積零方里五四あり、上五箇、上中森、下中森、ほか三大字より成る。昔は江戸との交通が利根川によつて行はれたが、今は東武鐵道により交通は頗る便利となつた。曾ては米、麥、大豆等を出して郡内有数の農村であつたが、明治四十三年の大水害によつて田畑は殆ど荒地と變じ、今は昔の様子を再現することは出来ぬ。副業として養蠶、養鶏、緋木綿の質織等が行はれてゐる。

郷社長柄神社は大字瀬戸井に鎮座し、境内老杉蒼鬱として晝なほ暗く、廣袤三町に餘るあり、世人は上州の上の森と稱してゐる。ほかに神社六、寺院六をかぞへる。

永樂村

郡の西南部に偏在し、南北一里十一町餘、東西一里一町餘、面積零方里七にて交通の便は比較的良好である。赤岩、舞木、新福寺、福島、鍋谷の舊五ヶ村を合して成り、永樂はナガラと訓じ、永く樂しむの謂ひである。住民の約七割は農産の業に従事し、概ね米、麥、大豆を栽培し、ほかに甘藷、馬鈴薯、蔬菜の産出があり、副業として養蠶も年々發展しつつある。

なほ永樂尋高校は、明治六年、安樂寺を假校舎として開校した東寮學舎の後身である。

神社には村社八幡宮ほか五社あり、寺院に光恩寺がある。また赤岩城址、赤井照光の墓等の舊蹟がある。

大川村

郡の西南端に位し、仙石、吉田、古海寄木戸ほか二大字より成り、東西一里七町、南北二里餘、面積零方里五九にして

主産物には米、麥、大豆、陸稻、蕎麥、甘藷等ありて、日用蔬菜の産もまた尠くない。

副業としては養豚、養鶏、果樹栽培等各地に行はれ、桃、梨、葡萄、栗等の産多く、利根川沿岸の仙石、古海の地は特に養蠶が盛んである。

本村には高德寺と稱する名刹あり、開山を兒島といひ、兒島高德の退隱したものだと傳へられてゐる。されば明治十五年には、大字古海に兒島神社が創建された。ほかに村社長良神社がある。

長柄村

郡の西部に位し、東西二里六町餘、南北一里二十九町、面積零方里九にして、元來農業を以て本位とし、蕎麥、甘藷、馬鈴薯の栽培多く、特に蕎麥を以て名がある。

教育は一般に進んで居り、長柄尋高校は施設の充實完備せるを以て他に誇るに

足る。

抑々本村は明治二十二年狸塚、赤堀、篠塚の三ヶ村を合して成り、三村共に長柄神社を以て鎮守とするので長柄村と稱した。長柄神社は大字篠塚に鎮座する郷社で、元享の頃、當村に居つた篠塚重弘が新田義貞の義舉に際し、その麾下に馳せ参じて、當社に戦勝を祈つたと傳へられ、後、勇名を天下に振ふに至つて尊崇の念はますます深かつたといはれる。附近には館址や墳墓が多い。

高島村

郡の西北端に位し、東西二十一町四十間、南北二十四町二十間、面積零方里三九の農村である。往古は高島郷に屬し、高島原と稱した地で、明治二十二年町村制實施の際、現在の大字藤川、石打、秋妻を以て一村を形成し今日に至つた。

農業は著るしく進歩して麥類の産出頗る多く、生繭の産もまた少くない。高

中野村

明治二十二年、中野、光善寺、鶉、鶉新田の舊四ヶ村を合して作つた村で、郡の西北部に位し、館林町を距ること二里面積零方里六四を有し、交通の便良好である。

北部を流れる菰川の流域と中野沼上域一帯は古くから土地開けて農業行はれ、米、麥の栽培を主とする。中野織物は遠く鎌倉時代に濫觴し、安政の頃から飛白を製し、明治初年には主に綿紺緋を産出し、次で絹綿交織の黒茶緋を出し、爾來

時流に伴つて機多の變遷を経て今日に至り現在は絹綿交織、大島緋、綿織白緋に力が注がれてゐる。中野尋高校は大字中野に在り、青年學校を附設する。郷社長良神社は往古から村の鎮守で、その他村社にも長良神社あり、神明宮、神光寺、永明寺、恩林寺等の社寺を有す。

多々良村

多々良沼からとつて村名としたといふ本村は、多々良沼と大谷休泊の墓とを以てその存在を世に示してゐる。沼は村の西部にあり、周圍二里十一町、その一端に浮島辨天を安置し、池中の小島は水の増減によつて浮沈するといふ。

村は高根、成島、谷越、水戸、日向の大字より成り、面積零方里九八を有す。土地概して平坦だが、西南は高燥にして林多く、東北は田野よく開け、良田美圃が續く。住民は多く農を本業とし、副業に機械が盛んである。大字成島には機械

製粉の産出がある。水産業は郡内第二の大沼多々良沼を有するを以て、鯉、鮒、鰻、鯰の漁獲がある。沼の東方一帯の丘陵を毛氈山といひ、丘上に鬮躰の小株が密生する勝地である。

渡瀬村

下早川田、上早川田、傍示塚ほか四大字より成り、郡の北部に位し、館林町を距る僅かに二十餘町、渡良瀬川の流域に沿ひ且つこの川と至大の關係を有するの渡瀬村と命名された。面積は零方里三六で、村内に郷社赤城神社が鎮座する。

土地は沖積層の沃土で、灌漑及び排水の便備は、道路四通して交通状態良好である。農産物は米、麥、大豆、蕎麥のほか、小豆、茶種、蠶豆、大根、甘藷等も汎く栽培され養蠶も副業に行はれる。かくの如き農村ではあるが、足利市を去る三里に過ぎぬため、古來その影響を受けて機業に従事する者も少なからず、現

今に於ては綿織物の産額だけで十數萬圓を突破する。

機場で歌へる

箒しづかに
索緒しやんせ
繭は柔肌
絹一重

わたしや十七
花なら蕾
手あんなさるな
まだおぼこ

いつもほどよい
繰糸湯の繭よ
澄ます濁らず
つやくと
ほれりやほどよく
熱いはさめる
焼かず離れず
さらくと

千葉縣勢

總説

地勢

房總とは安房・上總・下總三國の總稱で、その内利根川以北に分れる下總の一部を除くほかは千葉縣の管轄に屬する。關東平野につらなつて、帝都の東に方り北より南に半島狀をなして太平洋に突出し、その沿岸は約百里に亘るばかりでなく、北は利根川、西の一部は江戸川によつて地を劃せらるゝから、四面水を環らすの土地である。

氣候は中和にして地味肥沃、陸は五穀の耕作に良く、海には魚介の棲息が多い。かく水陸の天恵に富む樂土たる爲め今より約二千六百年前、早くも天孫人種

のため開拓せられたるのみならず、先史時代に於て夙にコロポックル人種の居住したる跡があり、アイヌ人種の來り住したことは争ふ餘地がない。

従つて古き沿革を有し、多くの史蹟に富むは勿論、到るところに風光明媚なる景勝地が散在して、自然の公園をなしてゐる。

沿革

古くは安房・上總・下總の三國を總稱して總の國と呼んだ。成務天皇の御宇、國郡邑里の制を定められるや、印波、武社、上菟上、下菟上、菊間、馬來田、須東、伊甚、長狹、安房等の國造が置かれた。武家興隆時代には桓武天皇の曾孫高望王が平の姓を賜はつて上總介に任ぜら

れ、關東に覇を稱するの先驅をなした。

源頼朝、幕府を鎌倉に開くや、その擧兵に黨したる故を以て上總を平廣常に與へたが、廣常は罪を得て足利義兼これに代り、下總は千葉常胤及び結城朝光が分領した。

次で建武中興を経て室町時代に至り、更に群雄割據の世となるや、千葉氏、里見氏、武田氏等が威を振ひ、天下の權徳川氏の掌中に歸するや、藩屏として數多の小藩に分割せられ、要地には悉く譜第を封じ、その間處々に旗本領及び幕府直轄の天領が置かれた。

かくて徳川氏の治世三百年、明治維新後、安房には館山縣ほか三縣、上總には大多喜縣ほか十縣、下總には佐倉縣ほか六縣、他に別に三縣設置せられ、明治四年これらは木更津、印旛の二縣に統合され、同六年二縣合併して千葉縣となり、今日に至つた。

交通

縣下到處、大徑小徑縱横に開通し、交通機關たる鐵道をはじめ、電氣軌道、輕便鐵道、自動車道すべてを網羅し、眞に四通八達の盛觀である。

産業

産業は農業を以て第一となし、工業、水産業、蠶業、牧畜業、林業等がこれに次ぐ。

平林、淡水、坦々たる間、實に二十萬町歩の沃田、肥畑を有し米、麥、粟、蕎麥、豆菽類、蕨果、蔬菜、果實の年産額は實に莫大の額にのぼつてゐる。蠶絲業の經營は明治十四年以後にかゝり、駁々として發展し、特に氣候に於て早蠶をなし得るの利益あるため、農家副業の第一位を占めてゐる。また縣下到處に森林繼續し、殊に松杉の發育最も良好にして檜櫟の雜木これに次ぐ。佐倉炭、池田炭の木炭は全國的に有名である。牧畜業の淵源は今より千二百有餘年前、文武天皇の御宇にはじまり、安房の嶺岡牧、下總の

小金牧及び佐倉牧は、古來三大牧場として著名である。牛を第一とし、馬及び豚これに次ぎ、乳製品の産額の多きこと全國府縣に冠絶する。また三面海をめぐらし、港灣漁場に富むため、漁撈の利は北海道に亞いで全國の首班にある。京濱地帯に近きため、從來工業は餘り振はなかつたが、醬油、酒類、油類の如きは古來本縣の特産として名聲を博してゐる。

由來大藩巨城を有せざりし本縣は、未だ大商業地を持つたことはないが、古來各地方に散在する小商業地はその数少なくない。即ち下總に在つては千葉、佐原小見川、銚子、旭、八日市場、佐倉、船橋、野田、松戸の市町、上總では東金、木更津、横芝、松尾、成東、茂原、一宮、應南、大多喜、大原、勝浦、久留里、湊、姉ヶ崎、五井、八幡の各町、安房では館山、北條、鴨川、勝山の各町にして、その他の農村、漁村に於ては小規模の商業

商業

なるかを察するに難くない。千葉常胤が千葉城を築いた當時は、實に表八千軒裏八千軒合せて一萬六千軒を有する大都會であつた。

寺、千葉郡生實村大嚴寺、茂原町藻原寺同町鷲山寺、長生郡水上村笠森寺、山武郡源村藥王寺、銚子市圓福寺、君津郡秋元村神野寺などがあつてその名特に著るが、各宗寺院總數は三千有餘に上つてゐるが、年々合併その他の爲めその數を減じつゝある。

官衙學都の地

千葉市

千葉市は千葉縣廳の所在地にして、地勢概ね平坦なるも、東北に丘陵を負ひ、西は東京灣に面する。都川は譽田高田に發し、白井、千城の二村を過ぎ、支流細流を合して市の中央を貫流し、袖ヶ浦に注ぐ。官衙、學校多く、商業また殷賑の地である。

今より大凡そ千三百年前、すでに千葉の里、池田の里、結城の里を設けられしより見ても、いかに古くから發達せし地

を營まるゝのみである。

教育

明治維新前に於て、房總二十有餘の列藩はそれ／＼學問所を設けて文武の道を講ぜしめ、佐倉、大多喜の二藩は特に藩學の獎勵に力めた。廢藩置縣後、學制を頒布して一般教育の普及を計られるや、文運更に興りて舊觀を一新し、各種の學校が續々設置された。小學兒童の就學歩合は殆んど百パーセントを示し、各種の施設も大に整ひ、中等教育、實業學校と相俟つて成績頗る良好である。

社寺

本縣に官幣大社二社あり、一は香取神社にして他は安房神社である。香取郡にはまた別格官幣社小御門神社鎮座し、長生郡一宮町の玉前神社は縣下唯一の國幣中社、縣社は十三社をかぞへる。名利には成田町新勝寺、安房湊誕生寺同清澄寺、保田町日本寺、市川市法華經

なるかを察するに難くない。千葉常胤が千葉城を築いた當時は、實に表八千軒裏八千軒合せて一萬六千軒を有する大都會であつた。

本市は大商業地でなく、工業地でもなくまた農業地でもない、學校と官衙とさうして軍隊とによつて保つ都會地であるとの批評もあるが、市街地は流石に商賈揃ひ。主産物は甘藷澱粉、醬油、海苔、淺網等である。

官公衙には千葉縣廳をはじめ、地方裁判所、刑務所、稅務署、憲兵分隊、警察署、鐵道事務所、衛生試驗場、種畜場、その他があり、學校の主なるものは千葉醫科大學、男女各師範學校、中學校、高等女學校等で、裁縫女學校、技藝學校の如き私立學校の數も頗る多い。

交通の便頗るよく、總武本線及び房總線を通じ、東京市との間には省線電車も通つてゐる。千葉神社、大日寺、千葉寺

漁港に誇る

銚子市

の如き古社名刹のほか名所舊蹟多く、猪鼻城址、袖ヶ浦、君待橋、池田坂、千葉公園、羽衣松、大正天皇御手植松等はその主なるもので、千葉寺の櫻花、猪鼻下のお茶の水、綿打ヶ池、七つ塚、姥ヶ臺御殿跡も廣く知られてゐる。

北は利根川を隔て、茨城縣に境し、東は太平洋に面する。昔の荒野、飯沼の二ヶ村で、天正十八年以來徳川氏の所領となり、慶長十七年その臣高野五郎左衛門をして檢地帳をつくらしめたことがあり元和元年土井大炊頭の封に屬し、寶永元年酒井讃岐守の領土に移り、その後松平外記、代官間部越前守の支配を経て松平輝貞の領分となり、子孫世襲して明治維新に及んだ。

漁業、工業、商業の最も旺盛な土地で

水産物は鱈、鯛、鮭、鱈等を主とし、また工産物は醤油、澱粉、製油、味噌、木綿織物等をかぞへ、その産額莫大に達し、就中醤油は本市の特産物にして年醸造額六萬石に上る。銀行會社等の商業金融機關が多數備はり、また在郷軍人分會産業組合等は成績優秀なるを以て縣下に著名である。

利根の巨浸八十里、洋々たる海に注ぐところを銚子川口と稱し、澎湃たる巨瀾と汪洋たる水流と相會する所、雪を散らし、渦を結び、舟航の危険云ふべくもなく、近くに千人塚の古塚あり、その他市内の名所舊蹟としては御野立所、夫婦ヶ鼻、黒生浦、伊勢路浦、銚子觀音堂、清水の井戸、利田不動堂、淺間神社等があり、犬吠岬また有名である。

住宅都市 市川市

本市は南は行徳町、北は松戸町に連り、西は江戸川に臨み、町の北部は一帶の丘陵にして、眞間山より國府臺に及び、他は一般に平地にして田園及び市街地が相連つてゐる。

往昔國府の所在地にして、市川の名の初めて現はれたのは戰國時代、千葉氏の所領當時である。古へより葛飾郡の管轄となり、風早庄、八幡郷等に屬してゐたことがあつた。

産業地といふよりはむしろ住宅地として發達したところであり、本縣下中東京に最も近き位置を占め、東京人の別荘も多い。産業は農業を第一とし、工業、漁業がこれに次ぎ、主産物は米、麥、桃等である。

國道千葉街道の要衝にあたり、縣道その他の道路四通八達し、鐵道總武線及び京成電車の通るあり、市川驛から東京銀座まで、雨の降る日でも傘を用ひずに行つて來られるといふ便利さである。江戸川には利根川汽船及び各種の私船常に往

産業都市 船橋市

復して運輸交通極めて便利である。弘法寺、總寧寺の古刹があり、國府臺古城址、國府臺古戰場、手古奈社、眞間の織橋等の名所舊蹟は夙に世人に膾炙してゐる。

本市は東京灣中最北の沿海地にして、地勢概ね平坦、東部及び西北部一帯の高地には沃野相連り、東は千葉郡津田沼町及び二宮町に境し、北は八榮村に接し、西は市川市及び行徳町に連る。沿海の地は往昔海であつたが、漸次開墾せられたものであつて、市街地は市の中央に存し海老川その市街を貫流して、海に注いでゐる。

景行天皇の四十年、日本武尊御東征の際、船にて當地に來り上陸せられた當時は、地名を港郷と稱したが、同五十三年

天皇房總の地に行幸の砌、霖雨洪水あり船橋を架して御道筋を通ぜしより地名を船橋と改稱するに至つたといふ。

陸には總武鐵道横斷し、また東京押上及び上野に通ずる京成電車あり、海には東京と往復する汽船を有し、交通極めて便利である。

農業、漁業及び商業は本市の三大産業にして、農産物の主なるものは米、麥、落花生、甘藷等で、水産物は魚介、海苔である。

意富比神社、慈雲寺、淨勝寺のほか神社、寺院が多數あり、海岸は千鳥御獵地で八町歩餘の鹽田がある。また茂呂神社の境内には俗に淺田山と稱する眺望絶佳の高臺あり、近年移住者頗に殖え、こゝから東京へ通勤するものが多い。

農耕地 千葉郡

本郡は千葉縣の中樞地にして、下總國の西南部に位し、南は上總國に境して市原郡に接し、東は山武郡、北は印旛郡、西北部は東葛飾郡に隣して、西部一帯は東京灣に面する。地勢全く平坦にして山岳なく、河川また僅かに東部に鹿島川の上流があつて、北の方印旛郡に流るゝと都川の西に流れて東京灣に注ぐほかは中央部に花見川、花崎川の細流あるのみである。往古は小金原に連つて千葉野の曠野であつたことゝ、今なほ習志野原の如き原野を留めて當時の面影を存する。郡内に千葉市を抱いてゐる。

面積は三〇方八千餘、戸數一萬四千六百餘戸、人口は八萬一千五百餘人をかぞへる。

本郡は氣候の激變なく、水陸共に一般に農作物に適應し、産物相當に豊饒であるけれども、その面積は他郡に比して狭少なを以て、産額またこれに伴ふは勿論である。米、麥、粟、蠶豆、蜀黍類を主なるものとする。養蠶業は他郡に比し

盛賑の觀はないが、斯業に對する農家の觀念著るしく深刻となり、一般的に普及増加の傾向にある。牧畜はこれを專業とする者なく、従つて牧場等も見ない。家禽の飼養は農家副業中の第一位を占める。千葉市蘇我及びその近郊より製作される澱粉類は近年著るしく頭角をあらはし、今や郡内工業界の第一位にある。次ぎは醤油、製油、酒類にして、この他織物、染物、薬製品、煉瓦、瓦なども尠くない。

由來本郡は林野の連續、田畑の斷續あるも、水澤に富まず、湖沼に乏しいばかりでなく、指を屈すべき河川がないため淡水魚産は記すに足らない。鹹水産も、西部一帯が東京灣に面してゐるが、漁業者が少數であるため、産額また割合に少ない。

郡單位の各種機關としては、千葉郡農會、千葉郡地主會、千葉郡澱粉同業組合、千葉郡教育會、千葉郡聯合青年團などがある。

幕張町

本町は郡の西部に位し、南西は東京灣に面し、東南は花見川を以て千葉市に境し、東は横橋村、北は大和田町及び二宮町、西は津田沼町に接し、夫婦梅、馬加城址、武石城址の舊蹟がある。

町民の大多数は農業を営み、幕張西瓜の特産を有し米、麥、甘藷の産多く、養豚業も盛んである。國道に沿ふ地域は商業地區を形成する。

津田沼町

當町は郡の最西部に位し、西は船橋市東は幕張町、北は二宮町に接し、南は東京灣に面する。

地勢は概ね平坦、東西三十町、南二十町餘を有し、久々田、鷺宮、谷津、藤崎大久保の五區に分ち、大小麥、米及び甘藷等を主産物とし、蔬菜、豆菽類をも産する。

する。

町農會、漁業組合、青年團、軍人分會その他各種團體の成績優秀である。

大和田町

地勢は平坦にして山嶽なく、林野に富む本町は、郡の北部に位し、南は幕張町横橋村に、北は睦村に、西は豊富村及び二宮町に接し、習志野原、六方野原に接したる地積四百有餘町歩は陸軍練兵場となつてゐる。

大和田、萱田町、勝田、萱田上、萱田下ほか五區にわかれ、農産物の産多く、萱田飯綱神社境内では毎月一回市場を開き、商業盛んである。

生濱町

當町は曾ての生實濱野村にして北生實南生實、濱野、村田、有吉の部落より成り、郡の西南端に位して東京灣に面し、

地勢東西に長く、南北に短く、南部は村田川を境として市原郡八幡町に接する。米、麥、葱、甘藷、馬鈴薯、薪類等を主産物とし、町内には生實城址の舊蹟、本行寺の古刹があり、また縣立感化院たる生實學校がある。

二宮町

習志野原を以て大和田町に續く本町は郡の西北部にあり、西は船橋市、南は津田沼町につゞく。面積一方里餘。農業最も盛んにして米、麥、甘藷、蔬菜を産し從來習志野には陸軍騎兵四個聯隊屯在するほか、更に大正五年陸軍騎兵學校が移轉して來たため、商業また發展の一路を辿りつゝある。

舊蹟に仁田四郎忠常の古址がある。

椎名村

當村は郡の最南部に位し、市原郡菊間

千城村

當村は郡の中央部に位し、東は白井村及び更科村に境し、西は千葉市に接し、南は譽田村に、北は印旛郡旭村に隣する地勢一般に平坦、都川は中央部を西流して灌溉に便し、米、麥、甘藷、蔬菜等の農産物が多い。

坂尾には姫櫻の名木があり、辨天池、御手掛の櫻、城山等の名蹟がある。

横橋村

本郷、新郷、米ノ内、廣尾、花島ほか八區に分れる本村は、郡の中央部に位し縣廳を距ること北方へ一里三十二町、幕張、大和田の二町と接し、地勢概ね平坦村農會、産業組合、在郷軍人分會、消防組等の各種團體いづれも成績よく、米、麥、里芋、甘藷苗、薪炭、繭、鹽俵、苦等を主産物とする。

譽田村

村及び市原村に接する。村内河川なく、山岳なき平坦の地である。村内を茂呂、刈田子、古市場、椎名崎ほか五區に分ち、明治維新前は森川出羽守の所領地であつた。米麥の産最も多く、大豆、甘藷、清酒麴、茶種等これに次ぎ、また山林多きため薪炭、用材等をも産出する。

更科村

當村は郡の東端に位し、地勢平坦にして東北に長く、南北に短く。東は山武郡土氣本郷町及び印旛郡川上村に挟まれ、北は更科村、南は譽田村、西は千城村に接する。村内を本郷、千葉中、鎌田、和泉、野呂ほか六區に分ち、産業は農作物を以て最とし米、麥、甘藷、雜穀が多く、薪炭類も少なくない。

白井村

本村は郡の東南部に位し、西は千葉市に接し、南は市原郡市東村、東は山武郡土氣本郷町に境する。地勢概ね平坦にして東西二里十八町、南北一里五町に及び舊幕時代は生實藩に分屬した。主産物には米、麥、大豆、茶種、落花生、木材、椎茸類及び栗などがある。霧の屋、惣寛塚の舊蹟がある。

本村は千葉市の東部に位し、地勢平坦にして東南より西北に延び、鹿島川が村の中央を貫流する。西は千城村、南は白井村に接する。村内を且谷、谷當、下田、大井戸、下泉ほか七區に分ち、産物は米、麥、蠶繭、雜穀、甘藷、薪炭などをその主なものとす。

中田區には舊蹟御茶屋御殿趾が今に遺つてゐる。

陸 村

當村は郡の北部に位し、地勢平坦、土地肥沃、天與の農産地にして、米麥をはじめ甘藷、豆菽類及び薪等をも産出する。桑納、麥丸、尾崎、花輪、寺臺ほか九區に分れ、東は印旛郡阿蘇村、北は同郡船穂村、西は豊富村、南は大和田町に接し、城橋川の支流は村の中央を貫いて印旛沼に注ぐ。八幡神社、貞福寺ほか神社寺院の數が多い。

豊富村

郡の最も北部に位する本村は陸、大和田二宮の町村に境し、東西一里餘、南北二里餘に亘り、村内を神保神田、八木ヶ谷、大神保、小室、小野田ほか八區に分ち、舊幕時代には旗本及び代官領であつた。住民は概して農産業を營み、小數の商

家あり、主産物は米、麥、大豆、甘藷、切干、薪炭等である。

農産漁産の

市原郡

本郡は上總國の一部に屬し、千葉縣の中央西部に位する。東は丘槽、原野を以て長生、夷隅二郡に境し、北は河流、丘陵を以て千葉郡及び山武郡に連り、南西は山脈、原野を以て君津郡に隣し、北西は東京灣にのぞむ。

地勢は南部一帯槽狀蜿蜒するところ、また支脈相錯綜して最高峯は海拔二一五米突に達する。養老川はこの谿谷を走つて北に貫通し、數多の支流を合せて次第に廣潤なる流域をつくりつゝ東京灣にそゞぐ。廣袤東西五里三十餘町、南北八里三十餘町、面積二三方里餘あり、戸數一萬三千三百餘戸、人口七萬一千八百餘人を占めてゐる。

郡民生業中第一位を占むるものは農業にして、耕地面積一萬一千六百町歩、米、雜穀、豆菽類、蔬菜、菓果の産が殊に多い。

養蠶は明治二十年頃より發達普及を遂げて今日に至つたが、製糸業はまだ極めて幼稚なる域を脱するを得ない。畜産も牛馬を放牧するものなく、多くは役用として飼養されるに過ぎない。家禽は農家副業として一般に普及し、従つて産卵額も極めて多い。

郡内に於ける漁村は東京灣に面したる八幡、五井、千種、姉崎の町村にして、貝類の漁獲最も多く、近時海苔養殖もまた非常な發達を示してゐる。

工産物としては特に擧ぐべきものなく、蓆の製造はその名顯著なるも、産出價額の微々たるを脱がれない。醤油、酒類、織物、足袋等に至つては、今後に期待がかけられる。

本郡は五町十六ヶ村に區割される。即ち次の通りである。

町 姉崎、五井、八幡、牛久、鶴舞
村 千種、東海、市原、海上、菊間、瀧津、市東、市西、養老、戸田、内田、高瀧、富山、平三、里見、白鳥

姉崎町

本町は郡の西北隅にあり、北は東京灣に面し、南部は丘陵連亘して幾多の谿谷をつくり、細流相合して境川となり、町の中央を流れて次第に廣き平野をつつて東京灣にそゞぐ。

面積約一方里餘。往古は瀬海の一漁村に過ぎず、足利氏の末、眞里谷氏がこゝに築城してから繁榮を見た。千葉、木更津の中間に位し、商業殷賑を呈する。

五井町

當町は郡の西北部にあり、八幡町を西南へ距る約三十町、八幡、市原、千種、海上、東海の町村と境を接し、北は東京

灣に臨む。地勢平坦、養老川は町の中央を貫流して海に注ぐ。

面積約〇・七四方里。田野遠く連り、地味豊にして米、麥、甘藷、藪、大豆、蠶豆を産し、魚介類も少なくない。名蹟に諏訪の臺、五井鼻、陣屋址等がある。

八幡町

本町は千葉市を距る南へ二里十三町の地にあり、西は菊間村、西南は市原及び五井町に續き、北は村田川を以て千葉郡生濱町に境し、西北は東京灣にのぞんでゐる。

地勢平坦、地味肥沃、町内を八幡、五所、山木の三大字に分ち米、麥、魚類の産多く、交通至便。縣社飯岡八幡神社あり、靈域一帯は飯香岡と稱し、風景絶佳である。

牛久町

當町は舊明治村にして、郡の西部に在り、面積一方里餘、牛久、奉免、妙高、中ほか七大字より成り、小學校、青年學校の施設他に優り、青年團、在郷軍人分會、村農會、消防組等各種團體の業績また略るべきものが多い。

千葉縣種畜場種付所は字牛久にある。縣道二線通じ、交通至便。産物に米、麥、菽類、醬油、吹、屋根瓦等がある。

鶴舞町

本町は郡の東南部に在り、東は内田村及び平三村に、西は牛久町及び高瀧村に南は富山村に隣り、地勢一般に丘陵地をなし、平藏川は町を南北に貫流する。往古はこの附近一帯の地をば沼田莊と稱してゐた。

産業は農を主とし、商業はあまり振はないが毎月一、六の日を定期市日として鶴舞區に開市し、四方より集まる商賈顧客で殷賑を極める。

千種村

八幡町の北方約一里三十二町の地にあり、當村は、郡の西北部に當り、東海、姉崎、五井の町村と接し、西方一帯は東京灣にのぞみ、地勢概ね平坦、前川は村の中央を貫流し、灌漑排水の便多く、村民は農を専らとし、傍ら漁業及び養蠶を営むもの多く、海苔は當地の名産である。名所舊蹟では海上潟、千種浦、瓶塚、白幡六郎墓等が知られる。

東海村

本村は郡の西北にあり、八幡町を距る二里餘、海上、千種、姉崎、五井の町村と隣接し、丘陵南部に起伏し、北部は田野遠くつらなり、養老川は村の東北部を流れて灌漑の便よく、地味肥沃である。面積〇・五一方里。村民概ね農を業とし、一般に生活裕にして蠶業は近年聊

か振はざるも、なほ副業の首位たるを失はない。

市原村

往古の市原莊たりし當村は、郡の東北部にあり、東は菊間、濕津兩村に、西は五井町に、南は市西村及び養老川を隔てて海上村に對し、北は八幡町に隣る。南方は土地一般に高く、二三の縦谷北方に展開し、大字能滿の東南方は久しく雜草繁茂の荒蕪地であつたが、開墾事業大に進捗し、その大部分は良圃と化した

海上村

本村は郡の西北部に在り、八幡町を西南に距る約二里餘、東は養老川を以て市西、養老の二村に隣り、西は東海村、南は戸田、姉崎の町村に接し、土地一般に高臺をなし、面積〇・八五方里。近時農事一般に改良せられ、繩及び米

の調製にも機械力を用ふる傾向を生じた。水産では鰻、鱈を主とする。養蠶も相當に行はれる。

菊間村

八幡町の東につゞく當村は、郡の東北部に位し、東は濕津村に、南は市東村に接し、北は村田川を隔て、千葉郡生濱町に隣り、地勢一般に高く丘陵起伏せるも地味肥沃にして灌漑排水共に便利である。小學校の外に子守學校があり、教育程度は全般的に高く、祖先崇拜の念も發達してゐる。産物は米麥を主として荳類、蔬菜類、果實、繭等これに次ぐ。

濕津村

本村は郡の東北部にあり、東は村田川の上流を以て市東村に、西は市西、市原兩村に接し、南は長生郡長柄村に、北は菊間村に隣接する。面積は約一・三〇四

方里。

潤井戸、下野、喜留、犬成ほか七字より成り、村民は農を専らとし、副業として養蠶、家畜、家禽の飼育が行はれる。林業もまた盛んであつて、薪炭は郡の優位を占める。

市東村

當村は郡の東北隅に位し、八幡町を東に距る約三里、地勢丘陵に富み、村田川は村の中央を流れて土地を南北二部に分ち、西方に向つて次第にひろがつて平野をつくる。

皇紀二千年代には土氣の城主酒井定隆の所領であつて、徳川時代には代々旗本の支配下に屬した。役場は東國吉に置く。主産物としては米、麥、荳類、繭、薪炭等である。

市西村

本村は郡の中部にあり、東は丘陵によつて濕津村に、西は養老川を隔て、海上村に、北は市原村に各隣接し、男女青年團、婦人會、在郷軍人分會等の成績頗る優秀である。村民は農を主業とし、養蠶は近時や、衰勢にあり、林野三百町歩にして林業は盛んである。また味噌醬油の産額は最近頗る多くなつて來た。

養老村

當村は郡の中央部に位し、東は長生郡長柄、水上二村に境し、西は海上、戸田西村につゞき、南は内田村に、北は市西村及び濕津村に隣り、面積一方里餘、東南部には丘陵重疊し、谿谷悉く西北に向ひ、西部養老川流域は土地平坦にして地味また肥沃、田野よく開けてゐる。

縣道通じ交通の便極めてよく、村内には二子山、鶴城、將門塚等の名所舊蹟がある。

戸田村

本村は郡の中央に位し、西部は一般に丘陵連亘し、幾多の支脈を北東に派するが、中央部より東部は一帶に養老川の流域にして土地低平、田圃遠く連る。徳川時代には多く旗本の采地であつた。

村民の生業は農を主とし、副業に養蠶が行はれる。地勢上林産豊富にして、養老川には多少の水産物もある。

内田村

當村は郡の中央部にあり、地勢一般に高隆にして、水田は内田川の流域即ち市場、堀越、島田、江子田、安久谷等に開け、面積約〇・九方里を占めてゐる。

村民は専ら農を營み、且つ林業盛んにして、明治三十九年以來共有原野に年々植林を繼續しつゝあり、最近松、杉、櫟等が非常に多くなつた。舊蹟には陣屋址